

是は私の意を得たものでありまして大いに喜ぶ所であるのでありますが、唯大藏大臣が

此財政の改革

を行はるるに付きましては、今日は尙ほ其時期が許さぬのであるから、景氣回復の際に於て之を行ふと云ふやうに、氣長に考へられて居りますことは、是は私の甚だ賛同し難い所であるのでございます、思ふに財政の根本立直しの如きは非常の難事であるのであります、非常の難事でありまして、此非常時に於て官民一致の非常の覺悟を以て之に當らなければならぬものであると思ふのであります、其難を後に貽して、一時の安きを偷むと云ふことがあつてはならぬと思ふのであります、景氣は何時回復するのでありませうか、其當てのない景氣の回復する時まで今日のやうな不健全なる財政状態を其儘に放置して宜しいものでありませうか、國際聯盟其他國家の將來に思ひを致します時には、一日も早く財政の基礎を鞏固にして、何時でもそれに對應する所の準備を致して置くことが必要でなからうかと思ふのであります、財政の前途に不安を起さしめましたのは、七年度の實行豫算と八年度の豫算であるのでありますから、此豫算を編成されました現内閣は、此不安を除き去る所の方策を樹つると云ふことは、當然の責務であると思ふのであります、世間では甚だ失禮のことでありませうけれども、大藏大臣が御自身に此財政の根本立直しをなさるに付ての確信を御持ちになつて居るのであらうか否や、又

其御信念を有つて居らるるものなりや否やと云ふことに付て疑惑を抱いて居るものが多いのであります、是は大藏大臣の御説明が未だ一般に徹底せざるものある爲であるかも知れぬのでありますので、私は甚だ遺憾に感ずるのでございます、曩に齋藤總理大臣より、各閣僚が財政立直しの意見を徴せられ、唯一人それに對する答申をなしたるのみにして、他の閣僚は何等の意見を申出られなかつたやうなことがありますので、既に世間からは其誠意を皆疑はれて居るのであります、さう云ふ時でありますから、此場合大藏大臣は其所信のある所を明かにして置かれることが、必要であらうと思ふのであります、それに依つて幾分なりとも國民の財政の前途に對する不安を除くことが出来たならば仕合せであり、其事が理解されれば所謂此名譽ある豫算に對しまして、國民は皆謳歌することになるだらうと思ふのであります、次には財政計畫に付て御尋ね致すのであります、政府には財政の計畫なるものが立つて居らないと云ふことであります、従て毎年慣例として提出さるべき概計表政、即ち財政計畫なるものを御出しにならぬと云ふことであります、何故御出しにならぬのであるか、出せないのであるか、出すことが出来ないのか、若し此財政計畫と云ふやうなものを御出しにならぬと云ふやうなことになりますと云ふと、所謂疑心暗鬼であります、今の財政は全く一定の方針のなき財政であるか、唯だ其の場限りの財政であるか、後はどうなるか分らぬ財政であるかと云ふやうな懸念を持

たしむることになるのであります、故に一部には財政歴史の上に一大汚點を印するものであると云ふやうな批評をする者さへあるのであります、で將來の財政は如何にしたならば、收支の適合を得せしむることが出来るのであるか、何時になつたならば、收支の適合が出来ることになるのであらうか、それ等のことは全く目途が立つて居らぬのであります、何れ其中には歳出を減ずることにもなるだらう、歳入も増加することになるであらう、それで收支の適合が出来ぬやうなことであつたならば、其時になつて増收計畫を立てても宜からう、財政の立直しをしても宜からうと云ふやうなことは、國民の不安と云ふものの起つて来るのも無理のないことであると思ふのであります、凡そ一國の財政を料理するには、將來の計畫と云ふものを持つて居らなければならぬことは勿論のことでありまして、計畫のない財政は財政ではないのであります、計畫なくして財政を行ふと云ふことは、恰も航路圖なくして航海する如く危險此上もないことであります、それでありまして何れの國の財政に於ても、財政の計畫を有たぬと云ふやうな、さう云ふやうなことはあるべき筈のことではないのであります、新興滿洲國でさへも、立派な財政計畫を有つて居るのであります、我が帝國として財政計畫を有たぬと云ふやうなことは、是は果して名譽でありませうか、大藏大臣は將來の見透しが付かないから財政計畫が立たぬと言はれて居る、計畫を立てた所が計畫通りの實行が出来ぬから無駄なものであると云

ふので、英米其他の諸國の例を引用されて、計畫の無用論を御述べになつて居られる、成程現在の情勢から見ますと云ふと、計畫通り實行の出来たこともありませう、計畫通り實行が出来ぬからと致しまして、最初から何等の計畫を立てぬと云つて之を放つて置く譯に行かぬものであります、計畫なるものは申す迄もなく財政の向ふ所の方針と、據るべき所の基準を示すものであるのです、でありますから計畫通り實行が出来ぬからと云つて、是は計畫無用であると云ふことにはならぬと思ふのであります、物事は總て理想通り行けるものではないのであるから、理想は無用であると云ふのと同じことであります、理想は人には必要なものであります、計畫は財政には無くてはならぬものであります、人は理想を有つことに依つて、理想の方針に進むべく努力することが出来ると同じく、財政は計畫を有つことに依つて、計畫の基備に近づくべく努力することが出来るのであります、若し計畫の實行中豫期せざる事實の發生がありましたならば、而してそれに依つて實行が不能になりました場合には、其時に於て適當の變革を加へれば宜しいのであります

大藏大臣の引用せられました英米其他の例と

云ふのは、是は我國には當嵌らぬのであります、大藏大臣が言はれる通り英米諸國と云ふものは戦債問題なり、賠償問題なり、其他對外債務の壓迫等の爲に、財政經濟の上に非常に大なる影響を來して居るのであります、財界の變動と云ふものは殆ど測り知るべからざるものが

あるのであります、それでも尙且つ財政の計畫は立てて居ります、而して極力赤字退治と云ふことに付て努力して居るのであります、計畫に次ぐに計畫を以てし、計畫の立直しは度々致しませうけれども、兎も角計畫と云ふものに依つて進んで行かなければならぬことになつて居るのであります、大藏大臣が言はれる通り、我國は英米に比して比較的有利の地位にあります、それでありますから我國として計畫の立てられないと云ふ筈はないと信するのであります、大藏大臣は將來の見透しが付かぬから計畫は立てられぬと言はれて居ります、老練達識なる大藏大臣として、財政の計畫を立てられぬ程將來の見透しが付かぬと云ふ筈がないと信するのであります、大藏大臣は財政經濟の前途に付て常に色々な豫想をされて居るのであります、此財政計畫を立てることに付てのみ豫想は出来ない、見透しが付かぬと言はれますことは甚だ解しにくいのであります、昭和十年度に至れば財政の立直しに著手するか、或は國民の安心する豫算を編成することにならうとか云ふやうなことを言はれて居るのは

將來に對する豫想

なり見透しが付かなければ言はれる筈のものでないと思ふのであります、過日橋本君の質問に答へて大藏大臣は、具體的に證據を立てて九年度や十年度の豫算が斯うなると云ふことは、言ひ得る者はない筈であると言はれて居ります、私共は九年度や十年度の豫算を此處で御聽きし

ようと言ふのではないのであります、其計畫を聴きたいと云ふに外ならぬのであります、申す迄もなく財政の計畫とは毎年度の豫算を言ふのではありませぬ、今年度提出された八年度の豫算を基礎として、將來を豫想した概計をしようと言ふに過ぎないのであります、歳入歳出の均衡を現はすべき目論見が欲しいと云ふに外ならぬのであります、公債に何時まで依つて行かなければならぬのであるか、増税の計畫は何時まで斯うして行かなければ、收支の權衡が取れぬのであるとか云ふやうなことを言ふに外ならぬのであります、例へば増税計畫をするにしても、何税に付て増税するか、斯ふ／＼云ふやうな新たなる税を起すと云ふやうな、さう云ふやうな具體的の細目に付て言ふのでないのであります、それは計畫ではない、是までも既に大藏大臣は度々概計表なり、財政計畫なりと云ふものをば、議會に於て御説明になつてをたつたのであります、あの程度のもので宜しいのであるのに、それをも御出しになるとが出来ぬと云ふのはどう云ふ理由であるか、甚だ分らぬのであります、それを大藏大臣は、財政計畫を今話をすると云ふやうなとは、奇を好むやうなものであるから、國家の爲にならぬとであると云ふやうなことを言はれますとは、殆ど何の意であるか私は解するに苦しむのであります、でありますから、財政計畫は何故に御出しにならぬのでありますか、其財政計畫は立てようとして立て得られないと云ふのでありますか、無駄であるから立てないと云ふのでありますか、或は立つて

居つても之を示すことが出来ないから、示さぬと仰しやるのでありますか、此邊甚だ今までの御答辭に依ると云ふと不明であります、財政計畫は豫算審議の上に必要なものであります、之に依つて又將來財政立直しの方針をも窺ふことが出来ることになるのであります、是非是は御示しを願ひたいと思ふのであります、之を若し示されないと云ふやうなことになりますと云ふと、新たに又財政の立直しの御信念がない爲ではなからうかと云ふやうな疑を起す者があるところにならうと思ひます、是は甚だ御名譽の爲に取らぬとでありますから、是非御示しを願ひたいと思ふのであります、次には公債發行の限度に付てであります、公債の發行には自から限度があると思ひます、勿論尺度を以て計ることの出来るものではないのでありますけれども、財政上から見ても、金融上から言ても、限度がなければならぬと思ふのであります、例へば償還計畫の立たないやうなものは制度を超えて居るものである、利拂ひに恒久的財源を持たないやうなものは限度を超えて居るものである、金融市場に消化力なく、紙幣増發に依つて日本銀行に引受けしめねばならぬといふやうなものは限度を超えて居るものである、不自然な通貨膨脹、物價騰貴、爲替低落の惡影響を及ぼすやうなものは、限度を超えて居るものであると私は思ふのであります、そこで今の政府の公債政策と云ふものは果して適當であるや否や、公債發行の限度を超えてゐるものでないか否やと云ふことが問題であるのであります、私は限度を超えてゐるも

のであると思ふのであります、大藏大臣は豫算編成の前後に當り、公債は二十億でも三十億でも幾らでも出せる、差支ないと云ふことを言はれたと云ふやうなことが新聞などにありました、是は大藏大臣と雖も斯様なことまでも仰しやるまいと思ふのでありますけれども、世間では左様に誤信して居る者が多いのであります、然れば此八年度の豫算編成に際しまして、方々から色々な要求が出て來たのであります、救済であるとか、保證であるとか、色々な註文が殺到して參つたのであります、從て各省の要求も自然増加して、二十二億幾らと云ふやうな龐大な歳出を要することになつたのであります、從て又其結果公債の發行高をも増大せしむることになつたのであります、それでもし大藏大臣が

公債發行の限度

と云ふものを能く御理解になつて、それを明かにして置かれて、例へば公債の利拂ひと云ふのは恒久的財源を要するものであり、其恒久的財源と云ふものは、増税に依らなければならぬのであると云ふ方針を示されてあつたとしたならば、公債を發行しようとするならば増税が之に伴つて行くものである、是は直接國民の頭に被つて來るものであるからと云ふので、歳出の増加と云ふものを幾分牽制し、之を抑制することが出來たらうと私は思つたのであります、從て公債の發行高をも減じ得たらうと思ふのであります、それを公債は幾らでも出して差支ないものである、出せるものであると云ふやうなこ

とを御仄めかしになつてをりますから、幾らでも一つ歳出は取つてやらうと云ふやうなことの氣が、自然起つて來ますと云ふとは是は人情であります、大藏大臣は國民自から歳出の増加を促して來るのだからと云ふやうなことを言はれてをりますけれども、何故國民がさう云ふやうな歳出の増加を要求して來るかと思へば、今申す通り其財源を公債に依ることとしてあつたからである、公債であれば負擔は直接でない、それは後世に遺るものであるのだから、直ぐ自分等の頭に掛つて來ることでないと思ふので、さう云ふやうな要求もして來ると云ふことになるのは、是が人情の弱點でありまして、又一方公債政策の弊であるのであります、それから又大藏大臣は、國內に於て咀嚼する力のあるだけは公債を發行しても差支へないものであると云ふやうなことを、衆議院に於て言はれてをります、是は金融上からのみ見ましたならば、或はさうなるかも分りませぬが、財政上から見た時には、決してさうはならぬと思ふのであります、償還の計畫もない、利拂ひの財源を有たないので、貸す者がある間は借りるだけ借りても差支へないと云ふやうなことにばならぬと思ふのであります、又現在の状況から申しますと云ふと、金融上から見ましても公債と云ふものは、既に飽和點以上に達して居るのであります、咀嚼力も消化力もないのであります、總て日本銀行をして引受けしめなければならぬやうなことになつて居るのが其證據であります、日本銀行が公債の賣出を致さうとしても殆ど買ひ

手がない、皆米穀證券であるとか大蔵省證券であるとか云ふやうな短期債券のみ希望者があつて、公債買入の希望者と云ふものは甚だしい、無いとは申しませぬが甚だしいと云ふことであります、それを大蔵大臣が國內に公債の咀嚼力があるとか、消化力があると御覽になつて居るのは、政府の御判斷の上に於て、誤認があるのぢやないかと思ふのであります、私は憂ふるのであります、八年度迄には……八年度末迄には約二十億に達する公債を發行しなければならぬことになつて居るのであります、能くそれだけの發行が出来るでございませうか否や、若し強ひて之を發行しようとするならば、無理に日本銀行に引受けしめなければならぬと云ふことになるのであります、其結果は申す迄もなく紙幣の増發、通貨の膨脹、物價の騰貴、爲落の低落等、相次いで起つて來るのであります、大蔵大臣の恐れて居らるる所の所謂『インフレーション』景氣と云ふものが、猛然として襲うて來るであらうと思ふのであります、投機思惑も行はれることになりませう、國民の生活も脅かされることになりませう、『オーブン・マーケット・オペレーション』と云ふやうなものは、どれだけの効果を収めることが出来るでございませう、斯の如きことになりましたならば、財界の根柢と云ふものは根本から覆されるやうなことになる、遂に財政の破綻と云ふものが免れることが出来ぬと云ふのはせぬかと心配せらるるのであります、金融資本家の間からも段々苦情が出て來て居るやうであります、一方には減債

基金制度と云ふものが中止せられ、他方には新規公債と云ふものが嵐の如く襲うて來る、斯う云ふやうなことになるまして、財政の前途や經濟の前途に付て、悲觀を起す者があると云ふとは是はもう當然のことである、要するに大蔵大臣は公債發行の限度と云ふことに對する御辨へがないのであります、之に關しては一體どう云ふやうな御意見を御持ちになつて居られるのであるか、まさか無制限に發行して宜しいと云ふやうなことは御考へになつて居らぬに違ひない、然らば即ち其處に自ら限度と云ふものがなければならぬのであります、其限度と云ふものに付てはどう云ふやうに御考へになつて居りますか、どの程度に達すれば其限度に達したと云ふことになるのであります、其邊に付ての御考を伺つて置きたいと思ふのであります、次には

歳入制度の確立

に付てであります、先刻來申しました通り、財政の根本立直しの必要と云ふものはは何人も認める所でありませう、唯之を行ふに付ての時期と其方法とで意見を異にする者があるだけのことであります、而して其時期に付きましては大蔵大臣は景氣回復の際に之を行ふと言明され、我々はそんな氣長いことでは宜しくないから、一日も早く之を行はなければならぬと申すのであります、政府に於ても段々昭和十年度迄には行はうと云ふことに折れて來られたやうであります、而して其方法に至りましては私は行政の整理、政費の節約固より必要でありま

すけれども、財政の基礎は歳入即ち確定歳入であるのでありますから、此歳入制度を確立して置くことと云ふことが最も急務であると思ふのであります、蓋し財政は出づるを計つて入るを制すると云ふことは、時代に通ぜざる所の陳腐の説であります、財政の根本は入るを計つて出づるを制することではなければならぬと信するからであります、私は常に思つて居るのであります、此近時の財政のやり方は、私の所謂金融財政と云ふものに墮してしまつて、動もすれば財政の基礎たる歳入制度と云ふものを等閑に付し去つて居る、何でも宜しい、單に收支の辻褄を合はしめさへすれば、それで宜しいと言つたやうな風があるのであります、是は甚だ私は悲しむべきことであると思ふのであります、昭和八年度の豫算の如きは其最も最たるものであります、歳入制度の根本、根源をなすものは申す迄もなく租稅收入と官業收入であります、故に歳入制度を確立せむと致しまするならば、租稅制度の根本整理と官業制度の整理擴充とを行はなければならぬのであります、此問題に付きましては前申しました通り第六十二議會に於て大蔵大臣の御意見を伺つたのであります、當時とは又事情を異にするところになつたのであります、故に、私は茲に大蔵大臣の御再考を願はなければならぬのであります、且又私は此場合之を國論に問うて見たいと思ふのであります、先づ税制の整理に付て見ますと云ふと、從來行はれ

ざれば歳入に増減を生ぜざる限度に於きまする

整理でありまして、歳入の基礎を確實にすると云ふ目的を以て行はれたる整理と云ふものは、一度もなかつたと見て宜しいのであります、從て其整理なるものは何時でも姑息に終つて、根本的整理として見るべきものはないのであります、今般大藏大臣が税制其他財政の改革を斷行せられむとするに當りまして、眞つ先に税制の整理準備なるものを置かれましたことは、是は增收の目的を以てする税制を整理せられ、歳入の基礎を確實にせられむとする御趣意であると思ふのでありまして、私は大いに賛同する所であります、唯賛同し難いのは其實行の時期であります、成程大藏大臣の言はれます通り、經濟界が漸く回復の緒に著いて居る今日でありまして、折角伸びむとする其芽生えを刈り取ると云ふやうなことは、是は面白くないことであるのでありますから、若し忍び得るもの、伸ばし得るものであるならば進んで之を伸ばして行つて宜しいのでありますけれども、更に又増税を爲さず済むことであるならば尙更のことでありまして、それは極めて良政でありませう、併ながら是は通常の場合に言ふことであつて、今日の如き非常の場合には合はないことであります、で今日は言ふ迄もなく非常の場合であります、公債の發行は前申しました通り、既に其限度を超えて居ります、財政の基礎が危殆に瀕して居ります、財政の基礎は危殆に瀕して居る其状態を見て、國民は今自分が自分の懷ろを肥しつつあるのであるからと云うて、若し國家の急に應ぜむとするやうなことを、應ずるを否む

やうな者はなからうと思ふのであります、國民としては一人もさう云ふ者はなからうと思ふのであります、國民は皆國難に殉ずる決心と覺悟を持つて居るのであります、斯様な場合に於きましては何れの國に於ても、又何れの時に於ても先づ増税を行ふと云ふことが、是が私は定石であると思ふのであります、況や今は兵士は身を捨てて國の爲に滿洲の野に戦つて居るのであります、内に居る者が所謂『インフレ』氣分を味ひながら、國家の爲に時局相當の犠牲を何等拂ふことをせぬと云ふやうなことでありますならば、其士氣に及ぼす影響は如何でありませうかと思ふのであります、私は是等の人々に對しては、本國に於ける財政のことなどは何等心配に及ばぬ、そんなやうなことには後顧の憂なく、國の爲に努力するやうに云うて激勵してやるのが至當であらうと思ふのであります、大藏大臣は加藤君の間に答へられる場合に於きまして、日本の國民は今皆腰の立たぬ病人であるから増税に堪へぬと言はれて居ります、斯の如き御言葉は私は國民の愛國心を發揚せしめる所以でないと思ひます、國民は皆腰の立たぬ病人ではありませぬ、又腰の立たぬやうな病人があるならば、それにまで増税を負擔させよと云ふのではありませぬ、今まで既に擔税力に餘裕を持つて居る者があります、又新たに擔税力を大いに加へた者もあるのであります、斯う云ふ者に足腰が立たぬ病人であるから、増税負擔の力がないと言はれるのはどう云ふ譯でありますか、寧ろ私は近年の經濟界の變動と擔税力の

變化とは、却つて税制の根本整理を斷行するに絶好の時期であると思つて居るのであります、此際相當の増税を斷行すると云ふことは、單り財政上の効果あるのみならず、心理的効果を齎すものであると思ふのであります、國民をして、時局に對する自覺心を促すと云ふことは、政治上、思想上から見ても、是は必要なことであると思ふのであります、で大藏大臣が歳入補填の方法として増税に依るか、増税不能なりとせば、公債に依るの二途あるのみと言はれたのは、それは其通りであります、併ながら増税不能であるか否かと云ふことが、先づ先決問題でなければならぬのであります、大藏大臣も、増税は絶對不可能であると思つて居られぬやうであります、然らば増税の出来るだけは増税をして、其足らざる所を公債に依ることにすると云ふことが、是は財政の常道ではありませぬか、殊に非常時の財政に於ては、さうなければならぬと思ふのであります、一體大藏大臣が增收を爲すに付て、增收とは言葉が正しくありませぬ、歳入の不入を補填する爲に増税か公債か、其一を選ばなければならぬとされたのはどう云ふ譯であります、歳入歳出の不均衡の開きが多から増税をしても熾石に水だ、それで赤字公債を驅逐することは出来ないから、増税はせぬと言はれて居つたやうであります、是は恰も一杯の飯を食うただけでは餓ゑを癒すことは出来ませぬから、一杯の飯は食はぬと云ふのと同じで、遂には餓死を免れぬことになるだらうと思ふのであります、歳入歳出の不均衡の開きが多

ければ多いだけ増税の必要があるものでありまして、私はそれが決して増税反対の理由とはならぬと思ふのであります

一定の増税額

は、其増税したる金額に十倍若くは數十倍する所の公債の發行に其基礎を與ふるものであります、即ち其増税されただけ金額が、其年度の公債額を減ずる譯でなく、財政計畫上からは後年度に亘つて年々公債償還の財源に充當せらるることになるのでありますから、租税額が少いからと云ふ増税排斥の理由とはならぬと思ふのであります、又増税を行ふと致しまして、一舉にして全部の赤字を無くしてしまはなければならぬと云ふものではないのであります、茲に十の増税を行はむとする場合に於て、一時に其十を徴收してしまはなければならぬと云ふ必要はないのであります、當分の間其十の中の二つでも宜し、或は四つでも宜し、景氣回復の際になつて後の残りを徴收すると云ふやうな仕方をしてても宜しいのであります、要する所増收計畫を立て、増收計畫の組織を定め、それに依つて十の課税をするか、五の課税をするか、三の課税をするかと云ふことにさへして置けば、何時でも其準備は出來て居るのであります、大藏大臣は何でも一舉にして其十は十だけ全部早く取つてしまはなければならぬから、景氣回復を待たなければならぬと言はれるかも知らぬのでありますけれども、さう考へる必要はないと思ふのであります、大藏大臣は能く英米等の例を御引

きになりますが、英米諸國が赤字補填の爲に大なる増税を行つたと云ふことは、是は顯著な事實であります、假令財界變動の爲に豫期通りの効果を擧げ得なかつたと致しまして、其方針のある所は知るところが出來るのであります、殊に英國に於ては『グラッドストーン』以來の傳統的政策であつて、戦費と云ふものは少くとも其三分の一は増税收入を以て支辨しなければならぬと云ふ原則を、今尚ほ大いに尊重して居ると云ふことであります、又佛蘭西に於ては『ボンクル』内閣に於て節約五十三億、新税五十四億と云ふやうなものの提案を致しまして、世間の耳目を驚かしたと云ふことが最近の報道に見えて居るのであります、兎も角赤字公債退治の爲に増税を行はないと云ふ國は日本國一つであります、是は我が日本の幸福なのでありませうか今のやうな財政、經濟狀態では、景氣が何時回復するか殆ど豫期することが出來ない、大藏大臣の言はるる昭和十年度と云ふことも當てにならぬ、それまで國民に擔税力がないからと云うて、増收計畫を立てぬやうでございましたならば赤字公債と云ふものは何處まで増加することになるでございませうかと云ふことを慮れるのであります、斯様に見來りますと云ふと、今度提出された八年度豫算と云ふものは、我國の經濟力に不相當なものであると云ふことにならなければならぬのであります、私は決して左様には思はぬのであります、唯財政の前途に確乎たる計畫がないと云ふことを不安とするのみであります、政府に於ては歳出の減少と云ふことと、歳

入の増加と云ふことに大なる期待を置かれて居つて、其爲に或は増收計畫を見送られむとする意圖でないかとも窺はれるのであります、貴衆兩院に於ける是までの質問應答の結果は、政府に於て一時的性質の歳出であるとして認められて居つて、而して數年後に於ては著しく減少するであらうと期待せられて居る所のものは、其の當時の期待に反して、其歳出の中には永續性のものもあり、却つて或經費の増加するものも伏在して居ると云ふやうなことが明瞭となりまして、其歳出の減少と云ふものには、餘り多くの期待を置くことが出來なくなつたやうに思ふのであります、又政府の期待せられて居ると思ひます歳出の減の中、公債の整理借替のやうなものを、大藏大臣も認めて居られます通り、是は容易に行はれることでないやうに思ふのであります、又租税の自然増收の如きも、昭和三年度の收入高まで回復するものと認められて二億二三千萬圓と云ふものを期待されて居りますけれども、是も何時そこ迄回復するかと云ふことは、殆ど豫期することが出來ないのであります、況や歳入の自然増は歳出の自然増と相對して、却つて不足を生ずるのが財政の常態でありまして、租税の自然増を財政計畫の財源として計算に入れると云ふことは斷じて許さぬことであります、殊に今の財政の收支の不均衡の原因と云ふものは、歳入減よりも歳出増の方に多いのでありますから、假令歳入が回復致しましても、不均衡を矯正することは出來ぬと云ふことは明瞭であります、で斯の如く歳出の減

も歳入の増も、政府の期待に反することが明かとなつた以上は、政府の財政計畫にも齟齬を來すことにならうと思ふのであります、それでも尙ほ政府は當分財政の立直しは行はぬ、増收計畫も立てない、其儘の積りで、公債計畫のみで行くと仰しやるのでありますか、之を伺つて置かなければならぬのであります

次は租税制度及

官業制度の整理に付てと云ふとに付て御質問を致します、税制の整理に付きましては、大藏大臣は獨り國税に止まらず、進んで地方税制の改革をも併せ行ひ、中央地方の兩組織に對して財政上の根本刷新を行ふ必要ありと聲明されて居りまして、既に其準備委員會を設けて調査を進められて居るところでありますから、暫く其成案の出づるのを待つと致しますが、茲に伺つて置きたいとは、大藏大臣は常に税制整理の問題が出ますと云ふと、地租委譲のことに聯想されて、此地租委譲の問題と云ふものが今尙ほ大藏大臣の念頭に深く存せられて居るやうに見えるのであります、屢々其御話を伺ふのであります、地租委譲が出来ぬからと云うて税制整理が出来ぬと云ふとがないのであります、又地方に獨立な財源を與ふると致しましても、地租を委譲せんければならぬと云ふとはないのであります、地租委譲の問題は數年の間再三議會の問題となつて論議を盡され、其結果今は既に全く葬り去られて居る問題であります、國民思想の上にも重大なる關係ある此地租委譲問題を、再び茲に

蒸し返しなされて、國論の紛争を惹起するやうなことは宜しくないと思ひますから、地租委譲が税制整理の前提であるかの如き御考へは、成るべく御捨てを願ひたいと思ふのであります、私思ふに、税制の根本整理の方針は、近代に於ける社會狀態の變化と經濟機構の趨勢とに鑑みて國民負擔の權衡を保たしむべき租税關係の全般に互つて考查し、弾力性あり且つ増進性ある所の税制を得むとするにあると思ふのであります、從て新税を起さなければならぬものもありませう、地方税から國税に移さなければならぬものもありませう、地方に獨立の財源を與へねばならぬ必要もありませう、ありませうが地租委譲を前提とせねば、税制整理が出来ぬと云ふやうな狭い考へではいかぬと思ひます、是は特に大藏大臣に御考を願つて置かなければならぬのであります、其他税制整理の問題に付きましては色々御伺ひしたいことがあるのでありますけれども、具體的問題になりますと云ふと大藏大臣の言はれる通り、事に害ありと思はれますのみならず、是は税制の事實に委して置いて宜しいことであると思ひますから、大藏大臣には唯茲に増收税制整理を行ふ御決心があるや否やと云ふことを伺へば、それで結構なのであります、次には官業制度の整理擴充であります、現行制度に於きましては、豫算科目の官業及び官有財産收入なるものが、約四億五千萬圓を算して居ります、即ち租税に次ぐ大財源であるのであります、此官業と云ふものは租税と相對して考究せねばならぬのでありますから、税制の整

理を爲すに當りましては併せて之が整理をも圖らなければならぬと思ふのであります、而して私は大いに増收を收めむとするならば、租税收入よりも官業收入の方に多くを求めなければならず、又求めることが出来るものであると思ふのであります、即ち寧ろ私は税制の整理よりも官業整理の方に重きを置きたいと思ふのでございます、官業制度を擴充すると云ふことに付きましては、根本問題としても亦實行問題としても色々議論があるでありませう、議論もありませうが是は單に歳入制度の問題としてばかりでなしに、經濟統制の問題としても大いに考究を要するものであると思ふのであります、此問題に付きまして、前に大藏大臣の御意見を伺つたのであります、大藏大臣は餘り深く御考慮になつた結果でありますか否やは分りませぬが、私の意見とは餘り遠く遠ざかつて居つたことを遺憾とするのであります、尙ほ茲に御再考を願はなければならぬのであります、然らば官業制度を擴充すると云ふのはどう云ふ方針で考へて居るのであるかと云ふと、私は第一には只今の官業中收入増加の餘地あるものは其増收を圖る、それから第二は今租税になつて居るもので官業として得べきものにして、國民の負擔を増すことなくして國庫の收入を増すことを得べきものは之を官業に移す、それから第三には今の民業になつて居るので、それは公益事業に屬するもので、之を官業となして國民の負擔を増すことなくして國庫の收入を増すべきものは之を官業とする、此三つの方針に依つて考へて行

つてはどうかと思ふのであります、そこで第一のものは例を申しますと云ふと郵便税の引上、煙草の値上のやうなものであります、是は詳しく説明する迄もないことであります、政府には通信事業を特別會計となすと云ふ御計畫があるさうであります、私は此計畫には大いに賛成するものであります、寧ろ今迄之をやらなかつたことが遅いと云ふやうな感じが致して居るのであります、之を特別會計にするにせよ、せぬにせよ、郵税の引上と云ふものは是非行はれなければならぬものと思ひます、それから第二のものは即ち砂糖及酒の專賣の如きものを申すのであります、是は少しく中さなければならぬのであります、御承知の通り酒の税は租税收入の大宗であります、之を民業に其儘置きますと云ふと、常に逋税の危険がありまして、之に要する費用と云ふものが却々多くかかるのであります、又現行の造石税制度と云ふものは、一石百圓の酒も三百圓の酒も、同じ額の税を課して居るのである、課税の公平を非常に失して居るのでありますので、屢々之を從價税に改めると云ふやうな議論なども起つたところがあるのであります、酒の値の安く税率の低い時でありましたならば、造石税制度でも宜しいのでありますけれども、今一石四十圓であるとか云ふやうな高い課税となり、酒の値も一石が三百圓も二百五十圓もすると云ふ様なものになつた場合に於て、而して一方は百圓或は百圓以下の七八十圓の酒などさへもあるのであります、さう云ふものに對しても、一石何十圓と云ふやうな課税を致

すと云ふことは非常に不公平なものであります、恐らく今日の租税の中にあつて是程不公平なものはないと思ふのであります、故に往年の税法審査委員會開設以來、酒の專賣と云ふことに付ては能く研究せられて來て居るのであります、當時專賣を行ふに付ての故障であるとして數へられました醸造、貯藏、運搬、販賣の方法の如きも、今日に於ては餘程それが改まつて居るのであります、其障碍も大部分除かれて居るのであります、決して專賣には不適當なものではないと思ふのであります、若し此專賣が行はれて政府直營として、酒の醸造適地に於て合理的經營をなされて、而して之を各地方に販賣すると云ふやうなことになるましたならば、今の數千數百の醸造家が個々に營んで居ります所の無駄な經費を省くことが出來、所謂産業の合理化に依つて、其合理化に依つて生じたるものが即ち國庫の増收になると云ふことになりま

あります、此砂糖に對する課税に付ては單り日本に於てのみならず、何處の國に於ても皆な困つて居る問題であるのであります、其果して良案を得るや否やと云ふことに付ては大いに氣遣はるるのであります、殊に砂糖製造販賣と云ふものを民業に置きますと云ふと、政府の糖業政策と云ふものに常にびつたりと順應させて行くことが出來ぬと云ふ憾みを常に持つて居るのであります、でありますから之を國家直接管理の下に統制して、同時に國庫の財源に資すると云ふことに致すと云ふことが適當であると思ふのであります、第三のものを例を申し上げますと云ふと、保險と電力の問題であります、保險殊に生命保險は公益事業として官業に之を統制すると云ふことが適當と思はれるのであります、之を民業に置きますが爲に國民の迷惑する所甚だ少くないのであります、之を官業にすると云ふことになりますれば、政府は其絶對の信用を以て失業保險であるとか、養老保險であるとか、疾病保險であるとか、更に進んでは國民の生活保險等も行つて、大いに其社會政策を實行することが出來ると云ふことにならうと思ひます、さうなつたならば國民の受くる所の惠澤と云ふものは頗る大なるものがあらうと思ふのであります、又同時に政府は保險準備金を利用いたしまして大いに國庫を利することも出来るのであります、又事業の合理化に依つて事業の收入をも増加することが出来ることになるのであります、それから電力統制の問題であります、此問題は由來既に久しいのであります、如何

にして之を統制すべきかと云ふことに付ては種々苦心されて居るのでありますが、是はもう官業に統制するより外に方法はないと私は思ふのであります、之を民業に致して置きます爲に或は水力を濫費する、設備は重複する、同業の間には競争がある、無駄の金の使ひ拂ひがあると云ふやうなことで、國家經濟の損失と云ふものは其幾何なることを知らぬであります、之を官業となして統制を圖ると云ふことは、國策上最も有利なことと思ふのであります、殊に今は電力會社は外債の處置に對して大分困難して居るやうでありますから、此場合に於て何等かの方法を講ぜられると云ふことは極めて適當の時機であると思ふのであります、此事實を行ひますとか、或は官營を行ふとか云ふことに付ては、問題となるのは民間事業の買収であります、又其買収に伴ふ交付公債の増發のことでもあります、是が問題の焦點になると思ふのであります、是等買収に要する所の所謂生産的公債の如きは、國庫の増收を擧げ得る事業の爲に發行する公債でありますから、餘り意とするには足らぬのであります、況や是が財政制度を確立して、國庫財政の根本立直しの必要の爲にするのでありますから、何等恐るゝ所はないのであります、去り乍ら是等の專賣又は官業と云ふものを決定しようとするに付ては、政府は大なる果斷の勇氣を要するのであります、又是等の民業を買収すると云ふことに付ては、種々なる弊害も伴ふものであるでありますから、此非常時に乘じて所謂舉國一致内閣の協力に依

つて、之を遂行せらるゝと云ふことが最も我々の望む所であるのであります、是等に對して大藏大臣の御意見を伺ひたいのでございます、尚ほ以上の問題に付ては、大藏大臣より成るべく國民の不安を除き得るやうに詳細懇切なる御説明を伺ひたいと思ふのでございます、私は其御答辯を伺ひました上、更に又申上げるやうなことになるかと云ふと、所謂押問答を重ねますと云ふやうなことになりますと云ふと、大分時間を要するやうなことになる虞があると思ひますから、成るべくそれは差控へる積りでございまして、依て押問答を重ねるやうなことのないやうに、大藏大臣より明白なる御答辯を伺ひたいと思ひます

(國務大臣高橋是清君演壇に登る)

國務大臣(高橋是清君) 菅原君より誠に熱心に御質疑としての御意見を承りました、伺つて居りますと云ふと、どうも財政の見地からでなく、會計の見地からの御意見が多いやうに私には聴取れました、例へば銀行の業務を營む上に於ても、何が第一主眼としなければならぬかと言へば、營業上の經營が第一に主眼でなければならぬ、併ながら此營業を行ふに於て缺くべからざるものは簿記であります、併ながら簿記に重きを置いて營業を掣肘するやうになつては却つて害がある、會計の觀念も固より必要なものであります、併ながら財政が總て會計ぢやないのである、故に財政の見地からと會計の見地からとは自から見ると、歸著する所が違はねばならぬ、而して唯さう云ふ大體論に於て此

處で御答辯を申上げると云ふことは私は本意でありませぬ、此議場を通して内外に向つてのは御意見であります、殊に我國の財政上の信用の點に付ては頗る重大な關係を持つて居る御意見であります、私は能く速記を拜見して、殆ど二時間も御費しになりましたが、私も亦相當長い時間を拜借して、之に對して十分に御答を致したいと考へます、是だけを唯今申上げて置きます

今日は増税の時期に非らず

(二月二十三日貴族院本會

議に於て)

議長(公爵徳川家達君) 國務大臣の演説に關する件に移ります、過日菅原君よりの質疑に對して、只今高橋大藏大臣より答辯がある趣でございます、大藏大臣に發言を許します

(國務大臣高橋是清君演壇に登る)

國務大臣(高橋是清君) 去る十九日本議場に於て菅原君より長時間に亘り御質問がありました、其御質問は五項に入れて居ります、其五項目に付て是より御答を致します、其五項の第一は財政の根本的立直しに付て、第二は財政の計畫に付て、第三は公債發行の限度に付て、第四は歳入制度の確立に付て、第五は税制及官業制度の整理に付て等の五項であります、第一は財政の根本的立直しの問題に付ては、去る六十二回の議會に於て昭和七年度の實行豫算審議の際、歳入不足の填補を總て公債に求

めて、是が償還の計畫を立てず、又其利拂迄も公債に求めたと云ふことは財政の基礎を危うするものであるが故、速に財政の根本的立直しを必要とする旨を力説せられ、其手段として増税及増收等の方法を示して警告されたのであります、私は巨額の歳入不足を公債のみで補填する所の好ましからざることは菅原君と同感であります、が爾來我國の内外に於ける實情に鑑みて、私は今日は未だ財政の根本的立直しに著手すべき時期に非ずと考へて居るので、遺憾ながら菅原君の御意見を容れることが出来なかつたのであります、偕て昭和八年度豫算は一般會計に於て二十二億三千萬圓に達し、八億九千五百萬圓の公債を募集して、歳入の不足を補填すると云ふ未曾有の豫算であります、之を見られて菅原君は益々財政の前途を氣遣はれ、去る六十二議會の時と殆ど同じ意見を一層精細に切言せられたのであります、去り乍ら八年度豫算が斯の如く巨額となりたるは、全く内外の非常なる時局が然らしめた所にして、積年の財界不況に伴ふ歳入の激減、それに加ふる一面には農村及中小商工業者救済の爲に結局匡救費を要するものあり、又他面には滿洲事件費及兵備改善費の避くべからざる要求がありまして、前例のなき國情の爲に、前例のなき豫算の編成を見たるは誠に已むを得ざる所であります、そこで菅原君は歳出の増加已むを得ずとするも、之が財源調達の方法として公債のみに依らず、何故非常手段を執らざりじやと言はれますが、凡そ今日の實情に於て歳出の節約に多きを求め得ざる

以上、財源調達の方法は公債と増税との二者に出でませぬ、然るに今日増税の時期に非ざることは財政演説に於て詳説したる通りであります、菅原君の所謂財政の根本的立直しの趣旨を要約すれば、公債に依らずして一般會計の收支の均衡を保たしめると云ふことであります、併しなが經濟界の好轉を俟たずして、何處に増税の餘地あるかを考へねばならぬのであります、或は富豪に重税を課せよとか、或は弗買成金等に非常税を課せよなどと云ふ議論も世間にはないではありませぬが、今假りに昭和七年度分決定の第三種所得税額に付て、其年五萬圓以上の所得者の數は、全國に於て千百九十三戸であります、而して其税額は二千六十八萬一千七百卅五圓であります、之に向つて五割の増税を致しますれば千卅四萬八百六十七圓の歳入があるものであります、況や三割の増税とせば、其金額は僅に六百二十萬四千五百卅圓に止まる次第であります、又相續税に付て見ますに、五萬圓以上の者は二千七百四十一人あります、其税額は千九百六十二萬八千三百卅五圓であります、其五割を増加して見まして、得る所九百八十一萬四千六百六十七圓、若し三割とすれば五百八十八萬八千五百圓であります、營業税の如きに至つては尙ほ少いであります、抑々租税收入の源泉は、言ふ迄もなく國民の經濟力に存するのであります、國民の經濟力を養はずして、單に租税收入の多きことを欲するが如きは、本末顛倒であり、近年の如く財界不景氣甚しき時に、増税を行ふとするも豫期の如き收入を擧げ得ざるのみならず、却て國民の經濟力を阻害し、延いては將來に於ける租税收入の増加を妨ぐるの結果となります、又或はせめては赤字公債の利子だけでも増税に依るべしとの論もあります、が、斯くては今後赤字公債發行の絶無を期し得ざる……もう今後は決して赤字公債發行の必要なしと云ふことを覺悟せざる以上は、屢々増税を繰返す必要を生ずるのであります、而して國民負擔に重大關係を有する租税制度に、年々變改を加ふるが如きことの百害あることは言を俟たざる次第であります、斯く申せばとて、政府は財政の立直しに何等の意を用ひずと云ふのはありませぬ、先づ我國經濟の立直りの爲に必要なる、經濟上、金融上、財政上、各般の施設を講じ、之に依つて漸次景氣の回復するに伴ひ、中央及地方を通じ、税制其他財政の根本的改革を行はむとすることは、既に財政演説中に於て明言して、國民の覺悟を促した次第であります、我が國民には堅忍不拔の精神があります、又經濟的には外國に比して有利なる點もあります、故に官民相共に大いに努力するに於ては、此難局を打開し得べきことを確信するのであります、即ち徒に悲觀せず、徒に失望せず、相共に財政の立直しに向つて邁進すべきであります、第二項の財政計畫に移ります、財政の計畫に付て、菅原君は豫想したる財政計畫、即ち後年度を豫想したる財政計畫がなければ、其財政は無計畫にして、恰も航路圖なくして航海するが如く、危險此上もないと言はれますが、今日の世界各國の財政及經濟の有様は、先人の曾て知ら

さりし、新なる大洋に船を乗入れたると同様でありまして、従前の海圖は役に立たなくなつたのであります、殊に菅原君の言はるる概計表なるものは能く記憶いたしませぬが、多分二十二年前に思ひ付かれた所の所謂十年概計であつて、是は日本獨特のもので外國には未だ其例を見ざるものであります、私の経験に依れば、彼の十年概計表なるものは、毎年歳入が豫算以上の増収を見る場合、各省の新規要求を防ぐ爲に、増収の一部を後年度に繰込んで、豫算の増額請求を拒絶する爲に役に立つただけであつて一として彼の概計表通りに仕事が行はれたことはないものであります、此豫算收支の均衡を必要とすることに付て、圖らずも此米國に於て本年の一月下旬に、市俄古の大學校の經濟學者連中が、華盛頓に出掛けて現在の大統領『フーヴァー』氏、次の大統領と定つて居る『ルーズヴェルト』氏に向つて、進言をしたと云ふことが出て居るのであります、其大意を申しますれば、此市俄古の大學の教授連が華盛頓に行つて其説を述べて、此豫算の均衡を得ると云ふことは平生の時に於ては爲し得ることである、併し今日の如く不景氣に襲はれて、國民全體が經濟上に非常に苦しで居る場合に於て、必しも其年の豫算に於ける收支の均衡を得るやうにする必要は認められない、依て大藏省其他の官吏に付て、若し其年の豫算が收支の均衡を得て居らなかつたならば、どう云ふ不都合が生ずるか云うて尋ねた所が、官吏達はどうも、どんなことが起ると云ふことは言へない、分らないと云ふ返事で

ある、そこに於て學者共は、此從來から其年の豫算を編成するに當つては、歳入歳入の均衡を保つやうにせねばならぬと云ふことは、是は一種の習慣となつて居る、平常の時に於てはそれで宜しい、併ながら今日一二年の如く、始終此均衡を得せしむる爲には増税の計畫をせなければならぬ、是で苦んで居る、此今日財界不況に陥つて居る此場合に於て増税をすれば、尙ほ此不況と云ふものは深刻化するものである、今日は彼等の負擔を重くすべき時ではない、寧ろ軽くしてやらなければならぬ時である、今日徒に増税をせむか、却て此不況を長く續け、益々深刻ならしむるのであると云ふ先づ意見で、初めは、華盛頓に於て他の經濟學者及議員達は此説を聞いて、初めは大いに驚いたやうでありましたが、能く其説を玩味し、其説を聽いて、忽ち議員は皆之に賛成をし、又他の經濟學者も之に同意を表するやうになつたと云ふやうなことが出て居ります、是は電報にあつたのですからして、御承知になつて居る方もあるかも知れませぬ、是は此一般會計に於て歳入歳入の均衡を、所謂公債に依らずして均衡を得ると云ふことは其事は誠に不斷は出來得ると云ふ必要はありませんが、今日我國に於て左様なことの出來ないと云ふ事情は、彼の市俄古の大學の經濟學者の皆な揃つて言つた所と同じやうな事情が我國に存して居るのである、斯う云ふ譯で今日は何れの國に於ても、將來の見透しを付けるのは頗る困難なる状態にあります、現に英國の如きも、米國の如きも、亦佛國の如きも、一箇年中に數

回其財政上の見積りを變更しつゝあるのであります、後年度どころではない、其一箇年、經濟年度一箇年中に於て計畫を見積りを始終變へねばならぬと云ふやうな有様であります、それでありますから收入の方面に於ても亦支出の方面に於ても、的確に將來を見越して、今後十年間の計畫を立てると云ふが如きは、殆ど不可能なことであります、假に之を立てたりとするもそれは殆ど價値のないものであります、却て世人をして惑はしむるに終るのであります、殊に今日は若し之を強ひて立てると言へば、十年間ずつと赤字公債を終りまで出して行かねばならぬと云ふやうなものが出来る、今日は對外的にも重要な時機であります、我國の國際的信用に付ても、慎重の態度を執ることを要する時であります、固より政府は將來税制其他財政の根本的刷新を圖るの意あることは、前に述べた通りであります、是は未だ具體化した計畫ではないのであります、從て今日に於て之に伴ふ數字を具體的に示し得ることは出來ないのであります、左ればとて政府の計畫は此計畫なしに數字を列挙するが如きは政府の本意でありませぬ前申す通り左様なことは却て害あつて益なきこととであります、第三の……三項の、公債の發行限度に御答へします、菅原君は公債發行に際して、其償還方法の計畫の無いのは、既に發行限度を超えたる無謀の舉である、一概に斷定せらるるやうであります、政府は左様には考へて居りませぬ、或は公債發行を以て一種の惡事なるが如くに考へて、之を非常に怖るる一

部の論者もあります。斯の如きは誠に誤つた考へと思ふのであります。今日の我國は先年の過度の通貨收縮、縮小の餘弊にまだ喘ぎつつある状態であると言はねばなりません。故に適當に通貨を供給し、適當に物價を維持する爲め其一つの方法として適度の公債を發行することは、又已むを得ざる政策と考へるのであります。勿論限りなく公債を發行して可なりと言ふのではありませぬ、唯國內に於て消化し得る限り公債の發行必しも恐るるに足らずと爲すのであります。菅原君は政府が一應日本銀行をして公債を引受けしめたるは限度を超えたる證左なりと言はれますが、私は左様には考へて居らぬのであります。却つて之に依つて國內經濟界をして適時適當に政府の發行する公債を消化せしめむとするのであります。即ち之に依つて通貨統制を圖り、其調節を容易ならしめむとするものであります。公債償還計畫の必要なることは誠に御説の如く、又利拂ひの爲に恒久財源を準備するの必要あることに付ても同感であります。是等の點に付ては、政府に於ても減債の方法と併せて十分考慮しつゝある所であります。菅原君は金融上我國の公債は既に飽和點以上に達したりと言はれますが、若し果してさうであるならば菅原君の主張する專賣の擴張、國營事業の新設等に依つて之が爲に要する公債は如何にせむとするのでありませうか、酒、砂糖の專賣、保險、電力の國營の爲に要する公債は、是等を皆菅原君の御希望通りに國營若しくは官營とするならば、數十億の公債を以てせなければ

ばならぬやうになります。如何にして斯様な巨額の公債を、既に飽和點以上に達せる此金融界に向つて咀嚼せしむることが出来ませうか、殆ど其御趣意のある所を解するに苦しむのであります。察するに菅原君の公債の限度に付て考へられる所は、生産的のものなれば多々益々宜しい、不生産的の公債は不可なりとの御意思があるもので、斯様な御考が出たのではあるまいか、而して此八年度の豫算に現はれる所の公債は、多くは不生産的のものであると云ふことに看做されて、斯様な御意見が出たのではないかと考へさせられるのであります。第四の歳入制度の確立、菅原君は近時の財政は金融財政に墮せりと言はれます。金融財政に墮ちたのである、さう言はれますが、財政と金融及經濟との密接なる關係、否寧ろ財政の基礎は國民の經濟にあることは、今更絮説する必要はありませんまい、而して政府は先づ國民の經濟力を養はんが爲に、百方施設を怠らず、其回復するに伴ひ、財政上の根本刷新を行はんとすることは、既に申述べた通りであります。第五項の租税及官業制度の整理、租税に付ては前々既に述べました所でありまして、再び茲に之を申し上げませぬ、現在の官業中、郵便料、煙草の値上等に付ては政府に於ても十分調査する考を持つて居るのであります。又砂糖及酒の專賣に付ては、慎重なる考慮を要する問題であります。殊に菅原君は酒の專賣を主張せるも、其所謂專賣なるものは、單なる販賣專賣に非ずして、製造專賣であるやうに窺はれます。果して然らば、我國

の清酒製造は季節的事業であります。故に、政府の事業に適當せざることあり、又其酒の變質したり或は腐敗したりする等の爲、政府として之を營業とすれば……官營とすれば貯蔵の困難なる等のこともあり、又世間に需要する所の酒の品種と云ふものも澤山にあるのであります。従つて價格も違ふ、それ等の決定をすることは容易ならざることであり、殊に是等を御計畫の如く爲さんとすれば巨額の資金を要する等の如き、是は最も研究を要する所であります。又御説の保險、電力の國營、保險事業の國營と電力事業の國營に付ても、是亦十分の調査を要する次第で、簡單に決すべき問題でありませぬ。是は此前の六十二議會に於て御質疑の時に、相當に私が御答をしたと考へます。之を要するに專賣及官業の擴張に付ては、其中研究の價值あるものも無いではありません。併し先づ謂はば消費税に屬するものが多いので、皆消費者に掛かるものが多い、故に若し政府の收入の増加に重きを置く時は、國民の負擔を重からしむるの虞れもある、又國民の負擔増加を避けんとせば、國家の收入を増加することは出来ませぬ。却つて買収の爲に發行したる公債の元利拂等の爲に、財政上の負擔を重くするの危險が無いとは言はれませぬ、故に最も慎重なる研究を要する次第であります。又凡そ産業を專賣又は國營と爲すことに付きましては、此外大に考慮せねばならぬ點があるのであります。それは政府の事業に付ては、之を經營する者に對しましても勤勉なことは之を望み得らるる

のでありますが、民間の經營者に於けるが如き同業者等の正當なる競争より起る刺戟がない爲に、經濟上にも技術的にも常に改良進歩の利益を失ふと云ふことは、是は國營事業に付て往々見得る所の短所であります、又抜目のない機敏なる實業家が合法的に大金儲けをしたら、其儲けた金に對して非常特別税を課して歳入を圖れと云ふ論者もありますが、斯の如き論理は究極する所、共產制度まで進まねば満足の出來ぬこととなるのであります、最も警戒せねばならぬと思ふのであります、斯く申したとて、私は決して菅原君に左様な御信念があるとは思はないのであります、唯事理の究極する所を述べて、世間に警戒したいと云ふ意味に外ならぬのであります、前にも申しました如く、現に我國も、先人の未だ會で知らざる海洋に、日本丸と云ふ船を乗り入れたのであります、然るが故に此日本丸の乗組員は先づ共同和合して、眞劍の勇氣、細心の警戒、最極の忍耐、最大の努力を以て、此日本丸を安全地域に航進せしめねばならぬのであります、以上を以て御答と致します

菅原通敬君 簡單でございますから此席で申し上げます、只今大藏大臣より特に詳細に懇切なる御答辯を御與へ下さいました、其ことに付きましては深く感謝申し上げます、過日私の御尋申しましたことは、國民の多く聞かむと云ふものであらうと思はれますので、今日大藏大臣の御答辯を伺ひまして、此議場を通じて國民が戰時財政に於ける……戰時と言ひますと云ふと言葉が悪うございます、非常時財政に對する大

藏大臣の御抱負を伺ひまして、豫て懷いて居りました不安を幾分でも除くことが出來ましたならば幸であると思ふのであります、私の御尋ね致しました問題は、五項目に分れて居るのでありますけれども、其各項には、内容として幾多の疑問が含まれて居るのであります、其疑問には一々事實を擧げて、それぞれ理由を付してあつたのでありますから、之を大藏大臣に於て肯定なされたか、或は否定なされたか、何れかにして戴かぬと云ふと、私の疑問はどちらとも承服の出來ないものが大分残つて居るのでございします、只今大藏大臣の御演説になりました所は、其説かるゝ所は極めて高遠であり、又私共に教へらるゝ所は極めて御親切ではあるものでありますけれども、私の質問に對する御答辯と致しましては、私は満足は出來ないのでございします、或は見當の違つた所で答なめられたやうな氣持も致します、又或る所は煙幕に蔽はれて姿を見失つたやうな感じも致されるのであります、兎に角私の疑問の解けたものもあり、解

五・一五事件に關する

陸、海軍大臣の釋明

(二月二十四日貴族院本會議に於て)

子爵大河内輝耕君 議事の進行に付きまして陸海軍大臣に質問を致したいのでございします、宜しうございしますか

副議長(公爵近衛文麿君) どう云ふ内容

けぬものもあり、結局承服することは出來ない點が多々あるのであります、さりながら此場合に於て再質問を致しまして押問答を致すやうなことになるしましては、結局議論となつて果てしが付かぬことになつて、爲に財界の前途に對する不安を除かむとして、却つて其不安を増すやうなことがありましては、私の本意ではないのであります、又私と致しましては、御尋ね致したいと思つたことは大部分盡して居ります、又大藏大臣も御答へなさるだけのことは御答へ下さつたことと思ふのであります、御互の意見は大體に於て諒承し得らるゝものがあらうと思ふのでありますから、私は大藏大臣の只今の御意見は謹んで御意見として承つて置くことに致します、又私の意見は其儘政府に對する希望として御留め置かれむことを御願いたします、此時局財政に對する變理に付きましては、十分なる御考慮を願ひ、能く善處せらるゝことは希望するに止めまして、私の質問は之で、此場合は打切ること致します

でございますか

子爵大河内輝耕君

先達て司法大臣から秘密會議で御説明になりました事項の中で、陸軍關係のこともあつたやうに伺つて居ります

で此事に付きましては此の前の臨時議會に於きまして、陸軍大臣からも色々御話があり、又相當の機會には尙ほもう少し具體的のことも話さうと云ふ御答辯もあつたやうに伺つて居つた、此機會に於きまして秘密會を開くなり或は何か致しまして、本日とは限りませぬが、此議會中成るべく近き將來に於きまして、さう云ふやうなこともありましたならば、非常に我々が蒙る啓くことが出来ようかと存じますが、陸軍大臣並に海軍大臣の御都合は如何でございませうか、此點を伺ひたいと存じます

副議長(公爵近衛文麿君) 大河内子爵は秘密會議を今御要求になるのではございませぬか

子爵大河内輝耕君 さう云ふ意味ではございませぬ、秘密會議を開くか開かぬかは、政府の御都合次第で宜からうと思ひます、兎に角此問題に付て今少し、時も進んで居りますので、すから、尙ほ進んだことが伺ひますのならば伺ひたい、さう云ふことを伺ひ得るかどうかと云ふことを、陸軍大臣海軍大臣に伺ひたい

(國務大臣荒木貞夫君演壇に登る)

國務大臣(荒木貞夫君) 只今御尋の五月十五日の事件の陸軍關係のことに付きまして、司法大臣から御述べになつたし、又色々御質疑のあつた點は、私出席を致して居りませぬでしたが承はりました、此事件は皆様も世間も、一般に其真相を知らむとせられて居ることであり、まずので、陸軍關係に於きましても極力其調査を進めて居ります、然るに此問題が他の方面と

關係を多く持ちます爲に、他の方面の調査の進捗と並行いたさにやならぬことになつて居りますので、從て只今の所まで其審査の……審理の結了の時期を言明する時期には至つて居りませぬのでありますが、是は一般の方面の、各關係の方面も督勵を致して居りますので此の方面の進捗と共に成るべく速に豫審を終了いたしまして公表いたしたいと考へて居ります、尙ほ其内容は從つて前般臨時議會に申上げた點以外に、今日の所まで出て居りませぬが、是等の收容を致して居ります者は、今日法に従ひましてそれ／＼處置を致して居りますので、其狀況は極めて謹嚴に、差入れ物等をも退けて、只管自己の反省、修養等に從事いたして居りますことだけは御報告申上げ得ると存じます、尙ほ其以外のことに付きましては臨時議會に申上げた以外に何等新しいことを申上げる時期に到達いたして居りませぬ

(國務大臣大角岑生君演壇に登る)

國務大臣(大角岑生君) 昨年の五・一五事件に關しましては誠に恐懼措く能はざる所であり、成るべく速に豫審を終り、公判に付して事の次第を明かにしたいとは考へて居ります、先日来司法大臣並に陸軍大臣より御述べになりまして通り、事件が非常に多岐に亘つて居りまして、今尙ほ豫審終結に至らないことは誠に自分も残念と思つて居ります、併し是は主務者を督勵いたしまして、成るべく早く事の明かになるやうに致したいと考へて居ります、唯此機會に於きまして御報告申上げて置いた方

が宜からうと思ふ點がありますから、其點を簡単に申述べたいと思ひます、それは關係者の一人が最近心から悔悟の情を示したことであります、申上げる迄もなく、軍紀を振肅し士氣を向上いたしますのは、法の威信を保つことが最も緊要でありますことは固よりであります、是と同時に事に當る者は武士の涙を以て、所謂其罪を憎んで其人を憎まずと云ふ心を以て關係者に對しますならば、鑒てそれが何かの機會に反映し、彼等をして志を改めしむることが或程度まで出来るものと思ひます、で其一例として、最近關係者の一人は深く改悛の實を示しまして、言々句々、涙を以てでなければ讀めないやうな懺悔録の、相當大部のものを主任官に提出した者もあります、固より其内容は豫審に關係した事項が多々ありますので其終結に至ります迄は之を申上げざることを憚る次第であります、其の中の一二字句を申上げただけでも、如何に彼が心から悔悟して居りますと云ふことが分るのであります、其中の極く短い一節を讀んで見ます、『次の時代を目的として現在を破壊するが如き手段方法は國家生活の理想化向上に志すものの爲すべき業ではない又かかる手段方法は理想化も向上化もなし得るものではない何故なれば夫は現實の内より自ら發する處に基かざる所謂砂上の樓閣を築かんとするものと同様なものである自らの實生活を踏み縮めずして如何に改造運動に努力する共其れは現實の實相を離れた架空のものであり國家生活進化の無視である、思つて此處に至る時今までの自

分と謂ふものは性格的に偏した處に感激が鞭ちて一方へ盲目的に走つて行つたことを痛切に感ずるものである』又他の頁にこんなことが書いてあります、『今迄は架空に双手をかけて大地に爪立ちして居た様なものだ、手の方に心が捉はれて足の方は御留守になつて居たのだと言へる』又他の頁に次のやうな言葉があります、『我誤てり／＼過ぎにし幾年大慈大悲心の妙號を稱へたりと雖も夫は大慈大悲にてはあらざるなり救國濟民の大願は大慈悲にてはあらざるなり現實を離れたる改造に捉はれし義憤なりき慷慨なりき衆生濟度を願ふしたりと雖もそは改造に捉はれて偏倚せるものなりき、其の志せる國家改造は現實の内に生ぜずして現實を離れた

堺利彦の葬儀に

參列は怪しからぬ

(二月二日貴族院本會議に於て)

る架空のものなりき』すつとお仕舞に斯う云ふやうなことを述べて居ります、『天つ神はこの冒瀆を宥恕すること〇年を以てし給へり而して今其の裁斷に接せんとす』、其他何處を讀みましても本人の悔悟の情のことばかり述べて居ります、是は獨り罪を犯したる者のみではありませぬ、將來道を過らむとする傾向ある者に對し、好個の指針となり又教訓となるものと存じます、私共は此上とも一層改過遷善に力を盡しまして、其後を善くせむことに努めたいと考へます、甚だ簡單ではあります、只今御報告を申上げるとは此位の程度でありまして、事態が明かになりましたならば、又改めて御報告を申上げたいと思ひます

議長(公爵徳川家達君) 三室戸子爵の登壇を望みます

(子爵三室戸敬光君演壇に登る)

子爵三室戸敬光君 去る二十七日有名な社會運動家であつた所の堺利彦氏の葬式が行はれたのであります、是は嚴正な意味に於ての葬式であるや否やも問題であります、私は假に之を葬式と唱へます、此葬式が行はれますことに付ては、其事前より新聞紙も色々報道を致

して居ります、或は棺を赤い布で巻き赤旗を立て、途中行列を爲して赤旗を立て赤い歌を歌つて行くこと云ふことも出て居つたのであります、私共は左様なとは警察の取締の上から申してもなからうやに想像いたして居りました所が、此二十七日は實際は赤い旗を立て、其向きの人々が街頭に立つて宣傳的に行列を立て、昨今は葬式等も、殊に東京の如き都會に於きましては、葬列を廢止すると云ふ位の時でありますのに、

相當なる行列を立て、異様な行列を立て、多數の警官が護衛にあらずして警備をする云ふやうな變つた葬式であつたのであります、又堺利彦氏はどう云ふ經歷を持つた人でありますか、餘りにも有名でありますから、私は其經歷を此處には申上げませぬ、併しながら其の周圍の人々、三十幾年に亘る所の同氏の思想的に活動の跡を見ましたならば、常に日本國民精神を強調して居ります所の御同様は、斯の如き葬式に若し國家の重責の任に在る人が參列を致したと致したら、如何に御考へにならうか、之を私は考へたのであります、然らば事實はどうであるかと申せば、青山齋場に於て行はれた所謂葬式には、而も是は社會葬と銘を打つて居ります、其葬式に現内閣の閣僚の一人である所の拓務大臣永井君が出られたのであります、新聞には大きい活字を以て見出しをして居るものもあります、又永井拓相が來られたことに付て人目を惹いたと云ふことも書いてあります、去る二十一日以來、衆議院は非常に勉強をして居られる又之に伴うて各大臣も總理を初め御老體を厭はせられず、御勤めになつて居ることは私共は感謝を致して居るのであります、又それであるから貴族院に於ては連日會議を行ふと云ふことが出来ぬ位、各大臣は御忙しい時であつたのであります、其時に於て永井拓務大臣はどう云ふ思召で國務を抛擲して、今申上げる社會葬、異なる葬式に御參列になつたのであるか、私は甚だ疑惑を感ずるのであります、私は質問を致しまして御答辯の如何に依りましたならば、更に

私の所見を申すのでありますが、一面に於ては、
獄事を窮追いたしますが、若し事情がはつきり
分りまして明瞭であつたならば、是は全體の仕
合せであるのであります、此心持で質問を進め
て参りたいのであります、永井拓相は堺利彦氏
と親類であるとか、姻族の御關係でもあるので
ありませうか、どうでありませうか、私は戸籍謄
本、又人名書等を閲覧いたしました所が、さう
云ふ關係はないやうであります、若しあればよ
く御示しを願ひたい、又莫逆の御友人でお出で
になるのかどうか、是も所謂莫逆の御友
人であつたと云ふことぢやないやうであります
るが、是は私的關係でありますから、書物等で
は分らないのであります、假に特殊の御關係が
あるとしても、亦別に大いに論ずる點があるの
であります、只今は左様に深い、莫逆の友人と
云ふ方ではないと一應定めまして論旨を進めて
見たいと思ひます、親類縁者に非ず、又莫逆の
友人に非ざる永井氏が、國務を抛擲して何が爲
に異様な葬式に會葬されたのであるか、此心
事が甚だ疑はしいのであります、是が何等の資
格を有つて居らぬ方であれば問題は起らないの
であります、永井氏であるが爲に問題が起るの
であります、而もそれは拓務大臣であるが爲
に、より問題が大きくなつたのであります、又
此葬式は焼香を致したのではないのでありま
す、玉串を靈前に捧げたのではないのでありま
す、赤い歌を歌つて居るのであります、永井拓
相は赤い歌を歌はれたのであるかどうか、是も
同ひたい、聲に出さなければ口の中で歌つて居

られたのではないか、斯様に人が惑ふのであり
ます、永井拓相は頗る頭の良い御方である、又
それだけに現在の青年は、永井君が大臣である
と否とに拘らず、朝に在ると野に在るとに拘ら
ず、永井君には皆魅力を感じて居るのでありま
す、私共も今回の此問題の起らざる迄は、矢張
り永井と云ふ方は偉い人である、何となく、若
くして大臣にもなられる人であると云ふ心持を
感じて居つたのであります、此問題に逢著し
て私は左様に魅力を感じませぬが、世の多くの
青年は非常に魅力を感じて居るのであります、
さう云ふ時に於て、臺閣に列し輔弼の責任を有
つて居る所の永井氏が、どう云ふ譯で、何の意
味を以て、斯様な葬式に御参列になつたのか、
前刻も申しました通り正當の事であつても、自
から注意を致さなければ揣摩臆測を逞しうする
世の中であります、古への聖賢は李下に冠、瓜
田に履と申して、我々に立派な言葉を殘して居
るのであります、假に其事が正當でありとして
も、非常に人々は想像を逞しくするのでありま
す、人の想像を逞しくすることは御勝手である
と云ふやうなことは、此場合認められませぬ、
折角此内閣は強力内閣であり、殊に、申しては
失禮でありますが總理級以上の御方が澤山臺閣
に列して居られる、又若い方としては、當の拓
務大臣、鳩山文部大臣、後藤農林大臣の如き、
何れも優れたる智能を以て組織されたのであり
ますから、私は此内閣に對しては頗る敬意を
表し、所謂強力内閣、此内閣に依つて、他の内
閣では出来なかつたことも漸次効果を現はすべ

きものであると、斯様に考へて居りました所が
今斯の如き異端なる行ひをする人が閣僚の中に
ありとすれば、是は現内閣は閣僚の一人から大
なる傷を受けることになるのであります、私共
の尊敬して居る所の、又非常に頼りに致して居
る所の内閣が潰れると云ふことは、私は甚だ遺
憾に思ふ、併ながら今申上げた事實から考へれ
ば、左様な事端をも發生せないとはい限らない、
又總理の御趣旨は全閣僚が一致されて居る所の
御意見と思ひます、少くも思想問題に付ては何
等其處に扞格したる御意見はない、皆同意見で
居らせられることと考へるのであります、其中
に斯かる異端なる矯激なる、狂態とも申して宜
しいやうなことを行はれましたに付ては、閣僚
の首班でおいでになる我が齋藤總理は如何に御
考へになつて居りますか、此事を一應伺ひまし
て、其御答辯を承はつて、更に御質問を續け、
其上で文部大臣、拓務大臣に質問を致したいと
存じまして、一應此壇を降ることに致します
(國務大臣子爵齋藤實君演壇に登る)
國務大臣(子爵齋藤實君) 御答へ致します、
只今の三室戸子爵の御質問を謹聴いたしま
して、是は永井拓務大臣個人としての、友誼の
爲に會葬されたに過ぎないと私は考へて居りま
す、左様御承知を願ひます
(子爵三室戸敬光君演壇に登る)
子爵三室戸敬光君 御忙しい時でありま
すから、時間を御省略になつたものではありま
せうが、餘りにも簡單な御答辯である、議會に
於ては閣僚も我々も慎重審議、和衷協同いたさ

なければならぬのであります、只今の御答は餘りにも其點から遠ざかつて居ることを遺憾と致します、又個人であるが爲に……拓務大臣が葬儀に参列された時には、護衛の警官でありますか、力が強い者なんかも附添つて居つた筈であります、又左様な者が居らないと致しまして、個人である、個人でない云ふことの區別が左様に附くものではないのであります、永井君即拓務大臣、拓務大臣即永井君であります、少くも今日に於きましては、斯かる變つた、不親切な御辯明を下さると云ふことは、老首相の御人格にも關すると思ひます、私共は自分の父とも見るべき御年配の老首相に對して、質問のいたすさへ實は恐縮に感じて居るのであります、只今の御答辯は餘りにも言論を尊重なされないこととあります、是は御一考を願ひたい、又個人であるからと云ふことが何處まで此事柄を緩和するものでありませうか、若し拓務大臣の地位を離れられた後であつたとしても私共は是は宜しいことでないと思ひますが、此職に居られる限りは公人であるから是はもう一度御考を下さつて御答辯願ひたいのであります、

國務大臣永井柳太郎君演壇に登る

國務大臣(永井柳太郎君) 私が故堺枯川氏の告別式に参りましたことに付きまして、三室戸子爵の御心配を煩はしまして、誠に恐縮に存じます、堺氏と私の關係に付て御質問がございましたが、願ひますれば、約三十年前、私が早稻田大學學生でありました當時に、大學に社會學會と申すものがありまして、専ら社會問

題を研究いたしましたのであります、其當時社會學者又は社會運動者を招聘いたしました、種々講義を聴きまして、其講義を或は批判し或は研究いたしましたのであります、私は當時社會學會の幹事に選まれて居りました關係から、堺枯川氏に對し、數回社會學會に來て講義をして貰つたことがございます、其後大學を出まして、私と堺枯川氏とは政治經濟上に於ける所見を異に致しまするが爲に、大學に在學中世話になつた先輩ではありましたが、往來は絶えたとあります、最近其堺枯川氏が貧困の中に、不遇の死を遂げた云ふとを新聞で讀みました、同時に其遺族から告別式の通知がございました、それで私は昔て教を受けた先輩の死に對しまして、哀悼の意を表する爲に告別式に参つたのでございます、又其告別式が前以て如何なる状態に行はるか云ふことが、新聞に出て居つたと云ふ御言葉でありましたが、それは私最近議會多忙の爲に其記事は存じませぬ、唯遺族からは告別式と書いた通知が参りました、時間は午後一時から始まるのであります、そこで私は一時早々に参りました、一時早々に参りますと普通の告別式とは少し模様が變つて居りました、何人かが堺氏の履歷を話して居りました、時間が掛るやうに思はれました、且つ私は衆議院の豫算總會に出席すべき義務がありましたから、私だけ其處で敬禮をして歸つて参りました、事實は只今申し上げた次第でございます、又時節堺枯川氏の葬儀に、告別式に参列することの是非に付きましては、三室戸子爵の御見

がございました一應御尤もに存じます、併し當今の險惡なる世相の下に於きまして、或は勞働爭議と云ひ、或は小作爭議と云ふが如きものも若し其當事者の何れかの一方に、もう少し血があり涙があつたなら、容易く解決されたのではなかつたか、と思はれることも屢々あるものでございます、殊に過激なる思想を有するが如き人々に對しましては、一方に於て嚴然たる國法を以て之に臨みますると共に、他方に於ては又父母の慈愛を以て之を悔ひ改めさせると云ふ、血あり涙ある行爲も必要であると云ふやうに私は考へて居ります、假令氷のやうに冷たく、頑く々な心でも、太陽のやうな熱誠を以て之を温ためて悔ひ改めさせると云ふとも常に考へて居らなければならぬやうに私は考へて居ります、誠に畏いこととありますが、神武天皇が敵將の饒速日命の子の可美眞手命を赦されて、さうして可美眞手命をして禁苑を護らしめられたと云ふ廣大無邊なる大御心が、我が日本の國民をして益々皇室に信頼せしむるやうになつたと云ふやうなことも、我々は教へられて居りまして、我々誠に不徳な者であります、其絶大無限なる建國の御精神の萬々分の一たりとも、行ふことに努力しなければならぬと云ふやうに考へて居りまして、さう云ふ私の考へから、嘗ては世話になりました先輩に對して、私としては盡すべき禮を盡すと云ふことが、それが一つの又思想善導の意味にもなるのではないかと斯様に考へましたのみならず、それが單純なる告別式であると云ふ通知でありまして、而も其時間は

私の議會に對する義務と何等低觸しない時間でございますましたので、私が告別式に罷り出た次第でございます、私の眞意を御諒解下されば誠に幸ひに存じます

(子爵三室戸敬光君演壇に登る)

子爵三室戸敬光君 永井拓相は豫てから非常なる能辯家であると云ふことを聞いて居ります、只今の御言葉などは全く其能辯から流れて來つた御言葉とより拜聴出來ない、此問題に付て當の永井君から、神武天皇の例を引かれると云ふことは、是は甚だ僭越と思ひます、例も外に澤山あらうと思ひます、馬を鹿に言ふと云ふこともあります、堅白異同の辯は慎んで御貰ひしたい、此問題の時に於て永井君自身が、神武天皇の例を引かれると云ふこととそれ自身が甚だ不謹慎である、又永井君の言を眞ならしめば、佐野學をして早く出獄せしめ、宮城の禁闕を護らしめると國家思想が善くなり、國家思想が善くなると云ふ結論を生ずるのであります、凡そ答辯をなさる上に於きましても、私共は誠意を以て申上げて居るのである、唯其場を遁れたならば、うまく遁れた、能く答辯をした、流石に永井は辯が巧いと、是ではいけないのです、是は誠で申さなければならぬのであります、先づ其一言を差上げて置きます、尚ほ續いて申上げます、永井君は新聞に、事前に社會葬をする云ふことは、忙がしかつて知られなかつた、是は私は知られて居る筈であると云ふことは申すことは出來ませぬ、けれども三十年前に非常に世話になつた其人のことであれば、亡くなつた

と云ふこと、どう云ふ葬式をする云ふ位のこととは、永井君の如き頭のはつきりした方であれば眼光紙背に徹して、直ぐに分らなければならぬのであります、それが殊更に分らないと云ふことも甚だ私共は諒承いたし悪い、又永井君は假りにさう云ふことを知らないで行かれたものと致しまして、其時の心境は昔の恩人である、最後の御別れを致したのである、斯う言はれますが、それなれば、堺氏の私邸を御訪問になることも宜しい、又告別式であるならば、御使ひになつて居る書生を御出しになつても宜しい譯であります、殊に其不自由な御身體をして居られて、國務多端の時にお出でになると云ふのには、茲によく／＼のことがなければならぬ、又左様な譯でありますから、お出になつた時には今御説明になつたやうな、御辯明になつたやうなことであります、今日只今私が斯う申上げた此刹那に於て、永井君の心境は御變りはないのでありますかどうか、多分永井君は變らないと御答辯になるのであります、多分永井君は變らないと御答辯になるのであります、是も前申す通り誠を以て御答辯願ひたい、其場を遁れたならば宜しいと云ふが如き卑屈極まる御答は私は御斷りを申上げて置きます、斯様な譯でありますから、大きな見地から悪い思想を懷いて居る者でも、永井君が一つ行けば思想が良くなる、是も餘りに御自分を偉い者としての御答辯である、永井君が行かれた爲に或人は非常に感服をして思想を變へたと致しましたも、大多數は決して左様に考へるべきものでない云ふことは、常識の上から判斷が

出來るのであります、どうぞ御答へになる時には常識と誠と云ふものを以て、而も此玉座を前にしての御答辯でありますから、誠心誠意の御答辯あらむことを希望します、それが爲には一應文部大臣に伺ひます、文部大臣は文教の府に長とされまして、御就任後諸般のことに御注意下されて居る、殊に承りますれば、來る紀元節には各學校に於て紀元節の式を擧げる時に、大日本帝國憲法を 明治天皇が御渙發遊ばされた、當時下されたる勅語を青年學徒に奉讀をさし、それを拜聴させると云ふことに御定めになつたと云ふことであります、是等は大臣御就任後の大きな、結構な出來事と思ひます、又精神文化研究所等も御創設になつて、著々其方面に御力を御入れになつて居る、其見地から致しまして、永井君のやられた行動は、あれは友人であつたのである、恩人であつたのであるから、あれは個人であつたのであるからと、斯う云ふ御考へでありますか、又假りに是が個人であつたとして宜しいのであります、殊にそれが個人であると云ふことの御考へでありますれば、どうぞ個人であると云ふことを能く分るやうに御説明を、甚だ恐縮であります、文教の府の御方でありますから、私に能く分るやうに御教を願ひたい尚ほ前刻來御答辯を伺ひますと……再び繰返すやうであります、そこを宜しく言ひ抜ければ、自然に時間も經つのであるから事終れりであると、斯う云ふ御考であるかも知れませぬが、私は帝國憲法を御渙發になつたことを申しましたから、それに關聯を致

しまして、其當時の勅語の一節を謹んで捧讀を致し、閣僚、殊に私が御質問申上げる御方には能く御聽きを願ひたい『我カ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同クシ此負擔ヲ別ツニ堪フルコトヲ疑ハサルナリ』是は最後の御言葉であります、即ち立憲政治に於ては此勅語の御趣旨に依つて閣僚は御活動にならなければならぬ、又及ばずながら我々とても此勅語の御精神を奉戴しなければならぬのであります、拓務大臣の御行動は果してそれに依つて、國家の永久に鞏固になる方法でありませうか、それが出來得るものでありませうか、明治天皇は國民に對せられて、斯程までに仰せられて居るのであります、其勅語の下に活動出來得る所の立憲政治、其立憲政治の今日閣僚の一人としてお出でになる拓務大臣が、前刻申すやうなことをなされて、是は却て自分が行く方が險惡なる思想を善導するものであるなどと言はれることは、實に不届千萬である、私は閣僚に對して不届千萬であると云ふやうな言葉や、狂態であるなどと云ふ言葉は申したくないのではありませんが、是は如何にも不謹慎極まると思ひます、斯様な御心であるから社會界にも參列されるのであると云ふ結論が生じて來るのであります、甚だ遺憾であります、尙ほ一言申上げて壇を降ります、先のは憲法發布の勅語でありますが、今度は 明治天皇の御製を申し上げます『世の中の人の司となる人の身のおこなひよたゞしからなむ』、もう一度申し上げます、『世の中の人の司となる人の身のおこ

なひよたゞしからなむ』此御言葉を拜聽しまして、永井さんの御言葉は正しいのでありませうか、總理にもう一度伺ひます、是は正しいのであります、又別段不正ではない、斯う云ふ味の少い御答でなく、甘味のたつぷり含んだ御答を、甚だ御老體恐縮であります、それだけは御答辯の勞を煩はしたのであります

(國務大臣鳩山一郎君演壇に登る)

國務大臣(鳩山一郎君) 三室戸子爵に御答を致します、唯今御話がありましたやうに、堺氏の告別式が赤旗を以て棺を蔽ひ、革命歌を歌ひ、赤旗の歌を歌ひ、さうして共產主義の宣傳をする道具に葬式を利用したと云ふ事實でありますならば、其處に參列すると云ふことは正しくないと思ひます、永井拓相は先刻の御答辯中にもありました通りに、全然さう云ふ事實は知らないで、唯昔の恩義を思ひ、突然に貧しく、淋しく死んだと云ふことに同情をされて、餘り深く考へずに、唯昔の情義を以て出掛けられたことと思ふのであります、若し永井君が、街頭『デモ』をなし警官と衝突をして、共產主義の宣傳に葬式を利用したと云ふやうな事實があるならば、斷じて私の知つて居る永井君は、さう云ふやうな所に立入るべき人でないと確信をして居ります

子爵三室戸敬光君

總理大臣は御答辯下さいませぬのですか

(國務大臣子爵齋藤實君演壇に登る)

國務大臣(子爵齋藤實君) 私は先刻申し上げました通りに考へて居りますのであります

拓務大臣並に文部大臣も申上げましたから、御諒承下さつたことと思ひまして、特に申上げませぬ

(國務大臣永井柳太郎君演壇に登る)

國務大臣(永井柳太郎君) 三室戸子爵から、私が堺氏の會で恩義を受けたものであるならば、其家に行つた方が宜かつたであらうと云ふ御言葉がありました、一應御尤もに存じます、併し先程申上げましたやうに、私は大體遺族から告別式をするに云ふ、告別式と書いた通知を受けましたので、それは普通の告別式とのみ思ひまして、而も午後一時でございますから議會に於ける私の職責を全うせざることをなしに、告別の禮を盡すことが出來ると考へましたのでございます、それから私は私事でありますけれども、私は自分の身體が不具でありまして、普通の日本家に入ります時には非常に不自由があるのでございまして、從來でも知人又は友人に不幸のありました時に、其御家庭に參ることは免じて戴きまして、大抵式場に伺ふことに致して居るのでございます、別に外に意味があつた次第ではございませぬから、其點は十分御諒承を願ひたいと思ひます、私の堺氏の告別式に參りましたことの爲に、假令一人の御方でも非常な御心配を掛けましたことは洵に私としては恐縮に堪へませぬ、どうぞ御諒承願ひたいと思ひます

造材業國枝寅吉

樺太豊原町

造材業衣川安雄

樺太豊原町

王子製紙會社專屬請負

造材業大倉吉作

樺太豊原町

造材業高橋善吉

本店旭川市三條通り
樺太事業所樺太敷香町

造材業中井淺之助

樺太留多加町

造材業若林陽太郎

樺太大泊町

王子製紙會社山林部專屬請負

造材業遠藤小一郎

樺太留多加町

造材業堂前外吉

樺太大泊町

第二篇 拓務關係議事

拓務省關係

一、昭和八年度拓務省豫算

拓務大臣永井柳太郎君說明

(三月一日貴族院豫算分科會に於て)

拓務省及各外地の豫算案に對しては、衆議院に於いては二月七日の豫算委員第一分科會に於いて政務次官堤康次郎君が提案の説明を爲し、貴族院に於いては三月一日の貴族院豫算委員分科會に於いては拓務省豫算を拓務大臣永井柳太郎君、外地關係を政務次官堤康次郎君が説明してゐる、爰では重複を避けて豫算案の説明は貴族院の速記録を採用することにした

第二篇 拓務省關係議事(永井拓相堤次官豫算説明)

主査(伯爵兒玉秀雄君) それでは昨日に引き続きまして開會を致します、今日は拓務省所管の豫算に移ります、順序と致しまして最初に拓務本省を終へまして、それから此參考書にありまする順序に依りまして、各特別會計に付て質

問をして行きたいと思つて居ります、最初に拓務本省の豫算に付て大臣から御説明を願ひます
國務大臣(永井柳太郎君) 拓務本省の豫算に付きまして、大體の説明を致したいと存じます

昭和八年度拓務省豫算を説明するに先だちまして、過日七年度の滿洲事件費追加、朝鮮總督府特別會計及關東廳特別會計に於きまして、各

各所要經費を計上して御審議を求めました所、速に御協賛を賜はりましたことに對しましては現地に於て治安維持に當つて居ります警察官も、各位の御熱誠なる御後援に對しまして、滿腔の感謝を以て更に益々其職責の遂行に努力すること、信じてまして、茲に厚く感謝の意を表したいと存じます

拓務省所管の豫算は、申上げる迄もなく一般會計即ち拓務省自身の分と、特別會計即ち各外地の分とを含んで居るのでございます、最初一般會計の分に付て申上げたいと存じます、昭和八年度の拓務省所管豫定經費要求額は、經常部百九十五萬四千六百圓、臨時部二千五百七十六萬二千一百一圓、合計二千七百七十一萬四千三百七十七圓でありまして、之を前年度施行豫算額に比較いたしますれば、七十萬八千四百六十一圓減となり、同じく實行豫算額に比較いたしますれば、二百四十萬九千四百十四圓増となるのでございます、八年度豫算の要求に付きましては現下の時局に鑑みまして時局匡救の意味をも含め、相當新規の要求を致したのでございますが以下各新規事項の内譯に付て御説明申し上げます

第一に移植民の渡航奨励金であります、時節柄邦人の海外渡航を奨励いたしますことは、最も必要のことと存ぜられますので、第六十三回帝國議會に於ては、出来る限り之を奨励するの意味を以ちまして六千九百六十人分の渡航奨励金を追加協賛を経まして、七年度に於きましては合計一萬五千七百四十人分の渡航奨励金を計上することを得たのでございますが、八年度に於きましては更に時局の要求に鑑みまして一層之が奨励の必要を感じられますので、尙ほ一千人分だけ増加いたしまして、總計一萬六千七百四十人分、即ち三百三十九萬七千七百圓の渡航奨励費を計上いたしましたのであります

第二は渡航手数料全廢報償金でございます、是は移民取扱人として指定されて居ります海外興業株式會社の移民取扱手数料を全廢いたしました關係上、之が相當額を政府から同會社に報償として支給することに致して居るのでございますが、來年同會社取扱の勞働移民に對する分として、一萬四千二百三十四人分の報償金が、即ち四十九萬八千八百九十圓となるのでございます、それから

第三は移植民渡航支度金でございます、渡航者に對しまして支度金を給與し、海外移住の準備其他に必要な諸經費を充てしめ、無資力者の海外發展を容易ならしめますことが、時局應急對策としても有意義であると考へましたので、第六十三回帝國議會に追加豫算として御協賛を得たのでございますが、之が實行をいたしました結果を見ますと頗る効果がありません

ので、八年度に於ても之を實行いたしたいと存じまして、一萬六千七百四十人分の支度金、即ち八十三萬五千二百圓を計上いたしましたして御審議を願ふ次第でございます

第四は海外企業費貸付金でございます、海外移住組合聯合會は昭和二年以來専ら『ブラジル』に自作農移民を送出すことを目的として鋭意努力して居るのでありますが、更に昭和七年度より十年間に約四千六百家族を入植せしめる計畫を樹立いたしましたして、其の計畫の一部として昭和八年度に於きましては大體六百家族に入植せしめる豫定でございます、而して此入植計畫を遂行いたしますが爲には、同會所有の移住地に於て、幹線道路の築造、土地の區劃、測量、土地公課の負擔、土地の管理、境界の維持等、移住地經營の資金を必要と致しまするので、是等の費途の爲に政府と致しましては、移住組合聯合會に對しましては、昭和八年度に於きまして二十五萬四千三百三十九圓の貸付金を致す次第でございます

第五は生産資金貸付金でございます、是も亦移住組合聯合會に對する貸付金でございますが『ブラジル』に於ける同聯合會の前記移住地に入植いたします移住者は、移住地に到着後住宅を建築しなければならぬ、家畜及種物を買入れなければならぬ、伐木開墾其他諸種の生活準備を致さなければならぬ、是等の生活費として約一千四百三十圓、即ち『ブラジル』の貨幣に換算して五『コント』七百『レース』を必要とする状態でございますが、移住者の大部分は

其所要資金を調達するに困難な事情にありますので、是等の資金は聯合會から移住者に貸付ける必要があります、そこで政府と致しましては此目的の下に聯合會に對しまして十五萬圓を貸付けんとする次第でございます

第六は海外拓植事業指導奨励費であります、此經費は南米南洋等に於ける日本國民の海外企業に必要な調査、指導奨励及助成の經費でございます、八年度に於きましては七年度の實行額に比べて、約二萬五千圓を減じ、四十四萬四千三百一十一圓を計上したのでございますが、以下是等の内容に關しまして大體を御説明申し上げます

政府は昭和六年度民間に委嘱しまして、南洋『ボルネオ』島、『サラワック』國に於ける邦人移住地の實地調査を致させたのであります、本年度に於ても更に之を繼續せしむる必要上、之に要する經費七千圓を計上いたしました、更に南米馬來半島の『カメロン』高原に於ける我移住地の建設の爲に、政府は昭和六年度以降之が指導を行つて参りましたが、其目的を達成する爲に八年度に於ても四千圓を支出いたしたいと存じます、南米『アマゾン』に於ける『アマゾン』産業研究所をして、『ジニート』の生産及販賣等に關する實地調査を爲さしむる費用七萬四千五百六十五圓をも計上いたして居りますが、是は將來『アマゾン』に對し移植民事業を遂行する爲に極めて必要な事項と存じて居ります、尙ほ近年『ブラジル』に於ける不況に鑑みまして同國に於ける珈琲單作農が、我が移住者の生活

上危険なしとせざる點を考慮いたしましたので之が代作物を調査する爲本年度に於て其經費を計上いたしました

海外拓殖事業獎勵に關する費目に付きましては先づ海外移住組合聯合會が事業刷新計畫に伴ひまして、移住者の生産物を有利に處理せしめ速に移住者をして獨立農たるの基礎を確立せしむる方針を執る必要があるものでありますが、之が爲に『バストス』、『チエテ』、『アリアンサ』の各移住地に於きまして、精米所、製綿所、砂糖工場、製油工場、倉庫等の産業施設を爲すことが非常に必要と考へましたので、是等の事業を助成する爲に十三萬七千九百五十二圓を計上したのであります、又海外興業株式會社、南米拓殖株式會社及『アマゾンニア』産業研究所の各移住地に於ける製材所、倉庫等の産業施設に對しましても亦之を助成する爲め九萬三千六百十六圓を要求いたすのであります

最後に此費目の中で南洋邦入水産業の指導獎勵費として、三萬三千二百三圓を計上いたしました、御承知の通り我國の沿岸魚族は年々減少の傾向にありますのみならず、我國漁村窮狀の打開に關しましても、其活路を海外に求めねばならぬ實情にあると思はれます、然るに南洋の諸海面は魚族頗る豊富でありますので、此方面に我國漁民を移住せしめ、水産業並に水産製造業に依つて新天地を開拓させたいと存じまして、八年度に其指導助成費を要求したのであります、其成績に依り將來益々之が實現を擴大したいと思つて居ります

第七は滿洲移殖民事業に關する經費でございます御承知の通り昭和七年度には六萬九千二百一圓を以て滿洲に於ける移住適地の調査を行ひまする一方、二十萬七千八百五十圓の經費を計上して、恰も移住適地として提供せられました吉林省樺川縣に五百名の自衛移民を送り出したのであります、八年度に於きましては更に續いて移住適地の調査を致しまする爲に、五萬五千九百十五圓を計上して、調査班を派遣いたしま

二、昭和八年度各外地豫算

政務次官堤康次郎君説明

(三月一日貴族院豫算分科會に於て)

主査(伯爵兒玉秀雄君) それでは政府委員の説明を求めます、簡単に御願ひ致します

政府委員(堤康次郎君) 拓務本省の八年度豫算は先程大臣から御説明申上げましたから私は各外地の特別會計の分に付て申上げたいと存じます

昭和八年度に於きましては前年度に引續き滿洲事件費及所謂時局匡救に關する經費の計上を要しますると、他方財界の現状は租税其他の經常歳入に關し増收計畫を樹立するに適しないものがありますので、各特別會計(前年度實行豫算比較、朝鮮一千七萬八千八百八圓、臺灣三十

する外、更に五百名の自衛移民を送り出します費用、是等移民の指導監督費用並に是等移民の定着するに要する補助費用及び共同施設費用として、合計三十八萬二千七十五圓を計上したのでございます

以上を以て拓務本省の八年度豫算中、新規要求の主要なるものと致すのでございます、何卒御審議の上御協賛を賜はらむことを御願ひ申す次第でございます

五萬六千圓、關東州三十七萬七千七百八十二圓、樺太百八十四萬四千二百七十二圓、南洋公債金なしに於て多少公債を増發するの已むを得ざるに至つたのであります

滿洲事件費は前年に引續き朝鮮及關東の特別會計に其計上がございしますが、朝鮮總督府に於て百二十七萬四千五百七十八圓、關東廳に於て三百二十二萬六千六百四十三圓でありまして財源は總て公債に依ることにして居ります

時局匡救施設費も前年に引續き朝鮮、臺灣及樺太の各特別會計に其計上を致して居りまして朝鮮總督府四百五十三萬二千二百九十六圓、臺灣

總督府百八十二萬八千百圓、樺太廳百六十九萬九千三百二十三圓でありますが、是も亦財源は主として公債に依ることになつて居ります

外地特別會計の新規要求を説明申上ぐるに先だち申上げて置かなければならぬことは、恩賜救療事業等に要する經費の件であります、畏くも昨年八月救療事業の普及徹底を期する御聖旨より、以後三箇年全外地に對し毎年金十萬圓御下賜の有難き御沙汰を拜しました、仍て直ちに之を各外地に配分し御聖旨を傳達致しました、仍て各外地に於きましては或は國費に依り、或は地方費に依り御下賜金と同額又は同額以上を支出しまして、巡回診療機關の活動、醫療施設の普及等を圖りまして、御聖旨に副ひ奉るべき計畫を樹て、十月初旬より一様に施行致しました、本年も是と同額を支出し、事業を繼續する豫定であります、其内國費を以て支出する關係上八年度豫算に新規要求として計上せられますのは、朝鮮、臺灣、樺太の三特別會計に於てありまして、總計十萬二千二百四十七圓、即ち朝鮮八萬一千二百四十七圓、臺灣一萬四千圓及樺太七千圓と云ふことになつて居ります、同時に昭和五年より毎年畏くも皇太后陛下より癩療養及癩患者慰安に關して御下賜金がありますので各々既定經費を以て癩療養に盡力し、有難き思召に副はんことを期して居りますが、本年度に於きましては新に朝鮮、臺灣、南洋の三特別會計を通じ十一萬三千四百一十一圓を計上致しまして、出來得る限り癩療養及癩豫防に努力する方針であります、即ち朝鮮の癩豫防協會に對する

補助十一萬圓、臺灣の癩療養所に關する經費二千四百一十一圓及南洋の恩賜財團慈惠會補助一千圓であります

朝鮮總督府特別會計

朝鮮總督府に於きましては唯今申上げました經費以外に重要なものは

一、滿洲事件に伴ふ避難鮮人救護並に國境警備費であります、昭和七年度に於ては應急費約百二十萬圓を計上し、遺憾なきを期したのであります、八年度に於ても國境地方の警備を充實すると共に、避難鮮人をして極力源地に復歸安定せしむるの計畫を樹て、是等に要する經費及間島地方に於ける軍事郵便並に軍事爲替の取扱に要する經費等百三十一萬四千九百二十二圓を計上して居るのであります

二、農山漁村振興施設費であります、財界不況、殊に農産物の價格の激落に伴ひ、農山漁村の疲弊甚しきものあるに鑑み、政府に於て應急の施設を爲すと同時に、農山漁民をして自力更生の念を振起せしむるは最も急務でありますから、七年度に於ては既定豫算の範圍に於て出来るだけ施設畫策する所あつたのであります、其效果相當見るべきものがありますので、將來一層之を徹底せしむる爲め八年度に於て十二萬三千圓を計上し、農山漁村經濟の向上に資せんとして居るのであります

三、棉花増產計畫に要する經費であります、棉花は朝鮮の貿易品中重要な農産物でありまして、農村經濟上重要な地位を占めて居りま

すので、是が増産を獎勵し、農家收益の増進を企圖すると共に、棉花輸入に依る本邦の正貨流出防止の一助と致しまする爲め、從來の計畫を更新し、昭和八年度より積極的に増産獎勵の施設を爲すこととし、是が經費二十一萬八千九百圓を計上致しました

四、鹽田の擴張を要する經費であります、鹽の海外より輸入を防遏し、正貨の流出を防止致しまして、圓價の下落に依る支出の増嵩と鹽の價格の高騰とを抑制致しまする一方、窮民に授職の途を給する事業として有益でありますので財源を公債に仰ぎ西海岸方面に五箇年間に千百町歩の鹽田を増築せんとするのであります、總經費二百十萬圓を要しますが、本年度分四十萬圓を計上致しました

五、産金の獎勵に要する經費であります、産金に付きましては時局に鑑みまして昭和七年度より産金獎勵補助費約二十萬圓を計上して是が助長に努めつゝありますが、八年度に於きましては更に低品位金鑛石の利用増産をも助長する爲め、産金獎勵費に於て六萬圓の増額を計上致しますると、金山試掘の出願及金鑛石分析の依頼が激増致しましたので、是が處理を促進致しまする爲め所要經費四萬七千四百三十五圓を計上致しました

六、米穀統制策に要する經費であります、米穀統制の確實を期します爲め米の生産費、米の移動及消費狀況等に關し確實なる資料を蒐集する必要がありますのと、新に米穀法の施行せられました結果、農林省に於きましては鮮内に於

て米の買入、賣渡、貯藏等をなすに至りましたので、是と連絡を圖るを要します外、米穀の移出統制を効果的ならしむる爲め、米穀倉庫の建設に補助を爲し其充實を期する目的の下に九百九千五百一圓を計上致しました

七、北鮮開拓事業に要する經費、北鮮地方開發の必要は早く認められて居りましたが、種々調査の結果昭和七年度より開拓事業に取掛りましたが八年度に支出します經費は八十三萬四千五百八十四圓(外に拓殖鐵道建設費八十萬圓)であります、尙ほ北鮮開拓と關聯し時局匡救の意味をも含めまして、同地方の木材搬出港として城津港に二箇年計畫を以て貯木場を修築する爲め、一本年度所要經費三十四萬圓及北鮮水産業の發達を計る爲め二箇年計畫を以て清津漁港を修築する爲め本年度所要經費五十萬圓を計上致しました

八、國境鐵道建設の促進と既成幹線の改良に要する經費(鐵道建設及改良費の繰上及追加)昭和七年度より經費を計上して北鮮開拓の施設を實行することになりましたが、近時國境鐵道完成の必要は益々急になりましたので、昭和八年度に於きましては北鮮地方の鐵道建設を促進する爲に二百萬圓(繰上)及朝鮮國有鐵道の幹線の速力増進及列車増發の爲め、改良工事費百萬圓(追加)合計三百萬圓を(外に時局匡救の爲め建設費繰上百萬圓あり)計上致しました

九、私設鐵道買収に要する經費、昭和八年度に於て泉洞より新安州に至ります三六・九料の鐵道(价川鐵道)を買収せんとするものでありま

す、此爲に交付公債七十五萬三千圓の發行を必要と致しますので、之に要する利子等三萬四千九百十三圓を計上致しました、本線は泉洞方面の鐵道を鎮南浦方面へ輸送することを使命とするのでありますが、泉洞と价川との間に於きまして昭和七年度建設に係る順川より北上する政府の線と重複致しますので、本線全體の存在價値を脅かすに至りました、仍て地方鐵道法第三十條及第三十三條等より考慮しまして買収するを適當と認めたのであります

十、尙ほ右の外時局匡救の意味を含め道路改修費九十五萬八千二百八十圓、治水事業費七十二萬、砂防事業費八十萬圓を計上致して居る次第であります

臺灣總督府特別會計

臺灣總督府に於きましては先程申し上げました經費以外に重要なものを申上ぐれば

一、麥酒專賣實施に要する經費であります、大正十一年臺灣に於きまして酒類專賣を創始致しました當時は、麥酒の需要は頗る微々たるものでありました爲め專賣制より除外致しましたが、近時其需要が増加致しましたので酒類專賣の範圍に包含せしめ、專賣制度を完成し、其收入の確保を圖る必要が生じました、仍て本年度より之を實施致します爲め必要なる經費百六十萬二千二百二十一圓を計上致しました

二、自動車運輸事業創始に要する經費、近時臺灣に於ける自動車の發達は道路の改善と相俟つて次第に陸上交通上重要な地位を占め來り

ましたが、自動車は獨り交通、産業上島民の福祉に重要な關係がありますのみならず、特に本島に於きましては國防上最も重要性を有して居りますので、主要交通路線に就きましては、之を民營に放任するを得ざる事情にあります、仍て自動車運輸事業を官營に移します爲の經費九十九萬七千七百十三圓を計上致しました

三、南廻東西連絡道路改修に要する經費、道路事業の促進は臺灣開拓の上に於て最も急施を要するものであります、就中主要幹線であります南廻東西連絡道路の改修は、行政、産業、軍事上より見まするも未開の東部臺灣開發上より見まするも、最も緊要のものであります、仍て昭和八年度より高雄州下楓港より臺東廳下呂家溪に至る百六料の區間を改修して、南廻東西連絡自動車道路を新設せんとするのであります昭和八年度以降五箇年間に繼續施工し、總工費百八十八萬五千七百九十三圓で、八年度の所要經費は十萬圓であります

四、産金獎勵に關する經費、臺灣は由來金鑛に富んで居りますので、時局に鑑み産金の獎勵の必要を認めまして是が經費十萬圓を計上致しました、是は製煉所を設置せしめ從來廢棄せられて居りました貧鑛を處理せしめんとするものであります

五、市制施行に要する經費、臺灣には現在市制施行地は七ツありますが、拓殖の進展に伴ひまして臺中州下彰化街及高雄州下屏東街に對し昭和九年一月より市制を施行することとし、右に要する經費三萬九千八百八圓を計上致しました

六、地方制度改正準備に要する經費、臺灣に於ける地方行政は領臺直後専ら官治行政の形式を採りたるも、大正九年地方自治制に至る階梯として現行地方制度を創設したのであります。其後の實績を見るに、各地方共官民克く協調を持し、且つ臺灣の民度も漸次向上しつつあるに鑑みまして、昭和九年度より地方自治制度を確立したいと存じまして、八年度に於て其準備費を計上したのであります。

尙ほ右の外時局巨救の意味を含めまして、治水事業費八十萬圓、縦貫道路改修工事費三十萬圓、卑南川改修工事費二十九萬七千五百圓、鹿野川改修工事費三萬六千圓、主要都市道路其他改修工事費三十萬圓を計上致して居ります。

關東廳特別會計

關東廳に於きましては先程申上げました通り管内治安維持の必要上前年に引續き警備力充實等に關する滿洲事件費を必要とし、相當巨額を占めて居りますが、滿洲事件費以外に重要なものを申上ぐれば

一、專賣事業に要する經費、滿洲國に於て近く阿片の專賣制度を施行致しますので、關東廳に於きましては本年度より滿鐵附屬地に對して之の專賣制度を施行致しまして、取締の徹底を期すると共に、滿洲國の施設に順應せんとする豫定であります。之に要します經費（俸給、事務費、原料購入費）四十六萬四千六百四十圓を計上致しました。

二、海務局普蘭店支局設置に要する經費、關

東州普蘭店は年々出入船舶増加の現状にあります。當港は不開港場であり、之を不開港場とし、海務局支局を設置致します。爲め一萬三千三百三十六圓を計上致しました。

三、鹽業試驗場設置に要する經費、關東州に於ける製鹽事業は現今相當發達は致して居りますが、更に生産能率の向上、品質の改善、副産物の利用等を企圖する爲め昭和元年度より鹽業調査費を計上して、昭和五年から三箇年繼續事業として大連管内大房身に鹽業試驗場廳舍及鹽田等を建設中であります。七年度には是が完成致しましたので、八年度に於きましては之に從來の旅順鹽田を合併しまして、獨立したる機關として活動せしめる必要が有りますので、之に要する經費四萬八千九百九十九圓を計上致した次第であります。

四、四平街觀測支所設置等に要する經費、現下時局に鑑みまして滿洲各地に於きまする氣象觀測の充實を爲すことは、航空其他産業上必要なりと認められますので、右に要する經費四萬七千八十圓を計上致しました。

滿洲事件に關する經費

滿洲事件費に關しましては七年度に於て警備力充實及軍事郵便取扱等に關し約三百五十萬圓を計上し、管内の治安維持等につき遺憾なきを期しましたが、八年度に於ても尙ほ治安維持を全うする等の爲め前年度に引續き警備力充實をなし、其他軍事郵便取扱等に關し必要な經費

三百二十二萬六千六百四十三圓を計上致して居る次第であります。

樺太廳特別會計

樺太廳に於きましては先程申上げました經費以外に重要なものを申上ぐれば

一、木材賣拂方法改革に要する經費、樺太材賣拂方法は種々論議された所でございますが、是が賣拂を公正に致します爲め木材賣拂調査等に付改善を爲す必要がございますので所要經費二十七萬四千六圓を計上致しました。

二、拓殖調査に要する經費、樺太拓殖の實を擧げます。爲には、拓殖方策を確立し、之に基き諸般の施設を改善し、其整備を圖りますと共に、産業の合理的且つ科學的改良發達に努めまして、積極的拓殖植民の途を購する必要が有りますので、各般の事項に付きまして調査研究を爲し、拓殖計畫を刷新せんとする次第であります。本年度之に要する經費として三萬圓を要求致しました。

三、國有林事業經營に要する經費、樺太の森林は從來利用の急に迫られまして、造林に充分の力を用ゆることが出来なかつたのであります。此儘推移致しますれば速からず林力を中斷する憂があります。仍て造林を行ひ、又防火線林内歩道を築造し、森林保護上遺憾なきを期する等の爲め總額百二十萬八千六百十八圓を二箇年の繼續費とし、本年度年割額五十三萬三千三百七十一圓を計上致しました。次第であります。

四、電信電話擴張及改良に要する經費、樺太

の電信電話擴張及改良に關しましては、昭和八、九兩年度に付きまして遞信省との協議に依り、内地樺太間の連絡海底電信線の敷設等を要しますが、既定年割額を以てしては不足を生じまするので年割額を十五萬七千四百圓繰上げまして、本年度は四十五萬七千四百圓を計上致して居ります

五、道路開鑿に要する經費、本費は大正十一年度より昭和七年度に互る繼續費でありますが一應前年度を以て終了致しまするので、樺太の開發上更に繼續的に道路開鑿の必要がありまので、最も重要な幹線と認められますものを二箇年繼續事業として、既定總額に對し百五十九萬七千七百九十六圓を追加致しまして施行致したい考であります、八年度所要經費八十六萬四千三百二十三圓を計上致しました

六、道路改良に要する經費、既設道路は春秋の雨雪期に際し泥濘化し、車馬の交通困難なるものが少くない現狀にありますので、是が路面の改修を急務と認め、主要路線及市街道路の改良を二箇年の繼續事業とし、總額六十五萬八千圓、其本年度年割額三十二萬九千圓を計上致しました

七、船塢修築に要する經費、拓殖の進間に伴ひ漁業の發達と地方産業の發展上船塢を修築する必要がございますので、沿岸樞要の地四箇所を選定し、昭和八年度より二箇年の繼續事業總額百一萬九千圓で八年度所要經費五十萬六千圓を計上致しました

八、鐵道改良費、拓殖の進展に伴ひまして貨

客の遞増を來しますので、車輛を増加し線路施設物を改良する必要があります外、既存施設物中經年腐朽せるものを改築する必要があります、仍て八年度より總額六十二萬九千九百圓、二箇年繼續事業として之を施行せんとするのでありまして、八年度所要經費三十三萬四百八圓を計上致しました

九、土地改良費、植民地内に於ける支線道路及排水溝の新設、改良、拔根開鑿並に土壤改良を必要とするものがありますので、二箇年の繼續事業として總費額九十五萬八千九百九十六圓、本年度年割額四十七萬九千四百九十八圓を計上致しました

南洋廳特別會計

南洋廳に於て重要な事項を申し上げれば、産業其他調査に要する經費、南洋群島は年次拓殖開發の進展を見つありますが、尙ほ幾多の産業を開拓するの餘地が少くありませぬので、是が資源を調査する必要があり、仍て本年度に於きましては調査費二萬圓を計上致しました
森林經營に要する經費、南洋の森林は概して雜木樹であります、各所に有用林が點在して居ります、然るに近年製糖、漁業、製炭及農業が急激に進展致しました爲め、木材は燃料に供せられ、森林の荒廢を招致しましたので、順次造林する必要があり、仍て八年度は一萬六千五百五圓を計上して、急を要する國有林に保安林及經濟林の造林を施行せんとするのであります

『巴拉オ』船溜新設に要する經費、南洋群島が水産方面に於て有望なることは言を俟たない所であり、水産的進出の爲には之に對する適當の船溜の必要がありますので、本年度に於て『巴拉オ』に船溜を新設する爲め二十一萬五千二百六十五圓を計上致しました

『サイパン』港棧橋新設に要する經費、昭和六年『サイパン』港内の浚渫工事が竣工致しましたので、海陸連絡を完全ならしむる爲に棧橋を新設する必要があります、仍て之を本年度より三箇年總額五十七萬九千八百二十五圓の繼續費として、本年度所要額十五萬一千四百三十五圓を計上致しました

『ロタ』船溜新設に要する經費、『ロタ』には近く南洋興發株式會社の砂糖工場が設置せらるゝ豫定でありまして、舢舨荷役の安全なる船溜を新設する必要があります、仍て所要經費十一萬五千六百七十七圓を計上致しました

以上を以て外地各特別會計豫算の概要を御説明申しましたが、滿洲事件に關する施設及時局匡救に關する施設以外に於ては、特に産業開發的施設と海外發展に關する施設に相當留意致しました次第であります、即ち拓務省所管一般及各特別會計を通じて、拓務省設置の使命を達成することに努力致したいと考へる次第であります、何卒御審議の上御協賛を與へられんことを希望致します

主査(伯爵兒玉秀雄君) 外地を通じました一般的の説明は是で終りましたが審議の都合上朝鮮總督府を問題と致して御質問を願ひたい

と思ひます

子爵井上匡四郎君 今政府委員の御説明に衆議院の速記録の朝鮮總督府特別會計、其の中の六と云ふのを御抜かしになりましたが、それは特に御抜かしになつた何か理由があるのでありますか

政府委員(堤康次郎君) 此六は米穀統制に關する經費でありますので是は今朝鮮内部に於きまして朝鮮内地の自力の統制を致したいと考へまして關係各省と協議を致して居ります豫算を追つて御審議を願ひたいと考へて居りますので、此米穀統制に關することだけを抜きまして、さうして御説明を申上げたやうな次第であります

第二篇 拓務省關係議事(衆議院貴族院分科會議事録)

豫算成立

拓務省及各外地の豫算案は衆議院に於ては二月十日に豫算委員會を、貴族院に於ては三月六日豫算委員會を通過し、夫れ／＼貴衆兩院本會議を経て可決された

爰では拓務關係豫算を可決した際の豫算分科會の議事を採録する

尙ほ豫算審議に關聯して貴衆兩院に於いて行はれた議事は何れも別項に摘録してあるからその方で参照され度い

衆議院豫算委員第一分科會

昭和八年二月十日(金曜日)午前十時四十五分開議

出席委員左の如し

主査 喜多 孝治君

中村 嘉壽君

芦田 均君

津雲 國利君

小山邦太郎君

中 亥歳男君

出席政府委員左の如し

外務政務次官 瀧 正雄君

司法參與官 岩本 武助君

本日の會議に上りたる議案左の如し

昭和八年度歳入歳出總豫算案並昭和八年度各特別會計歳入歳出豫算案中外務省、司法省及拓務省所管

豫算外國庫の負擔となるべき契約を爲すを要する件中外務省及拓務省所管

喜多主査 それでは開會致します質疑は既に終了致しましたから、直に討論に入りたいと思ひますが、外務省、司法省、拓務省の本分科會に付議せられました昭和八年度豫算案、其他を一括致しまして議題に供したいと存じますが異議はございませんか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

喜多委員 それでは全部一括致しまして議題に供します—討論に入ります

兒玉委員

此案はもう總て認められて居る

のでありますから、格別討論の必要もない位であります、全然此案に吾々は賛意を表します

小山委員 私是我等の同志をば代表して、只今議題となつて居ります豫算案並に豫算外國庫の負擔となるべき契約に關する件に付て、何れも適切なりと認めまして、原案通り賛成を致したいと思ひます、意見に付ては追て總會に於て述べることと思ひます

中野委員 私も兒玉委員、小山委員と同様に此豫算には全部反對ではないのであります唯一つ希望條項を申上げて置きたいのは、豫算を檢し、且つ政府委員の答辯に徴するに、十九師團の在る羅南と、北鮮第一の港である清津間の鐵道改修工事を、昭和八年度に於て計畫して居らないやうに見えます、是は政府に於て折角通信省の豫算に、敦賀清津間の直通航路を命令して、内地北鮮聯絡を敏活にしようとした趣意には副はないやうな憾がありますから、總督府に於ては、他の路線に對する經費の遺繰り、其他出來得る限りの方法を講じて、幾分でも此師團の在る羅南と、北鮮第一の港である清津との間の鐵道工事に著手せらるゝやうに致したい、是は希望條項として申上げて置きます、それからもう一つは、若し總督府の豫算の中に、羅津の築港を豫測致しまして、羅津の下水の費用とか道路の費用とか、警察の費用とか、市街計畫の費用とか、防疫の費用とかを計上してありますならば、是は一方港がまだ出來ない中に先走りをして、警察を建つたり、市街の計畫をしたりしては、萬一港の工事の進捗の具合と伴はない

やうなことになるますと無駄になりますから、若しそれ等の経費が豫算に包含して居るならば此経費の支出上に付ては深甚の考慮を拂つて戴きたい、是は希望條項として申し上げます、豫算は賛成するのであります

喜多主査 中野君一寸伺ひますが只今の希望事項は、中野委員の希望と致しまして速記に留める程度で取扱ひたいと思ひますが差支ありませんか

中野主査 それで宜しうございます別に豫算の附帯決議の中に入れて置かなくても、一切政府當局、朝鮮總督府當局に於てそれを御含みになつて決すれば宜しいのであります主査の仰しやつた通りで宜しうございます

喜多主査 それではさう云ふことに取扱ひます、それでは採決致したいと存じます、政府原案に賛成の方は御起立願ひます
(賛成者起立)

喜多主査 全員一致可決致しました(拍手)
閉會に先たち一寸御挨拶致します、連日に互りましての多大の御勞苦に對しまして謹んで敬意を表し、謝意を表したいと存じます、之を以て閉會と致します(拍手)

午前十時五十一分散會

貴族院豫算委員第六分科會

昭和八年三月三日(金曜日)午後一時十九分
開會

主査(伯爵兒玉秀雄君) 昨日に引續きまして只今より開會を致します、鐵道省並に拓務省

の所管豫算に付きまして、昨日迄を以て大體の質問を終了したのであります、今日は拓務省の所管を問題と致しまして、此際質問の残つて居る御方がございしましたならば、御質問をして戴きたいと思ひます、御質問がなければ討論に移りたいと思ひますが御差支ございませぬか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

主査(伯爵兒玉秀雄君) それでは討論に入りたいと思ひます、此機會に於て何か御意見がございしますならば……御意見がなければ採決に移りたいと思ひます、昭和八年度拓務省所管の豫算を問題と致します、御異議ございませぬでございしますか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

主査(伯爵兒玉秀雄君) 御異議ないと認めます、次には朝鮮總督府の特別會計を問題に致します御異議ありませぬですか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

主査(伯爵兒玉秀雄君) 御異議なければ原案に決定いたします、次は臺灣總督府の特別會計はも御異議ございませぬか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

主査(伯爵兒玉秀雄君) 御異議ないものと認めます、次は關東廳の特別會計、是も御異議ございませぬか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

主査(伯爵兒玉秀雄君) それでは原案通りに決定いたすことに致します、次は樺太廳の特別會計、是も御異議ございませぬか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)
主査(伯爵兒玉秀雄君) 御異議ないと認めます、次は南洋廳の特別會計、是も御異議ございませぬか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

主査(伯爵兒玉秀雄君) 御異議ないと認めます、原案通り決したことに致します次に拓務省所管豫算外國庫の負擔となるべき契約に關する件でございします是も御異議ございませぬか

議會の控室から (一)

兩方いふことは難しいデ

議會の高級室で沖島代議士と樺太論をやつて居ると、其處へフツコリと現れたのが縣大阪知事だ、『イヤア』と話はやつぱり樺太に落ちる、『どうです近來樺太は』
一般社會と同じで不氣景さと云ふ
『大阪知事と樺太長官とを比較して味はつて見ると、樺太長官の方が遙に仕事が複雑で六ヶしい仕事の仕ばえから云ふと樺太の方が餘程好い』

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

主査(伯爵兒玉秀雄君) 御異議ないと認めます、是で拓務省所管の本省各特別會計、並に只今申しました豫算外國庫の負擔となるべき契約に關する件、全部原案通り可決いたしました……それでは速記を止めて、懇談會に移ります 午後一時二十五分懇談會に移る

拓務省豫算 (昭和八年度)

區別	八年度豫算額	七年度豫算額	比較の差
經常部	一、九四、二〇六圓	二、四七、二五三圓	〇圓
臨時部	二、三〇、三二二圓	六、〇五、五五八圓	一、三四、六八五圓
計	四、二四、五二八圓	八、五二、八一一圓	四、二八、二八三圓

右表に掲記する前年度との比較を事項別に示せば左の如し (△印は減)

事項	經常部	臨時部	計
煙草專賣金特別會計繰入減	△一八四、六八八圓	〇圓	△一八四、六八八圓
移植民及海外拓殖事業保護獎勵費	〇圓	五、七四、七九八圓	五、七四、七九八圓
滿洲移植民ニ關スル經費	〇圓	三、二〇、〇五五圓	三、二〇、〇五五圓
特別會計經費補充金ノ増減	〇圓	一、四九、八五九圓	一、四九、八五九圓
爲替相場ノ變動ニ依ル外國在勤加俸等臨時増給ニ關スル經費	〇圓	一九、五五八圓	一九、五五八圓
月別差増	〇圓	三、〇〇〇圓	三、〇〇〇圓
前年度限り經費ノ減	△一〇、六三三圓	△五、一四八、八八一圓	△五、二五八、四四四圓
前年度實行豫算計上増加額	一〇、六三三圓	三、五七、八八三圓	三、五八、五一六圓
前年度實行豫算ニ於テ減少額	△六、四八六圓	△六、四三三、八八三圓	△六、七〇〇、三六九圓
東洋拓殖株式會社補給金	〇圓	一、五〇、〇〇〇圓	一、五〇、〇〇〇圓
雜件	〇圓	九、三三七圓	九、三三七圓
計	△四、二四、五二八圓	一、三四、六八五圓	七、九、五五八圓

朝鮮總督府豫算 (昭和八年度)

區分	昭和八年度豫算額	昭和七年度施行豫算額	昭和七年度實行豫算額	比較増減	印減
歳入	一、八四、四八一圓	一、八四、四八一圓	一、八四、四八一圓	〇圓	〇圓
經常部	一、八四、四八一圓	一、八四、四八一圓	一、八四、四八一圓	〇圓	〇圓
臨時部	〇圓	〇圓	〇圓	〇圓	〇圓
公債金	三、〇〇、〇〇〇圓	三、〇〇、〇〇〇圓	三、〇〇、〇〇〇圓	〇圓	〇圓
補充金	二、八五、七三三圓	二、八五、七三三圓	二、八五、七三三圓	〇圓	〇圓
前年度繰入	五、六、四九五圓	五、六、四九五圓	五、六、四九五圓	〇圓	〇圓
其ノ他	一、〇六、五三六圓	一、〇六、五三六圓	一、〇六、五三六圓	〇圓	〇圓
計	三、三三、九八八圓	三、三三、九八八圓	三、三三、九八八圓	〇圓	〇圓
歳出	三、三三、九八八圓	三、三三、九八八圓	三、三三、九八八圓	〇圓	〇圓
經常部	三、三三、九八八圓	三、三三、九八八圓	三、三三、九八八圓	〇圓	〇圓
臨時部	〇圓	〇圓	〇圓	〇圓	〇圓
計	三、三三、九八八圓	三、三三、九八八圓	三、三三、九八八圓	〇圓	〇圓

臺灣總督府豫算 (昭和八年度)

區分	昭和八年度豫算額	昭和七年度施行豫算額	昭和七年度實行豫算額	比較増減	印減
歳入	九、四〇、〇〇〇圓	九、四〇、〇〇〇圓	九、四〇、〇〇〇圓	〇圓	〇圓
經常部	九、四〇、〇〇〇圓	九、四〇、〇〇〇圓	九、四〇、〇〇〇圓	〇圓	〇圓
臨時部	〇圓	〇圓	〇圓	〇圓	〇圓
公債金	五、〇〇、〇〇〇圓	五、〇〇、〇〇〇圓	五、〇〇、〇〇〇圓	〇圓	〇圓
補充金	二、〇〇、〇〇〇圓	二、〇〇、〇〇〇圓	二、〇〇、〇〇〇圓	〇圓	〇圓
前年度繰入	二、〇〇、〇〇〇圓	二、〇〇、〇〇〇圓	二、〇〇、〇〇〇圓	〇圓	〇圓
其ノ他	〇圓	〇圓	〇圓	〇圓	〇圓
計	九、四〇、〇〇〇圓	九、四〇、〇〇〇圓	九、四〇、〇〇〇圓	〇圓	〇圓
歳出	九、四〇、〇〇〇圓	九、四〇、〇〇〇圓	九、四〇、〇〇〇圓	〇圓	〇圓
經常部	九、四〇、〇〇〇圓	九、四〇、〇〇〇圓	九、四〇、〇〇〇圓	〇圓	〇圓
臨時部	〇圓	〇圓	〇圓	〇圓	〇圓
計	九、四〇、〇〇〇圓	九、四〇、〇〇〇圓	九、四〇、〇〇〇圓	〇圓	〇圓

關東廳豫算 (昭和八年度)

區分	昭和八年度 豫算額	昭和七年 度施行豫算額	昭和七年 度實行豫算額	比較増 ●印減
歳入	一六、三三、五五四圓	一四、八六、五五五圓	一三、六五、四三三圓	一、五五、一三九圓
經常部	一六、三三、五五四圓	一四、八六、五五五圓	一三、六五、四三三圓	一、五五、一三九圓
臨時部	九、七三、三九〇圓	一、七六、二八三圓	一、〇七、九六六圓	二、〇三、八九三圓
公債金	三、三六、六四三圓	四、二七、六五三圓	四、一七、六五三圓	九七、〇〇〇圓
補充金	五、〇〇、〇〇〇圓	四、〇〇、〇〇〇圓	四、〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇、〇〇〇圓
前年度 繰入金	一、二六、五七六圓	三、一七、一七七圓	一、七三、三三七圓	二、〇〇、六〇二圓
其ノ他	五、〇、一七二圓	四、五、四三三圓	五、七、〇六六圓	五、二八三圓
計	三六、〇三、九四四圓	三六、五三、六七八圓	三三、七三、四九九圓	五、七、七六四圓
歳出	一七、六〇、〇八九圓	一八、〇三、六〇四圓	一六、三三、七四四圓	四〇、一五五圓
經常部	一七、六〇、〇八九圓	一八、〇三、六〇四圓	一六、三三、七四四圓	四〇、一五五圓
臨時部	八、三九、八三五圓	九、〇四、三三六圓	七、三九、六七三圓	六四、五六一圓
計	二六、〇三、九四四圓	二七、〇七、九四〇圓	二三、七三、四九九圓	一、〇四、八〇六圓
歳入	一六、三三、五五四圓	一四、八六、五五五圓	一三、六五、四三三圓	一、五五、一三九圓
經常部	一六、三三、五五四圓	一四、八六、五五五圓	一三、六五、四三三圓	一、五五、一三九圓
臨時部	九、七三、三九〇圓	一、七六、二八三圓	一、〇七、九六六圓	二、〇三、八九三圓
公債金	三、三六、六四三圓	四、二七、六五三圓	四、一七、六五三圓	九七、〇〇〇圓
補充金	五、〇〇、〇〇〇圓	四、〇〇、〇〇〇圓	四、〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇、〇〇〇圓
前年度 繰入金	一、二六、五七六圓	三、一七、一七七圓	一、七三、三三七圓	二、〇〇、六〇二圓
其ノ他	五、〇、一七二圓	四、五、四三三圓	五、七、〇六六圓	五、二八三圓
計	三六、〇三、九四四圓	三六、五三、六七八圓	三三、七三、四九九圓	五、七、七六四圓
歳出	一七、六〇、〇八九圓	一八、〇三、六〇四圓	一六、三三、七四四圓	四〇、一五五圓
經常部	一七、六〇、〇八九圓	一八、〇三、六〇四圓	一六、三三、七四四圓	四〇、一五五圓
臨時部	八、三九、八三五圓	九、〇四、三三六圓	七、三九、六七三圓	六四、五六一圓
計	二六、〇三、九四四圓	二七、〇七、九四〇圓	二三、七三、四九九圓	一、〇四、八〇六圓

南洋廳豫算 (昭和八年年度)

區分	昭和八年 度豫算額	昭和七年 度施行豫算額	昭和七年 度實行豫算額	比較増 ●印減
歳入	五、〇八、五五四圓	四、一五、七三三圓	四、五九、三五一圓	九五、八〇〇圓
經常部	五、〇八、五五四圓	四、一五、七三三圓	四、五九、三五一圓	九五、八〇〇圓
臨時部	五、〇八、五五四圓	四、一五、七三三圓	四、五九、三五一圓	九五、八〇〇圓
公債金	四、八九、五七一圓	七、〇五、一三三圓	四、九、八〇三圓	二五、五三三圓
補充金	五、〇八、五五四圓	三、一五、三三九圓	一五、三三六圓	三五九、七五三圓
前年度 繰入金	五、〇八、五五四圓	五、一五、三三九圓	五、〇四、四一九圓	四七五、五三三圓
其ノ他	五、〇八、五五四圓	五、一五、三三九圓	五、〇四、四一九圓	四七五、五三三圓
計	五、〇八、五五四圓	五、一五、三三九圓	五、〇四、四一九圓	四七五、五三三圓
歳出	二、八五、九四四圓	二、七〇、四九六圓	三、六五、三三六圓	一四、九八八圓
經常部	二、八五、九四四圓	二、七〇、四九六圓	三、六五、三三六圓	一四、九八八圓
臨時部	二、八五、九四四圓	二、七〇、四九六圓	三、六五、三三六圓	一四、九八八圓
計	五、〇八、五五四圓	五、一五、三三九圓	五、〇四、四一九圓	四七五、五三三圓

樺太廳豫算 (昭和八年年度)

區分	昭和八年 度豫算額	昭和七年 度施行豫算額	昭和七年 度實行豫算額	比較増 ●印減
歳入	七、五四、三三七圓	三、六〇、一二七圓	一八、八二、四三三圓	五、〇八、九三三圓
經常部	七、五四、三三七圓	三、六〇、一二七圓	一八、八二、四三三圓	五、〇八、九三三圓
臨時部	六、〇九、四四二圓	三、九〇、四三七圓	四、三三、二二三圓	二、一九、〇三三圓
公債金	三、五〇、〇〇〇圓	一、九六、六三八圓	一、六五、七七八圓	一、五三、七三三圓
補充金	一、六〇、〇〇〇圓	一、六〇、〇〇〇圓	一、六〇、〇〇〇圓	〇圓
前年度 繰入金	七、七、六四六圓	七、九、二八二圓	八、三、三九一圓	七、八、五五五圓
其ノ他	一、三、八三五圓	三、四、五三八圓	一、四、一八四圓	一、八、七三三圓
計	三三、五、六六八圓	三、五、〇、五八四圓	三、〇、九、三、六三八圓	三、九、三、八六八圓
歳出	一六、五七、四九五圓	一八、五三、八四九圓	一六、三三、五五四圓	二、〇八、六五四圓
經常部	一六、五七、四九五圓	一八、五三、八四九圓	一六、三三、五五四圓	二、〇八、六五四圓
臨時部	六、九三、四七三圓	八、八六、四七六圓	六、七七、三三八圓	一、九四、〇三三圓
計	三三、五、六六八圓	三、五、〇、五八四圓	三、〇、九、三、六三八圓	三、九、三、八六八圓

三、國策としての液體燃料問題

液體燃料の問題は、資源の乏しい我國に於いて常に重要な問題であるが、第六十四議會に於いては、滿洲事變を契機として起つた國際聯盟脫退その他國際關係の重大性に鑑みて比較的多くの討議が費された、所管事項から云へば、商工省關係であるが、國策として之を見る時は、その資源の多くが拓務外地と直接至大の關係を有する。その意味で特に採録した

北樺太の石油と

尼港事件の遺族

(一月三十日衆議院豫算委員會に於て)

山崎委員長

引續き質疑を繼續致します、

砂田重政君

砂田委員

私は昨日産業政策に付きまして各省の大臣に質問を致したのであります、當初に申し上げました如く此問題を綜合して總理大臣の御意見を承りたいと思ふのであります、昨日質問應答の際に私が一つだけ言残したことがある、それは矢張商工關係であります、總理大臣の御演説の中に關係がありますから、總理大臣に御聽きを願ひ、且つ陸海軍大臣及外務當局、大藏各當局の反省を促したい一事があるのでありますそれは、此商工豫算の中にあり、

總理大臣の御説明になつた所謂輸入防遏の意味を以て、掛聲だけは随分大きな新規事業と云ふ計畫として現はれました中に北樺太の石油會社の助成と云ふ問題があります、是は申すまでもなく日本の石油鑛業、所謂油に對する國策の一端の現れだらうと私は信じます、此問題に付きましては非常な古い経路を取つて居る、御承知の如く尼港のあの虐殺事件が起りまして以來西伯利の出兵となり、爾來今日まで此問題が繼續をして居るのであります、本來あの北樺太の石油と云ふものは、當時『ニコライエフスク』に居りました日本人が海軍省の意を承けまして、自分の金を出して露西亞に歸化して居る朝鮮人の名前を以て此權利を買つた、其當時海軍次官からは、其者に對して非常な感謝の意を表せられた、是は海軍の意見を以てするに非ざれば絶対に外にやつて呉れては困ると云ふやうなことで、電報の往復文書まであるのであります、所が其後に至りまして、是等の人々の

多數の虐殺が行はれ、其當時は今の外務大臣、大藏大臣、陸海軍大臣を初め、當局としては等の人々に對して有ゆる方面から鄭重な弔辭を呈せられ、或は之に對して適當な處置を執ると云ふことを、其墓前に誓はれたと云ふやうな事實もある、所が西伯利に出兵を致しまして、一度あの地方を占領してしまひますと、其關係者は全く無視されて、北樺太の石油と云ふものは當時の北辰會と稱する連中に全部引繼がれてしまつて、海軍から非常な感謝を受けた者は、其儘虐殺された遺族と共に逃げ歸つて、其儘になつてしまつた、其後それが爲に此問題は幾度か議會の問題になりました、虐殺された遺族に對しては救恤を二回まで行はれた、所が愈々北樺太の石油の利權を、日本が露西亞との交渉に依つて取つたと云ふことが明になつたのでありますから其當時は等の遺族に對して適當な處置を爲すべしと云ふ建議案が此議會に現れた、現れますと、其時の外務次官であつた今の拓相の永井君は、此北樺太の利權と云ふものは、虐殺された遺族に對する賠償の意味は全然含んで居らぬものであるから、是は全く別個のものとして政府が交渉をして取つたものであるから、全然關係はありませぬと云ふ答辯をされて居るそこで然らば此賠償はどうするのかと云ふと、其當時はから賠償の請求をするのであると云ふことを答辯されて居る、所が爾來今日に至る迄露西亞に向つて、あの非常な慘禍を受けた人々に對する賠償の要求は一回もない、そこで困つて居る遺族の人々は、露西亞大使館に談判し、

外務省に談判して、段々調べて見ますと「カラヘン」芳澤兩氏の間の交渉であつて、其北樺太石油利権を取る、當時の兩者の交渉の中には、之を超越せば遺族に對する賠償の要求をしないと云ふことがハッキリ書いてある、其北樺太石油利権の一部分は、明瞭に賠償の一端として政府が之を取つたことが明になつて居る、是は此間中松岡君が出發する前にそれを調べて、驚いて之を外務省に忠告を發した、さう云ふ關係になつて居るのでありますから、之に對しては適當の處置を御執りになりませぬと、若しあの遺族の人々が正式に露西亞大使館に談判し、露西亞の大使館が日本の外務省に抗議を申込んで來ると、是は容易ならぬことが出來すると私共は考へるのであります、無論外務省に於て放任される譯ではありますまい、大藏省に於て救恤を前にしたいと云ふので、其儘に打捨てられて居ると云ふやうに伺つて居る、所が何んぞ知らん今度は救恤ではない、其當時外務省として取つて置きながら、或る財閥に此利権全部を與へてあの虐殺された遺族に對しては、何等顧みないで其儘になつて居る、是は其後建議案の出來した當時に、海軍の方では小林君が御關係せられたと思つて居ります、非常に氣の毒がられて、遂に海軍省ではあの可哀相な犠牲者の墓を建てる爲に三千圓の金を出されたと云ふことである是は記録に遺つて居ると思ひます、左様な實情にあるのでありますから、此資本家にやつた利権に對して、幾十萬圓の補助を與へてまで國策を確立しなければならぬと云ふことになるなら

ば、之に對して非常な犠牲を拂ひ、何百人と云ふ自分の同志を虐殺された其遺族が、其儘に打捨てられて居ると云ふことは、是は容易ならぬことが出來すると云ふことを考へるのでありますから、當時御關係して居られた總理大臣を始

調査機關を設けよ

田島勝太郎君の質問

(二月一日衆議院豫算委員會に於て)

田島委員 重要工業に付ての大體の現状を伺ふことを得まして、満足致します、次に燃料政策に付きまして、實は他の大臣の御出席を御待して居るのでありますけれども、御出席がありませんから、其前に先づ商工大臣に御關係の部分だけを伺ふことに致します、燃料問題に付きまして商工審議會と云ふものが商工省に設けられ、其審議會に於て學識經驗ある者、或は當該關係の官廳の諸君等が集まられて研究された結果が、商工審議會の答申として答申になつて居るのであります、尤も其以前に燃料問題研究のことは是は歐羅巴大戰中に非常な重大なる問題となりまして、戰爭の遂行には石油燃料と云ふものが非常に必要であると云ふことが、實證されるやうになりましたから、國內に於て種々の燃料問題に關する論議を生じたのでありま

め陸海大臣に於ても、此點を特に御考慮になつて此議會に適當に御處置になることが必要であると考へるのであります、是は今日只今御答辯を要求するものではありませんぬ

す、それで議會に於きましても、大正九年以來屢々問題となりまして、其爲に政府は大正十五年に商工大臣管理の下に、燃料調査委員會を掲げたのであります、其委員會は後で商工審議會に包含されたやうなことになります、最後に商工審議會に於て各種重要な商工上の政策に付ての答申を致したのであります、其中で産業合理化の問題、貿易増進の關係の問題、さう云ふ問題は爾後の内閣に於て著々解決を見まして、實行の緒に就いたのは御承知の通りであります、其中で獨り燃料研究に關係した問題のみが甚だ手遅れになつて居るやうに思ふのであります、大體日本の國內に於ける石油の資源と云ふものは、非常に貧弱であります、商工審議會の燃料に關する答申の中に於ても、第一番に國內石油資源の開発と云ふことを頻に主張して居るのであります、尙ほ國內石油資源が貧弱であ

ります關係上、海外石油資源の確保を必要とする云ふことも答申を致して居るのであります。其次には内地に於ける製油工業の確立と云ふことが必要である、次には石油の代用燃料工業の助成及研究の奨励、斯う云ふことが商工審議會の答申として政府に提出致されて居るのであります、此各種の事項に付て、政府は今日まで實行上如何なる努力を拂はれたのでありますかと云ふことを吟味致して見ますと、國內の石油資源の開発に關しましては、商工審議會の答申以前から内地の石油の試掘奨励に關する經費が支出されて居るのであります、併し右の經費が節減せられたと云ふ消極的の變化はありますけれども、其以外には何等の變化がないやうに思ひます、又海外石油資源の確保と云ふ點に付きましては、答申以前に北樺太の石油問題が解決されて居りまして、北樺太に於ける所の日本の石油利権は或る程度まで確定を見たのであります。其他には答申以後何等海外の石油資源の確保に付ての施設はないやうに思ふのであります。

次に製油工業の確立と云ふことに付きましては、幸に關稅の改正をやられた、或は内地に於ける自動車運輸業の發達に伴ひまして『ガソリン』の需要が非常に増加致したと云ふやうな關係がありまして、漸次に工場の新設を見て居るのであります、是は洵に多少とも喜ぶべきことと思ひますが、實際の状況を見ますと、尙ほ目的とする所よりも遙に遠いやうに思ふのであります、假に此際戦争でも始まると云ふやうなことがあると致しましたならば、内地の製

油工業の力は極めて貧弱であつて、其目的から見ますと極めて憂慮すべき状態にあるのではないかと思ひます。

次に石油代用の燃料工業、之に付きましては私の考へる所に依ると、何等實績の見るべきものがないやうでありまして、却て燃料に關係して居ります所の各種の研究を致して居ります燃料研究所と云ふのが商工省にあるのであります。其燃料研究所は縮小されたと云ふ反對の結果以外には何も實績を見ないと思ふのであります、以上申し上げましたやうな所から考へて見ますと、政府は議會の論議に對しまして、審議研究をされた、其商工審議會の答申に付きまして、實行上努力された所の事績が少くありまして、此重要な國策の遂行が出来て居ないかと思はれるのであります。此點に付て主管であります所の商工大臣の御意見を承りたいと思ふのであります、尙ほ總理大臣及陸軍大臣はどう云ふ風になりましたか。

山崎委員長 今貴族院の本會議であります。どうしても十二時迄は兩大臣の出席は困難だと思ひます。

中島國務大臣 御答致します、田島君の御述になりましたる、燃料問題に關しますることに付ては、私と雖も洵に多大の遺憾を有つて居る譯であります、往年商工省に燃料問題研究の委員會があり、引續いて商工審議會が開かれまして、其兩會の決議に係ります幾多の事項中國内石油資源の開発に關しましては、現在多

少の助成を致しまして居ります外に見るべきものがなく、海外石油資源の獲得に付ては、北樺太石油會社に助成を致しまして、此會社の産額が年々多少の増進は致して居ります、今年度も若干ながら是が、助成の御要求を申上げて居るやうな譯であります。此北樺太石油會社の關係に於ては、單に地下の油田を開發致しまする外に、色々露西亞政府との關係等がありまして甚だ其作業が思ふに委せないものであります。私共に於ても其關係に於て非常に憂慮を致しまして、現に新任の太田駐露大使に對して、色々其折衝方に付て御願を申上げて居ると云ふやうな譯であります、尙ほ石油代用燃料の研究に付きましては、例へば石炭の低溫乾溜とか、液化に關する研究、酒精並に『ベンゾール』に關する研究等に付ては、色々其施設に對する補助を年々豫算に計上致して居りますけれども、財政其他の都合に依つて、是まで十分に目的を達することが出来ませぬ、唯滿洲に於ける『オイルシェール』の開発に付きましては、是は海軍省の盡力に依りまして、年々見るべき進歩を示して居ります、其他石油關係の物品に對しましては關稅引上の手段に依りまして、新に保護の關係が濃厚になりましたが爲に、間接に石油工業の發達を助けて居ります點もあらうと思ひます。兎角財政上の都合に依りまして吾々共の考に委せない點が多々あるのであります。是、只今田島君に依つて御指摘戴いた通りであります、どうか又外間からも色々御聲援を戴きまして是非當時審議會の答申を致しましたる各

般の事項が著々實行されますやうに御願を申し上げますと思ふ次第であります

田島委員 北樺太石油に關して商工大臣から御答辯の中に御述になりましたこともありますが、北樺太石油の問題は是は實は外務大臣、總理大臣御出席の上で御尋を致したいと思ふのでありますから、御答辯だけ伺ひまして、更に其問題に觸れるとは後に譲ります、商工大臣の石油政策に關する御答辯は諒と致しますが、成程財政の都合上種々の制限がありまして、商工大臣の意の如く参りませす、又商工審議會の答申の實現にも程遠いやうな現状になつて居るのでありますことは承知致して居るのであります併し、此石油問題は、私が此處で下らない講釋を申し上げませぬでも、商工大臣初め世間が能く承知して居られることであるのであります、日本の石油の需給關係から申しますと、金高にすれば僅に輸入としても一億圓足らずのものであつて、輸入品としては相當重大なるものであります、是は生絲の貿易の問題とか云ふものは、金高に於て極めて僅少なもののやうでありますけれども、大體是は皆様御存じの通りに、總ての現在の戰鬭機關の基礎になるものであります、是れ無くんば戰爭も出來ないし、又戰爭に關係して居る所の重要な工業の運轉も出來ないのであります、それで斯の如き重要なものに對して、自分の非常時局の關係に於て、何等の考慮を拂はれないと云ふことは、頗る政策の上に於て、商工省と云ふ一部局のみでなく、内閣の問題として、齋藤内閣の使命の上から考

へて、私は頗る不思議に感ずる者であります、併ながら右のやうな問題は總理大臣の出席を待たなければ、御答を得る譯に行きませぬから、之を後に譲りますが、尙ほ一點商工大臣に伺つて見たいと思ひますのは、商工審議會の答申の一番最後に於きまして、燃料問題審議機關の常設が必要であると云ふことを答申致して居ります、簡單でありますから之を朗讀して見ますと『燃料國策樹立のことたるや、其施設に俟つ所のもの頗る廣汎にして、能く一片の答申案の端し得る限にあらす、常に進歩止まざる科學の發達に注意するは勿論、汎く眼を世界に於ける斯業の推移に馳せ、時に臨んで適切な方途を講ぜざるべからざる立場に在り、茲を以て政府は宜しく燃料問題審議機關を常設し、其の諮詢に應ぜしむると同時に審議機關に於ても、亦其の適當なりと認むる事項に對しては、隨時建議を爲すの權能を有するの途を拓くことは、此の重要な燃料問題解決實行上最も策の得たるものなりと認む』斯う云ふ答申でありまして燃料問題審議機關の常設を希望して居る譯であります、是は經費の點から申しますと極めて少額の經費を以て實行の出來る問題であると思ふのであります、商工大臣は此點に付きましてどう云ふ御處置を今日まで執られたのであります、御答を得れば幸であります

中島國務大臣 只今御述になりました燃料問題に關する常設機關の設置と云ふことも當時答申の一項に相成つて居ることは、只今御述になつた通りであります、私の任官以來は實は此

燃料問題に關しましては、御案内の通り燃料研究所を中心と致しまして、色々燃料に關する各種の機關と連絡を取つて居ります關係がござい、又それ等の總會又往々にして理事會などには私も出席を致しましたこともあり、又當局の者に於てそれ／＼十分の連絡を取つて居りますと云ふ關係から、私の任官以來はそれ等の方法に依つて稍々燃料問題常設機關の設置の機能と同様な働きを致して居りますと云ふやうな關係から、只今此際に臨んで急に之を設置致しますだけの必要を認めて居りませぬのでございます

田島委員 現在の狀況に付ての御答辯は能く分りましたが、斯の如き常設機關を設けられると云ふことは、石油問題、我國に於ける所の燃料政策の解決上極めて必要なことと考へられるのであります、商工審議會の答申も亦申上げました通りであり、且尙ほ商工大臣は當時に於ける此燃料問題審議の委員會の委員長で以前あられたと云ふ關係もありますのに依りまして、此決定の重要性は能く御存じと思ふのでありますから、成べく近き機會に此實現を御希望申上げて置きたいと思ひます

尙ほ併し此審議機關の常設と云ふものに附帶しまして、更に一言申上げて置きたいと思ひますことは、現在我國の官省の中に此石油問題に關係した事務を處理する所の擔當課と申しますか、或は擔當部局と申しますか、さう云ふものが缺けて居ると云ふことであります、現在鑛山局に於て石油問題に關係した事項を所管致して

居ることは申すまでもないことでありますが、併ながら此重大なる世界問題であり、又帝國の重大なる問題である所の石油及其關係の問題に付て、現在の鑛山局の普通の事務の力を以てしては、到底十分に急に應ずることは出来ないとい私は考へます、極めて末の話のやうでありますけれども、例へば石油に關する帝國の統計を一覽しましても、或は『バーレル』を以て現して居るのがあり『ガロン』を以て現して居るのがあり或は箱を以て現して居るのがあり或は噸を以て現して居るのがあります、一つの統計を閱覽するに致しましても、斯様な種々雑多な標準を以て統計が作成されて居る、是は詰る所斯う云ふ問題に關する中心の機關がないと云ふこと其所以であると私は思ひます、隨ひまして石油に關係した完全な數字上の知識を求めると云ふことは、非常な難儀なことである、さう云ふやうな現狀であります、それから又此各國の情報と云ふものが、是が却々現在に於ては集め得ないのであります、此席にお出ではありませぬが、海軍或は陸軍兩省に於きましては、種々情報の蒐集はなさつて居られることと思ひますが、要するに政府に於ける中心點がないのでありますからして、此情報の蒐集と云ふことが極めて不完全であります、不幸にしまして——不幸か、幸か知れませぬが、此石油の産出を致して居ります國は、米國と露西亞を除くの外は極めて弱小國であります、弱小國と云ふ言葉は悪いかも知れませぬが、詰り帝國と關係の密接ならざる國例へば『チエツコスロバキヤ』とか、或は『ポー

ランド』でありますとか、或は『ベルシャ』であるとか、或は『イラク』であるとか云ふやうな、非常に帝國と關係の薄い國に多量の産出を見て居るのであります、隨ひまして此情報蒐集と云ふことが餘程困難な事業である、それから又各國の石油會社其他が、非常に總ての事を秘密に致しまして、却々中間の窺知ることを許さないと云ふやうな關係もあります、それで此情報蒐集と云ふことを完全に行ふと云ふことは、餘程の重要な仕事で、又負擔の重い仕事であります、斯様な事、それから又石油に關する種々の立法と云ふものが、私は非常に必要であると思ふのであります、此點に付きましては、後刻陸海軍大臣の御出席を得て申す積りでありますけれども、さう云ふ立法上の調査研究と云ふことに付きまして、現在の小さな鑛山局を以てしては到底其責を果すことは出来ないとい私は考へます、斯様な點から私の希望と致しましては、此石油問題に關する中心の機關を政府に設けられんことを希望する次第であります、現在此軍備充實に關係して非常に重要な注意を國民が拂つて居る際に、殊に是は政府として御實行にならなくちゃならぬ重要な事柄であると信じますから、此機會を以て意見として御聴取を願つて置く次第であります

尙ほ時間も大分迫りましたけれども、各大臣御出席がございませぬから、拓務省の關係に付きまして、幸ひ拓務政務次官がお出でのやうでありますから、拓務政務次官の御答辯に依つて差支ないやうな事柄を一つ御伺致したいと思ひます(笑聲)國內資源の調査と云ふことに付て、どうも政府の處置が極めて緩慢なやうに思ふのであります、南樺太地方に於て石油に關係した徴候を各所に認め得ると云ふことを伺つて居ります、露領北樺太の石油地帯に隣接しました方面に大分さう云ふやうな徴候を認めて居ると云ふことであります、拓務省に於ては此方面に付て相當の調査上の御計畫がございましてあります、之を伺ふことを得れば仕合せと考へます

堤政府委員 石油は、國防上又産業上の非常に必要でありますことは、田島君の御説の通りであります、樺太に於きましても、南樺太で今御話の如く出さうだと云ふ徴候を認めましたので、昨年二三箇所『ボーリング』をやつて見ましたが、まだ確に出ると云ふ徴候を認めることは出来なかつたのであります、尙ほ御趣旨に依りまして十分研究致したいと思ひます

山崎委員長 田島勝太郎君

田島委員 午前に續きまして燃料問題に付て御尋を致したいと思ふのであります、大體午前中に申述べて居りますので、時間もございませぬし、極めて簡単に申し上げたいと思ひます、主として陸軍大臣、海軍大臣に御尋を致すのであります、石油及石油に代るべき燃料が軍備上極めて必要である、而もそれが日本に於ける生産が極めて少くて、内地の生産量のみを以てしましては、海軍の一年の需要にも不足するのではないかと思ふのであります、海軍陸軍共、軍艦以外に多數の飛行機を持つて居られますが

飛行機の活動は一に液體燃料に依るのでありまして、是等の點から考へましても、液體燃料の確保と云ふことが、軍備上極めて必要である、斯う考へるのであります、それで其點に付きまして陸軍及び海軍に於きまして、如何なる御用意があるかどうか云ふ處置を執つて居られますか詰り資源の確保、或は消費量の手當、さう云ふことに付て軍事上支差へない範圍内に於て伺ふことが出来れば非常に幸せと思ふのであります次に陸軍大臣だけに特に伺ひたいと思ひますのは、海軍にも同時に關聯は致して居りますけれども、最近では私のほんの見聞でありまして事實であるかどうか極めて居りませぬけれども上海事件の戰鬭に於て飛行機に供給された所の揮發油、其揮發油の中に混ぜます所の『ベンゾール』の供給が不十分であつた爲に、飛行機の活動を非常に妨げたと思ふことを伺つて居ります、餘り詳しく立入つて論ずることを好みませぬが、兎に角飛行機の原料として『ガソリン』のみならず『ガソリン』に『ベンゾール』を二割以上五割まで位加へることが必要であるのであります、所が此『ベンゾール』と云ふのは申す迄もありませぬが、石炭關係の副産物でありまして、石油とは關係の薄いものである、石油資源とは別箇の問題であるのであります『ベンゾール』に付ては、現にさう云ふ次第でありますから、私の伺つて居ります所では、佛蘭西の如きは瓦斯會社に對しまして『ベンゾール』の採收を法律を以て強調して居ると云ふやうな話を伺つて居ります、日本ではさう云ふやうな立法は無論ござ

いませぬし、『ベンゾール』の供給量と云ふものは極めて限定されたものでありまして、八幡製鐵所及び滿鐵の鞍山製鐵所等に於て産する以外に於ては生産しないのであります、尤も米國の發明で『ベンゾール』に代る、揮發油に配合する物があるのでありますけれども、是は米國の發明で事實になつて居りまして、非常な高價を拂はなくてはならぬかと思ひます、旁々燃料と云ふ立場から『ベンゾール』を確保すると云ふことは非常に必要なことであると思ふのであります、其點に付て陸海軍大臣の御答辯を得れば幸であります、此二點を御伺ひ致します

荒木國務大臣 軍需關係の輕油其他に付きましては、軍部方面に於ける、一つの惱みであります、戰時必要な量に付ても、調査は致して居りますけれども、是は御承知のやうな關係がありますから、内地の生産量を以てしては、到底それを充し得ないことは固よりであります、之に付ては陸海軍商工省等と協力し、且つ資源局に於ても是等の資源を調査をして、今後の生産増加に努め、又燃料の研究調査に付ては是等の機關もありますので、それ等の方針に基き、各種代用燃料の調査研究、其他資源の調査、更に生産の増殖等に付ても考慮致して居りますが、まだ充分の効果を見て居りませぬので陸軍としては、已むを得ず有事の際に於ける貯藏法を考へなければなりません、それで昭和四年に是等に關する所の若干の豫算を計上致しましたが、成立に至らずして止みました、そこで

昨年及今年度は約九十萬圓程の豫算を出しまして、之に對して兎に角貯藏をやつて行きたいと思ひます、尙ほ是等の代用燃料に付ても十分研究を致し、一朝有事の際に支障なからしめたいと存じます、又滿洲方面の資源の調査に付ても今日まだ明確になつて居りませぬが、是等に付ても將來十分調査研究致したいと存じます、又『ベンゾール』のことに付ても、只今御示しなつた通り十分でありませぬが、平時の所要に付ては、滿洲方面のことを考慮致しますれば、若干の數字上の差異はありますけれども、先づ需用が足りるのではないかと思ひます、併し、戰時の場合に於ては非常に不足を感じて居りますので、是等も矢張代用燃料の調査研究と相俟つて生産の増加を圖り、又滿洲方面の資源の開發と相俟つて、今後善處したいと考へて居ります只今の所は遺憾ながら此程度に於て今後の方針に向つて調査研究を致して居るのであります

田島委員 只今伺ひますと代用燃料其他に對して九十萬圓程の經費を見込んで居ると云ふやうな御説明を得まして、洵に満足するものであります、幸ひ海軍大臣が御出席のやうでありますから、海軍大臣の御答辯を得たいと思ひます、更に簡單に繰返します、海軍が最も必要とされて居ります所の液體燃料に付ては、海軍はどう云ふ手當をして居られるのでありまするか、又飛行機に使用する所の『ベンゾール』に付て、どう云ふ御手當になつて居るのでありまするか軍事上の機密に差支へない範圍に於て御答を得れば幸でございます

大角國務大臣

只今の御質問に御答致します、海軍として、燃料に最も重きを置きます

ことは、申す迄もありません、若し、軍艦に燃料が無かつたならば、大砲の彈藥の無いと同じであります、是は最も吾々の方で終始注意して居る點であります、そこで今御尋になりますのは、海軍は燃料政策に付てどう云ふことを考へて居るか云ふ御尋と存じます、海軍と致しましては、先づ差當りやつて居りますことは少ないながらも現在の燃料を若干蓄積する、是は一體毎年の豫算で全部消耗してしまへば、教育訓練其他には無論宜いのでありますが、併し他日のことを考へて、其中に工面の上にも工面を加へ、極く少量ではありまするが、若干づゝ残して居ります、併し是は残すことが本意ではなくして、残さなければ困るから残すのであります、第二の點は、海外領域に於て成べく日本人經營の利權を獲得することに關して便宜を與へる、其一例と致しましては御承知の通り北樺太石油會社の如きは其最も著しきものであります其成立に付きましては、海軍としては多年非常な援助を致しまして、遂に今日在るを得るに至りましたのであります、素より御承知の通りであります、最初は僅か二、三萬噸の油が出たばかりであります、昨年の如き、北樺太は二十一萬噸の油を出して居ります、其内の大部分は海軍が購入して居ります、今日の如く爲替相場が下落致しました場合に、此北樺太の石油を原價で買取ると云ふことは、海軍として非常

に僥倖として居る次第であります、是も設備が段々整ひますれば、昭和七年度の二十一萬噸に加ふるに若干量増加し得ることと思ひます、それが第二點、第三點と致しましては、國內に於きまして海軍が自ら調査し、豫備油田を持つと云ふことであります、其中の一、二を申し上げますれば南樺太に於きまして海軍は鑛區を有つて居ります、是は豫算の關係上直ちに試掘は出来ませぬが、若干の鑛區料を樺太廳に納めて居りまして、さうして其時機が來ましたならば、更にもつと有望な地點を調査致しまして、其處を試掘致したいと思つて居ります、併し、昭和八年度にはまだ其運に至りませぬ、或は昭和九年度になつてもまだ出來ないかも知れませぬが、要するに北樺太に出る以上は、南樺太にも出るのではないかと云ふ一縷の望を有つて居るのであります、まだ的確なる調査は済んで居りませぬ、更に臺灣でありますが、臺灣では日石が或る箇所では、相當の成果を擧げて居りますそこで、總督府と能く話を致しまして、彼處でも海軍の鑛區を有つて居ります、昭和八年度には幸に三十五萬圓の豫算を計上することが出來ましたので、それを以て今一寸場所は覺えて居りませぬが、臺灣の南部、高雄の近所に相當有望な、是れこそ大學教授に臺灣總督府の調査に依つて、出るであらうと斯う云ふことの大體の見込が付きましてから、昭和八年度に於ては三十五萬圓の試掘費を投じて、彼處まで試掘をすることになつて居ります、それから其次にはさう云ふ風の天然の資源と云ふことばかりに頼

るにあらずして、何か科學の進歩に依つて燃料を得る方法はないか、そこで第一に考へましたのは既に御承知の通り、撫順に於ける「オイルセル」であります、「セル・オイル」即ち頁岩から油を採るのであります、石炭の上層に少々粘土に類したやうな泥土があります、此中に五%とか六%とか云ふやうな油を含んで居るのを、それを乾溜致しまして油を採るのであります、是は一舉三得で、是から採つた油は海軍に利用する、其採つた後の砂は撫順で石炭を採つた穴に埋める、今まで其穴を埋める砂は他から態々運搬して持つて來て居つたのであります、併し「オイル・セル」を採つた後の砂を以て埋めれば、其砂を持つて來る費用は省ける、海軍としては油を得られる、今まで「セル」なるものは山の如く積んで、自然發火をしたり、始末に負へない、全く利用價值のなかつたものが、今日相當のものどころか、立派なものが出來るやうになりました、それは昭和五年度から約五萬噸、それは全部撫順で出來た油は多少は高くとも、さう云ふやうな鑛油の奨勵と云ふ意味で五萬噸全部海軍で引受けて居ります、即ち昭和五年度からもう既に約三年以上、五、六、七の三年以上探つて居りますが、十分軍用に適するものであります、更にさう云ふ科學的の燃料として目下研究して居りますのは、石炭の低溫乾溜であります、所謂石炭を極く低溫に蒸しますると云ふと、或る色々の設備に依りまして、それが液體燃料の一部となり得るのであります、併し是はまだ研究途上にありまして果して、工

業化をし、それに依つて、相當の利益があるか否かと云ふことは、是は甚だ疑問であります、即ち今假に油一噸が三十圓と致しますならば、今でははつきり覺えて居りませぬが、五十圓致しますか、六十圓致しますか兎に角或る程度まで研究室では出來ると云ふ見當が付いて居ります、最後に今一番私共の重點を置いて居りますのは、低溫乾溜にあらずして、石炭の液化であります、是は石炭其ものに水素瓦斯を加へて油とするのであります、滿鐵の委託に依りまして、滿鐵より資金を得、過去二年間に非常な苦心を致しまして、徳山燃料廠で研究して居るのであります、是が昨年の秋でございましたか、研究は殆ど済みました、研究室の研究より今は中規模の試験に移つて居ります、御承知の通り石炭の液化問題に關しましては、獨逸が最も進歩して居ります、此獨逸は立派に成品を出して居るのであります、今日日本でやつて居りますのは獨逸式と全然方向を異にし、設備を異にする方法で確に成功の目的が付いたのであります若し是が經濟的に、工業的に、完全に出來るものでありますならば、國防上非常に安心し得ると同時に、或は市場にも出し得る時機が何時か來ると思ひます、併しそれは明年來るか、明後年來るか、是は目下非常な問題で、急には解決出來ぬと思ひますが、少くとも第一の目安は付いたのであります、此最後の石炭液化問題に關しましては私は十分なる望を有つて居ります日本の如く燃料の國內生産の少い處では、何とか工夫をして「ボルネオ」から取るとか、或は亞

米利加から取ると云ふことなしに、自給自足の方法を色々學者の力を藉り、又民間實業家の手を藉りて、一意専心研究に努力して居る次第であります

田島委員

陸海軍兩大臣からの御説明を伺ひまして極めて満足に存する次第であります、此際今御答に關聯して一言申上げて置きたいと思ひますのは、私の少くとも希望と致しましては「ベンゾール」の國內に於ける採取に付て、相當の獎勵及取締の規則を制定し、實行されると云ふことが現下極めて必要ではないかと考へるのであります、此點に付きましては午前中に申上げましたやうに、石油に關係した調査研究の部局を政府に於て御設け下さると云ふことに御願致しまして、其一部に於て、斯る立法事項を御研究を願ひたいと思ふのであります

次に石炭の液化の問題であります、是は非常な御努力を御拂ひ下さつて、略々緒に就て居ると云ふことは、非常に結構なことでありますが、どうも承ります所に依りますと、撫順炭等を主たる原料として御研究になつて居るやうに伺ふのであります、所が撫順炭は其品質が製鋼方面に關する瓦斯發生用として極めて理想的の炭であります、先づ上等の炭であるのでありますから、成べく其目的に適當した若い炭を御使ひ下さつて、御研究下さることが必要であらうと思ひます、其點に付ては既に御考へであると思ふのでありますけれども、滿洲に於ける石炭問題は、後刻申上げる積りでありますが、極めて重大なる關係を國內の石炭工業に及ぼすも

のでありますので、陸軍大臣も御存知であると思ひますが、滿鐵の餘程以前から有つて居ります所の權利に屬して居る新邱炭田の如き、之を御開發になつて、さうして其安い炭が品質は餘り良くないにしても、各方面に出ると云ふことになりましたならば、非常に大問題を惹起するものではないかと思ふのであります、幸ひ今日迄は中々經費節減々々で、軍備の補充も充實も繰延べられて居つたのでありますけれども、幸に現在は陸海兩軍共に相當の充實費を御取りになつてありますからして、成べく滿洲の現地に於て此新邱炭の如きものを液化するやうな方法に付て相當の經費を使つて、相當に御努力になるやうに御希望を申上げて置きたいと思ふのであります、尙ほ其他多々申上げることもあるのでございますけれども、應答の時間を省きまして、石油の問題は是位に止めて置いて、更に北樺太の石油利權のことに付て一言御尋を申上げたいと思ふのであります、此事は先般砂田委員から一寸御觸れになりましたけれども、問題の要點が外の部分にあつたのであります、北樺太の利權其ものに付ては觸れて居らなかつたのでありますから、私は更に申上げて見たいと思ふのであります

砂田君が申された如く、北樺太の石油利權は尼港事件の代償とも考へられるやうなものであります、あゝ云ふ悲惨なる記憶を喚起して見ますと、北樺太の石油利權が如何に重大なるものであるかと云ふことを感ずるのであります、所が此北樺太の石油利權は條約に依つて、是は

拓務大臣も既に御存知の通りでありますが、國民の多數も存じて居られると思ひますが、極めて不明確な權利であります、昭和十一年迄に試掘礦區が採掘礦區に適すると云ふことの證明をするにあらざれば、此利權はないのと同じになるのであります、さう云ふやうな不確實な權利であります、あの回想するだに戰慄を禁じ得ませぬ尼港事件の代償として得ました權利とでも考へて見ますと、洵に一面から見ますと空漠たる權利のやうに考へられるのであります、併ながら、非常に各方面に關係を有つて居りまする利權のことでありまして、之を正確に保持すると云ふことは、國民としても、國家としても極めて必要なことであると考へるのであります、對露交渉の問題の非常に澤山あります今日、種々の場合に於て此問題に對する交渉と云ふことは起り得ると考へるのであります、外務大臣は斯う云ふ點に付ては、深甚の考慮を拂はれて居るやうに考へるのでありますけれども、此際茲に御注意を喚起して、さうして其所見の一端を伺ひ、外交上の折衝に御差支ない範圍内に於て御高見を拜承することを得れば非常に仕合せと考へます

内田國務大臣 只今御質問のありました通りに此利權は、日本に於ても、十分とは申し難い點があるやうに思つて居るのであります、又我が利權を發展せしむるにも、色々の支障があるやうに存ぜられるのであります、是までと雖も外務省としては、出来る限りの援助なり又

露西亞側との交渉も致して居る次第であります
が今後と雖も機會があれば、一層努力をしたい
と思つて居ります。現に先般新しく赴任しまし
た太田大使も、色々の會社なり、其他當局者の
希望も聽き、更に政府の方針も體して、先方に

積極的に石油を掘れ

内藤久寛君の質問

(二月十八日貴族院豫算委員會に於て)

参つた次第であります、莫斯科に於ても亦當地に於きましても、機會を得又機會を作つて只今御質問の趣旨に副ふやうに致したいと存じて居ります

内藤久寛君 只今まだ商工大臣が御見えになりませぬで、一番聽いて見たいと思ひます方が御出でにならぬのでございます、併し已むを得ない、的の無い所へ矢を射るやうなことをと思ひまするが、總理大臣其他御出席になつて居りますから、先づ此意見を述べて置きまして、又商工大臣には御出席の時に簡略に述べまして答辯を得ることに致したいと思ひます、私が述べまするのは、石油事業に關係いたしたことでありまして、我國の石油採掘の事業と申しますると、是は色々に解釋する人がありまして日本の石油事業は到底發展の望みの無いものであると云ふ考を有つて居る人が、先づ九分九厘とでも申しまするか、大體はさう云ふ考を有つて居る人が多いやうであります、併ながら此石油事業は不幸にしまして、是は明治年間ずつと前から新潟縣、秋田縣等には採掘したものがあ

つたのであります。が、どうも甚だ振はないものでありまして、又明治以後になりまして、相當にやつて居りまして、明治二十一年に日本石油會社が創立いたしました以來、一種の事業として世間が之を認めるやうになつて參つたのであります。が、併し其事に付きましては、第一其當時の農商務省當局の人々、或は大學方面の學者諸君、其他總てに於て此石油事業と云ふものが發展し得ると云ふとは考へて居らなかつた、それから之を調査に外國の技師も參つた者もあるやうであります。是も日本は第三期層の新しい地層の所であつて、亞米利加の元の石油事業の古い地層から出て居るものに比べると云ふとは、先づ望みが無いものであると云ふ報告をして居ります。其他多くは皆さう云うやうな層であります。此日本石油會社が立ちまして以來、事業とはなつて居ります。又政府でも相當に注

意はしてやりましたけれども、本當に之を大切なものとして、國家の大事業なりとして、之に觸れて居らなかつたやうに私は考へる、今日も亦さうだ、それは此話の出ました時は大切々々とは言ひますけれども、何も是は本當の大切な取扱を受けて居らない、先づ一口に申ししますと、日本の石油事業と云ふものが大に其國の利益を興し、又世界の利益を興すものであると云ふことに確信して居る人は私から申し上げますと先づ無いとでも言ひたいやうに考へて居ります、私はさう云ふものでない、日本の石油事業は大に發展すべき望みを有して居るものでありまして、其結果を見ますと内地の需要を差支なく充すと云ふことは、是に陸海軍の需要は勿論のこと、内地の日常の石油關係の需要を差支ないやうに供給すると云ふことは勿論のことである、外國にも多分の、亞細亞の需要を充すばかりでなく、歐羅巴にも向けべきものである、機械油「ガソリン」等は參るものであらうと私は確信して居ります、然るに只今申述べましたやうに、此仕事は銘々の頭に必ず是が發展するものであると云ふことがありませぬからして、其關係者にさう云ふ確信を有つて居る人はない、さう云ふ確信を有つて居る人がありませぬから、事業が非常に遅々として進みませぬ、今日は石油事業と云ふものは何をして居るのか分らぬ様な有様になつて居る、其成績を見ますと云ふと、昭和五年には百八十八萬石餘出て居ります、昭和六年には百七十萬石

餘に減じて居ります、それから昭和七年、即ち昨年は十、十一、十二の三箇月位は推定しなればならないと思ひますが、推定額ではありまするが、多分の相違はない積りであります、其額が百四十五萬石位に下つて居ります、それから一方此外油の輸入高を見ますと云ふと、年々増加を來して居りまして、昨年は政府の輸入高を除きまし、此民間で買入ました、輸入いたして居りますものが、原油及製品の合計が是も一部推定の額でありまするが、約千四百二十萬石輸入して居る、一千四百二十萬石程輸入して居る、此額が一億圓以上に上つて居ります、是は内地の産出と云ふものは僅に外油輸入額の十分の一餘に過ぎないやうになつて居る、而して我國の此需要高はどうであるかと申ししますと、毎年多大の増加を來して居りまして、殊に軍需用の如きは、相當の準備がありと傳へられて居りますけれども、是は甚だ懸念に堪へないやうに私は考へて居る、是はどうも私は常にさう考へて居るのですが、海軍省の如きはあれだけの費用を年々計算して、省の費用として國庫の供給を受けてありながら、其一番の大切である燃料と云ふものがなければ、あの軍艦は動かない、戰の最中に油が盡きたらどうするのですか、戰をするのが出來ない、然るに此燃料問題と云ふものは、さつぱり考へて居らない、分らない、一二其事に付て研究して居る人もあるやうでありますけれども、本當に分らない、是程私は無考へなことはないものであらうと思つて居ります、是は併し今の大臣がさうだと云

ふのではない、海軍省歴代の大臣がさう云ふ風に考へて居られる、考へて居らない、居らるるのなら宜いのですが考へて居らぬ、無考へになつて居られるやうに思はれます、是は私は此處で應答質問することは穩かでないと思ひますから、此處では致しませぬが、私は其事に付て或時に色々論じて見たこともありすが、矢張り私の考へて居ると同じことでありすが、考へて居られない、此度の如きも陸海軍の要求せられました所は數億に上つて居るやうであります、其中に僅に此石油を臺灣の海軍の所有の油田に三十五萬圓かけて、何か掘つて見ようと云ふやうなどがあると思ふ、そんな金を入れて見ました所が唯金を捨てるやうなものである、さう云ふ譯の分らぬやうなことをなすつて、さうして石油事業と云ふものはそれは分るものですか、數億の金を費して戰をする、其戰さ一番大切なものは燃料である、脚の無い飛脚見たやうなものになつてしまひます、今の石油を其儘にして置けば、脚の無い飛脚のやうに思ひます、どうも私はどう云ふ譯で斯う云ふ理窟に合はないことが出來て居るのか、此どうも日本の海軍國に於て甚だ了解しにくいとて、了解が出來ないやうに考へて居ります、是は私はばかりではありませぬが、海軍省でもさう思つて居る方があると思ひます、心細い話であると思ふ、そこで今一つは商工省で石油試掘の奨励と云ふものがありまするが、昭和二年度から八年度まで此七年の間、二百七萬二千圓を試掘費に補助せられて居ります、是も私は此七年の間に二百

七萬二千圓と云ふやうな金を出して、さうして日本の石油事業をどうする斯うすると云ふことは詰らぬ話で、唯捨てるやうなものであると實は言つて居りますが、併ししないよりは宜からうと思つて居ります、所が此試掘井と云ふものは昭和七年度迄のものが、五十三井試掘井がある、商工省で補助いたしました石油井が五十三箇所ある、其中で秋田縣の男鹿中村、竝に同縣の院内村、それから新潟縣の宮本村、北海道石狩國厚田村、都合四箇所の試掘井は先づ成功したやうな譯であります、初めには日産五十石位は出たと云ふやうに聞いて居ります、是は意外の成功であつたやうに私は考へます、まだその所は續いて多く出るとは限りませぬけれども併し相當の石油井になるだらうと思ひます、併し是はまだ浅いものもあり、微々たるものではありますけれども、是だけの金を費したものに對しましては、大いなる成功であつたと思はれます、唯是がもう少し何か、此事業に對して物を言ふべきものであらうと思ひましたが、さう行かなかつたと云ふのは其規定……取扱ふべき規定が餘りに嚴格に過ぎてあつたと私は考へます、或は其掘るべき場所が新しい初めての土地でなければならぬ、元から掘つて居る所ではないかと云ふやうなことで、初めての所から石油を掘出したものに對してはと云ふ意味でありますから、なか／＼今日まで長い間當業者がやつて居つて思ふやうに行かないと云ふことは、容易に是が出ない、新しい場所を發見すると云ふことはむづかしいものなのである、餘

りさう嚴格にせずしてやらしてはどうか、まだ石油の含んで居ります地層、どう云ふ風に此地層が流れて居るかと思ふことは極らぬと思ひます、今掘つて居る處にもある、さう云ふ處は矢張り調べて見て許可された方が宜かつたやうに思ひます、其ことを私は商工省の地質調査の方に話をしたことがある、地質調査所長には話をしたことがあるのですが、どうもさう云ふ規定になつて居るものだから仕方がない、と言つて居られたこともあります、併し是は餘談であります、兎に角四箇所も相當に出ましたと云ふことは是は私は先づ成功なりと申上げて宜しいと思ひます、そこで私は一二外國に於て石油がどう云ふ風に取扱はれて居りますかと云ふことをちよつと……、是はまあ御承知であらうと思ひますけれども、申上げて見たい、獨逸に於きましては、石油の產地としては、北方に當りました所に「ハノーヴァー」と云ふ油田があります、是は極く貧弱な油田であると稱へられて居る所であり、すつと以前は此外に、今佛蘭西へ還されました「アルサス」州の「ベジユルボレン」と云ふ所に獨逸で、日本の掘り方とは少し違ふ掘り方をして居つた所があります、それは佛蘭西で今日も矢張り續いて居るやうであります、甚だ此處は發展いたして居りませぬ、居りませぬが、此「ハノーヴァー」と云ふ獨逸の貧弱な油田であると稱せられた所を、獨逸が非常な勢で之を開發に取掛つた、それが此産油額が昭和二年には六十萬「バーレル」に過ぎなかつたものが、昨年昭和七年には、推定額も含んで居りま

すけれども百八十萬「バーレル」に増加いたして居ります、昭和二年に六十萬「バーレル」のものが昭和七年には百八十萬「バーレル」出て居る、「バーレル」と申しますのは、御承知の通りに約八斗六升位であります、是等は獎勵の宜しきを得たものと申して差支ないと思ひます、又今一つ、先づ驚く程のと申して宜しいと思ひますが、露西亞の五箇年計畫と云ふものに依つて、矢張り石油事業を此五箇年計畫の一種に入れて今日「ソヴェット」露西亞政府が國費を以て經營して居ります、それを見ますと云ふと、此第一年たる千九百二十八年には、八千四百萬「バーレル」餘出て居ります、此ものが此第五年たる千九百三十二年即ち昨年は、推定額も入つて居ります、一億五千四百萬「バーレル」に達して居ります、是は五ヶ年間に八千四百萬「バーレル」のものが一億五千四百萬「バーレル」に増加した、今度此中から日本にも販賣に參ることになつて居ると云ふことであります、尙ほ今年から又第二次の五箇年計畫が始まりまして此今年からの第二次の五ヶ年計畫に依りますと云ふと、第五年目の千九百三十七年には四億八千四百萬「バーレル」に達せしめると云ふ計畫になつて居ります、是は却々非常な數量でありまして容易ならぬ莫大な産額であると思ひますが、果して此豫定通りに行きますか行きませぬかは測り難いものであります、併し其意氣込に至りましては感ずるに餘りある、私は多分是はまだ彼處には餘地は十分ありと云ふとは認められるのでありますから、此額に達しまするか

或はそれに近いものに参りまするか、成功する成就するものであらうと思ひます、兎に角此獨逸や露西亞の如き努力を以て之に當ると云ふことが出来れば、非常の産額を得ることは疑ない所であり、と申して宜しいのであります、本邦の湧出額はどうか居るかと思ひます、是は私は屢々何れかの方面で申述べてありますが、皆様も御承知のことと思ひますが、**北樺太の方には無論あります、南樺太の方にも石油産地は相當にある、**是はただ今僅に一井か二井だけ試掘をしてあると思ひますが、まだ本當に分つて居りませぬが、徴候は各處に散在して見受けられます、それから北海道は、是は今日何百石か毎日出油して居る譯であります、是は殆ど矢張り南北……稍南北に亘りまして大油脈がある、それから青森縣、秋田縣、秋田縣には一萬石程……一晝夜に一萬石程出油を致した油井もあります、山形縣、新潟縣、長野縣、静岡縣、一口に申しますと云ふと樺太は少し離れて居りますが、北海道から静岡縣まで、北海道から静岡縣まで北海道から静岡縣までは油脈は續いて居ると云うて差支へない、其延長が八百哩以上に達して居ると思ひます、それから尙ほ臺灣に於きましては、あの臺灣の全島が稍々、南北に亘りまして一大油脈がずっと續いて居りますが、斯の如き大油脈、日本の本土を貫きまして八百哩にも聯絡して居る油田があると云ふことは、世界にも餘りさう聯絡した

油田といふものは澤山あるものではないかのやうにも思ひます、臺灣の油田と云ふものも是も大きなものであります、是も相當な産額を得るものと思ひます、又近頃段々其仕事も進んで居りまして、仕事は甚だ進みませぬけれども、其年數が大分かかつて居ります、其事柄はどう云ふことになつて居るか、私は今關係して居りませぬから分りませぬけれども、もう既に油は出て居らぬければならぬと思ひますのにまだ油は出ない、出ないが是は必ず出るであらうと私は考へて居ります、どう云ふ譯で油が出ないか、ああ云ふ處は品に依りますと云ふと、餘り長い間澤山井戸を掘りまして、さうして是も水が止まらぬとか、是も何とかだと云うて、それを放却して置きますと云ふと、其油が皆蒸發いたしまして、遂に其石油地が譯の分らないやうになつてしまふ處もあるのであります、或はさう云ふものになりはしないかと云ふ心配を私は有つて居りますが、兎に角まだ今日澤山のものが出て居りませぬが、先づ石油は大いに出油すべき運命は確にある場所であると私は確信して居ります、どうも私は斯の如き先づ第一臺灣が今の所では一番出油に望みを持つて居ります。續いて矢張り新潟縣、秋田縣など云ふ處に、まだ調査は充分になつて居りませぬが、或は北海道、是等も私は必ず出る、出油すると考へて居ります、斯う云ふ處を日本で有つて居りながら、何故之をもう少し政府に於ても……外の國では皆政府がやつて居る、露西亞の如きは政府が直營をして居りますが、獨

逸の如きは政府が助力して居る、日本では何の爲に之を政府が何も構はないのか、又當局者は何をして居るのかと私は考へて居ります、どうも斯う云ふ必ず出ようと、今日も既に緒を開いて居るものを、其事に付ては、餘り熱心に政府の如きは御構ひないやうであります、偕て何をして居られるかと思ひますと、多く代用品の方に力を盡して居られる、昨日でありましたか總理大臣から朝鮮の何處とかで石炭を蒸溜して油を探ると云ふやうな御話があつたのでありますが、そんなことは何も朝鮮に限つた譯ではなく、もうそれは明かに採れるものなのであります、唯それは今日の場合ではさう云ふことを致しなくても經濟が合はない、亞米利加なり、露西亞から持つて來た方が安い、油を持つて來た方が安い、今の南滿鐵道が撫順でやつて居ります石油を含んで居ります土からして、蒸溜して居るのがあります、あれの如きは矢張り海軍省で、出ましたものを買ふより高い金を出して買つて居られる、それは獎勵の爲めだと云ふことであります、それも私は決して悪いことではないと思ひますが、さう云ふものが採れるものであると云ふとは明かなことであります、英吉利などでは何十年前からそれを探つて居りましたが、今日はさう云ふものを採るよりは、外國から買つた方が安い、又波斯あたりから持つて來た方が安いと云ふ爲に、それは皆廢業してしまつて居る、それを今日日本では初めてさう云ふものを見付けたやうなことを言つてやつて居るのである、それは悪いことではありませぬ、

併し戦さになつたらば、今の所では幾らかの用に立つてありませう、立つてありませうがなか／＼是は容易からぬことでありまして、それで、海軍の需要を充たす迄にすると云ふことは容易なことではない、私はそれよりは日本の石油事業の方に力を御入れになつた方が早く油が出ると思ひます、なぜ石油を掘ることに、今日まで御盡力にならないか、代用品などと云ふものは今日まで、世界の諸國では色々のことをやつて居ります、殊に獨逸では戦さの時にはなか／＼洩れなく石油の採れる所からは皆採つて居る、それでありまして此代用品が何から採れるかと云ふとは皆分つて居る、唯石炭から、總理大臣の御話になりましたのは多分石炭を蒸溜して採ると云ふのでありませうが、其石炭を蒸溜しました滓が『コークス』になれば理窟に合ふ、それから日本の木炭のやうなものになつてもそれも理窟に合ふのですが『コークス』にもならず、木炭の代用にも出来ないやうなものが出る、それでありますから、石炭で賣つた方が宜い、それをどうも金を掛けて、蒸溜しても計算に合はない、皆さう云ふものなんです、さう云ふものでありますから、それは巧拙はありませぬ、其油を採りますのに皆く採るとか、油が餘計採れるとか、少く採れるとか云ふことはありませうが、私は餘り效を奏するものではないと考へて居ります、此私の心持を明らかに申し上げますと云ふと、代用品などと云ふものは、さう申すと宜くないかも知れませぬが、どうもさう云ふことを研究する價值はさうないもので

ある、今政府がしてお出でになるのは、皆餘り研究なすつても、效力はないと私は思ふ、分つて居る、それは皆分つて居る、それよりは先づ一步を進めて石油を掘る方が直ぐ用に立つものである、さうして、それは必ず出るものであると思ひます、どうも私はそれを調査をなさる方法も少しも手が著けてない、手を著けて居りませぬ、調査をして居ない、石油に付ては更に調査をして居ないと私は思ひます、商工省の地質調査所の如き石油關係の者が、今休んで居るのか何をして居るのか、さつぱり分らぬ、今少し政府に於て實際石油を採掘するに付て御盡力なすつてはどう云ふものでありますか、第一こんなことにして置けば、海軍などは容易に動かすことは出来ない、私はさつぱり動かぬとは申しませぬが、なか／＼是でやつて行ける、戦さを始めると云ふことの決心は容易に付けられないものではないかと思ふ、是は半年か、一年で勝敗が必ず付くものならば宜しいかも知れませぬが、さう云ふ軍人の方では長い戦さと云ふものは國家の爲にならない、短い期間に片付けてしまはねければならぬと云ふ御意見があるものでありませう、あるものでありませうが、戦さは相手のあるものであつて、必ずしも半年か一年の内に済ますと云ふ限りのものではない、私は今の儘で海軍を動かす………陸軍でも今日は石油を使ふことが多い、それは誠に用心しなければならぬことと思ひます、私は自分で一番此石油の事に、先には熱心に關係したものでありますから、どうも此陸海軍で、石油のことを、念頭

に置いて居ないと云ふことも、無いこともないのでありませうが、それに付て盡力はして居られませぬ、何故に之に盡力しないのか、戦さの出来るか出来ないかと云ふ程に大切のものを、どうして之を盡力しないか、盡力は偶々したと言へば、詰らぬ代用品のやうなものをやつて居る位、出る所の石油を取らぬと云ふのはどう云ふことかと私は思ふ、どうも斯う云ふ此日本の本土殆ど八百哩以上にも達するやうな、世界にも稀にある油田を持ち、又臺灣でも殆ど南北を貫通して居るやうな油田を持ちまして、それを今日は出さうになつて居るにも拘らず、それに付てさつぱり盡力して居ない、政府が盡力して居られない、それは臺灣の總督府では相當の金を出して居ります、あんなことで、あれだけの金位でそれは必ず成功すると云ふことは、餘りに大膽過ぎると私は思ふ、之を此儘に自然の開發に任せて置くと云ふならば、是は所謂、實を抱いて寝て居るやうなものであります、何にもしないで居るのであると云つて、私は宜しいと思ふ、之に付きましては總理大臣は、昨日朝鮮に於てと言つて、代用品迄にも御盡力になつて居ると云ふことでありますから、必ず其處の石油をどうすると云ふ御考へはあるのであらうと思ふ、總理大臣の御意見を一つ承はつて見たいと思ひます、それに付きまして、此陸海軍の方面からも、何か承はることが出来れば、先づ私は幸である、商工大臣は今日お出でになりましたねければ、お出でになりました時に伺ふことに致します、先づ總理大臣から御意見を拜承することが

出来ますれば仕合であります

國務大臣(子爵齋藤實君) 私が昨日日本會議に於きまして申しました、石油代用品のことに付きまして申しました、石油代用品のことに付きまして、御話がありましたので申し上げますが、内地に於て石油の産出の少ないと云ふことは皆心配して居る問題でありまして、内藤君の如きは殊に能く御承知のことと思ふのであります、御意見に依りますと云ふと、もつと手を盡せば石油があると云ふ御意見であります、それは當局から能く調べた何はありませうと思ひますから、私はそれは差控へますが、斯様の状態でありますに依つて、代用品でもなければ、有事の日には甚だ困るのであります、折角斯う云ふことに着手して、居ると云ふことに付て御話をしただけのことでありまして、私は此詳細なる状況に付ては、今調査を持つて居りませぬから、御答することが出来ませぬ、何れ其當局から調べました上に御答を致します

内藤久寛君 どうも私は總理大臣の御意見は其通りであらうと思ひます、能く御調べになつて居ないのだらうと思ひます、思ひます、が、陸海軍の基礎となるべき此石油の事業を何故御調べにならない、何億と金金を掛けて軍備を整へようと思ふ、其一番の基礎である所の石油を探ると云ふことに付てどうして、調べをなさらぬと云ふのはどう云ふ譯か、石油に付てはさつぱり御考がない、無いと云つて宜しいと私は思

ふ、併し御考のないものは仕方がありません、仕方がありませんが、私はそれは餘り宜いことではないと思ふ、商工大臣が御出席になつて居ると云ふことであります、商工大臣から………商工省の政府委員がお出でになつて居ると云ふことでありますから………此石油事業に付ては私は御調べに手を著けて御居りにならぬと思ひます、御調べの順序などもどう云ふことになつて居りますか、總理大臣がさつぱり知らぬと云ふ位でありますから、何れの方面にも是は分らないと思ふ、どう云ふことをしてお出でになるのですか、それを御説明願ひたいと思ふ、成るべく詳細に御説明を願ひたい

政府委員(岩切重雄君) 商工大臣が居りませぬので私から御答を申し上げます、尙又不足でございますれば、局長も見えて居りますから御答辯申上げますが、只今内藤さんから種々意見を御述べになりました、商工省は油田の調査其他に付て非常な怠慢ではないか、殊に石油問題に對しては非常に輕視して居るやうな態度があると云ふやうな、御意見でございますが、誠に是程重大な問題に付きまして十分御納得の行くだけの仕事が出来て居ないと云ふことは、是は誠に私共當局として、誠に遺憾なことであることを痛感して居るのであります、殊に日本の國防の上から、或は經濟産業の上から決して充分でない、何とかして石油對策を満足するだけに解決したい、と云ふことには、非常に焦慮して、商工省は居るのであります、現在

ではさう云ふ氣持で居りますけれども、なかなか御説のやうに十分ではないことは誠に申譯のないやうな次第であります、唯現在やつて居りますことは、内地の油田を開發する爲に、先づ商工省として出来る範圍内の力だけは、盡して居る積りであります、或は僅かながら先程御話がありましたやうに、石油の試掘費を補助いたしますとか、或は送油用の「パイプ」の免稅を致します、關稅政策に依つて多少の緩和を圖る或は少くともまあ内地にある石油業に對しては統制法を適用して、其確立を圖らうと云ふ努力だけは致して居りますが、只今御話のあるやうにもつと進んで、徹底的に軍事上或は、國防上産業上の見地から非常な金でも出して、さうして油田開發、石油業の確立を何故圖らないか、斯う御話になります點は、非常に私共も御同感の念に堪へず、何とかしてさう云ふことをやらうと考へて居りますが、遺憾ながら現在の所では、豫算でも御覽になります程度のものであります、非常に遺憾とは思ひますが、併し商工省としては、段々各方面の御了解を得て、出来るだけ今後努力したいと斯う考へて居る次第であります

内藤久寛君 商工省として、今どうもそれ以上に説明を請ひましたも、何にも本當の調べをしてお出でにならないやうに私は思ひますから仕方がないだらうと思ひます、私は陸海軍で………さう云ふ商工省で唯僅かばかりの金を出して、其成績に付て、大した御調べにもなつて居らぬやうであります、唯金を出し放しと云ふ

ても宜い、其事柄に付て盡力をして居られないと私は思ひます、さう云ふことをして居つて盡力してない、……盡力してないと云ふのは語弊があるかも知れませぬが、私の眼から見ると盡力してないと言つて宜いと思ひます、其盡力してないと云ふことに委して安心してお出でになることが出来るのであります、陸海軍から御意見を拜承したいと思ひます

國務大臣(大角岑生君) 只今の御尋は私共も常に最も苦心して居る所であります、海軍に燃料の必要なことは、大砲に彈藥の必要と同じことでありまして、若しも是なければ、活動と云ふことは、全然出来ないであります、海軍省に於きましては、特に軍需局に燃料に關する一課を置きまして、常に研究を怠らないのであります、今迄やつて居ります所の要點を概略申し上げますと云ふと、曾て本會議でも申し上げたと思ひますが、若干は蓄積して居ります、併し只今御説の通り、長期の戦争に堪へるだけの準備は遺憾ながら、十分とは申上げられませぬそれから、此内地の油田開發に關しましては、實は私共の方から人も出し、書面を以て、始終商工省に御願して、どう云ふやうな方法にしたらば何處からどう云ふやうな種類の油が出ると云ふことに付ては、始終御願して居る譯であります、商工省の計畫も、大體始終海軍省に御通牒を願つて居る次第であります、只今商工省の政府委員の申しました通り、是も誠に遺憾ながら不十分であります、之に關しましては、私共は一層只今の御注意もありましたから、將來尙

ほ其方面に向つて最善の努力を盡したいと思ひます、それから代用品のことに關しまして、先程御話がありました、此代用品の方の中で石油の低溫乾餾、是はまだ左程實用にはならないと思ひますが、海軍竝に滿鐵と共同研究を致しました所の石炭液化であります、石炭に高熱高壓を加へて、之に水素を添加する獨逸式であります、最新の工業であります、是は昨年の秋頃から工業的として成功すると云ふ見込は相當付いたのであります、唯之に著手しますものには相當巨額の資本が要る、斯う云ふことの爲に現實には、やつて居りませぬが、是も愈々困つた時の豫備として相當研究をし、設備をして置く必要があると思ひます、又撫順の『オイール・シェール』の御話がありました、只今年産額五萬噸だけは海軍がそれを購買して居ります滿鐵に於きましては更に五萬噸の『ブランド』を近々に増設すると云ふ計畫を立てて居ります、是は此海軍の燃料とするよりは、寧ろ矢張り水素を添加いたしまして『ガソリン』として、飛行機、自動車等に使ふ計畫のやうであります、是も或時期になりましたならば、製品が出ると思ひます、滿鐵が製品を出しましたのは昭和五年以來であります、尙ほ樺太の方も年々産額が殖えて参りました、昨年のはきは、樺太石油竝に露西亞側から採りましたものが約三十萬噸であります、是も追々産額を増加すると云ふ話であります、斯の如く私は全く此石油資源の少いと云ふことを痛感して居りまして、何とかして安心をする程度迄に各方面とも事業の發展を圖り

たいと云ふことは、日夜最も苦慮して居る所でもあります、就中只今仰せになりました所の内地油田の開發のことに付きましては、將來篤と商工省と御協議を致しまして、成るべく御期待に副ふ方向に向つて進みたいと考へて居ります

國務大臣(荒木貞夫君) 御答へ致します唯今海軍大臣から御述べになりました所見と略ぼ同様な感じを持つて居ります、過般本會議に於ても、陸軍の此液體燃料に關します關係に付ては御答を致して置きましたが、先般燃料調査委員會の御答申もあつて海外の資源の獲得、竝に是の企業等に對する統制、竝に代用燃料の研究等でございますが、固より是等の點に付て國內の資源を得ることが最も肝要と考へて居る點に付きましては、御説の通りであります、同時に海外の資源をも、確實に之を確保する、併ながら今陸軍と致しましては、現時の應急の準備に間に合ひませぬので、一面に於てはさう云ふ方面の資源獲得に對して十分な注意を拂ひますと共に、御承知の如くに滿洲方面に於きましても、先般是等の油田調査の爲に人も派して居るやうな次第であります、併ながら應急の當面の問題と致しましては、奈何せん此不足なる燃料に對しましては、海軍と同じやうに貯藏の方法と代用燃料の方法に、先づ手を著ける外に致方がないと考へて居りまして、昨年より本年、明年の豫算に、貯藏に必要な所の設備と致しまして、八十萬圓、三十萬圓と云ふやうな、兩度之を提出いたして居りますし、又飛行機用の燃料としまして、貯藏の爲に約五十萬圓の豫算

を以ちまして、是の購買を豫定して居るやうな次第であります、又燃料方面に付ても、今海軍省當局から御述べになりましたやうな方法も考へて居りますし、又科學研究所に於きまして、木炭其他代用品に付ての研究も進めまして、當座の間に合せを致したいと考へて居ります、何れに致しましても、當座は斯の如くに致しまして、消極ながら貯藏法と代用燃料を以て應急の準備を致して、御説の如くに海内及海外の資源獲得に大いに力を致す必要があると考へて居りますので、御説の如くに努力を致しまして、十分國防の完全を期したい、斯う考へて居ります

内藤久寛君

只今海陸兩大臣から御話を承

はりましたが、只今の所では御話の通りと思ひます、思ひますし、又私も此點に付て伺ひ兼ねるやうな所もあるかと思ひますから、先づ此處では是位にして止めたいと思ひますが、どうぞ此日本の石油事業と云ふものは、到底出油の望みないものだと思ふことだけは御考へにならないやうに願ひたい、必ず出るものだと思ふことにして、其方法に付て御盡力を願ひたいと思ふ、必ず出ます、それがどうも今日までの成行きでは、日本の石油事業と云ふものは、陸海軍には眼中に置いて置かれないやうに思ふので、あの北樺太の石油地の如きことも、今御話になりましたが、是はどうなるか分りませぬ、けれどもなか／＼困難のものであると思ふ、それよりは容易く出て、便宜に此方へ運び得らるる場所がある、それに付てそれが出ることに御盡力あるべきものと思ひます、併ながら北樺太の如きを

敢て等閑にして置いて宜いと云ふ譯ではありませんまい、是はどうか相當に御盡力を願ひたいと思ひますが、どうもあれに全力を御入れなさることは劍呑だと私は思ひます、兎に角先づ只今の所では、臺灣の石油が一番望みがあるやうに思ひますが、是もやり方は、只今のやうなことをして居りましたならば、どうなるのかそ

國防上の緊急問題

歴代内閣に誠意なし

男爵坂本俊篤君の質問

(二月十九日貴族院豫算委員會に於て)

委員長(伯爵柳澤保惠君) 坂本男爵

男爵坂本俊篤君 燃料問題に關しまして、

過日本會議に於きまして商工大臣より、一應の御答辯は得ましたが、尙ほ詳細に亘りましては他日委員會を待つて御尋することを留保致して置きました、其後尙ほ此委員會に於きまして、我が燃料界の宿願である所の内藤委員より詳細に亘つて御質問がございましたが、其際には商工大臣は御出席がございましたので、政務次官が代つて答辯されたのであります、併ながら其答辯の要領は單に我々の了解を得る上に益々不安を感じしむるものがあつたのであります、其際の政務次官の御答辯は、一言之を蔽ひます

れは分りませぬけれども、少しあればやり方があるのぢやないかと思ひます、まあそれ等に付ても兩相の御考を、是までの事よりは少し變へて御考を願ひたいと思ひます、尙ほ申上げたいこともありまされども、先づ今日は是で私の質問は打切りに致して置きます

ば如何にも今日まで怠慢であつたと云ふ其告白にも等しい所の感を我々に與へたと云ふことは否むことの出来ないことであつたと、私は思ふのであります、私は敢て怠慢と申します、如何となれば此石油問題は實に一朝一夕の事ではありませぬ、此問題は實に我が海軍が八八艦隊計畫時代からの懸案でありまして、或は貴衆兩院に於ける所の建議案となり、又は豫算委員會に於ける所の希望決議となつて現はれて参りましたことは、一再に止まらなかつたことは既に私の本會議に於て申述べた通りであります、而いたしまして、此間一度此問題の質問に逢著いたします時には、何れの當局も其都度曰く、お

説は誠に御尤であります、併ながら十分の豫算のないことを如何せむ、代用燃料のことも研究して居ります、鑛産税の免除、關稅の改廢、些少なから試掘獎勵も致して居ります、相變らず御座なりの御答辯は今日まで歴代當局より殆ど開飽きて居る位であります、御座なりの御答辯では恰も繪に畫いた餅のやうなもので、逆も腹を張らす譯には參らぬのであります、是では如何にして燃料國策樹立に寄與し得ることが出来ませうか、斯の如く無爲無策、荏苒歲月を空しうして居ります間に、遂に此處に押詰められまして、此時局に當面することになつたのであります、私は考へます、若し此間に於て政府當局が、我々の意見に聽かれて、何等か施設を怠らなかつたならば、今日の行詰りを見ずに済んだであらうと思ふのであります、過日當委員會に於きまして、海軍大臣の御答辯の御言葉の中に於て我々をして非常な感動を與へた或ものがあつたと思ふのであります、併ながら是は決して主務當局の非を責める譯に參らぬと思ふのであります、又現政府の責に任すべきものでもないと思ふのであります、それは我々が、今日まで口を酸くして燃料問題を叫びつゝある間に、手を拱き荏苒歲月を空費して、今日の狀態を馴致せしめましたる所の、此歴代政府の責に歸すべきものであると思ふのであります、否我々の努力に於ても、まだ足らぬ所があつたと云ふことに想ひ到らねばならぬと思ふのであります、そこで私は此切羽詰つた一大時期に臨みまして一言内閣諸公の御注意を喚起いたしたいと思ふ

のであります、それは既に本會議に於きまして、申述べました如く此時局切迫に直面して、燃料問題は商工省と云ふが如き、一省一部局の問題ではないのであります、眞に我が國家安危の係る所、國防を對象とする所の一大緊急問題として是が取扱はれねばならぬと思ふのであります、此一大認識を内閣諸公に於て御喚起あらむことを切に希望するのであります、今其一例と致して、茲に指摘いたしたいのは、昭和八年度の兵備改善費是は陸海軍を合せまして、二億九百餘萬圓に比しまして、商工省の燃料政策促進に要する所の北樺太の石油試掘獎勵金は、僅に二十八萬圓を算するのみであります、それも商工省から當初提案になりましたものはもつと大きいものであつたらうと思ふのであります、然るに財政上の都合と云ふことを以て、斯様な貧弱なるものに査定されたものであらうと思ふのであります、一方陸海軍の方は、兵備改善なるが故に容れられ、他の一方は石油試掘費なるが故に二十八萬圓に査定されたと致しましたならば、内閣諸公は其豫算閣議に於て兵備改善費と、燃料政策促進費との間に十分なる認識を拂はれたるや否やと云ふことを伺つて見たいと云ふ心持になるのであります、私は斯様に思ひます、陸海軍の兵備改善費は此時局に直面いたして、二億九百萬圓是は恐らく適當なる支出であらうと思ふのであります、併ながら其中の或るものに比較いたしますと、或る燃料はそれに譲らない否それより一層緊急の性質を帯びて居るものがあることなきやと云ふことに思ひ到らざるを得

ないのであります、是は私が過日本會議に於きまして、國防と云ふものを對象として、考察するには之を構成する所の各要素の強度の釣合を得せしむる爲め、或は軍事費の豫算の一部を割いて、其足ざらる所のものを補うて釣合を得せしむると云ふことが、國防の目的を完うする所以であると斷じた譯であります、私は會て五十八議會かと思ひますが、豫算總會に於きまして燃料政策に言及いたしました、燃料あつての軍艦、軍艦あつての燃料である、故に茲に一つの海軍の建造案を立つるに當りましては、巡洋艦の一隻位の建造は之を犠牲に致しましても、尚ほ此燃料國策樹立を促進しても宜しいではないかと云ふとの意味を申述べたことを記憶いたして居るのであります、近頃或る友人から往年故島村元帥が軍令部々長の時代に、一時此の燃料問題に對して甚だしく苦心をされました際に、驅逐艦一隻位は犠牲にしても宜いと言はれたと云ふ挿話を聞かされたのであります、覺えず私は之に對して眞に空谷の足音を聞くが如き感に打たれたのであります、以上申述べました點に付きましては必しも、商工大臣の御答辯を煩はすことを須ひぬと存じます、唯願はくば内閣諸公に於て兵備改善と燃料問題は互に影の形に伴ふが如く、眞に不可分の問題として、劃切なる御認識を拂はれむことを、希ふの微意に過ぎないのであります、是より進んで、商工大臣の御所見を伺ひたい箇條に移ります、其第一と致しましては、既に申述べました如く、我國現下の燃料問題は斯の如く憂慮すべき行詰れる所の

状態にあります、さながら、今更此場合當局の怠慢を責めましたからとて、實際に益のないことであります、然らば此非常時に直面いたしまして商工大臣は、財務當局は勿論のこと、此問題に密接の關係のある所の各閣僚と共に其憂を分たれ、何等か問題解決の爲め臨機勇斷の御處置に出でられると云ふことの御意圖は持たれないでありませんかと云ふことを伺ひたいのであります、第二と致しましては、統制經濟産業の合理化、斯様な言葉は近來産業經濟界の一種の『モットー』となつて居るやの感を懷かしめて居るのであります、燃料問題も此種の例に漏れませず、私は或る燃料の企業に精通した者から聞きます所に依れば、若し此製油事業者の間に完全なる所の統制が行はれ、其販賣機關等が統一されると云ふことになりまします時は、年額數千萬圓の無駄の廢除をすることが出來ようと云ふことの話を聞いたのであります、現に歐洲に於きましては、佛蘭西又は西班牙の如き皆石油事業と云ふものは政府統制の下に行はれて居るのでありますから、我國に於きましても、目下燃料問題の情勢に鑑みられて、此種の統制法を考慮せられることなきやと云ふことを伺つて見たいのであります、更に第三として伺ひたいのは、既に本會議に於きまして申述べました如く、我が石油の年額は海軍の需要を別と致しまして、一般需要の二割を充たすに過ぎず、其八割は海外より輸入をして居るのであります、二割と申しますが、現今は寧ろ二割を充たすに迄まだ足らぬ程だと實際考へて居ります、然ら

ば最早此内地からは石油産出の望がないかと申しますと、是は決してさうではなからうと思ふ過日我が同僚の内藤委員からも、此點に付て懇々御意見の陳述がありました、成程現在稼行中の油田は、内地の石油坑區中其面積の僅か四『パーセント』に過ぎないのであります、其餘は試掘調査の結果に依りますも、油帶の有望と認められる所は、場所は少なくないのであります、内地然り、臺灣然り、南樺太亦然りであります、昭和二年度より五箇年間の繼續費に係ります所の二百四十六萬圓と云ふ試掘獎勵費と云ふものは、其後多少變更を経まして、殊に八年度の二十五萬圓を以て盡きると考へます、就いては商工大臣は目下燃料問題の此特殊なる重要性に鑑みられて、引續いて來年度から改めて更に油田開發の爲に此種の獎勵法を考慮せられて居るや否やと云ふことを伺つて見たいのであります、次には第四と致しまして、此昭和十一年度を以て盡きます所の北樺太の未開油田一千平方露里分に對しましては、其期限の延長或は『ループル』と圓價の換算、或は公租問題、其他露國利權に關しましては、太田大使をして交渉を煩はして居ると云ふ過日の御答辯でありましたが、其進行の程度竝に結果に付て何ふことを得れば仕合せと存じます、最後に第五點と致しまして、『ベンゾール』の問題に付て、商工大臣に御尋を致します、『ベンゾール』は目下月に異常の速度を以て需要を増加しつつあります所の自動車、飛行機用と致しまして、平戰兩時に跨りまして缺くべからざる所の燃料であるの

みならず、『ベンゾール』は爆藥の原料として此時局に際しましては或る意味に於きましては、石油燃料以上に緊迫せる所の問題であることを感ぜざるを得ないのであります、之を歐洲大戰の統計上に現はれた爆藥の消費量に見ましても英國に於ては三十四萬噸、佛國は三十二萬噸、米國は十七萬噸と云ふ驚くべき數字を現はして居るのであります、翻つて我國の『ベンゾール』の産額如何を顧みましますのに、八幡製鐵所、三井の染料工業所、其他二三の業團、工場の部分を併せまして、僅に年額一萬噸に足らぬと云ふ状態であると云ふことであります、是が一朝戰時となりますと、少くも三四十萬噸は要るだらうと云ふやうな話を聞くのであります、曩に私は此點に付て憂慮いたしまして、去る五十九議會に於きまして、時の商工大臣の依氏に對しまして、右申しましたやうな状況を述べまして、此缺陷を救ふが爲に、現に歐洲に於て佛蘭西、獨逸、伊太利等に於て行はれて居ります所の如き國法を以て、各工業上より此『ベンゾール』を回收すると云ふ、即ち瓦斯工業よりして『ベンゾール』を回收すると云ふこと、此歐洲各國に於て行はれて居る所の擧に倣つては如何でありませうかと云ふことを御尋ね致しました所、依商工大臣の御答には『ベンゾール』は爆藥の主成分としては勿論、染料用としても之が回收は必要の事業であると云ふことは當局も之を認めて努めて獎勵はして居るが、併ながら其回收が經濟的に引合はぬ會社に向つて、法令を以て是に臨むと云ふことは、戰時はいざ知らず、平時に

於ては如何かと思ふがと云ふことで、尙ほ研究はして見る積りであると云ふ御答辯でありました、此質問應答は昭和六年三月二十一日の豫算委員會でありましたが、今日は我國四圍の環境は急角度の變化を致しまして今や當時の比を以て語り能はざる現狀に際しまして、商工大臣に於かれては、何等か是に對して特別の御考慮のあるべきことを期待すると共に、軍部各大臣に於かれまして、此『ベンゾール』の問題に對して不可分の重大なる休戚の地位に居られるものであると云ふことを私は知るのであります、若夫れ其方法に至りましては『ベンゾール』回收に依つて損失を招かむとする所の狀態にある所の瓦斯、製鐵、其他工業會社に對しまして、政府に於て相當の損失を補償するの方途に出でられましたならば、各會社に於きましても此時局に直面して、喜んで此國家的奉仕に馳せ參ぜむとする愛國心を期待することを得べきことは私の信じて疑はない所であり、以上は主として商工大臣よりの御答辯を煩はしたのであります、陸海軍大臣からは御所管事項に關聯いたしまして、それぞれ何等か御答辯下さるならば誠に有難いと存するのであります、強ひて御答辯を要求する譯ではありませぬ、唯閑僚として此燃料問題に對して眞に其休戚を分たれる所の立場にあられることに願ひまして最も深甚なる御省察を仰ぎたいと存するのであります

國務大臣(男爵中島久萬吉君) 坂本男爵から燃料工業の問題に付て重ねての御尋でございまして、只今項を分つて私への御質問を蒙つ

た譯であります、其第一の御尋でございします、何等か私に於て此際此問題の解決に對して、一大勇斷を爲すの心事ありや否やと云ふ御尋であります、實は只今御叱りを蒙りました通りに商工當局と致しましては、年々歳計の許す極めて自らも不満足と思ひます範圍内に於て出來得る限りを致して居るのではございしますけれども、殊に昨今所謂非常時局に際會いたしまして、之に伴つて貴衆兩院の豫算委員會、本會議に於て、一度ならず燃料問題の根本義に關する御尋がございました所の朝野の御心配に對しまして、此際直に斯く／＼の案を提げて之が解決を圖ると云ふが如き、練れた考も持つて居りませぬものゝ、何とか財政當局並に軍事當局の間に議を重ねまして、此問題の解決に對して進んだる考案を試みて見たいと云ふ、私一個の感じではございしますが、斯の如き感想に打たれて居るやうな次第でございします、次に此企業統制の見地から、石油業の生産並に販賣の關係に於て、何等か統制の途を立てるものではなからうかと云ふやうな御考を承りましたが、私も、誠に同斷の存念を以て居りますが實は先頃此石油の販賣關係に於て、重要企業者の間に所謂申合せが成立を致しまして、從來各社の間に種々競争が行はれて、其競争が必しも消費者の利益にならぬと同時に、是が當業者の間には幾多の無駄が出來まして、其無駄が出來ました爲に、自然是亦當業者の負擔となる、其負擔が更に販賣價格の上に轉嫁されて結局、消費者に取りましては、寧ろ迷惑を重ねると云

ふやうな結果に至りまする事態を憂へまして、當事者と共に、之が販賣統制に多少の微力を致しました結果が、一面は消費者側から種々なる運動を惹起いたしまして、一時其統制の事業が或は不成立に終らざるやの懸念もございましたが、幸にして消費者との間に了解も成立しましたが、爲に本日一部販賣上の統制が行はれると云ふやうに相成つて參つたのであります、此販賣上の統制に伴ひます各種方面の利益に鑑みまして、漸次之が生産方面にも及ぶやうに相成つて、延いて生産消費の兩面に互つて斯かる企業統制が良好な結果を齎し來りまするやうに、機會があれば努力も試みたいと存じて居るやうな次第でございします、斯の如き考を持つて居りまするが故に、第三の御尋でございします來年度以降の豫算に對しましては、財政當局並に軍部當局との間に十分なる協議を遂げまして出來得る限りの方法を考へて見たいと存じて居るやうな次第でございします、尙ほ北樺太石油會社の事業に對しまして、現に是が障害に相成つて居りまする『ルーブル』と圓貨との比差の問題露西亞の勞働法規の適用に伴ひまする斯業の不利益、同時に年々累加し來らむとする同會社に對する公租の賦課に付きましての陳情に付ては曩に申上げました通り、在露大使を経まして御盡力を願つて居る次第であります、何分まだ斯の如き問題が新大使の赴任早々で、圓滿なる解決を遂ぐる運びにも相成りませぬので、尙ほ重ねて大使に對して依頼を致さむと致して居るやうな次第でございします、願くは大使の盡力

に依りまして、北樺太石油會社の事業に甚大なる障害を與へて居ります以上の關係が解消せらるゝに至りますならば、此會社に取りましては我々の助成金の交付にも等しき利益を得ることに相成りますので、此上ながらも微力を致したいと存じて居ります、最後に此『ベンゾール』の研究でございますが、是は石油代用燃料工業の研究中であつて最も重きを置かなければならぬ點の一つであらうと思つて居りまするが故に、此研究に付ても出來得る限りの努力を拂つては居りまするものゝ、是が化學實驗室の範疇を脱しまして、企業化せむと致しまするに付きましては、一般事業の助成獎勵に對しましては茲に只今男爵が御述べに相成りました通りに、國家と致しましては、之に對して相當新機軸に出づるの助成を必要とするに至らうと思ひまする、延べて之に伴ひまして或は國家損失補償の問題なども起るのではないかとまで私も思つて居りまするが、何れに致しまして斯の如き事を致しまするに對しましては、一般の他の企業關係、殊に其企業の中には『ベンゾール』同様に軍事の關係から考へましても、亦外國に對しまする所謂國際貸借の改善の上から考へましても必要な基本工業でございまするので、それ等の關係に付きましても、特に考慮を費さなければならぬ點もございます、段々それ等の事に付きましても、商工省と致しましては、或は從來の企業概念から申しますると、頗る新規の施設には屬して居りますとは思ひまするけれども、兎に角企業統制の見地から致しまして

新時代の産業に國家が要求いたしまする、所謂國家統制の見地から種々考究を致して居る點もございまして『ベンゾール』に於ても亦同様、今後大に考慮を致したいと存じて居るやうな次第でございまするが、兎に角斯の如き重要な各種の工業が軍事上から觀察いたしましたしても、亦國際貸借の改善の上から考へましても、所謂國家統制主義の下に、從來と全く異つて居る法律上の保護、財政上の援助等を要求いたしまするものが多々ございしまするが爲に、此點に付ても深く考慮も致して見る積りでございします、從來商工省などに於て、各種の企業獎勵の爲に殊に最も國家の利害に痛切なる燃料工業の如きに對しまして、誠に其問題に特に熱心なる御考究を爲されて居らるゝ方面からは、多々御不満足の點もございしますることは、私に於ても之を甘受いたさなければならぬのでありますが、要するに國家の進運に伴ひまして、種々産業獎勵の上に斬新なる工夫を費さなければならぬ時代に際會いたして居りまするが故に、今後只今の御尋の問題等に付きましても、十分に考へて見たいと存じて居る次第でございます

男爵坂本俊篤君 此燃料問題、殊に戰時に於きまして、大なる不足を感知せねばならぬかと憂慮いたしまする『ベンゾール』に關聯いたしましたして、陸海軍の大臣に對しましては、私が申述べました如く必しも御答辯は要求いたしませぬ、此重要性に付て篤と御考慮を願ひたいと云ふことを申上げて置きましたが、只今の御様子では、別に其意味に於て御答辯がないものと

考へまする、就きましては主として御答辯の衝に當られました商工大臣に付て一言申述べたいと存じます、先づ其第一の燃料問題、即ち此重大時局に直面して、何等か一種特別な所の御考慮を拂はれることなきやと云ふことに對しましては、只今の御答辯を得るのであります、即ち過日本會議に於きまして一應商工大臣の御答辯を得ました時には、又ぞろ何時でも此燃料問題に付て質問をする場合に何ふやうな事柄を羅列されて、さうして御答辯になつたやうに感じたものでありますから、私は大いに失望を感じたのであります、所が本日は當委員會に於きまして、此時局の重大と燃料の行詰まれる状態に鑑みられまして、尙ほ外務と並に關係の陸海軍大臣と思はれますが、方々とも謀つて一つ何とか考慮して見たい、見よう、斯う云ふことは取りも直さず從來の如き、今日まで其儘御座なりの答辯で過された其態度より蟬脱されて、新なる所の一つの御考慮の域に進まむとしつゝあることを看取いたしました、私は大いに喜びの念に堪へぬのであります、其第二は燃料問題に付て經濟統制のことに付ては、現に其事も考慮して一部分は實行して居るが、尙ほ大いに其事は完成を圖りたい心持だと云ふことでありまして、此の點はどうかさう云ふことに願ひたいと思ひます、第三の今年を以て盡きます所の試験獎勵金に付ては、燃料問題の重要性和勿論此時局の關係に顧みまして、大いに盡力をしたいと云ふ其御言葉に對して、満足の意を表したいと思ひます、又露國利權に關聯いたしまする點

に就きましては、更に在外使臣を通じて此問題解決に勵みたい、斯う云ふ御答辯でございました、大方是も了承いたしました、それから此最後に燃料と致しまして、又爆薬と致しましての『ベンゾール』の回収問題、之に付てはまだ外にも種々それに類する所の問題があるから、是等を経済統制其他産業の開發と云ふ方面と併せて考へたい、斯う云ふ御答でありました、無論『ベンゾール』の重大なることは、商工大臣も御承知であらうと思ひますが、併ながら是は普通に所謂経済統制、産業の開發、或は資金關係、對外經濟の關係と、斯う云ふ普通なものと一緒に考へられることは私は望まぬのであります、無論同一の性質のものではありませんけれども、今『ベンゾール』の不足と云ふことに付ては先刻も申述べました通り、此統計の示す所に依つて是は此時局に對して、特別に切離しての御考慮になつて然るべきものと存するのでありますから、さう云ふ御考慮の下に特別に一つ『ベンゾール』の回收、又回收するには企業家に對して國家補償と云ふことも、此非常時に際して御考を願ひたい、斯う思ふのであります、概要申述べました要點を以ちまして、私の質問を打ち切ります

石油政策を樹てよ

男爵岩倉道俱君

(二月二十日貴族院豫算委員會に於て)

男爵岩倉道俱君 私は燃料の問題に付きまして陸軍並に海軍の當局に質疑を致したいと思ひます、昨日も坂本男爵から述べられました如くに、油の問題と云ふものは、第四十議會に副島伯爵が貴族院に於て聲を擧げられました、大正十四年に海軍次官を會長とする石油調査會なるものが産れまして、其後五十一議會に於て石油の國策を樹立すると云ふ希望決議が行はれて、其結果燃料審議會が産れまして、さうして多數の權威者並に貴衆兩院の議員を集めて非常な慎重な調査をせられました結果、昭和三年に答申書が出たのであります、大體七項に互る有力なる答申書が出たと私は思つて居ります、併ながら不幸にして金が無いと云ふやうな關係で所謂燃料調査會と云ふものは徒に、其關係調査委員の努力が抽斗の中に埋められて居ると云ふやうな狀況であると私は思ひます、それで殆ど石油問題と云ふものは、故の根本正君の禁酒法案のやうに、年申行事として貴族院に於て行はれ、又政府の答辯も何時でも御定まりのどうも金が無いから結局仕様がなないと云ふやうな答辯があつたと思ひます、併ながら石油の問題は今日國際聯盟等の關係に於きまして、もう土壇場には來たものと思ひます、所謂陸海軍の充實した軍備を背景として、非常に我國力の充實して強い外交の出來ますことは喜びますが、果して經濟封鎖に對して少しも心配はないのであらうかどうかと云ふ點になりますと、私は甚だ心配で十分に御伺ひしなければならぬと思ふのであります、私は所謂一大陸軍國と言

はれる佛蘭西がどうして居るか、それから一滴も石油のない英國が石油をどうして居るかと思ふ、此問題を提げて陸軍當局並に海軍の御當局の打明けた御話を承つて見たいと思ひます、歐洲大戰に於きまして獨逸が取りました作戰の跡を尋ねますと、殆ど鐵と石炭と油であります、何が故に遠く『ルーマニア』に這入つたかと云へば同盟國には『ガリシヤ』の油田があるばかり、獨逸にはもうそんなに油がない、茲に於て遠く『ルーマニア』に押込んだのであります、全く其の油の爲めの戰であつたと私は思ひます、それで佛蘭西が一番油で苦んだ結果、佛蘭西が一番油に於て國家管理に於て、私は成功して居ると思ひます、英吉利は千九百十年位から目覺めた政治家がありまして、早く石炭を油に乘換へました結果、今日では殆ど世界到る所に英國の油田がありまして、元と目の照る所英國の軍艦旗を見ざる所なしと言つたと同じやうな狀況に私は英吉利はあると思ひます、佛蘭西は此英吉利の石油政策に立遅れまして、歐洲大戰に於て非常な苦みをしたのであります、それで歐洲大戰に於きまして、佛蘭西が初めはどうも自分の國に油が無いと云ふので、十の石油の輸入會社を聯合しまして、之に依つて石油の補充をすれば十分であると云ふ立前で歐洲大戰に這入りました所が意外なる重油輕油の恐慌に遭ひまして、千九百十七年の一月には此十の石油の輸入會社が、もう我々の手に於て將來石油を補充するとは殆ど不可能である、翌年の千九百十八年の三月にはもう我々の『タンク』には殆ど油がないと

云ふ状態に立至りまして、非常な恐慌を佛蘭西の陸軍がしたのである、其結果であります、有名な『クレマンソー』が亞米利加の大統領の『ウイルソン』に對して、何とも石油の問題で詰つて仕様がな、此急をどうか亞米利加の油で救つて貰ひたいと云ふ、所謂有名な石油哀願電報と云ふものが『クレマンソー』から『ウイルソン』に飛びました結果、亞米利加が總ての石油會社を動員しまして此佛蘭西の急を救ひました結果、漸く佛蘭西が獨逸に對して對抗することが出来たと云ふ状態であつたと思ひます、佛蘭西は、此歐洲大戰に於ける非常なる苦痛の結果、悉く英吉利に立遅れたが、どうしても是はやらなければいかぬと云ふ結果、佛蘭西が執りました政策は、一つは獨逸から『フェッセルブローン』の油田を取返す、同時に『メソポタミヤ』の油田に割込んで、之に二割八分の權利を英吉利と拮抗して取つた、同時に又國內に於ては石油の國家管理をして、此波斯の油が確か千九百三十五年にならぬと、『パイプ・ライン』が地中海の沿岸に出ませぬので、それまでの間は國家の管理に於て佛蘭西の油を調節し、さうして千九百三十五年には所謂波斯の油が『パイプ・ライン』が海岸に出たならば、それで佛蘭西の油を解決する、非常に賢明の策を執つて居るのであります、それで佛蘭西の國家管理が如何なる程度のものであるかと云ふことを暫く述べて見ますと、佛蘭西の政策の著眼點は、自分の國に石油が無いから原油を第一輸入する、さうして此原油には相當に租税をかける、さうして國內

に有力なる製油所を設けて、國內に於て原油を重油と輕油に分ける、さうして此國內の所謂石油業者に對して、國家の法律を以て常時一定の分量を責任を以て貯藏させる、一朝軍事危急の際は先以て此油を以て立つ、非常なる周到なる私意があると思ふのであります、同時に此内地の製油業者に對しては外國の資本であると内地の資本であるとを問はず、必ず一定の佛蘭西人の技師と、佛蘭西人の勞働者を使用する、之に要する鐵其他の材料は必ず佛蘭西の國產品を使へ、所謂非常に至れり、盡せりの國家管理をして居ると私は思ふのであります、此結果が果して石油と云ふ商品を佛蘭西の政府が獨占して、所謂迷惑を掛けて居ると云ふことがあるかと云ふと、石油業者が常に一定量を政府の命に依つて保持して居ることは、非常なる石油の相場の高下に對して自然と商業上の安全辯になつて居る、決して當業者も之を迷惑として居らないやうであります、斯の如きことは豫算が無くても或程度まで、所謂國家の機關が協力してなさいますれば、出来ることだらうと思ふさうして此佛蘭西の又關稅政策と云ふものが、外國から這入つて来る製油に對しては、非常な重税を課して居ります、原油に對しては内地の小さな……五十萬『パール』ばかりしか出ない獨逸から取つた油田を保護する爲に、製油程の高い關稅はかけて居りませぬが、内地に這入りました原油を製油所から精製しまして輕油にして出します時には、外から這入る輕油に對して確か四十『パーセント』位安い税金をかけて居

ると思ふ、原油を輸入した業者が原油の儘出す時には高い税をかけて居る、確か百立方米に付て元の關稅は十『フラン』であります、新しい關稅に四十四『フラン』、それから原油に對しましては百『キロ』に對しまして一般關稅が百七十七『フラン』、揮發油に對しては、百立方米に對して百三十二『フラン』、それから低い方の關稅は六十二『フラン』……原油が六十二『フラン』、輕油が四十四『フラン』、外國の原油を輸入しまして精製した輕油なんかには此輕い方の關稅をかけて居る、原油を輸入して原油の儘で製油所へ賣る時には、重い關稅をかけると云ふことで、非常に内地の僅かな油を保護して、同時に外國の油が所謂『ダンピング』をして來て、佛蘭西の市場を亂すと云ふことを防いで居る、露西亞の如きは非常な力を以て石油に力を注ぎまして、國外に向つて、確か亞米利加に向つて露西亞の油を輸出を試みて、亞米利加の市場を攪亂しようとしたやうな次第で、日本でも松方さんが油を輸入すると云ふやうなことが、非常な渦巻を石油界に現在起して居ると聞いて居ります、で斯の如く殆ど世界の各國が擧げて國家管理で石油を重大視して居ります間に、我日本だけが石油の統制がないと云ふことは、私は非常に是は朝野とも石油に對する認識が不足の私は問題だと思ふ、嘗に政府のみならず、是は朝野が此認識不足なので、油と云ふものは油屋から買へば宜いと云ふやうなる、單純なる誤謬に陥つて居るものと思ひます、近く私の怖ろしい經驗としましては、大正十二年の關東大震災の時に殆

ど東海道の震災地の自動車と云ふものは鼻を竝べて動かない、却つて人力車だの手車が活躍して居つて、自動車は何も役に立たない、是は私は電氣が止つたやうなもので、油のない自動車、油のない飛行機と云ふものは實に私は怖るべき結果を起すと思ふのであります、併ながら國民は、自動車は始終動くもの、飛行機は始終飛ぶものと思つて居りますが、一旦是が動けない飛べないと思ふ場面を想像すると、非常に私は怖ろしいことであると思ひます、最近私は寡聞であります、上海に於て、上海戦争の末期に於て『ベンゾール』が心細くなつて來た、輕油も心細くなつて來たと云ふ時に、某國の或會社に對して輕油の供給を申込んだ時に、是が支那に對する援助であるか、日本に對する憎悪であるか、之が供給を斷つたと云ふことを私は聞いて居ります、それで私は今日日本に如何なる比例に於て外國から油が這入つて居るかと思ふと、殆ど他國の領分から這入つて來て居る、二割までは内地で出來ますが、八割は輸入の油である、其油の中最も主なもの、是は海軍も這入つて居ります、民間の百八十萬噸の分類、北米合衆國が六十六『パーセント』、蘭領印度から十三『パーセント』、是は結局英吉利でございます、それで北樺太が十八『パーセント』英領『ホルネオ』から八『パーセント』、殆ど全部を或勢力から此油を買つて居る、萬一日本が支那に於て事を構へまして油が無くなつた時には『クレマシソー』でなくとも何處に石油の援助を求めることが出来るかと思ひますと、甚だ寒心に堪へぬと思ふ

ので、それで陸軍に於かれましては内地に於ける某々會社の如き相當の、外國の資本に於ても相當の『タンク』が澤山あるやうに思つて居ります、之が如何なる程度に日本に這入つて居りますか、又日本人自身の『タンク』、又日本人の製油所がどの位の能力を持つて居るか、此御調べがありましたら伺ひたいと思ひます、さうして將來、私はまあ海軍の方は多少伺つて居りますが、陸軍の方の油をどうなさるか、御溜めになるのであるか、併し輕油と云ふものはさう多量に貯蓄出來ないと云ふと私は聽いて居ります、それで、此佛蘭西の例の如きは、さう豫算がなくとも、國家の權力でなし得ることではないかと思ふ、さうして同時に此國家管理に依りまして生まれた關稅の收益なり、其他の收益を以て非常に金の要る試掘、一本三、四十萬圓も掛る試掘の方にお向けになつたならば、所謂一石二鳥の、茲に結果が生まれはしないかと思ふ、是是非此則を佛蘭西に取つて、一日も早く日本に於ても石油の管理と統制、同時に製油所の保護監督と云ふことが最も焦眉の急で、議論をして居る時でないと思ひます、此點に付て陸軍大臣の御所見を承はりたいと思ひます、海軍に關しまする限りは、非常に海軍が御努力を以て、現在外國から油を溜めておいでになる、さうして徳山に於て有力なる製油所を持つて居られる、一旦事ある場合には此貯藏された燃料を以て相當に一年、或は、二年賄ひの出來るやうな御説明を承はつて居りますが、どうも私甚だそれだけでは満足出來ないと思ふ、で民間では海軍が非

常に老大な油を持つておいでになるものと思ひ、愈々經濟封鎖をされて油がなくなつたならば、我々『オイル・バーナー』で仕事をして居る者は海軍から戴いて仕事をやりますから私の會社は大丈夫ですと云ふやうなことを言つて居る、又漁業會社、或は『ディーゼル・エンジン』で動いて居るものは、一旦石油が無くなつたらどうするかと思ふと、海軍が澤山持つて居るから、海軍から戴いてやります、殆ど皆海軍の油を當てにして居るやうな實情である、試みに百八十萬噸の輸入の油、此内容を調べて見ますと、重油が六十萬噸、昭和六年度迄の調べです、機械油が十六萬噸、輕油が十七萬七千噸、燈油が九萬三千噸、揮發油が四十五萬噸、是等の輸入が萬一絶えました時にはどう云ふ現象が起りますかと云ふと、揮發油の五十四萬噸が這入らなければ、先以て自動車、乗合自動車或は、飛行機所謂自動車工業、護謨工業、こんなものは忽ち行詰つてしまつてしまふ、それから燈油は臺所で使つたり、『ストーヴ』で使つたり、輕油は漁船だとか、『トロール』とか、其他農業用の發動機、こんなものは皆動かなくなる、動かなくなれば、若し有事の場合に、斯う云ふものが動かなければ、結局海軍の方に御差支が起ると思ふ、いやでも海軍の油を少くも『オイル・バーナー』の軍需工業に對しては分けてやらなければならぬやうな場面が、必ず私は出來ると思ふ、で私は海軍が非常なる優秀な技術官を持たしまして、世界一の軍艦を造られて居ることに對しては、非常なる感謝と心強さを感じますものであります

併ながら之を英國の艦隊、亞米利加に較べて見ますると、甚だ卑近な例がありますが、膳部も器も宜いが、御馳走も宜い、併ながら肝心の御飯は一膳茶碗に盛つたきりしか無い、某國の海軍は膳部も汚いし、皿小鉢も悪いし、御馳走も悪いか知らぬが、大きな御櫃が幾つもくつ附いて居る、何杯もお代りが出来る、優秀な日本の海軍は一膳の盛切飯で戦さをしなければならぬと云ふことは、私は間違ひない事實だと思ふ、何故にもう少し此油を探ることに付て御考慮を煩はさないと云ふことを私は遺憾に實は思ふ、佛蘭西の如きは歐洲大戰の結果非常に苦みまして、殆ど此波斯の油の爭奪に付ては英國と血の出るやうな争ひを致しました結果、波斯の油を二割八分五厘と云ふものを獲得したのであります、是は千九百三十五年には全部佛蘭西の國內の油を充實する、日本も歐洲大戰に於て驅逐艦或は濠洲艦隊の護衛其他、歐洲大戰に貢獻しました結果は、確か林權助大使が倫敦に居られた時に、日本も波斯の油の分前を取れと云ふ電信を英國の大使館にやりました所が、どうも『メソポタミヤ』は何處だと云ふやうなことでお仕舞になつたと云ふことを聞いて居る、即ち石油の問題と云ふものは、認識不足の最たるものであると思ふ、聯盟が滿洲國を認識しない如く、同じ比例に於て日本の朝野は石油を認識して居らぬと思ふ、それで私は殊に英吉利邊のえらいことは『チャーチル』と云ふ人が大佐時代から波斯邊へ行きまして、和蘭の或船の一萬五千哩も走るやつを見た、其當時から斷然英吉利は石炭

なんかに戀著してはいかない、必ず油で船を全部動かすことにしようと思ふので、千九百十年位からやつて居つたと云ふことである、殊に歐洲大戰の前に於て英吉利人の波斯に行つて油を掘つて居りましたものが油の出る所まで漕ぎ付けましたけれども、『バイプ・ライン』其他に常に金が要ると云ふ結果、波斯政府を動かしまして、英吉利と波斯で以て『バイプ・ライン』其他の金を作つて、之を完全な油田として海岸まで持つて來ようと云ふことを提議しました結果、『チャーチル』海軍大臣に對して、今でなければ取れない、今ならば所謂五十一『パーセント』の『チャンス』が握られると云ふことを從憑しました結果、『チャーチル』は海軍大臣として公の名に於て此五十一『パーセント』四千萬磅と云ふ金を出す契約を『アングロ・ペルシャ』の會社に自分が責任者として契約をした、さうして其次の議會に出しました所が、果して議會に於てやましくなりまして、そんなに大きな金を石油に入れないでも宜いぢやないか、と云ふ議論が起りました時に、外相の『グレート』が其一黨を率きて極力之を支持しました、所謂責任支出を認めまして、それが出來ると同時に、一週間ばかりして歐洲大戰が勃發したのである、殆ど所謂規則以外の仕事をやつて居る、丁度日露戰爭の前に和田維四郎君、我々の同僚でありましたが、如何に熔鑛爐の必要を説いても、上司が分らない、併ながら刻々日露の戰爭の危機は迫る、結果は在官の名に於て、外國に熔鑛爐を注文したそれで八幡製鐵所が出來て、漸く日露戰爭が出

來た、是はまあ此結果和田維四郎君は確か官吏として懲戒免官になつて、勳章まで褫奪されたと思ひます、併しながら是は全く日露戰爭に、所謂製鐵業方面に於ける唯一の功勞者であり、後日矢張り貴族院議員に勅選せられて、我々の同僚として、貴族院に長く居られたと思ひます、私は各國の例を見まして、支那を除いては全部殆ど石油の政策は確立して居る、日本だけである、どの國も多くは陸海軍が背負つて立つて居ると云ふ意氣込に依つて政策は出來て居ると思ふ、石油政策が出來て居ると思ふ、日本の海軍に於ては海軍が獨りでやつておいでになるが、此前の海軍大臣の御答辯では、商工省に御願して石油の問題をやつて居ると云ふ風な御話でありますけれども、商工省と云ふものは、高橋今の大藏大臣が農商務大臣の時代に、行政整理の爲に、海外石油の調査費と云ふものを削つておしまひになつた、其後削りつ放しになつて今日に於ては海外石油調査費と云ふものはない、時偶々南洋の方の油田とか、或は波斯とか云ふ所から賣込に來ますけれども、調査の方法がない、人の遣りようがない、まあどうせ日本まで向ふから持つて來るのだから、碌な石油でないものに違ひないと云ふやうなことでおしまひになつて居る、私は少くも此内地の出來るだけの油田を開發なさると同時に、是は倍になつても知れたものである、日本の油田では却々倍にならない、少くも海外に於て佛蘭西の如く、將來當てになるやうな油を得ると云ふことに今日から手を御著けになつて……どうしても手を著けな

ければならぬことだと、私は思ひます、而して幸にして北樺太の如き、約今日では年額二十萬噸、三十萬噸を出して居る、是等は最も力を入れて、海軍に於てもう少し御努力になつたならばどうかと思ふ、確か今年度の豫算に於ては樺太試掘費に二十八萬圓か三十萬圓も出て居ると思ふ、臺灣に於ては一本三十萬圓か何か出て居る、斯の如きことでは却々私石油は出ないと思ふ、殊に北樺太の如きは所謂條約締結の其時に石油のことを知らなかつた爲に、悉く露西亞の網に掛つてしまひまして、碁盤の目の如く一つ置きに油田を配置された、試掘は十年間、十年間日本が試掘して出て、油田となつたものだけは四十五年間日本にやらう、其代り十年間に試掘しなかつたならば、更地は四年後の昭和十一年十一月には全部御破算で零になつてしまふ、結局日本のものぢやなくなる、斯の如く折角取れました尼港事件の代償である北樺太の油田も、すつかり露西亞の良に掛つて、所謂中味は骨抜きになつて居る、是も少くも昭和十一年迄は日本の安全な手の中にある、其間に於て出来るだけ此樺太の油と云ふものを、御掘りになることは、私海軍としては大事なことぢやないかと思ふ、僅に一本位の井戸を、臺灣と北樺太に於て掘つて是で石油を當てようなんて云ふことは、殆ど私は大砲一發打つて標的に當てようと思ふのと同じだらうと思ふ、前を打ち、後を撃ち、段々狭めて来て、終ひに標的に當る、一發撃つては却々どんな名人でも其標的に當てることが私は出来ないと思ふ、寧ろ臺灣に於ける試掘費

なんかは樺太の方に持つて行つて、一本でも餘計に樺太の方を御掘りになるのが私は本當ぢやないかと思ふ、出来得べくんば、樺太の石油の如きは昭和十一年迄に少くも現在の組織を改めて、本當に國家自身の事業として出来るだけの油を御採りになると云ふことが、私は大事なことぢやないかと思ひます、昭和十一年に於てはもう零になる、誠に其殘念な契約を露西亞としむものと思ふ、私は只今外務大臣がおいでになるならば伺ひたいんだが、各國の大使館に陸軍と海軍との「アツタツシエー」と云ふものがあり是が却々有力な情報を常に本國に齎して優良なる働きをして居る、幸に外務省が各地に大使館なり領事館を持つておいでになる、之に所謂公務官として石油、石炭、或は鐵、斯う云ふやうな重要なものに關する一つの「アツタツシエー」を御附けになつたらどうかと思ふ、又外務省の有力なる出先きの人に於ても、自ら其必要を認めて、此方に稟議して居る人もあると聞いて居ります、それで獨逸が山東を領有します前には三年間「リヒトホーヘン」と云ふ人が彼處に常住して、山東の内容を調べて居つた、此人は後日男爵になつて居ります、それで學者を利用してもう少し不斷から調査をして置いて、いざ事があつたら善處すると云ふ用意が「ゼロ」だと私は思ふので、何とかして今からでも佛蘭西の眞似をして、湧く石油を手に入れる、聞くが如くんば獨逸の「ルーマニヤ」に這入りました此眼の前の例を見まして、蘭領と言はず、英領と言はず、南洋の油田のある所は一朝事があれば、必ず日

本がやつて来る、其時に「タンク」を壊して、井戸を破壊して逃げるのだと現に言うて居るさうであります、恐くは是は私はいざ某國と戦さとなつたら、必ず起るべき現象だらうと思つて居ります、却々溜めた油だけで、半年か一年で戦さが片著けば宜いけれども、片が著かない場合には背に腹は代へられないから、獨逸の轍を履んで湧く油を使用すると云ふことは、もう必ず起る問題だと私は思ふ、今までは私共も年中の行事として石油問題の質問、石油問題の答辯と云ふものを黙つて承つて居りましたが、愈々今日に至つた以上は、もう石油の問題をさう打ちやらかして置く譯に私は行かぬと思ふ、私は金がなくとも出来る、佛蘭西の國家統制並に此海軍に於かれましては、英吉利がやつたやうに所謂法律違反をやつても、大臣がやると云ふやうな意氣込に於て、海軍が石油の問題を私は背負つて御立ちになるが宜いと思ふ、却々商工省あたりから、豫算を請求しましても、大藏省ぢや通らないと云ふことが、年來の事實である、どうしても、陸海軍國防關係の問題になりませぬと、大藏省は却々巾着の口を開けない、私は國際聯盟を脱退するとしても、同時に油の問題に對する陸海軍の御用意並に將來の御抱負を承りたいと思ひます

委員長(伯爵柳澤保惠君)

速記を止めて

(速記中止)

貴族院の希望決議

貴族院は液體燃料の問題に關し、坂本俊篤男の提議により陸海軍豫算審議に附帶して左の希望決議を可決した

希望決議

石油の自給自足は軍事上に將た産業上に國家必須の急務に屬するに現下内地の産額は貧弱にして其の需用を充たすこと酷た遠きものあるは憂慮に堪へず政府は宜しく速に内地は勿論汎く我勢力範圍に存在する石油の採掘に努むると同時に進んで石炭液化事業を促進し以て此の時局に對應するの策を講せられんことを希望す

拓務省は無力

沖島鎌三君の質問

(二月二十日衆議院委員會で)

沖島鎌三君 植民地の行政の統一刷新を圖る爲には到底以前のやうに内閣に屬する一事務局位では足りない、獨立の一省を設けて、之に當らなければならぬと云ふことは多年の輿論である、それが爲に田中内閣の時に現在の拓務省を設置されました、然るに一昨年若槻内閣の行政整理に際しまして、此拓務省を廢止されることに決定した、若し一昨年十二月の政變がなけ

れば、拓務省は廢止されたのである、所が此政變の爲に拓務省は存置されることになりましたが、民政黨内閣の政策に依つて、必要なしとせられ、政友會の政策に依つて、漸く存置復活されて居る拓務省であります、民政黨出身の永井さんが國務大臣になられるとは、私は不都合と云ふ風には申上げませぬが、一寸板に付かないやうな感がするのであります、又拓務大臣としても十分に力が入らぬやうな點がありはせぬかと云ふやうなことを聊か懸念するのであります、それを私は只今論議するものではありません、唯伺つて置きたいことは、永井拓相は現在拓務省に御出になりました、拓務省は植民地統治上必要ありと信じて御出になりますか、換言すれば一昨年民政黨の拓務省廢止の處置は、當を得て居ると御考へになるかどうか、之を御尋する、再び民政黨内閣が實現する場合に於ては、拓務省は廢止されるだらうと云ふ不安を以て、優秀なる官吏は拓務省に奉職するのを避ける、現在拓務省に居る人でも、機會があれば他に轉じようと思ふやうな希望を持つて居ると云ふことを私は聞くのであります、若しそれが事實でありますれば、植民地の統治上是は由々しき一大事であると思ひます、でありますから永井拓相の意思を聽いて他日さう云ふ場合に、如何なる態度を執られるかと云ふことを承つて置きたいと思ひます

永井國務大臣 拓務省の必要の有無に付きましては、沖島君が御存じの通り從來幾多の内閣に依つて、幾多の議論が行はれて、甚し

い時には廢止されたことがございます、又將に廢止せんとしたこともあつたことは御話の通りであります、私は拓務省は日本の海外政策の爲に、經濟政策の爲に、是非存置しなければならぬと云ふことを多年の主張として居りました、民政黨に於きましても、之を廢止した方が行政整理の大局から利益があると云ふ議論のありました時にも、拓務省は存置しなければならぬ、それは今日日本が外地を統治するだけでなく、日本が海外に世界政策を行ふ上からも、中樞機關として無くてはならぬと云ふことを、主張しまして、私は微力でありましたが、矢張黨内にも其同志が随分澤山あつたのであります、それ等の人々と共に存置に努力したやうな次第でありまして、殊に今日は滿洲に對する經營が日本の經濟的存立と、不可分の關係の關係を有つて來たことを、國民は既に自覺して居ると思ひます、さう云ふやうな見地から考へましても、拓務省の必要が、益々其大を加へて來たと考へて居る次第でございます

沖島委員 私は拓務大臣の御答辯で、非常に満足して居る者であります、今日の拓務大臣の御答辯に依りまして、植民地關係者竝に拓務省關係の官吏諸君は、大に安心して力を入れまして、今後植民地の開拓に努力することと思ひます

續いて御尋して置きたいと思ひますとは、先般豫算總會に於きまして、同僚の喜多君が拓務省は無能であると云ふことを喝破致しましたが、是は獨り喜多君のみの見解ではない、

最近此植民地の在住者竝に植民地關係者に於きまして、此拓務省の無力と云ふことに付て、盛に非難怨嗟の聲を聞くのであります、拓務省は設置されてまだ日が浅いのでありますから、左様に大きな治績を擧げることの出来ないのは是は當然であります、又此拓務省に對する非難の全部を、現在の永井拓務大臣に責を負はせると云ふことは是亦當を得て居るものとは思はなけれども、最近の此非難の事に付きましては、特に永井拓務大臣は、相當の關心を御持ちになる必要あります、それは何であるかと申しますと、昨年六十二議會の時局匡救の決議に於きまして、現政府は兎にも角にも、此時局匡救の事業に對しまして努力致しました、經濟界が不況で一般國民が生活に困つて居ると云ふとは、獨り内地ばかりではございませぬ、植民地も同様内地以上に經濟界の影響を蒙つて苦んで居る、此時局匡救の事が決しますや、各植民地に於きましては、内地以上に時局匡救に關する施設が行はれることを期待致して居つたのであります、然るに六十三議會に於きます豫算、竝に昭和八年度の豫算を見ますと、甚だ是は期待が外れました、土木事業なるものは、大體に於て内地には行渡つて居る、植民地は建設事業をやりますから、不斷でも土木事業は内地より多いのが常でありますが、此機會に際して却て内地よりも、土木事業が少いと云ふやうな實情に接しまして、非常に失望して居るのであります、そこで——是は甚だ失禮かも知れませぬが——其實を拓務大臣に負はせまして、永井拓

務大臣は雄辯家である、演説は旨いけれども、實際政治をやつたら旨くないやないかと云ふやうなことを言ふ人がある、其批評が當つて居るか、どうか、私共は知りませぬが、斯様に非難怨嗟の聲を放つて居るのでありますから、過去つたことは仕方がありませんけれども、昭和九年度に當りましては、此取返しの意味と申しますか、決して口先ばかりぢやないと云ふ實力を御示しになる意味に於きまして、十分の施設をして戴きたいそれを實現さして戴きたいと云ふことを希望する、之に付て如何なる御覺悟がございますか、承りたいのであります

永井國務大臣 拓務省の内容に付て、沖島君から色々御批判がありまして、私個人に關するとは、十分に謹聴致して置きますが、拓務省關係の官吏は内地に居ります者も、外地に居ります者も、私の承知致して居ります限りに於ては能く其責任を重んじまして、非常に精勵して呉れて居るのであります、出来るだけ各自奉公の誠意を捧げたいと云ふ精神で居るのでありますから、其點は十分御諒承を得たいと思ひます、拓務省關係の時局匡救に關する事業が、特に必要であると云ふ御意見は、是は全く私も同感に思ひます、拓務省の方では、此度の時局の重要性に顧みまして、大體に於きまして、一方では内地と外地とを通じまして、一つの經濟單位として、其處に産業の勃興を圖ると云ふ方針を立て、それに基いて各種の經營を致すこととして居るのであります、それから又時局匡救を目的とする土木事業の如きものも、是は財

政上の關係に於て、許す限り出来るだけ努力致して居る積りであります、現に今年度の豫算に於て御協賛を願ひました分だけでも、若し御協賛を願ふことが出来れば、朝鮮に於ては時局匡救の土木事業に依つて、約八百萬人の延人員が勞働の機會を得ることになるのでございす、又臺灣の方は約百六十萬の者が勞働の機會

議會の控室から(二)

「不良の子か、親の乳か」

——前の拓務政務官の加藤久米四郎さんが高級室に現れる、堤次官や木村參與官が加藤代議士を捉へて

「君が不良の子供を澤山産んで、産みつばなして行つて終つたので、我々は其を育てるに就て種々の問題ばかり起つて困る」とやると

——加藤代議士が「イヤ其は違ふ、良い子を産んで行つたのだが、育ての親の乳が悪いのだ……それでも貰ひ子殺しの仲間に入らない丈けが感心」だとさ

を與へられ、樺太に於きましても約八十萬の者が勞働の機會を與へられると云ふことになるのでございまして、此の方面に於ては、沖島君と私共同感でありまして、出来るだけ時局匡救の目的に副ふやうにしたいと努力致して居るのでございす、同時に又内地に於きましても、包

擁することが出来ず、外地に於ても生活の出来ないやうな者で、已むを得ず外國に出て行く云ふやうな者に對しても、大體に於きまして、第一は南米に移住の出来るやうに、努力致しまして、是は今年は船腹一杯で、而も船室も改造させて、收容の出来るだけ今日收容させて南米に送る計畫を立て、居るのであります、又南米の方面に對しまして、栽培業、それから漁業と云ふやうなものを中心にして出来るだけ

移植民の保護政策

人種的に虐待壓迫を受く
在外移民を保護せよ

第二世の教育

子爵曾我祐邦君

(二月十八日貴族院豫算委員會)

委員長(伯爵柳澤保惠君) 是より豫算委員會を開きます、曾我子爵

子爵曾我祐邦君 拓務大臣が御見えになりませぬが、政府委員が御出席になつて居りませうか

委員長(伯爵柳澤保惠君) 見えて居ります子爵曾我祐邦君 私に主として拓務大臣に御聞き致したいと思ふのでございます、今回

移民を出すやうに努力致して居ります、それから第三は滿洲の方面に對して、移民を送ると云ふやうに大體區劃を三區劃に分ちまして、其方面の發展に付て努力致して居るのであります、沖島君の御話の時局匡救の目的に副ひ、出来るだけ生活の安定を與へると云ふとに付て、及ばずながら財政上の關係を考慮して、其範圍内に於て出来るだけ努力致して居る次第であります

の拓務省の豫算を拜見いたしますと、時局匡救に關する經費の外に、主なるものは移植民保護獎勵に關する經費、海外拓殖事業費等の獎勵に關する經費でございます、而して此豫算の内容の御説明を過日承はりますと、大變所謂移植民に力を注いで居られ、其植民を送るに對しては主に南米でございますが、其者の國から『ブラジル』なら『ブラジル』南米なら南米に行く間の旅費とか何とかに相當な補助を與へて居られる金額でございますやうに承はります、私の伺はむと欲するものは二點でございます、一は移民の待遇と云ふと、一は移民の子弟の教育と云ふ此二つでございます、先きに承はりたいのは、移民の待遇でございますが、昨日

『ラヂオ』の放送に依りますれば、一昨日亞米利加丸に依つて又一千數百人の移民が南米に立つたと云ふとであります、本年は既に三回、其數約四千、昨年に於て一萬數千の移民が送られて居るのであります、移民を送ると云ふことのみが必しも能ではなからうと思ふ、苟くも帝國の移民を外國に送られた先きの移民が如何なる待遇を受けて居るか云ふことも、十分考慮しなければならぬ問題であらうと思ふ、私共の耳に這入ります所の情報に依りますと、送られて居る所の移民、主に南米『ブラジル』でございますが、必しも彼等が期待する所の幸福を始終持つて居らないと云ふことであるのみならず、甚しきは、相當の虐待を受けて居るやに我々は屢々聞くのであります、さう云ふとは如何なるものであらうかと云ふ疑問でございます、曾て……事實は或は多少間違つて居るかも知れませぬが、數年前『ムツソリニ』氏が伊太利の移民が南米に於て虐待を受けると云ふことに於いて、伊太利の移民を送らないと云ふことを非常に抗議を外交的に申込んだと云ふことを聞いて居ります、我々の同胞が南米に送られて居る所の移民が……随分色々なことを聞きます、一方からは其成功者のみを集めたる報告の如きものも、色々の方面から受けますが、又一方からは非常なる虐待を受けて居るやうなことも、聞くのでございます、其點に付て拓務省及外務省はどう云ふ風に見て居られるか、現在の移民を送ると云ふことに於ては成功しつゝあられるやうであります、行つた先きの移民が果して相當

の幸福と何を受けて居るものであるやと云ふ點を承りたいのでございます、もう一つは………序でに直ちに申し上げようと思ひますが、もう一つは海外移民に於きます所の子弟の教育でございます、或は南洋に、或は南米に、或は米國に我國の移民の行つて居るものは數十年來非常なる奮闘と努力とを以て、彼等は此基礎を築き上げて居るのであります、然るに其子弟の教育と云ふことは随分困難な立場に彼等は居るのである、植民地の通弊として此事は免れませぬけれども、實に氣の毒な境遇にあるのが多々あるのを承ります、假に只今あります所の私の調べでありますから間違つて居るかも知れませぬが、學校の數を申しますと、南洋に於て學校が十三、其生徒は千五百九十九名、『ペルー』に於きまして二十三、生徒は千九百三十九名、『アルゼンチン』に於て學校が一つ、生徒が九十九名、『メキシコ』に於きまして、學校が三つ、生徒が百十九、『ブラジル』に於きましては學校が百六十九、生徒は八千七百十五名、米本國に於きまして學校が二百五十、生徒が二萬二千、布哇に於きまして百六十五、生徒が三萬八千餘でございます、さうして布哇には中等學校に相當するものが九つございまして、生徒が千五百名、其他加奈陀に於て學校が三十六、生徒が三千、中等學校が九つ、生徒が千五百、斯かる風に學校と云ふものは、小學程度でございますが、而して此學校と云ふものは主に父兄の要求に依つて、さうして作られたる所のものであります、或るものは宗教家の力に依つてなされたものも

ございます、又政府の或る程度迄の補助もある所もあるやうでございますが、數十年來奮闘努力して、其基礎を其植民地の一部に築き上げ、相當の敬意を拂はれるやうになつて、地盤が出来た所の我々同胞の者が、子弟の教育には非常な苦しいことに直面して居るのであります、所謂過去數千年來流れ流れて來て居る所の民族的の自覺を永遠に保存し、且發展せしめむとする所の苦心、之を言換へますれば我が陛下の赤子であると云ふ所の光榮と、日本帝國の臣民であると云ふ所の名譽を、此自分の第二世に向つて如何に注がむとすると云ふ所の、苦心の非常に涙ぐましいものが此處にあるのであります、而して此成功者、植民地に於ける成功者、是が折角大なる事業を其土地に於て信用と實力の上に得ましても、どうも子弟の教育を今申上げます所の日本精神、大和魂を自分の第二世に注がむとするに當つて、其注ぐことの非常に困難であると云ふことに直面するが爲に、自分の事業を抛つて歸らなければならぬやうな者もありまゝす、又翻つて此生徒たる所の子供、第二世、是等の心理状態と云ふものを見ますと、彼等は、『アングロサクソン』の植民地に於きます者は、殊に『アングロサクソン』特有の種類の優越感に始終壓迫せられ、恰も半野蠻人の如き取扱を受け或は、子供の間に於ても侮辱せらるゝと云ふやうな場面に直面して、一方からは又彼等は土人の間に處して、土人と共に學校に通ふと云ふやうなことも、父兄としては許し難い事情の下に、………此第二世の頭には、一種我々が内地

に於て見る所の青年と違つた所の一種の心理状態が残りはせぬかと思ふのであります、此事は非常に小さな問題のやうでございますが、今日の如く、舉國一致世界を舞臺にして發展せむとする所の、我が日本人民の活動の上には、實に大なる結果を將來齎すものだと思ふのであります、而して又此子供をして、振返つて自分の自國、即ち外國を通して見た所の自國と云ふものに、直面せしむると云ふことは、又非常に必要なことである、昨年の米國に開かれました『オリムピック』の際に於きまして、新聞紙上の傳ふる所に依りますと、彼等多くの第二世は、今日迄日本と云ふものゝ觀念に付て、一種の非常に間違つたる考へいぢけたる考を持つて居る、然るに『オリムピック』に當つて、日本選手の奮闘努力に依つて斯かる名譽を得たと云ふことに直面して、初めて日本の偉大なることを自覺し、且又其臣民であるの光榮を深く喜んだと云ふことでありました、誠に斯くあるべきことだと思ふのであります、此氣分、此精神を植民地に於ける所の第二世に續けしめて、我が數千年來の民族の誇を失はないやうにせしめると云ふことが、將來各地に於ける日本人の發展する事業の上に、大なる結果を齎す、又勢力を貯へるものだとは私は信ずるのであります、此點に付て多くの豫算を取つて御出でになるやうであります、未だ本國に於て、彼等子弟を相當に預つて教育するとか、或は學校で預かるとか、特別の教育を施すとか、云ふことをせしめると云ふ、何等の機關が無いのであります、是

は誠に遺憾なることであつて、又日本の將來の
仕事の上にも非常なる缺陷だと私は感ずるので
あります、此點に付て、拓務大臣はどう云ふ御
考を持つて居られるか、又私の只今申し上げまし
た所の事實を御同意になるや否やと云ふことを
承り、且又先に申しました二問に付きまして、
外務當局の御意見も承りたいのであります、其
御答辯如何に依りましては、更に首相の御考も
承りたいと存じて居ります

國務大臣(永井柳太郎君) 會我子爵の御
質問に御答いたしたいと存じます、會我子爵は
第一に南米殊に『ブラジル』に移住して居る我が
移民が、事實に於て幸福なる生活を營んで居る
か、どうかと云ふことを御心配下さいまして、
御質問があつたと存じます、御承知の通りに南
米殊に『ブラジル』に居ります我が移民は、今
日は約十四萬に達して居るのであります、其
内農業に従事して居ります只今會我子爵の特
に御心配になりました、種類の移民が約七割五
分を占めて居ります、即ち十萬を超えて居るの
でございます、是等の移民は大體に於きまして
自作農になる、地主になると云ふことを目的に
して出掛けて居るのであります、専ら海外興
業株式會社、海外移住組合聯合會、又は南米拓
殖會社の後援の下に事業を營んで居るのでござ
います、大體に於きまして南米の移民に對し
ましては、政府と致しましても外の地方の移民
に對するよりは特別な保護も加へて居るので
ございます、『ブラジル』に到着いたしました、
農業を營むに必要な家屋、器械、農具、食べ

物其他の必要品を買入れるに必要な資金も、
貸付けて居ります、又教育、醫療と云ふが
如き事に關しまして、出来るだけ設備を致し
て、概算いたしますと『ブラジル』に居ります
の移民は一戸平均約千三四百圓づゝの援助を受
けて居るのでございます、其結果大體に於きま
して彼等の多數は其移住の目的を遂げつゝある
のでございまして、今日は日本の移民の所有權
に屬する土地だけでも、二十四萬町歩を超える
やうになりました、併し會我子爵も御承知の通
りに、最近の世界財界の不況に伴ひまして、日
本移民が栽培して居ります珈琲が非常な値下
りになり、其他『ブラジル』の財界の不況其もの
が矢張り日本の移民の生活に反映して參りまし
て、土地を買入て地主とし生活したいと云ふ希
望で、毎年労働しつゝ得た收穫の利益の中から
年賦償還で土地を買入れる計畫を立て、居りま
する移民の中には、土地を買入れる契約をして
年賦償還を始めた途中で、其年賦償還を繼續す
ることが出来なかつた其爲に、金融業者の手に其
土地を奪はれてしまふ、折角始めかけた農業に
必要な土地を中途で外國人の手に奪ひ去られて
しまつて、其爲に多年の勞苦が水泡に歸して失
望し、中には歸國するやうな悲惨な者も出たの
でございます、そこで政府に於きまして、是
等の人々に對しましては、一時の急を救うて其
移住の目的を遂げるやうに、特別の金融の方法
を講じまして、之を援助すると云ふことに致し
て居るのでございます、今日に於きましては、
南米殊に『ブラジル』に於きまして、移民は大體

に於て安定を致して居ると思ひます、又日本の移
民に對する排斥論の如きものが、『ブラジル』邊
りの新聞にも近頃は少しづゝ現はれて來る傾向
がございまして、是等は非常に憂ふべきことであ
りますので、政府としては外務省を通じまして
出来るだけ是等の誤解を解いて、日本の農民が
平和的精神で『ブラジル』に移住をして居るの
みならず、日本の移民は二千數百年の間農業國
民として、特殊の訓練を受けて居るものであつ
て、斯の如き移民を迎へることは、移民の爲に
も幸福であり、又之を迎へる『ブラジル』の農業
の爲にも幸福であると云ふことを十分理解させ
るやうに、色々努力を致して居る次第でござい
ます、さう云ふやうなまあ特殊な一種の新聞紙
などの議論が現はれますことの外、大體に於て
『ブラジル』に於きましては、日本移民は寧ろ歡
迎されて居りまして、北米に於て會て經驗した
やうな、さう云ふ苦痛は、今日の所は少しも受
けて居らぬと思ひます、第二に海外に移住して
居る者、全體の第二世の教育に付て御心配下さ
いしましたが、是は誠に有難いことでありまして
此第二世の教育と云ふことが海外に發展して居
ります者の成敗の上にも非常な關係があり、
又只今會我子爵の御話しになつたやうに、人道
上から考へましても、重大な問題であります
のに、存外世人は今日迄此問題に冷淡であつた
のでございます、外國では植民地で成功した富
豪が色々な機關を設けまして、さうして植民地
に於ける第二世を本國に於て教育することに種
種なる努力を致して居りますが、我國に於きま

しては、さう云ふ種類の事業もまだ見るべきものが無く、曾我子爵の御話しになりました通り海外に出て居ります者は、其子弟の教育の爲に非常に苦心して居るのでございます、で曾我子爵が御話しになりましたやうに、小學校程度の教育機關は出来て居りますけれども、小學校を卒業した後、中等以上の教育を受けようとするば、どうしても本國に歸るの外なくならず、所が本國に歸らうとすれば、親は折角仕掛けた事業を抛擲して、子供の犠牲となつて、子供を連れて本國へ歸つて來なければならず、それを歸らないで置かうとすれば、子供だけを内地に送らなければならぬのでありますが、勞ひ年の行かない者だけを内地に歸すことが出来ないもので、夫婦別れをして細君だけが子供の爲に内地に歸つて來ると云ふやうな悲惨な實例は澤山あるのであります、其結果海外に孤獨の生活をして居る者は思ふやうな奮闘も出来ない、又中には孤獨の結果色々な過ちも出来まして、折角海外に出掛けた雄志を中途で沮喪せしむるやうなことが少なくないのでございます、さう云ふことの爲に、海外發展が阻害されて居ると云ふことは、非常に多いのでございますのみならず、又其子供に中等以上の教育を與へないで、小學校程度で抛つて置きますれば、只今御心配になりましたやうに、自然に日本民族獨自の精神も發揮養成さるべき機會なくして、大に發展すべき日本の國民の精神が發展する機會なくして、外國で埋もれてしまふと云ふやうなことにまつて參るのであります、種々なる意味に於て海

外に出て居ります我が移民の子弟を、内地に於て心配のないやうに教育をさせると云ふことは、非常に必要であると存じます、是は移民だけでなく、外交客の如きものでも、矢張り其苦痛を嘗めて居るのであります、或は海外に出て居ります商人、會社員と云ふが如きものにも同じ苦痛を嘗めて居るものは非常に多いのであります、海外に出て居る者の間からは、絶えざる苦痛の訴がござります、さう云ふやうな點から、政府としては只今曾我子爵の御話しになりました通り、第二世を安心して内地に送つてさうして、内地で十分に之を教育いたしまして其子供にも、内地に於て日本國民としての自覺日本國民として受くべき中等以上の教育を受けさせて、さうしてそれを再び海外に歸しまして親の仕事、父兄の仕事を繼續させると云ふことになりましますならば、堅實な海外發展の基礎が出来ると云ふやうに考へて居るのであります、是は相當大きな經費を要するのであります、そこで出来るならば外國邊りで、植民地で成功した者が爲しつゝあるやうに、海外の事に特別な理解を持つて居り、又海外に出て特別な利益を擧げて居るやうな人々が、どうか出来るだけ協力されて、さうして政府と力を合せて、斯の如き教育機關を内地に作ると云ふことに付て特別な努力をして戴きたいと思つて居ります、政府自身も出来るだけ早い機會に斯の如き海外の事に理解ある人々と協力いたしまして、此曾我子爵が御心配になつて居りますやうな特別な教育機關を興すことには努力をして見たい

と考へて居る所でございます、大體曾我子爵の御質問に對しては、政府は只今申上げたやうに考へて居る次第でございます

委員長(伯爵柳澤保惠君) 曾我子爵は宜しうございますか

子爵我曾祐邦君 外務大臣は御出になりませぬか

委員長(伯爵柳澤保惠君) 外務大臣は：

子爵我曾祐邦君 外務大臣は御出にならないやうでございますから、政府委員でも宜しうございます

政府委員(瀧正雄君) 外務大臣は後から見えましたので、曾我子爵の御質問に對する答辯は大體私から申上げて置きます、移住した人が出先きに於て虐待をされ、不便を感じて居るが、どうかと云ふ御質問に對しては、出先きのことでありますから、刻々色々な點に付て斯う云ふ點に困つて居ると云ふやうな陳情を聞きます、其都度領事を通じて、出来るだけの援助を爲し、解決方法を講じつゝあるのであります、尙ほ色々な至らざる點もあり、不平もあることと思ひますけれども、將來も努めて其點は成るべく、不便のないやうに努力をする考で居ります、それから第二の問題に付て、外務當局として特に御注意を願つて置きたい點は、拓務大臣の御話しもありましたが、在任國の教育行政、若くは其國の方針と云ふものを能く注意をして考へて置かなければならぬと思ふことであ

ります、例へて申しますれば、日本人は同化しないと云ふやうなことが、先方に悪い影響を與へると云ふことは、外務當局としては細心の注意を拂つて警戒をしなければならぬ點だと思ひます、でありますから、實例を取つて申し上げますと、御質問の中にあつたやうに『ブラジル』はどうかと云ひますれば、是は奥地に參りますと殆ど學校はありません、學校がありませんから、従つて本國式の、日本式の學校を日本人の居留民の間で經營すると云ふやうなことが多々あります、斯う云ふやうな場合には、當局としては、極力之を援助して居りますけれども、布哇であるとか、其他の點になりますと、政府が直接之に干與すると云ふことは、餘程慎まなければならぬ點があります、と申しまするのは日本人は直ぐ日本人式の教育をやると云ふやうに誤解されては、餘程國交上注意をせなければならぬ點がありますからであります、従つて拓務大臣も申されましたやうに、將來第二世の教育に對して如何に思ふかと云ふ問題は、是は御心配になり御注意を戴いた通り、どうしても閑却してはなりませんけれども、併し、政府當局として、直接に之に干與すると云ふことに付ては、只今申しましたやうな心配をせなければならぬ點がありますので、どうしても其關係者の個人、若くは團體が或る計畫を起されて、さうして日本國內に於て、出て行つて居る移民、若くは其子弟が歸つて來て教育を受けると云ふやうな機關を造られた場合には、即ち個人若くは團體に於て造られた場合には、極力之を援助す

ると云ふ方法が一番良い方法ではあるまいかと考へて居ります、政府自から率先して成るべく建國の精神を吹込むとか、日本の大和魂を維持するとか云ふやうなことに努力を致しますと、そのの半面として、直ちに在住民が在住國に同化しない方針を、日本は執りつゝあると云ふ誤解を受けますので、外務當局として苦心する所此にあります、でありますから、第二世の教育の問題は、どうしても我が國民海外發展の大問題に觸れたる、忘れてならぬ大事な點であります、其の方法に付ては、餘ほど細心の注意を拂ふ必要があると考へて居る次第でございます

子爵曾我祐邦君 私の質問に對しまして、

永井拓相は能く私の質問を御了解になつたやうに承ります、又其御返答に於きましても、私の言はむと欲する所を相當に御想像なさいますと能く親切に御答辯になりました、其感を等しくして居るものを私は見出しまして、非常に満足して居るのでございます、併ながら外務省の政府委員の御答辯は全く的を外れて居ると思ひます、のみならず、私の質問を細かく御分りにならなかつたやうに思ふのであります、私は此海外に於きます所の第二世を同化すると云ふことと云々と云ふやうなことは、少しも申して居らないのであります、我々は數千年來、我々の間に流れ流れて來て居る所の民族的精神と云ふものを、どうしても失ふことが出来ない、之を以て初めて、彼等の父兄が長き間の努力を以て、植民地に築き上げた所の力も、又勢力も、信

用も益々發展して所謂、日本民族が世界の各地に發展する所の根據を、更に一層強くするの必要ありと云ふことを言うたのでございます、何れも其國に同化する、又政府は進んで、其國民性の誤解を招いて行くと云ふやうなことをしるると云ふやうな意味でもなければ、此事をして、頂きたいと云ふのでもないであります、それで日本は……政府當局は、此心配に付てはどう云ふ風に考へて居られるか、而して永井拓相は是は非常に重要な點である、將來は何か一つ考へたいと言はれました、外務省の政府委員は單に誤解を招くことを虞れるから、うつかり手は出せない、建國的精神を彼等に説くのも悪いことではなからうけれども、餘ほど考へものであると言はんばかりに仰せられたやうに思ひます、私はまるで之に反對の質問であります、我々は此植民地に於ける所の日本人をして、どこまでも日本人たらしめよ、而して外國住民を通して祖國の偉大なることを示せ、此意味に於て私は高唱せんと欲して居るのでございます、茲に於て政府委員の仰しやいました御答辯と、私の得んと欲する所の答辯に、根本に於て大なる違ひがあると私は感じましたのでございます、只今外務大臣が御出でになりましたやうでございますから、外務大臣からどうか此第二世の教育に付て、將來は永井拓相は斯く御答辯になりましたが、矢張りさう云ふやうな御考であるかと云ふことだけでも承りたいと思ひます

政府委員(瀧正雄君) 一言申上げて置きたいと思ひますのは、私の申し上げましたこと

は、永井拓相と少しも違はぬことを申し上げた積りで居ります、只私の言葉が反面の方に多く用ゐられた爲に、誤解を下さつたやうに存じますが、どうしても第二世の教育は大切なことだと考へます、さうしてやり方に付ても永井拓相と同じやうに極力考へたいと思つて居ります、實は茲に色々な書いた數字を持つて居りますが、政府としては、斯う云ふ就學兒童の人數が是位ある、例へて見れば北米、布哇の方に七萬人位中米、南米の方に於ては一萬人位あるそれから更に南洋諸島に於ては二千人三千人位ある………二三千人あると云ふやうな就學兒童の數もある、之をどうにかして中等教育以上は、日本の内地に於て教育するやうな方針があつて欲しいと云ふ希望を持つて居る、其點に付ては同感であります、唯政府が率先してやると云ふ所にさう云ふ機微の點があると云ふことを申し上げただけで、決して其事を強く申上げる意思も何にもありません、曾我子爵の御考通り、極力援助して行きたいと云ふことは、先刻も實は申上げてありますけれども、唯一言であつたから誤解があつたやうに考へます、此點を更に申上げて置きます

國務大臣(伯爵内田康哉君) 私は遅刻いたしましたので、曾我子爵の御質問、又之に對する政府の應答等、初めの方は承つて居りませぬでございますから、能くは分り兼ねます次第であります、只今更に子爵より御質問のあつた點に付きまして、一應私の考を申し上げます、此海外に於ける所謂第二世の教育に付きまして

は、是は誠に重大な肝要な問題でありますから外務省と致しまして最終慎重なる考慮を拂ひ又是までも出来るだけの施設はして參つたのであります、何分所謂此第二世なるものは、各地に散在して居つて、其土地の状況に依つて自から之に對する方針も異にせなくてはならぬやうな必要もあるのでありますから、是等の點も能く考慮に入れて、色々な計畫を致しましたし、是からも、さうせざるを得ないこと、存じます、併し先刻子爵の御質問の趣旨に依れば、兎も角我が國民には何千年來の所謂日本國固有の血が流れて居る話であるから、是はどこまでも何處に行つても、之を維持して行きたいと云ふやうな御質問であるやうに拜承いたしました、是は全く御同感でありまして、私は日本國民の血を受けて居る者は、二世になつても、三世になつても、又世界の何處に居つても、必ず之を維持し得ることと思ひます、又之を維持するところが、例へば北米なり布哇等に居つて、此の土地………生れながら此土地の住民となり、米國人となり、加奈陀人となつて居る者に致しましたも、矢張り此精神は決して其自分が歸化した所の國に害を及ぼすものとは思ひませぬ、寧ろ是が兩國の楔となつて、所謂共存共榮の途を圖ることになり、所謂文化の融合を圖ると云ふやうなことに、寧ろ向けて行つた方が宜くはないか知らぬと思ふのであります、唯先刻政府委員より御答を致しました通りに、多く其精神を發揮せしむるに致しましたも、其國の國法なり、又教育制度なりには餘程の加減を加へて、此精

神の涵養には其目的を誤らぬやうに致す必要があらうと思ひます、其他の點に付きましては先刻來政府側の答辯に依つて、御承知を願ひたいと存じます

子爵曾我祐邦君 只今の御答辯で、大體に於きまして、永井拓相が御答へになりましたこと及び外務大臣が御考へになりました點は能く分りました、而して實際問題と致しまして非常に色々な苦しい點があると云ふことは、只今兩大臣の御答辯に於きまして、能く分りましたのであります、又私自身も其點に於て如何にして、之が目的を遂行するかと云ふことに於ては非常なるむづかしいことであると存じて居ります、唯最も簡單にして、最も行ひ易き方法を見出すと云ふことに付きましては、全く拓相の仰せられました如くに、十分に研究しよう、或は更に良い方法があるならば、政府もそれに力を付けようと云ふ御話でございました、願はくば斯かる御決心を以て、又其重大性に鑑みられて將來一層之に對する御研究を積まれ、或は内地に學校を置いて、之を預かつて深切に世話してやる、全部の者の希望を容れることが能はぬにしても、地方に限つて三人なり五人なりの青年を預る、或は日本に歸つて特別教育を施してやると云ふやうな篤志家が出た際には、何卒政府に於かれまして、十分之に對する援助を賜はらむことを、我々は希望して居るのであります、實際斯う云ふ問題は、言ふことは易うございませぬが、行ふことは困難でありますから、政府も此點に豫算を編まるゝ際に於ては、願はくば何

とか一つ今日十分の注意を拂ひ、又考慮をせられむことを切望する、更に總理大臣閣下に向つては、此事を御願ひしたい次第でございます、私の質問は是で打切ります

法制を作れ

中村嘉壽君の建議

(一月卅日衆議院建議委員分科會)

石川主査 次は日程第十一、移植民事業並海外貿易助成に關する法律制定に關する建議案提案者中村君

中村嘉壽君 本案は第六十二議會に於きましても私共が提出致しまして可決された案であります、再び茲に出します所以は、政府の施設に於て、私共が甚だ満足することが出来ないのであります、其爲に更に御研究だけでなしに實行に移つて、少し體系を立て、戴きたいと云ふ希望なのであります、私が申上げるまでもなく、我が日本は、國土極めて狭小にして、而も人口の増加率は世界何れの國にも劣らない、殆ど千人に於て年に約十四人何分と云ふ程増加して居るのであります、此儘に増加して行きますと云ふと、今から六十年も致しますと云ふと、一億七八千萬に殖えることは、火を賭るよりも明な事實であります、此人口が増加するにも拘りませず、之を處理して行くと云ふことに付きましては、何等の確な大きな策が施されて居ないと云ふことを、私は常に痛嘆して居るのであります

す、私共議會生活に入りましてから、常に之を唱導して居りますけれども、多く顧みられることなく、偶々拓務省見たやうなものが出来まして、之を廢止しようと云ふ議論が起つて来るやうな不態な状態にあるのであります、此大きな問題、即ち人口を何とか抑いて行くと云ふ問題を解決することなくして、日本の思想を安定せしめよう、國難を除かうと云ふことは、恰も木に縁つて魚を求めること、少しも差別がないと云ふことを考へて居るのであります、問題が國全體と云ふやうな大きな問題でありますから、之を理解する人が少いでありませう、國民が理解しないのみならず、政府當局者も之を理解する者が少いのであります、併ながら、刻々我國には人口が殖えて行くのである、毎年百萬に近いものが殖えて行くことは、諸君御承知の通りであります、毎年々々和歌山縣に相當するやうな人口が殖えつゝあるにも拘らず、日本の領土は少しも擴がつて行くのぢやない、それならば之に對して此増加する人口に對する仕事を殖して行くかと云ふと、是もやつて居ないのであります、又出來もしないのであります、此事實を其儘續けて行きますと云ふと、日本丸と云ふ船は、暗礁に乘上げるか、沈没するか極り切つた状態にあるのであります、例へば日本丸と云ふ船に、九千萬の乗組員が乗つて、太平洋の航海をして、六十年も掛つて向ふに著かうとする中に、年々船のどてつ腹に穴が開いて居つて其處から水が入つて来ることに氣が付かない、氣が付いても之を汲干さうと云ふ親切な政治家

が居ない、爲政家が居ない、其爲に今や六十年どころではない、二十年も行かない中に太平洋の眞中で日本丸は沈没しなければならぬと云ふやうな運命にあるのであります、大きな日本と云ふ世帯であるから、吾々は氣が付きませぬけれども、假に吾々の家族に付て見ますならば、十人の家族があつて、親父さんが百圓の收入のある場合には、是は何か生活が出来て行きませうが、年々歳々子供が殖えて、十人の者が二十人になつた場合に同じ百圓の收入であつたならば、其中には夫婦喧嘩が起る、兄弟喧嘩が起る、親子喧嘩が起ると云ふやうになつて、遂に家庭が紊れて來ると云ふことは、極り切つた状態である、恰もそれと少しも擇ばないに拘らず、政府は之に注意を拂ふことは少い、昨年議會に於きまして私は自ら質問も致し建議案も出してあるのであります、政府は之に對して相當の考慮を拂ふと云ふことは言つて居られるが、毫も考慮を拂はれた所がない、成程今日の財政逼迫の時に於ては何をも行ふことは出来ないかも知れませぬけれども、若し相當な研究を積み努力を致しましたならば、必しも多額の費用を要せずして爲し得る事が澤山あるのであります、さう云ふやうな重大な問題を控へて居りながら拓務省が此間にやつた仕事は、僅に五十圓づゝ一人の人間に何か支度金を給與してやると云ふ位の事しかやつて居ない、今まで一萬三千圓か四千圓のものが、一萬六千圓か七千圓になるかの程度であります、それでは二階から目薬よりも尙ほ金額は少い程度なのであります、此重大

な問題を此儘に打捨て、置くこと云ふことは、容易ならぬ事態を招来するのでありますから、是非政府は此問題に對しては、もつと一段の努力をば拂つて戴きたい、年々殖えつゝある百萬の人口を捌くと云ふやうな對策を樹て、戴きたい、是が私の本案を提出した趣意なのであります、政府に於ては何か私共の知らない、範圍に於て對策を有つて居られるか知りませぬが、若し有るとするならば、御示しを願ひたい、無いとするならば此對策を樹て、吾々が日々困難に遭遇しつゝある日本丸を救つて戴きたいと思ふのであります

堤政府委員 此移植民事業に關する件に付きまして、拓務省の意見を申上ますが、只今中村議員から御述になりました點は一々至極御尤と存するのであります、今日の日本の國勢と云ふものは勃興の途上に在り、年々七八十萬人の人口が増加して居る、和歌山縣一縣の人口位づゝ殖えて居るやうな有様である、然るに海外に豫算を取つて移植すると云ふ計畫は一萬六七千と云ふやうなことでは、二階から目薬だ、如何にも其通りであります、是は餘程重大なる國策として努力しなければならぬものと信じてまして、吾々も十分努力を致して居るのであります、何分にも多額の財源を要するのであります、思ふやうに、自分等の理想を行ふことが出来ないことを洵に遺憾に存して居るのであります、併ながらまだ當分そんなに日本の財政の餘裕があり得べしと思はれませぬ、併し是は一日も忽せにすることの出来ない問題でありますから、

財政の許す範圍に於て、最善の方法を盡し、建議の趣旨に副ふやうに更に一層努力致したいと考へて居るのであります

篠原委員 本案は提案の趣旨御尤と存じますから可決あらんことを希望致します

石川主査 篠原君の動議に御異議はありませぬか
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

石川主査 御異議ないものと認めます、本案は可決致します

民族使節を送れ

松田竹千代君の建議

(一月三十日衆議院建議委員分科會)

石川主査 次は日程第十二に移ります、在米同胞慰問の爲民族使節派遣に關する建議案、提案者の説明を求めます

松田委員 在米同胞は今日無慮三十萬と稱せられて居るのであります、其中約半數は無論是は布哇を含んでありますが、米國生れの者で亞米利加の市民權を持つて居る者でございしますが、尙ほ半分は移民として亞米利加に移住して行つた者であります、此人々は今日では漸く老境に入らんと致して居るのであります、私自分のことを申上げるのも可笑しうございしますが私も移民の一人として今から三十二年前に渡米

致した者であります、此在米同胞の人々は多くは明治卅年から四十年の十箇年に渡航したものであります、私の行つたのは明治卅五年でありましたが、私は當時十四で行つたのであります、でも今日は四十六歳になつて居る位であります、當時私は向ふで何處に行つても一番若かつたのであります、それから考へて見ましても思ひ當ることであります、皆初老を越えた人々ばかりであります、是から十年か十五年すれば皆此人々は多くは死んでしまふ人々であります、私が諄々しく申上げなくても、如何に在米同胞が、過去數十年間色々の法律上、社會上政治上の迫害の下に闘つて來た人々であるかと云ふことは、皆さんが能く御承知の通りであります、併しそれは唯單に承知して居ると云ふだけでは、本當のあの人々の苦しい状態が私は分らぬと思ふ、私は自分が其迫害を受けた體驗者の一人として、如何に難儀なものであるかと云ふことを思ふ者であります、それを思ふにつけて、何とかして是等の人々を慰問するの途を講じなければならぬ、御承知の通りに、度々有ゆる法律上の壓迫を受けまして、非常な難儀に遭つたのでありますけれども、それにも屈せず今日まで闘ひ抜いて來たのであります、全く一寸考へればどうして、あの人々は今日までやつて來たのであらうかと不思議に思ふ位の苦心をし、難儀を忍んでやつて來たのであります殊に如何にも同情に堪へない事柄は、御承知の通りに寫眞結婚が亞米利加の法律で差止められて以來と云ふものは、在米同胞が其配偶者を得

ない、故國から配偶者を呼寄せることが出来ず、而も亞米利加は人種的偏見の強い處であります。が故に、亞米利加人との結婚が非常に困難であります。而も同胞の婦人は少數でありまして、向ふで配偶者を得ると云ふとは亦出来ぬ、さう云ふやうなことからして、如何に此性の悩みを悩み抜いて來たか、其爲に在米同胞の中から澤山の狂人を出すに至つて居る、是は單に在米同胞の多く居る加州或は太平洋沿岸許りではありませぬ、紐育でもつい十年前までは同胞の間に墓地の問題などは問題にならなかつたのでありますけれども、最近は非常に重大な問題になつて、此十年間位と云ふものは、皆な在米同胞は向ふで死んで行かなければならぬと云ふやうに考へるやうなつて來たのでありまして、墓地の問題も非常に重要な問題になつて來たのであります。斯う云ふやうに一寸一つの事を考へて見ても何とかして、是は今日に於て此人々を慰藉するの途を講じなければならぬ、翻つて彼の人々のやつて來た數十年間の奮闘の跡を見ますると云ふと、實に立派な業績を擧げて居る、永い間年々何千萬圓と云ふ金を故國に送つて來たばかりではありませぬ、あれだけの迫害と彈壓の下にあつて、亞米利加の爲に、如何に其生産の上に大きな貢獻を爲して來たかと云ふことを考へまする時に、是は吾々日本人として、吾々の一部の同胞が、斯の如く酷い苦しい状態にあつて、斯くまでに立派な仕事をやり遂げて來たかと思ひまする時には、何とかして其功績を認めて、之を慰問する途を講じなければならぬや

うに考へるのであります、私は多くのことを申し上げませぬが、今日の日本の有ゆる方面の悩み、それは皆人口問題から出發して居る、して見れば、此有ゆる方面の悩を解決するには何として人口問題の解決と云ふことでなければならぬ、それは外でもない、移民の問題になつて來る、而も我が日本の今日の歴史に於ては、在米同胞の如き、移民の第一線として活躍して來て立派なる大なる貢獻を收めて來たものは、在米同胞を措いて外にないと思ふのであります。而も其人々は今や漸く老境に入つて最後の奮闘を爲しつゝある、今日に於て、故國に在る吾々は何とかしてあの人々を慰問の途を講じて貰ひたいと思ふのであります、民族使節と申しますると、言葉は或はをかしいかも知れませぬけれども、要するに在米同胞と云ふものは帝國の海外發展の第一線であり、我が民族の大發展の礎石を成すものでございしますから、民族的意義を持つ使節と云ふやうな意味で、茲に民族使節と致したのであります。其使節の内容はどうか云ふ風に致したら宜しいか、政府の當局に於て御考へを願はなければならぬのであります。が年々萬國議員會議に出席される議員も多數にあるのでありますから、出來ることならば、貴衆兩院議員を代表する議員を出し、更に出來ることならば宮内省方面からも人を交へて、此民族使節を拵へて、在米同胞の慰問をして貰ひたいと願ふものであります、大體さうしたやうな意味で、皆様の御協賛を仰がんとするものであります。

滿政府委員 在米同胞の移民の苦心慘愴たる歴史に付きましては、當局も十分諒承して居ります、簡単に理解して居りますと、斯う申し上げただけでは本當に知つて居るのかと云ふ御疑問が起るかも知れませぬが、一例を申し上げますれば彼の『フレスノ』に於て最初の移民が悉く病氣に罹れ、第二回の移民も亦零度以下、若くは非常に苦熱の爲に罹れ、幾回となく繰返した結果、今日の立派な農場が開けて居ると云ふやうな斯の如き一例を以てしましても、移民史の中には涙なくして讀むことの出来ないものが多々あると云ふことは能く諒承して居ります、併し茲に御考へを願ひたい點は、成程米國に於ける所の移民が吾々同胞の爲に、大和民族の發展の爲に、立派な歴史を遺されて居ると云ふことは、洵に感謝に堪へませぬけれども、併し獨り亞米利加のみではないと思ひます、現に隣邦支那に於きましても日貨排斥だとか、排日運動の非常に旺盛なる其眞只中に立つて、幾多の困難辛苦に打ち克ち若くは現に闘ひつゝある所の同胞も澤山あるのでありますから、若し使節を派遣するとなりますれば、單に米國のみでなく、或は支那にも、更に南米、亞弗利加、南洋諸島各地に同じやうなことを試みなければならぬやうな結果になりはせぬかと考へます、只今の松田君の御趣旨の存する所、御精神のある所は能く諒承して居りますが、此點に付きましては、政府が率先してやると云ふ計畫を立てよと云ふ御趣旨でもあるまいと私は考へるのであります、多分民間に於て斯う云ふ計畫が起つて來る方が適當

ではないかと想像しつつ之に同情をし援助でも與へよと云ふやうな御趣旨かも知れないと推察する次第であります、それは又其時に當つて具體案が出来た時に十分考慮すべき問題であると斯く考へて居ります

松田委員 私は決して政府の御當局の御考に反對する譯ではありませぬが、只今政府委員の仰せられた所に依ると、亞米利加の在留同胞を慰問するならば、世界の各地に於ける我が帝國の在留民を皆慰問しなければならぬと云ふ御話でありましたが、無論それもやつて宜しいことと思ひますけれども、世界の各方面に居られる在留同胞と、亞米利加に於ける在留同胞とを全く同じやうに見られると云ふことは私は、洵に遺憾に思ふ、數の上から申しまして、年數の上から申しまして、亦移民としての大部隊を廣して、さうして移民としての發展を遂げたる、其事績の上から申しまして、それと是とを一緒に考へられると云ふことは、私はどうかと思ふ、本當に半世紀近くの永い間に於て、斯様な不撓不屈の努力をして來られたる大部隊の同胞の働きを、我國が民族として、又帝國政府も政府の立場に於て之を認めて行くことと云ふことは、洵に私は必要なことと思ふのであります、みならず、亞米利加の在留同胞が、先年千九百二十三年でありましたか、最後の彼の排日移民法の通過して以來と云ふものは、全く棄民の状態に置かれて居つた、斯様な酷い到底に働いて居りながら、何等本國から聲援をされずにやつて來たと云ふことも考へ、さうしてそれにも

屈せず、今日牢として抜くことの出来ない發展を遂げたと云ふことは、是は民族の上から斯様な大なる事績を何等かの形に依つて認めて行くことと云ふことは、今後どれだけ、我國の民族的發展、移民の大發展に向つて力付けるものであるかと云ふことを考へますときに何とかして、私は御當局の御考へますときに何とかして私は御當局の御考を此點に置いて載いて、さうして何等かの形に依つて、此建議案の實施が出来ますやうに御願致したいと思ふのであります、吾々今日滿洲其他に於て働いて居られる同胞の上のことを考へますと、直ちに其事に向つて使節も送れば、色々の慰藉の方法も講じますけれども、半世紀の永い間に互つて唯外から國を隔て太平洋を隔てゝ見て居るものと、實際其處に居つて、人種的其他色々な迫害を受けながら働いて居るのは、其苦痛と云ふものが違ひます、さう云ふやうな考で、政府當局が居られると云ふことは、日本政府が何時までも、此日本の最も大きな悩を解決するの力は到底出て來ないものであると思ふ、私は繰返して申しますが平和の戰に於て過去半世紀に互つて努力して來た在米同胞を民族的見地から其絶大なる功績を認められて、使節を派遣して貰ふことを切に私は御願して已まぬものでございます

篠原委員 本案は提案者の御意向も別に特定な形を政府に希望する譯でもないものでありますし、政府としましては趣旨としては御賛成であるのでありますから、兎も角其本旨は洵に御尤と思ひまするので、可決せられんことを希望します

（「賛成」と呼ぶ者あり）

石川主査 篠原君の動議に御異議ありませんか

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

石川主査 御異議ないものと認めます、本案は可決致しました

不法檢疫

中川觀秀、風見章兩君によつて衆議院に提出された質問主意書

米國布哇及加州各港に於ける日本船員に對する不法檢疫に關する質問主意書

亞米利加合衆國各港に入港する我が國船舶乗組員は一九一七年制定及一九二四年改正の米國移民法の當該條項並一九三〇年の移民規則第七項「外國船員」の規定に基き同國各港に入港と同時に身體検査を受けることとなり居る次第なる所「外國船員」の定義は前記移民規則第七項に於て「外國船員なる名稱は總ての外國の港及土地より亞米利加合衆國に到着する總ての船舶に雇傭さるゝ旨船員名簿に登録されたる凡ゆる職務の外國人を言ふ」と規定しある以上單に有色船員又は日本船員のみに限るべきものに非ず又前記移民法及移民規則は單に加州に於てのみ適用實施すべきものに非ずして亞米利加合衆國聯邦

各港に於て實施すべきものなるべく又外國船員に對する身體検査の方法及程度は前記移民規則第七項に依り外國船客に對するものと同様なるべき筈なるに拘らず最近我が國より『ホノルル』『サンフランシスコ』及『ロスアンゼルス』等布哇及加州諸港に入港する我が國船舶（日本郵船會社、三井船舶部、國際汽船會社、川崎汽船會社等）乗組員に對する前記各港に於ける検査官の態度は左記諸點に於て極めて非合法、非人道、不合理、不正義なることを暴露せるものにして右は察する所最近に於ける日本の對滿洲強硬政策に對する大義的復讐意識の末梢的表現と考へらる

- 一、前記各港に入港する日本船員に對して該港検査官は全員を甲板に整列せしめ花柳病保有の有無を検證すると稱して細密なる恥部検査を爲しつゝあること
- 二、而も『花柳病』又は該病に對する前記の非人道的検査は何等移民法乃至移民規則に於て之を明示し居らざること
- 三、又斯の如き身體検査は『船員に對する身體検査は船客に對するものと同様なるべし』と爲す移民法及移民規則の規定に背反するものなること
- 四、更に斯る非人道的検査は實に日本船員のみ實施し日本人以外の外國船員に對しては何等實施し居らざること
- 五、更に斯の如き亂暴なる身體検査は『ホノルル』及加州諸港に於てのみ施行され其の他の聯邦各州諸港に於て實施されざるのみか

『ホノルル』に於ける検査程度は加州に於ける夫れに比し輕重緩急あり不統一、不均一を暴露しつゝあること

六、一方日本各港に入港する亞米利加船舶乗組員に對し我が國検査官は曾て斯る非人道的検査を斷行したることなきこと

願ふに斯の如きは桑港、『ロスアンゼルス』港、『シャトル』港、『ホノルル』港其の他の亞米利加合衆國海港に於ける検査官が移民法適用を強調するに名を藉り其の實移民法の精神を逸脱飛躍せる非人道極まる身體検査を強行するものにして邦船乗組員に對し名狀すべからざる侮辱と憤激とを與へつゝあり亞米利加官憲の此の不當の検査は引續き益其の度を高め萬一此の現狀を此の儘放置するときは其の結果として同國官憲及同國民と邦船船長との間に恐るべき不祥事の突發することなきを保し難きことを憂慮すべき程度に迄邦船船員の反感と忿懣とが昂揚しつゝある現狀にあり更に其の後の情報に依れば米國當局は此の不當の検査は敢て邦船乗組員に對してのみ執行さるゝものには之れなしと陳辯し居るも同地方に航行する我が國船舶に付ては一、會社及船長に於て乗組員の脱船を防止する意味に於て普通船員全部の上陸を禁止し居ること従て一九三〇年制定の移民規則第七條に基く身體検査（普通船員全部を甲板に羅列せしめ白日の下衆人稠座の裡に細密なる恥部検査を爲すか如き）を爲す必要なきこと

二、又假に米國官憲にして邦船乗組員の上陸禁

止は移民法に依るものに非ず日本船の船主及船長の意思に依るものなるを以て同國官憲としては移民法の命ずる検査を爲すことは毫も差支なしとせむやも計り難きも然らば日本郵船會社、大阪商船會社の如きは各船に船醫を有し日本發航當時は勿論航行中

議會の控室から (三)

元の次官と、今の次官

「イヤア、暫らく會はんかつたね」と木村參與官が入つてゐる

「トント、姿を見せんですね」「イヤ毎日やつて来るよ、代議士だから議席に就いてゐるよアツハハツ」

元の政務次官の小坂順造さん黒赤色の貴族院のマークで、頭をテカ／＼して、やつて来た

「一寸堤さん、お話を願ひたいです」と、イガ栗頭とタコ頭を動かしながら、ヒソ／＼とやつてゐる元の次官と今の次官

に於ても常に乗組員の健康診斷を勵行し亞米利加海港に入港する直前に於ては移民法に於て禁止され居る疾病の有無を嚴重に調査し其の結果に付ては之を健康報告書に記載し海港検査官に提出する手續を取りつゝあるを以て検査官にして邦船船醫の報告を信用する限り特に全員を上甲板に整列せし

め日中細密なる恥部検査を斷行する必要なきこと、信す

依て右の如き平等、正義、均一の精神に反し我が國民の權利と自尊心とを甚しく傷くること多大なる斯る行爲に對し外務當局は如何なる對策

を講し又は講せむとせらるゝか又我が出先官憲に對し如何やう訓令を發し又は發せらるゝや
右及質問候也

本質問に對しては至急明確に書面を以て答辯あらむことを望む

(5) 國有財産法を施行せよ

内田重成君の質問

(三月二日貴族院決算小委員會)

内田重成君 それから今一つ、是は四十六

議會であつたと思ふのでありますが、あれ以後此植民地に此國有財産法を施行すると云ふことに付て、決算委員會は……本院の決算委員會は希望決議に相成つて居ります、それから以後毎年其點に付ての希望もあつたやうであります、段々其點に付きましては政府から御説明もありましたが、今尙ほ植民地は此法律が施行されると云ふ運びに至つて居らぬ、どうも此植民地の分が之に入りませぬ時には、如何にも此法律の施行に付きまして、跛の感じが起きる、其最も甚しい跛と申しますのは、例へば植民地内に在る所の各省の所轄に屬する所の國有財産は此法律の適用を受け、さうして植民地に在つて植民地長官の管轄に屬する所のものは、此法律の適用を受けて居らぬと思ふ、同じ其國有財産の所在地であるに拘らず、此法律の適用の有る

ものと無きものとがあると思ふやうな形になつて居る、頗る妙な喰違ひが出来て居ると私は思つて居ります、殊に此植民地の國有財産に付てこそ此法律の適用があると云ふことが、最も必要な事情ではないかと思ふ、と申しますものは植民地の官有財産管理規則を見ますと云ふと其感を深くするものである、隨意契約に依ることの場合と云ふものが、非常に廣くしてある、では等に付て、矢張り此内地の國有財産に付て大藏省が總括的に其管理をせらるゝ如く、速に此植民地國有財産に付ての統制の方法を執られにやならぬと考へて居るのです、どうも此前の時に、此議會に於きまして植民地に之を適用するに至らざる理由に付て拓務省の政府委員から御説明に相成つて居るやうであります、私は其點に付て十分な了解が出来得ないのであります、其後の経過に付きまして一つ詳細に御話を

承りたいと考へます、それからもう一つ植民地……まあ植民地と云ふ言葉が宜いか悪いかわりませぬが、朝鮮、臺灣、樺太此三つには今の國有財産管理規程があります、それに依りますと、何れも其國有財産現狀に付ての報告書を作つて議會に報告すると云ふことになつて居るやうであります、私の手許にはそれが參つて居らぬやに考へます、それはどう云ふ御都合になつて居りますか、又關東州、南洋、是等には斯う云ふ管理規程はないものであります、矢張りあるのであります、又それはありますとすれば、凡そ此朝鮮、臺灣の管理規程と同じやうな立前に相成つて居るものであります、か、一應其點を伺ひたいと思ひます

政府委員(太田嘉太郎君) 植民地に國有財産法を施行しなければならぬと云ふことに付きましては、御意見の通り私共も左様に實は考へて居りまして、拓務省及植民地當局とも色々交渉いたして居りますが、尙ほ特例を認める所の範圍であります、或は總督、長官等の權限等のことに付きまして或は又財産を處分したる場合に於ける其收入の歸屬等に付きまして多少意見の分れて居る所がありまして、なか／＼一致を得なかつたのであります、本院に於ても度々御注意がございまして、成るべく早く實現するやうに能く相談いたしまして兩方に於て成るべく妥協いたしまして、早く實現するやうに致して居ります、今現在の拓務省の當局に於きましても、色々御盡力になつて居ります、尙ほ其ことに付きましては、拓務省の政

府委員から御話を申上げると云ふことになつて居ります、成るべく速に施行されるやうにされて居るのであります、其ことに付きまして拓務省の方から……………

政府委員(杉田芳郎君) 只今の御質問は誠に御尤もなことも存じます、既に五十八議會………確か五十八議會と思ひますが………に於きましても早く外地に國有財産法を施行して國有財産の管理處分に付て、公正を期するが宜いではないかと云ふやうな御意見でございまして、至極御尤もなこと、考へまして、極力私共の手に於きまして、各外地の當局と協議を致しまして、更に大藏省とも協議いたしまして政府内に於きまして、出来るだけ速に國有財産法を各外地に施行することに付きまして盡力いたして居ります、具體的に申上げますれば、昨年の七月、先づ朝鮮に付きまして大體の成案を得たいと思ひまして數次に亙りまして、協議をいたしました、其の後引續き機會があります毎に色々協議いたして居りますので、餘程大藏省と拓務省との意見が一致に近付いて參つて居ります、從來施行出来なかつた主なる理由は大藏大臣の國有財産管理に對する總轄權限の問題、それから國有財産管理に關する問題等でありましたが、それ等に付きまして、餘程意見が接近して參つて居ります、實は具體的に付きましてはもう少し此席で申上げることが御待ち願ひたいと思ひます、それから先程太田政府委員からも申述べられました、官有財産の處分を致しました際に其歸屬の點、詰り一般會計

に歸屬させるか、特別會計に歸屬させるかと云ふ歸屬の點と、隨意契約に依つてどの程度迄處分を認めるかと云ふ點が多少まだ残つて居りますが、是も速からざる内には解決いたしまして出来る限り私共も此席に於きまして具體的のことを御報告申上げたいと思つて居りますが、何れ目下多少折衝の残つて居る點もありますので具體的のことは此席で申上げることが今少し御待ち願ひたいと思ひます、何れ拓務省の政務官からも、責任ある詳細なることを申上げることゝ考へますが、何卒其點に付きましては我々が極力努力して居る點に付きまして、惡しからず御諒承を願ひたいと思ひます、それから各外地の官有財産の總額に付て報告がないではないかと云ふ風な御質問もございましたのであります、が、國有財産が施行されますれば、勿論是等の點も此處に報告いたしまして、茲に御審議を願ふと云ふことになるのでございますが、遺憾ながら未だ施行の時期に達して居りませぬので、此處には提出は致してございませぬけれども、御承知の通り朝鮮、臺灣、樺太の三外地に於きましては、官有財産管理規則に依りまして、矢張り之に類するやうな計算書を作りまして、議會の方には提出してございしますので、其點は何卒惡しからず御諒承を願ひたいと思ひます、それから南洋と關東廳其二つでございしますが是には先程御話の通り所謂管理規則と云ふものはございませぬ、是は多少對外的の關係もございしますし、他の外地と一樣に扱ふことは如何かと云ふ風な點もございしますので、他の外地同

様には參り兼ねますので、今御話の點も十分考慮いたしまして、適當に善處したいと考へます、何卒惡しからず御諒承を願ひます

内田重成君 拓務省の政府委員にちよつと伺ひますが、今の關東州及南洋島にあります土地以外の、例へば建物でありますとかと云ふやうな財産は、是は拓務省の所管の中にでも入つて居りますか、全くそれは矢張り、さう云ふのも除外してございしますか

政府委員(杉田芳郎君) さう云ふやうな風なものも實は提出いたしてございませぬ

内田重成君 さうすると管理規則に依ります植民地の官有財産目録及官有財産増減報告書と云ふものは、是は議會に提出になつて居りますか

政府委員(杉田芳郎君) 御答へ致しますが、朝鮮と臺灣と樺太は管理規則がございまして、是は財産の總額を議會に提出いたしてございします、今申上げました提出いたしてないと申上げましたのは、關東廳と南洋廳と二つでございします

政府委員(太田嘉太郎君) ちよつと御參考に………國有財産法が施行になりますれば、會計検査院の審査を経まして提出するのであります、只今も朝鮮、臺灣、樺太の分は國有財産に付きまして會計検査院の審査を経ることが規定されて居りませぬから、會計検査院が審査いたして居りませぬと云ふやうな譯でございします整理の方法等が多少違つて居ります、それであ

りますから、全體を纏めて一廳の下に分るやうにはなつて居りませぬから、ちよつと事務局の方で面倒でございますから、御出しにならぬのぢやないかと思ひます

内田重成君 ちよつと速記なしで……

委員長(男爵東久世秀雄君) 速記を止めて……

(速記中止)

(二月六日貴族院決算小委員會)

委員長(男爵東久世秀雄君) ちよつと私から、先日の會議の時に内田君から、國有財産法を樺太、臺灣其他に施行すると云ふことに付て、どの位政府の方で御進捗になつて居るか云ふやうな御尋がありました、政府委員もそれに對して御答がございましたが、此問題は前の五十九議會の時にもさう云ふ問題が出て、政府に對して質問された委員の方があつたやうであります、其後政府の方では無論御調査になつて居ることゝは存じますが、六年、七年、もう二年程経つて居りますが、政府の方ではそれを御實行になる御意思があるのか、ないのかちよつと分らぬやうに思はれますが、如何でございますか

政府委員(太田嘉太郎君) 今委員長の御質問になりましたことに付きましては、政府に於きましても、非常に熱心で、成るべく早く實行したいと云ふことに付きましては努力いたして居るのでございまして、殊に最近に於き

まして、丁度植民地からもそれぞれ官廳の方が來て居りますから、會合いたしまして、成るべく速かに實行上につて促進しようと云ふことに申合せを今拓務省で致して居るのでありまして決して等閑に致して居る次第ではないのでございます、比較的手間の掛かりましたのは、所謂國有財産を處分いたしました場合に、之を如何なる財産に付きましては、之を植民地の特別會計に歸屬せしめ、如何なる財産は之を國有財産整理資金特別會計の方に歸屬せしめるものであるかと云ふことに、付てあります、大體の方針と致しましては、植民地各廳が只今關係いたして居ります所のものは、是は植民地會計に歸屬いたさせ、植民地に於ける一般會計所屬の關係、例へば陸軍省とか、海軍省、或は文部省等に所屬いたして居るものは、之を處分しました場合に於ては、他の會計の方に歸屬せしめる、斯う云ふ風な分け方を大體いたして居ります、又個々の土地に付きまして、此土地は今假に陸軍なら陸軍に所屬して居るものを、あれば元は植民地の方で、拓務省で管理をしたものであると云ふことがありますし、それに對しまして實際植民地所屬に付ては、結局日本の國軍の力に依つて得た土地であるから、それが植民地であれば當然植民地所屬と云ふ譯にも行くまい、一般會計で現に持つて居るものは、一般會計に所屬せねばならぬと云ふことを私共は主張いたして居るのでありまして、それに付ては個々の方面に付て調査して、斯う云ふものは植民地會計に依る、斯う云ふものは一般會計に依ると云ふ

やうなことに付て、個々の協調をすると云ふ希望を植民地の方で持つて居る、殊に朝鮮に最も多いのでありますが、それで個々の土地に付て調査された、それが非常に廣いものでありますから、其方の調査に掛かつた、それに對しまして大體の成案が出来たと云ふ譯であります、それで其上に付きまして、大體今のやうな方針で行かれると思ひますけれども、併し協調して、是は斯う云ふ理由があるから朝鮮總督なら朝鮮總督に持つて行きたいと斯う云ふのがあり、其方のことが非常に手間が掛かつたので、本院の御意見を輕んじたと云ふ譯ではなくて、實行出来るやうに決めて置きたい、法律は……勅令は出すけれども、實行上は於て大變手間が掛かるので、勅令が出たら實行が出来るとする爲に、それまでに能く打合せをやつて置きたいと云ふので、又何れ拓務省の政府委員の方から話があるだらうと思ひます、それで朝鮮が大體に於て案を立て、其案を又他の植民地の方に諮つて、それに依つてやらうと云ふことに向ふの方がやつて居る、朝鮮の方で案が出来ないと外の方も案が出来ない、斯う云ふ状態であります

委員長(男爵東久世秀雄君) 先般國有財産法のことにつて、御質問がございましたので今日拓務省の政務次官が見えまして、ちよつと其事を御説明になります

政府委員(堤康次郎君) 國有財産法を朝鮮臺灣、樺太に施行するかどうかと云ふことに付きまして、拓務當局の意見を申し上げたいと存じ

ます、國有財産法を朝鮮、臺灣、樺太に施行するの問題は、既に國有財産法施行の時から懸案であります、何を申しますにも朝鮮、臺灣、樺太などの如き外地は目下發展の途上に在るものであります、歴史、習慣などを異にした民族も居るやうな譯で、内地とは其事情を異に致して居りますから、内地に於て行はれて居ります國有財産法を其儘施行することは甚だしい支障を來すと考へるのであります、故に、政府に於きましては、出來る限り各地の特殊事情を考察いたしまして、國有財産法の施行に付て如何なる特例を外地には設けたらば宜しいかと云ふ、其點を調査することに努めますると共に、其特例の設け方に付て、内地の當局と、外地の當局との意見の甚だしい懸隔に付きましても、大に考究を致しまして速に成案を得ることに努力いたして居るのであります、斯様な次第であります、既に大藏省府委員及拓務省の府府委員からも申上げましたこと、存じまするが、種々討議いたしました結果、先づ朝鮮に付て之が成案を得まして、此成案を基と致しまして、他の臺灣、樺太などに成案を得たいと考へまして、拓務省は設置以來各當局者の協議會を開き、又意見の交換も致しました結果、其意見も餘程接近いたして参りまして、目下朝鮮總督府提出の案に付きまして、研究中であります、右の案が纏まりますれば、臺灣、樺太に付きまして、具體案を取纏め得られると考へまするから、遠からず國有財産法の外地に施行出來得ること、考へて居るのであります

(6) 緊縮に累される外地政策

植民地豫算の編成は拓務大臣に委任せよ

(三月七日衆議院決算委員會に於て)

拓相の努力を望む

喜多孝治君の質問

山崎(猛)委員長 會議を開きます、通告順に依つて質疑を許します

外地に無理難大藏省

喜多委員 昭和六年度の決算報告を見ましたも我國が植民政策に重きを置いて、特に拓務省が新設され、曩には有力なる松田大臣を戴き現在又有有力なる永井拓務大臣を戴いて居るのでありますが、此決算書を見まして、そこに新しい計畫と云ふものが見えて居らない、是は緊縮政策を執られ、又財政上非常に困難なる立場にあります、我國と致しまして、隠れたる御苦勞御苦心の點は多々あること、存じますけれども、如何にも此拓務大臣の下に、そこに面目を一新したる所の植民政策と云ふものを發見し得ないと云ふことは、洵に私は遺憾に存じて居るのであります、嘗て松田大臣が拓務大臣で居ら

れた際、私は一日松田大臣と會見致しまして、どうも從來大藏省の方針として此緊縮政策或は積極政策、此大藏省の政策、内地の政策に矢張植民地も準じてやつて行かれると云ふことに付て、私は大なる疑問を有つて居りまして、此點に觸れて御話申上げた際に、松田大臣は非常なる御確信の下に、どうも内地と植民地との異なる點より、又植民政策に重きを置くと云ふ立場より、從來と異つて特殊なる事情の下にある植民地に付ては、必しも内地同様の方針を以て臨まない、又同じ植民地と雖も、朝鮮、臺灣、樺太等は自ら事情が異つて居るのであるから、此間に於ても相當特別な事情に應ずるだけの施設をしたいと、私以上の深い確信を以て御話相成つて居つたのであります、是は松田大臣の明言され、聲明された所であり、其後に於て承つて見ると大藏省に對しても、此主張を非常に強く爲さつた、どうが植民地の豫算と云ふものは自分の方で按配するから先づ委して呉れと要求されたと云ふことを承りまして、私は非常に満足を致したのであります、大藏當局としては豫算審議權は大藏省にある、あなたの方に一任することが出來ないと云ふことで、折角の此御

理想も實現せず終つたが如く、私は洩れ承つて居るのであります、無論豫算を編成する上に於ての權限が大藏省にあることは、大藏省の主張される通りであります、けれども、是は程度問題で、必ずしも豫算編成權を無視する譯ではないが、特殊事情にある植民地を監督されて居る主管大臣に或る程度までは御一任に相成ると云ふことが、根本問題であつて、之に依つて初めて適切な施設が行ひ得ることゝ私は信じて居るのであります、常に大藏省は内地に於ける此政策其ものを、直ちに植民地にまで及ぼして行く、此公債募集、是は財政に大なる關係を有しますから、さう云ふ問題に付きましては、無論内地の方針と云ふものを尊重しなければならぬでございますが、全然獨立會計を有つて居る所の臺灣に於てさへも、内地に於ける豫算編成は、新規事業を認めないから、臺灣に於ても新規事業は許すことが出来ないといふやうなことが随分あつたと私は記憶致します、此點に付て現大臣も、餘程御苦心に相成つて居ることと私は確信致すのであります、此席に於きまして斯の如き點に付て如何なる御所見を御有ちにやつて居り、又大藏省に對してどう云ふ風なる御交渉を從來御執りになりましたか、承つて置くことが出来れば、非常に結構であります

永井拓務大臣 只今喜多君から外地政策に對しまして、洵に御理解があり、且つ條理兼ね具へた御質問を承りまして、洵に當局者として會心に存じます、今は故人となられました、秦前拓務大臣が私に對する事務引繼の當時に、拓

務行政に關することは官民協力してやらうと云ふ心持で居るから、自分に相談すべきことがあれば遠慮なく相談せよと云ふことを言はれまして、豫算編成の當時に於て私の苦衷を懇へた時分にも、私に協力して、色々豫算を成立せしむる爲に苦心をして下さつたのであります、さう云ふやうに色々外地政策に對して、御理解のある人々が協力して下さいに拘らず、十分に外地政策の確立に必要な豫算を今日獲得し得なかつたことは、私として洵に遺憾に存じて居る次第であります、私も今喜多君が御話になりましたやうに、外地政策に對しましては内地に於けるよりは、尙ほ一層特別な經費を支出する必要があると云ふことを考へます、例へば教育の問題一つに致しましても、全く獨特の精神状態に在つたものを、完全に内地の日本人と同様に同化せしめなければならぬのでありますから、特別な教育施設に従つて、十分なる經費が必要であるのでございます、産業上に於きましても、只今御話になりましたやうに、根本から建直さなければならぬものも澤山にありまして、それ等のものに對する經費も、非常に多きを要して居るのでございます、殊に外地だけでなく、外地を根據地と致しまして、更にそれより先の土地に發展して行く必要のある場所に對する海外企業、海外移民の補助等に今日のやうな内地に於きまする生活難の深刻な時には、特別な保護をする必要があるのでございまして、是等の事に對しましては、微力ながら豫算編成の當時には日夜全力を盡して奮闘致しました積

りでございます、併し他方を顧みますと、又内地の財政状態が未曾有の難局に直面致しまして未だ曾てない尤大なる豫算の數字が現はれ、然も其の中に未曾有の赤字を見るやうになつて居ります、此財政上の難局に直面して、少しでも其赤字の増加を防がなければならぬと云ふ大藏當局の苦衷も、亦日本國民としては十分察しなければならなかつたのでございます、外地

議會の控室から (四)

高山秘書課長の博學振り

：拓務省の高山秘書課長、大臣宛の書類をドシ／＼と片付けて行くから
：『それを全部大臣に見せるのか』と聞いた
：『見せるさ、秘書課長だもの』
：秘書課長なら『書を秘書課長』だから見せないのが當然だらう
：『其れだから學問のないものは困る、秘書の祕は『示すへんに必』だから『必ず書を示す課長』と云ふのだ

に對しまして御承知の通り南洋だけは公債の必要はありませんが、其以外は全部多少の程度に於て公債を必要と致しましたので、此上色々な經費を要求することは、事實上於て赤字公債の増發を要求すると云ふことになりますのでそれ等の點は大藏當局の苦衷をも十分察し、又大藏當局の財政に對する見解に於きましては十

分理解すべき點がありましたので、其點と調和し得る最大限度の所に標準を求めまして、豫算の編成を致した次第であります、併し外地政策に對して、只今の如き御理解ある御言葉を承り之に依つて一層の激勵を感じますので、其點に於ては十分御期待に副ふやうに、今後も努力致したいと存じます

南支、南洋に對する施設經營

喜多委員 只今の拓務大臣の御答辯を私は諒と致します、併ながら其精神が何等何處にも現れて居らぬと云ふことを私は遺憾に存じます先づ例を擧げて申しますれば、臺灣に於きましての南支南洋施設費、是は私は調査を要求してありますけれども、未だ頂戴致して居らぬから數字の上に於て正確を缺いて居るか存じませぬが、數年前未だ拓務省が新設されない前に、臺灣の使命と致しまして、南支、南洋の發展經營に力を注ぎたいと云ふことから、此南支、南洋施設費と云ふものがありまして、九十萬圓の金を投じて居つたと記憶致して居ります、それが民政黨内閣になりました、其時の總督が六十萬圓に之を減じたと考へて居ります、此精神は今迄九十萬圓の支出を致して居つたけれども効果が薄い、之を整理して更に適切なる施設を爲さうと云ふ御意思から九十萬圓を六十萬圓に減じたものと、私は了解致して居る、南支、南洋施設費を減じて、消極的に相成つたと云ふ意味でないとは私は了解致して居る、然るに今日に至る迄も尙ほ此減額されたる所の六十萬圓を踏襲致

して居つて、其六十萬圓に減額した時の、當時の伊澤總督の御意思が今日現れて居らない、形だけが消極的に相成りまして、六十萬圓と云ふものを踏襲されて居る、若も拓務大臣が先程御答辯になりましたやうな、誠意を以て積極的に行きたいと云ふ御考であるならば、此六十萬圓の豫算に付きまして、假令十萬圓でも、或は五萬圓でも、精神は茲に在ると云ふことを事實に現されて、南支、南洋の施設經營と云ふものを疎かにして居らぬ、財政に累を及ぼすから十分なる施設が出来ないのである、併し俺の精神は茲にあると云ふ其精神が豫算の上に現はれて參らなければならぬ筈だと私は考へる、又樺太に於きまして、前には一年に國庫補給金が三百六十萬圓にまで増されたものが、民政黨内閣の消極政策に依りまして、之を百六十萬圓に減じてしまつた、是が今日と雖も尙ほ百六十萬圓を踏襲致して居る、此拓務省を新設され有力な大臣を此處に配されて、さうして政策の遂行上に遺憾なきを期すると云ふ、此制度の下に現在の大任の如き有力なる方の下に於て、此精神が少しも現はれて居らぬ、百六十萬圓が假令百七十萬圓でも宜しい、十萬圓増すだけでも宜しい、此精神を豫算の上に現はされて、どうも財政上累を及ぼすことは困る、併ながら此十萬圓と云ふものは俺の精神である、許すならば是が三百萬圓でも、四百萬圓でもするのである、君達は此精神を諒として大にやれ、此精神的指導と云ふものが、何等豫算に現はれて居らぬと云ふことを私は痛恨致して居るのであります、で先程

の御答辯の御趣旨は諒と致しましたが、其御精神が何處にも現はれて居らぬと云ふことに付て私は失望を致す、南支、南洋と云ふものはもう放棄して宜しいのであるか、或は樺太に於ての百六十萬圓は是で十分であると仰しやるのであるか、是が不足ならば、假令五萬圓でも、十萬圓でも、そこに増して俺の精神は茲にあるぞと御示しになることが必要であらうと私は考へる斯う云ふ點に付ての御意見を伺ひたいと存じます

永井國務大臣 只今喜多君から實例を擧げて御質問になりました、其御質問の御精神は私も全く諒とするのであります、私も臺灣に對する經費は臺灣全島の經營と、同時に尙ほ臺灣を基點として南支、南洋に發展せんとするものをも援助すると云ふ意味を含めることが宜しいと考へます、唯南支南洋に對する補助は目的とする從來の經費が、是が一方に於きましては、時の政府の財政整理の目的と、又初期に於て助成を致しました事業が追々緒に付きましてが爲に出来るだけさう云ふものに對する補助は減じて行かうと云ふ精神とで、金額と内容に於て次第に變化を來したと云ふことも事實でございます併ながら若し財政の狀態が非常に困難でないならば、更に新なる事業に對しても、尙ほ一層の助成を與へて行きたいと云ふことは、私も同感であります、大體私は南洋に對しましては、第一に栽培業、第二は水産業、其方に重きを置いてそれから勿論、貿易業の發展を助長すべきこととは言ふ迄もありませぬが、其貿易業、栽培業、

水産業に對して出来るだけ助成をしたいと云ふ大體の方針を立てまして、其栽培業に對しましては、最近の不況の爲に、非常な苦境にありまする者の其金融の壓迫から栽培業者を救済すると云ふことに努力をし、且つ常に金融の壓迫から脱するだけでなく、將來立直つて行くことの出来る方針を樹立しまして、それに對して助力すると云ふ方針で、其種類の經費の一部分も實は計上して御協賛を願つた次第でございます、水産業に對しましては、實は只今申上げた財政の状態を察しまして、是は臺灣總督府の方からでなく、直接拓務省の經費の中に、其經費を計上致しまして、一方では水産業に必要な調査船を建造し、他方では漁業の根據地を發見する、さうして現在でも餘り政府の援助なしに、約三千人からの日本人が出て居りまして、一年約五百萬圓からの収益を擧て居る、其勇敢なる日本人の發展をどうか尙ほ一層發展させたいと云ふ考で、經費を要求したのであります、是は併ながら十分の經費は取れませぬでしたが、一部分だけは其目的を達することが出来まして、是は豫算に計上致して居ります、臺灣にら依ざるものは拓務省の豫算で出来るだけ後援するやうに努力致して居ります、併ながら實はそれで満足して居るか云ふと、私は決して満足して居ない、決して満足しないのみならず、私は臺灣を越えたる南支、南洋に對しましては、貿易業、栽培業、水産業に於て日本民族が遺憾なき發展を遂げるやうに援助をしたいと云ふ考を棄てないで、出来るだけそれに向つて努力を致したいと

考へて居ります、樺太に對する御話のことも是は喜多君は最も能く實情を御承知でありまして其樺太の財政状態に對しても十分御理解になつて居ることと思ひます、是も政府の補充金が十分でないこと云ふことに對しまして、御意見がありました、是も出来る限り私共は喜多君と同様に多額にして、樺太の産業の開發を援けたいと思ひます、樺太領有以來二十七八年を経過して、僅に三十萬の人口しか居ないと云ふことは是は如何にも遺憾のことでありまして、一般の産業の上にも、もつと顯著なる發達を遂げて、樺太自體の産業の収益を基礎として、財政の基礎を確立したいと云ふことを痛切に感じて居るのであります、それに對しては今日の所、先づ第一に必要なものは、申す迄もなく、科學的組織的の産業の計畫であります、それに對しては僅に基礎調査をするやうな經費しか得ることが出来ないこと云ふことは私としても頗る遺憾であります、併し他方に於きまして、緊急已むを得ざるものに對しましては、不足なる所は御協賛を得まして、公債を増發致しまして其公債の増發に依つて、不足を補うて、今日の所は一時的を凌ぐと云ふ外ない状態でありまして、財政の状態が建直りますれば、此點に於きましても喜多君同様徹底したる産業政策も確立致したい斯様に考へて居るのであります

拓務省は寧ろ樺太に全力を注げ

喜多委員 永井拓務大臣の御答辯に依りますと、私以上の抱負經綸を御有ちになつて居

るやうで、總て私は御共鳴致す次第でございます、唯遺憾のことには實行されて居ない、

議會の控室から(五)

下から出る杉田さん

拓務省の杉田會計課長は分科會での答辯が實に軟かで、ウンと下から出てオジギをする、議員も其調子でグニヤリ

今井田總監の話で『答辯と云ふものは餘り雄辯にやつても反つて反感を挑發することがある、數字などが飛び出した時は少しマゴ／＼した方が相手に満足と與へる場合が多い』と成程好い處を擲んでゐるものだ

× ×
松田南洋長官が情報子に『近頃の解つた華族は威張らないと云ふが、僕などは昔なら次男坊三男坊で、部屋住みだ、威張る處の騒ぎぢやない』と

『華族様と云ふものにチョット二三ヶ月なつて見たいと思ふが、交代しませんかね』……『駄目／＼交代するならしても好いが、恐らく兩方で勤まるまいよ』
——ナニ、二三ヶ月位なら芝居をやるつもりなら勤まらぬこともあるまい

前には拓務省が無い時代に於て、九十萬圓兎に角金を投じて居る、是は溝に投じたものではな

からう、其中には徒勞に歸した效果の擧らないものもありましたでせうが、其當時の當局と致しましては、有効に之を使つたものと考へて居つたに相違ない、其内容如何に拘らず、其金額から見ましても、拓務省が置かれて居なかつた時に九十萬圓の金を投じて居つたものが、拓務省が置かれた後に於て、六十萬圓に減じた、其儘を踏襲して居ると云ふことになると、新味がない、拓務大臣と云ふ専任大臣が居られる意義が事實に於て現はれて居らぬと私は思ふ、それが爲に南支、南洋に於て經營を致して居る日本人が大なる打撃を蒙つて非常に困惑致して居ることは反面に於て想像し得るのである、折角拓務大臣が居られるに拘らず、舊態依然斯の如き状態にあるのは洵に困る、随分苦んで居ると私は思ふ、又樺太に於ての百六十萬圓を之を百七十萬圓にしてやる位のことは何でもない、さうして茲に精神的に勢を付けてやると云ふ政策が私は必要であると思ふ、今日は樺太が衰へて居る、殊に滿洲問題が生じまして後は、樺太の移民が滿洲に出て行く、樺太で料理屋を開いて居た者が、藝者を引連れて滿洲の奉天に行つて居る、樺太の島民は非常に悲觀して居る、永井拓務大臣の下に於て我が植民地に於て貢獻して居る同胞を斯の如き悲境に陥れて置きながら、唯此處で自分の精神は斯の如きものであると仰しやつても、樺太に於ける者及南支、南洋に於ける者はあなたの其一言に依つて安心するものではない、事實に於て現はすと云ふことが必要であると思ふ、惟ふに、拓務大臣に斯の如きこと

を私は御質問申上げるのは少し無理だと思ふ、何故かと申しますと、朝鮮、臺灣、樺太、關東州或は最近に於て滿洲及外國移民斯の如き大きな舞臺を統督される拓務省でありますから、多くの有材人物を集めて、之を十分監督するのになければ、今日の拓務省の『スタッフ』では十分のことを御やりになることは困難だと思ふ、そこで私は考へる、どうも各植民地の内容を見ますと、改善されて居る所は少しもない、積極的の氣分は現はれて居らぬ、是は大臣に御願ひするのには、今日のやうな状態では無理ではないかとも思ふ、行政整理を叫ばれて居る今日、拓務省だけを大きくすることは出来得ないと思ひますが、私は拓務大臣に御質問して見たいと思ふことは、朝鮮或は臺灣にはもう既に長い間完全なる行政組織がある、斯う云ふものに付ての監督上のことは、是は一時停止なさつて、樺太の將來の開発の如きに、全力を注がなければならぬ、或は滿洲問題、斯の如きものに多くの人を配して、先づ臺灣、朝鮮の如きものは大體に於て總督府に一任して置く、臺灣、朝鮮が豫算を持つて参りますれば、先づ拓務省の役人が豫算と首引きで、一月も一月半も掛つて、其事にだけでも多くの時日を要する、さうして又一方大藏省に行つて、之を一々説明しなければならぬ、斯う云ふやうな小さな事務に捉はれて居つて、さうして植民政策の指導と云ふやうなことに力が注げないと云ふのが、今日の拓務省の現状であらうと考へる、朝鮮とか、或は臺灣の如き拓務省以上の人物が居る、隨て人が多ければ其處

まで監督權の必要上總てを見なければならぬでせうが、今日の拓務省はそれを見ることは出来ない、それを根氣好く見て居ると、大なる政策の指導に事を缺きます、日々の俗事に捉はれて、其調査研究の結果の指導と云ふことに事を缺くことになるのは當然だらうと私は考へる私は他に色々の例も有つて居りますが、どうも改善とか、或は積極的指導と云ふものが、事實に於て無いと云ふことを悲しむと同時に、今の現狀で、日々の事務に執掌して居つては、到底さう云ふことが出来ない、不可能であると云ふことも一方に於ては諒と致します、併し朝鮮、臺灣のことは、大體に於て一任して居るからと云つて、監督の責任はないと云ふことは、大臣としては出来まい、其處に問題が起りますれば、大臣は潔く責任を御執りになつても宜からうと思ふ、霧社事件の如きものが起つた場合に、大臣は責任なしと言はれたが、私は不都合だと感じて居ります、そこから言ふと、總ての事務に監督權を及ぼして、總てを知つて居らなければならぬことになりすけれども、それは事輕重大小がございます、今後の拓務大臣と致しましては、此植民地政策の指導と云ふ方面に御努力に相成る必要上、さう云ふことは御一任になつて然るべきものと考へるのであります、此點に付てどう云ふ御考を御有ちになつて居るか、伺ひたいと思ひます

永井國務大臣 喜多君から非常に同情のある御質問を伺ひまして、拓務省が手不足で困るだらう、出来るならばもつと規模を擴大したら

宜からうが、併し行政整理の叫ばれて居る今日
是は已むを得ないであらうと云ふ御言葉は洵に
有難く存じます、拓務省の規模を尙ほ一層擴大
して、十分統制の實を擧げたいのであります
其手不足を補ふべき機會が來ますれば、又十分
御協力も願ひたいと思ひます、併し現在の如き
手不足の状態では、まだ機關が擴張されない間
に於ては朝鮮、臺灣の如きものは、是は一時其
外地の總督府に一任して、其他の事に専念した
らどうかと云ふことも一應御尤のやうに存じま
すが、考へて見ますと、拓務省の仕事は單に其
外地の一つ々々のものを經營して行くと云ふだ
けではないのであります、朝鮮は朝鮮自體に於
て開發せしめ、臺灣は臺灣自體に於いて開發せ
しめるといふだけでなしに各地に擴がつて居り
ます日本の外地を統一しまして朝鮮と臺灣との
關係は如何にするか、或は臺灣と南洋諸島との
關係は如何にするか、或は朝鮮と滿洲の關係は
如何にするか、斯う云ふやうな外地相互間の事
を矢張國家的の見地に立つて統制し、指導して
行くと云ふことも、拓務省の重大なる責任であ
るやうに思ひます、そこで例へば金の生産を奨
勵しなければならぬさう云ふやうな場合には、
臺灣に對しても朝鮮に對しても、又滿洲に對し
ても、それ／＼の機關を通じて、本國の政策に
適應したことをやらせる、又鹽に對しても、自
給自足の精神でそれ／＼割當てた生産の努力を
させる、或は棉花に對しても其適當なる土地に
栽培の計畫を樹てさせる、さうして何年後には
非常の場合に於ける自給自足の安心の出來るや

うな方針を樹てるとか云ふやうな全體として統
制するやうな必要も随分あるのでございます
又現に今度の議會などでも問題になつて居りま
する米の問題でも、朝鮮は朝鮮で放任して置き
、臺灣は臺灣で放任して置くと云ふことであれ
ば、矢張内地の農村には重大なる打撃を與へる
危険がありますから、矢張内地の農村の實情に
則して、それに伴うて朝鮮、臺灣にそれ／＼國
家的見地から統制をさせて行く、斯う云ふやう
なことも、矢張必要でありまして、朝鮮自體の
開發、臺灣自體の開發と云ふことは、是は出來
るだけ其總督府の經緯に俟たなければならませ
ぬが、唯それが矢張餘りに多額の經費を要して
、内地の政府の財政上の援助と云ふやうなこと
を多く要して、來れば是は矢張程度までさう
云ふ仕事でも統制しなければならませぬが、全
般的の相互關係に至つては、どうしても拓務省
の監督の必要があるやうに思ひます、さう云ふ
やうな點を色々考慮して見ますと、手不足では
ありますけれども、苦しみながら矢張外地全體
に對する指導、統制を續けて行くと云ふ必要が
あるやうに思ひます

外地間の指導統制

喜多委員 恰度今拓務大臣の御話になりま
した外地間の統制指導と云ふことが、私は重要
なるものと考へて居る、それと同時に朝鮮總督府
或は臺灣總督府に對して、此政策の指導を致す
と云ふことは私は重大なる拓務大臣の任務であ
らうと思ふ、恰度今御説明になつたことは大臣
として大いに力を注いで戴き、又朝鮮及臺灣に

於きましての指導と云ふことに大いに力を注い
で戴く上に於きまして、當時の事務的なことに
は矢張干渉を爲さらないで、責任があるのであ
るから豫算の總てを見なければならぬ、或は新
規事業は一切内地で認めないのであるから、臺
灣も新規事業をやつてはいけなかつた、さう云ふ
やうなことに餘り御干渉になる邊が殆どなから
うと思ふ、それを今日は矢張やつて居る、是は
或は拓務大臣の御趣旨が部下まで徹底して居ら
ぬ爲ではあるかも知れませぬけれども、此精神
を十分に發揮する上に於きましては、どうも日
常の單に事務に屬することに、拓務省が關係を
致すと云ふ餘力はない筈だと私は考へて居る、
臺灣に於きまして、今はどうか存じませぬが
吾々居りました際には、どうも指導精神と云ふ
ものがなかつた、今日でも恐くは同様だらうと
思ふ、總督が臺灣の統治を如何にし、臺灣の産
業政策を如何にし、或は教育結論は茲であると
云ふ此指導的精神が缺けて居る、今日も私はさ
うだらうと考へて居る、隨て部局長は自分の部
局に屬する所の事務の成績を擧げると云ふこと
に没頭致して居る、移民族の多い所の臺灣に於
きまして、此文教局長と云ふものが、唯教育
を進めれば宜い、或は殖産局長は産業さへ發達
させれば宜いと云ふやうなことで、皆其指導精
神を缺いて居つて、部局々々が勝手に自分の事
務の成績を擧げ、或は進歩向上をさすと云ふこ
とのみに没頭して居つて、此指導精神と云ふも
のが缺いて居る、私は現在の拓務大臣の下に於
きまして、各植民地の總督、長官を呼んで、

さうして指導的精神を其處に作るべく、何等かの協議を爲さつたか、或は其機關を御設けになつて居るか、恐らく私はなからうと思ふ、彼等をして思ふ儘にやらしめる朝鮮總督は、矢張指導精神を以て御出でになるだらうが、部局長に對してそれを明示して居らぬ、臺灣に於ても同様であると私は考へる、丁度今拓務大臣が御答辯になりましたやうな外地間の統制及指導並に其外地に於ける政策の指導に重きを御置きになりました、さうして日常の事務的に屬するもの假令豫算の上に於て諒解の付かないものがありましても、向ふには事實に即した相當な人間が居つて、それが作つて行く豫算でありますから先づ之に承認を與へる態度が必要である、其處に多くの勞力を費す必要はなからうと思ふ、私はさう云ふことを申上げて居るのであります、或は私の言葉が足らなかつたから誤解があつたかと存じますが、さう云ふ點に就て御同感で御在でになるかどうか伺つて置きたいと思ひます

永井國務大臣 私の申しましたことに就きまして、大體に於て外地行政に御經驗のある喜多君から、御同意を得ましたことを欣懷に思ひます、日常の小さな事務に對して干渉すると云ふようなことは、決して拓務省の仕事ではないと思ひます、植民地、外地自體の經濟的文化的發展、外地相互間の文化的經濟的關係を國家的見地に立つて十分に觀察をして、其大方針を決めると云ふ所に最大なる責任があると考へて居ります

臺灣産果物の移入検査

喜多委員 更に私は進んで大臣若くは政府委員の御意見を伺ひたいと存じます

私は臺灣に對しましては、臺灣の果物類或はあゝ云ふ野菜物は、丁度臺灣は天然の温室でありまして、日本に於ては温室を特に作つて色々の果物類を出して居る、臺灣では自然の儘さう云ふ季節外れの珍果なるものが豊富にある、隨て私は臺灣は内地から見ると自然の温室として、之を利用爲さると云ふことが必要なりと思つて居る、私任當時西瓜を特に内地に移入致すと云ふことに付て、其當時の農商務省に交渉致しましたら、非常に難かしいことを言つた、瓜實蠅が居るから之に入れる譯には行かぬ、其瓜實蠅は内地に居らない、若しも之を移入を許せば瓜實蠅が生じて、内地の植物は被害を受ける其根據は何處にあるかと言へば、試験室で之を養成すると立派に育つと云ふやうなことを農商務省が申すのであります、所が臺灣の之に關係ある所の學者、専門家の説に依りますと從來西瓜の如きものは、上海を通じて入つて來て居つた、若しも此瓜實蠅が内地に於ても自然に發生蔓延すると云ふならば、今迄に居るべき筈である、唯此蟲が居るべき筈である、然るに居らない、唯試験管に於て養成すれば發育すると云ふやうなことを以て反對するのは怪しからぬと云ふ主張であつたのであります、そこで色々交渉の結果内地の産業を壓迫して居るなど云ふことは悪いと云ふので、周圍何尺以上のものだけは入れて宜しいと云ふことで、小さい西瓜は禁じて居る、小さい西瓜で實に旨い物が向ふにある、併

し内地の産業を壓迫しないやうに、周圍二尺程度までは宜しいと云ふことになつて、而も其食物検査は嚴重であります、内地へ上る時には只今で言へば農林省が検査を嚴重にやる、臺灣を出る時には臺灣總督府で嚴重に検査を致して居る、西瓜が解禁された後に於て臺灣總督としては農林省に對して尙ほ他に珍しい安い物があつて内地へ送れば、内地の人が食膳に載せて喜ぶ物があるのにも拘らず、何等之に付て交渉されて居らぬと見えて、實現は致して居らないのは事實である、『マンゴー』の如きは、是はまだ内地人の普通一般の食用にはなつて居りませぬが是は向ふの果物の王と言はれる位旨いものである、是でさへもやはり蟲があるからと言つて禁じて居る、或は祇瓜、胡瓜の如き物も多實つて居る、之を内地に入れて來れば非常に宜い、折角あゝ云ふ温室を持つて居るに拘らず、之を利用されて居らない、若しも此交渉があつてさうして検査の方法宜しきを得れば、是は樂に入つて來ると私は思ふ、何故臺灣を天然の温室として之を利用なさらぬか、内地の産業を保護する必要があるならば、是は或る程度に於て制限すれば宜しい、斯う云ふ點に付ても、何等途を講じて御在でにならぬやうである此點が一つ又今日入つて來ます『ボンカン』或は西瓜の如きものも二重に検査を致して居る、臺灣總督府で検査致し、船から揚げると農林省が又検査を致す財政困難なる今日何の爲に二重に検査を致すか内地から言ふと臺灣の官吏は信用がないと言ふかも知れない、若しも臺灣の官吏が信用がない

と云ふことであるならば農林省から人を向ふへ
派してさうして、臺灣の官吏と農林省の官吏を
使つて検査をして、検査を統一して一つにして
しまふと云ふことは非常に財政上助かる、斯う
云ふことさへも行はれて居らない、將來臺灣を
天然の温室として御利用になると云ふ主義の下
にさう云ふ珍しい、安い物を内地に入れると云
ふことに付ては御考にならないのであるか、又
今日行はれて居る食物を一箇所に止めて、さう
して完全に効果を擧げると云ふことに御獎勵相
成らぬものであるか御伺ひしたい

福田(關)委員 議事進行に付て一寸……
先程から喜多君の御話でございますが、從來の
植民政策及將來の産業植民政策に關するやうな
御意見は餘り此決算に關係が遠いと思ひますが
是は始まりましてまだ幾らにもなりませぬから、
もう少し決算に直接關係致す程度に止めて載く
やうに、委員長から御取計ひ願ひます

喜多委員 只今決算に縁の遠い質問である
と云ふことで、御異議があつたやうであります
が、私は決算に關係があると思ふ、官吏を使
つて俸給の支拂を致して居る、決算の報告に對
して、吾々審議致すのは必しも會計検査院の非
難事項ばかりを審議致すのではない、豫算を使
用した後を總て此處で再審議して、それで責任
は解除する、今日の官吏が遊んで俸給を取つて
居つたならば、見逃す譯には行かない、假令會
計検査院が報告しなくても、之れに對して吾々
審議權を有し、又當局の説明を聴かなければな
らぬ、さう云ふことは洵に不當なる御注意であ

ります、のみならず吾々の決算審議權を無視す
るものであると思ふ、絶対に反對致します

福田(關)委員 只今の御言葉であります
今仰せになるやうなことは、豫算委員會なり、
本會議に於て爲さるべきものでありまして、決
算は決算に現れました所の數字に依つて其可否
を決するのが決算委員の本分であると思ひます
吾々は決して審議權を束縛するとか、無視する
とか云ふことは、絶対に致しませぬ、進んで致
したいのであります、成るべく意見に關しま
すことは、お互に慎んで唯款項に互る所のもの
に關聯したものに付ては、無論參考に申上げる
のも宜しいが、是と云つて、捕捉すべきのもの
ない、唯植民政策、産業政策と云ふやうな高邁
なる理想ばかりでは、一寸困るのでありますか
ら、其邊を成べく簡略に致して載きたいと思ふ
のであります

山崎委員長 委員長として申上げます、先
刻から喜多君の政府に對する御質疑は、拓務大
臣との間に徐々に論議が進められ、集中され、
さうして段々終結に近付いて來たやうに委員長
は承知致しました、それでありまして、只今
福田君の御意見もありましたけれども、喜多君
も其意味に於て、茲に集中されて御質疑を御進
めにならんことを希望致します

外地の官紀

福田關次郎君の質問

福田(關)委員 只今喜多君から續々御意見
がありましたが、要するに拓務省管内の經費の
非常に少額であると云ふことに付ては、拓務大
臣も之を感じられて居ることであらうと思ひま
す、と同時に吾々も同感であります、是は
共に各植民地に於きます官紀綱紀の上に於き
まして、吾々は疑はなければならぬ點が間々あ
ります、昨年の決算に於きまして、其數項を
事實に於て摘發致したのであります、今年
に於ては稍々少くなつて居りますが、矢張其跡
を絶つことが出来ませぬのは、洵に遺憾に思ひ
ます、先づ朝鮮内地に於きます綱紀の紊亂の
ことは、大抵言はなくても御承知の通りであり
ますが、專賣制度に依つて居ります所の度量
衡の如きものは、五年若くは六年間政府から之
を與へて居るに拘らず、其實上代金を拂はずに
置いて、矢張其者が繼續して其販賣權を獲得し
て居ると云ふが如きものも、全く我が日本の財
政經濟と云ふものに對します非常な缺陷を來
す根源となるのであります、又土地を賣却致し
ますものにも、其土地の時價は大抵其相場が決
つて居りますものにも拘らず、其相場よりも三分
の一で處分すると云ふやうなことが餘程行はれ
て居ります、例を申上げますれば色々あります
が、北海道に致しまして、或は臺灣に致しま
しても、其例は多いのであります、斯様なこと
を詮議致しますれば拓務省の方面に於きまして
現在の豫算よりも、之を増加せしめる所の途も
亦多々ありはしないかと思ふのであります、北
海道に於きまして、例へば未開地として賣り

ました所の土地が、札幌であるとか、函館であるとか云ふやうな市街地で、先づ住宅地であり道路に沿うて居りまするものを未開地と稱して三分の一以下殆ど五分の一位で拂下げると云ふことを致して居りまする如きも、非常に不届だと思ひます、又官有物の収入に於きまして、臺灣の三井物産が拵へて居りまする材友會と云ふものが、財政上の危機に瀕した、之を助ける爲に臺灣總督府が拂下致しまする檜の丸太材を、三割五分乃至四割に近い所の低價を以て之を拂下げて居る、材友會と云ふ財閥の會を救ふべく斯う云ふことが、行はれると云ふことは、餘程我が日本の思想の上に於きまして、惡影響を及ぼすのみならず、國家の財政の上に於きましても憂慮すべきものでありまするし、又國家に與へまする所の損害も莫大と言はなければなりません、今の檜の拂下だけでも、國家の受けまする損害は一年に約廿三萬餘圓であらうと思ひます、又朝鮮に於きましては、官吏が公品、官品を消費致しましたものも數萬圓ある、どう致しまして植民地は本國と遠ざかつて居りまするから、非常に官紀が頹廢致して、例へば樺太に於きまして、森林の拂下でも——是は昨年も挙げたことで、すつと四年、五年、六年と續いて居りますが、矢張同一なことが今年も行はれて居ります、無論拓務大臣は御就任になりました早々でありまして、さう云ふことに一々數年前の事の御責任を問ふのも何でもありませんが、さう云ふ缺點のあることに付きましては、十分に御諒承を願ひまして、さうして是が改革

をして戴かなければならぬ、例へば樺太の森林は、我が製紙界及材木界の中心を成すものであります、昭和三年度の如きにも、内閣が迭ると云ふ時には、驚く勿れ實に二億六百萬石と云ふような拂下をして居るとか、或は此六年度に現れて來ました所の森林の拂下にしても非常なる不當な拂下がある、今迄の例に見ますと、一年間に富士製紙其他に拂下げましたものは、六千萬石以下であるのに、それを一年間に二億萬石以上の拂下をして居る、斯う云ふとは實に由しき大なる問題であると私共は信するのであります、斯う云ふ各方面に於ける不法若くは不當と認めますものは、枚舉に遑がないのであります、此邊を十分なる肅正をされまして、御取締り願へば將來國家及拓務省の經費を捻出し、又國家財政を補ふ上に於きまして、餘程益することが多いと思ふのであります、幸に永井拓務大臣の御就任に依りまして、徐々に是が改革が出来るかと思ひますが、吾々が今後決算委員として審査するに當りまして、毎年同一なることを繰返さないやうに、其邊に十分なる御盡力を願ひ、是が改革の途を立て、戴きたいと思ひますが、此邊は事實却々難かしいであります、さうかどうかを一寸承つて置きたいと思ひます

永井國務大臣 只今福田君から御話になりました外地の官紀を出来るだけ肅正して、官紀素盞の爲に國家に損害を及ぼすが如きことは、嚴重に之を避けて、少しでもさう云ふ經費があれば、其外地の經營、外地に來ける住民の幸福の爲に之を轉用すべきものであると云ふ御精神

は洵に同感に存じます、拓務省と致しましても出来るだけ其御精神に副うて、全力を盡したいと考へて居るのであります

山崎委員長 本日は是で散會致します

昭和五年度 決算審議

決算の審議は外地關係の分は夫れ／＼關係地方の議事の中に採録し、こゝでは主として拓務省に關する分だけを掲げた、併せて参照され度い

昭和五年度

拓務書記官

杉田芳郎君の説明

(二月二十三日衆議院決算分科會に於て)

本日の會議に上りたる議案左の如し、昭和五年度歳入歳出總決算、昭和五年度各特別會計歳入歳出決算(拓務省所管)

山崎(猛)主査代理 開會致します、前日の第四分科の質問の残りにして置きました拓務省所管に付て質疑を開始すべきであります、それに先つて拓務省の全體に互る決算に關する御説明を要求致します

杉田政府委員 それでは、私から昭和五年度の拓務省所管の決算に付きまして説明を申上

けるのでございますが、拓務省所管の分は一般会計と特別會計の二つの分がございまして、特別會計の決算に付きましては、それ／＼外地當局の政府委員から御説明申上げることゝ致しまして、私は一般会計の經費決算に付きまして其概要を御説明申上げます

昭和五年度の拓務省所管經費の豫算額は、歳出經常部二百五十七萬七千五百九十四圓、歳出臨時部三千二百七十一萬三千六百卅八圓、合計三千五百廿九萬一千二百卅二圓でありまして、豫算現額は歳出經常部二百五十七萬七千五百九十四圓、歳出臨時部三百廿四萬三千八百廿三圓合計三千五百八十二萬一千四百十七圓でありますから、豫算現額の豫算額に比較致しまして、増加する金額は、五十三萬百八十五圓であります、此増加額は前年度から繰越しました金額でありまして、此年度に支出致しました、支出濟額は歳出經常部二百卅七萬九千八百一十一圓三十二錢、歳出臨時部二千四百七十四萬三千二百二十圓九十三錢七厘、合計二千七百七十二萬二千九百卅二圓二十五錢七厘でありまして、之を豫算現額三千五百八十二萬一千四百十七圓に比較致しますれば、八百六十九萬八千四百八十四圓七十四錢三厘を減少致して居ります、此減少額の中、二百六萬八千五百圓は會計法第二十七條に據りまして、翌年度に繰越致しました金額でありまして、六百六十三萬三千七百七十九圓七十四錢三厘は全く不用となりました金額であります、尙此繰越致しました金額の費目は、歳出臨時部第三款、移殖民保護及獎勵諸費、第一項、移殖

民保護獎勵費に於きまして、移民船の都合等に依り渡航の延期を致しました者がありましたのと、内地移民にして季節の關係等に依りまして移住しなかつた者がありました等の爲に、年度内に支出の終了しなかつた金額百七十二萬三千五百圓、第二項、生産資金貸付金に於きまして移住者の移住地入植の關係に依りまして、年度内に支出の終了しなかつた金額二十二萬五千圓又元内務省所管、第二十五款、移殖民保護及獎勵諸費、第二項、海外企業費貸付金に於て、海外移住組合の移住地經營に關しまして、移住者の入植其他移住地の事情等に依りまして、事業の一部を翌年度に繰延べました爲に、年度内に支出の終了しなかつた金額十二萬圓、合計二百六萬八千五百圓を會計法第二十七條に據りまして翌年度に繰越致しました、是等は總て豫算に於て繰越使用の明許を得た費途でございまして、此年度の經費決算に當りましては、幸ひ會計検査院の批難を受ける事項なく、無事に終了致しました次第でございまして、以上を以ちまして拓務省所管一般会計の經費決算の概要を申上げました、以卒御審議の上御承認あらんことを希望致します

不用額は どうして 出来た？

(二月八日貴族院決算分科
會に於て)

主査(男爵大藏公望君) 只今の御説明に

對し、何か御質問なり御意見なりはございませぬですか、……皆さんに御有りなさらなければ、私ちよつと伺つて見たいと思ふのですが、是はほんの伺ふだけではありますが、特別會計の經費補充でございまして、それはどう云ふ風にやつて居るのでございまして、是は一般的に補充するのであります、其特種の仕事に向つて補充するのであります

政府委員(杉田芳郎君) 速記を止めて

主査(男爵大藏公望君) 速記をちよつと

(速記中止)

主査(男爵大藏公望君) 特別會計經費補充金の不用額が關東廳百萬圓、樺太廳二百萬圓、南洋廳二十萬圓と云ふので、何れもきつちりとした金額であります、と云ふやうなのは是は命令で以て減少しろと言はれた譯でありますか

政府委員(杉田芳郎君) 實は五年度豫算

と云ふのは、御承知の通り前年度豫算施行になつて居りまして、此不用額が立ちます主もな原因は、一應五年度の不成立豫算と云ふものが出来て居りまして、不成立豫算に組んで居りました金額と、前年度豫算を施行いたしました金額との差額、詰り實行豫算と施行豫算との差額と云ふものが、此不用額になつて居ります、實行豫算と云ふものは政府内部のことではございませぬけれども、詰り議會解散がなければ、解散議會に提出した豫算、即ち不成立豫算を以ちまし

て政府で豫算の實行をやつて行くと云ふやうになつて居ります、然るに施行豫算でございしたので、其施行豫算と今の實行豫算に基きます相當の差額がありますそれから、不用額が非常に多いやうに見えますが、それで先程申上げました拓務省所管の一般會計の不用額が六百六十三萬と云ふやうな大きな不用額が立つて居るやうになりますけれども、特別會計經費、補充金其他移植民保護獎勵諸費等に於きまして矢張り是は前年度施行豫算と、それから不成立豫算に定めて居りました金額を本にして實行豫算は組んで居りましたので、それ等のことが主なる原因になつて居ります、其他の節約等に依りまして、相當不用額が増加したと云ふ金額もある譯であります

主査(男爵大藏公望君) 其點は能く分りましたが、さうしますと朝鮮總督府になると、不用額がある筈なのに、朝鮮總督府に限つて一文も不用額が出て居らないと云ふのはどう云ふ譯でありますか

政府委員(林繁藏君) 私から申し上げます、詰り朝鮮總督府の不用額に付きましては、四年度も五年度も同額でありまして、補充金を減す積りは無かつたのでありますが、四年度通りに施行豫算と實行豫算との間に何等の開きがないのであります

主査(男爵大藏公望君) 何か外に御質問ございませぬか

政府委員(杉田芳郎君) 速記を止めて戴

きたい

主査(男爵大藏公望君) 速記を止めて

(速記中止)

昭和六年度

杉田政府委員の説明

(三月二日貴族院決算
科會に於て)

主査(男爵大藏公望君) 只今から拓務省關係の昭和六年度歳入歳出決算の審議を開始いたします、先づ政府委員の方から御説明を願ひます

政府委員(杉田芳郎君) 昭和六年度の拓務省所管の一般會計及各特別會計の經費決算に關しまして、特別會計の決算に付きましてはそれ〴〵外地の當局の政府委員から御説明申し上げることゝ致しまして、私は一般會計の經費決算に付きまして、其概要を申し上げたいと思ひます昭和六年度の拓務省所管の經費の豫算額は歳出經常部が二百四十萬七千二百五十二圓、歳出臨時部が二千四百四十二萬八千八百四十八圓、合計二千六百八十三萬六千四百圓でありまして、豫算現額は歳出經常部二百四十萬七千二百五十二圓、歳出臨時部二千六百四十九萬六千九百五十三圓、合計二千八百九十九萬四千二百五圓でありますから、豫算現額の豫算額に比較いたしました増加する金額は二百六萬八千五百五圓であります

す、此増加額は前年度から繰越しました金額であります、此年度に支出いたしました、支出済額は、歳出經常部二百三十四萬三千二十四圓三十三錢、歳出臨時部二千三百二十四萬八千六百一十一圓十九錢五厘、合計二千五百五十九萬一千八百八十五圓五十二錢五厘でありまして、之を豫算現額二千八百九十萬四千二百五圓に比較いたしますると三百三十一萬三千九百四十七錢五厘を減少いたして居ります、此減少額の中八十二萬七千三百三十二圓五十錢は會計法第二十七條に依りまして翌年度に繰越しました金額でございまして、二百四十八萬五千七百六圓九十七錢五厘は全く不用となりました金額でございまして此繰越いたしました金額の費目は歳出臨時部第二款移植民及海外拓殖事業保護獎勵費、第一項移植民保護獎勵費に於きまして、移民船の都合等に依り渡航を延期した者がありましたので、年度内に支出の終了しなかつた金額七十六萬四千三百三十二圓五十錢、及び第二項海外企業費貸付金に於きまして海外移住組合聯合會の事業計畫が豫定の如く進捗しなかつた爲め、年度内に支出の終了しなかつた金額六萬三千圓、合計八十二萬七千三百三十二圓五十錢を何れも會計法第二十七條に依りまして翌年度に繰越したのでございまして、是等は總て豫算に於て繰越し使用の明許を得た費途でございまして、此年度に於きましては、幸ひ會計検査院の批難を受けるが如き事項がなく無事決算を結了いたしました次第でございまして、以上を以ちまして拓務省所管一般會計の經費決算の概要を申し上げました次第でございます

ございます、何卒御審議の上御承認あらむことを希望いたします

移植民保護奨励費の 不用額

(三月二日貴族院決算
分科會に於て)

主査(男爵大藏公望君) 只今の御説明に關して何か御質問ございませぬか、特別會計の方は後廻しに致しまして、拓務省自體の會計に關する御質問は何かございませぬか……皆さんに御ありにならなければ、私がちよつと伺つて見たいと思ふのです、それは昭和六年度各省決算報告書と云ふ中の三百三十七頁にあります、歳出臨時部第二款第一項移植民保護奨励費と云ふ分が豫算が二百四十八萬圓取つてありましてさうして、不用額が二百萬圓、詰り二百四十八萬圓の豫算を取つて置きながら、四十八萬圓しか使はない、而も其理由には不用額を生じたのは節約に依るとしてあるのであります、移植民保護奨励費の如き非常に大事な費目であるに拘らず、豫算の五分の一しか使はない、而もそれは節約したのだと云ふことは甚だ面白くないやうに思ふのでありますが、どうして斯う云ふやうになりましたか御説明願ひたい

政府委員(杉田芳郎君) 只今大藏男爵から移植民保護奨励費に付しまして、豫算額に對して多額な不用額を生じた、斯う云ふ重要な費目に付て節約をすると云ふことは宜しくないでは

ないかと云ふ御尋でございましたが、誠に御尤もなる御意見でございました、御説の通り六年度の決算に於きましては、非常に多額の不用額を出しまして、それが節約と云ふ風な形で現はれて居ります、是は政府に於きまして、無理に節約をした爲に、これほど多額の不用額が出て其爲に移植民の保護奨励に非常な支障があつたと云ふことではなくして、實際の實情は移植民の出足と云ふものが此年には挫けましたのであります、此外部に存します原因の爲に使用を不得ず結果に於て此やうな不用額が出てそれが節約となつて現はれたと云ふ風な實情でございまして、此點はもう少し其邊の實情を申し上げます、十分御了解を願ひたいと存する次第でございますが、御承知の通り此移植民保護奨励費に含まれて居ります豫算の中、主なものには「ブラジル」に参ります渡航費、奨励費として支出いたしますのでございまして、此「ブラジル」移民は御承知の通り、明治四十一年に日本から「ブラジル」へ参りましたが初めてありますけれども、政府に於きまして、船賃等の奨励金を出して之を積極的に奨励いたしましたのは大正十二年、即ち關東大震災の罹災者救済の爲に船賃を政府が負擔して「ブラジル」に送ると云ふことに始まつて居りまして、確か大正十二年には百十名の移民を「ブラジル」に送りましたのでございます、其後民間に於きまして海外發展の奨励、それから政府に於きまして奨励とが相俟ちまして、漸次海外進出の勢が旺盛

になつて参りました、御承知の通り、昭和四年には拓務省も新設せられると云ふ風なこともございまして、政府が益々之に對して積極的な奨励をする、と云ふことが明かになりましたので、昭和四年度で、約一萬五千人の渡航者がありましたが其後次第でございまして、所が昭和五年から其数が減少し始めまして此問題になつて居ります、昭和六年度には約六千人と云ふ風に激減いたしましたのでございまして、此事情は後ほど申し上げますが、其後昭和七年度に於きましては、更に六十三議會に於きまして渡航費の追加豫算或は仕度金の追加豫算等を御協賛願ひました爲に、非常に海外進出の勢も旺盛になつて参ります、時局匡救の意味を以ちまして政府に於ても相當奨励いたしましたので、本年度に於きましては二月末日迄に既に一萬七千人を突破して居ると云ふやうな状況になつて居る次第でございまして、此六年度に非常に移民の数が激減いたしましたのは、是は先づ第一に昭和五年末に「ブラジル」に御承知の革命がございまして、其爲に「ブラジル」に行つて果して成功出来るかどうか、革命があると云ふやうな國へ行くと非常に不安であると云ふ風な氣分が民間に於て濃厚になりましたのと、更に昭和六年の始めには「ブラジル」の都市に失業者が相當増加いたしましたので、海外から入つて来る移民はどうしても止めなければならぬと云ふ風なことが「ブラジル」内にも論議されまして、外國移民の入國制限令と云ふ風なものが出ましたのでございまして、其外國移民の入國制限令に

付きましても、特に日本人の移民だけは是は從來日本人は『ブラジル』の内部に於て非常に勤勉であり、又正直な農民として聲譽を揚げて居りましたので、特に日本移民は『ブラジル』の都市の失業者を増加することにならないと云ふ風な議論の結果、此入國制度令の適用を受けないと云ふことになりましたのでございしますが、それ等の關係も日本から『ブラジル』へ進出したします氣勢を非常に挫いたと云ふやうな結果になりましたのでございします、それから更に昭和六年の四月頃から、御承知の通り拓務省の廢止と云ふ風な問題も種々論議されまして、六年九月半ばには政府内に於きまして拓務省廢止が決定したと云ふ風なこともございましたので、民間に於きましては省が廢止されれば是等の海外移民、海外進出に對する保護とか助長とか云ふやうなものも、或は止めになるのではなからうかと云ふ風な非常に危惧の念も増加して参りましたやうな關係で、移民の奨勵に當りまする當事者と致しましては、極力是等の危惧の念、不安の念等を一掃するに努めましたけれども、どうしても是等の外部の事情は玆に論議の對象となつて居りまする豫算を消化し切れないやうな状態になつて参りましたので、是は政府内部に於きまして、無理に節約をして是だけの不用額を出したと云ふのではなくして、主として國外の事情それから、まあ國內の事情も多少ございしますが、それ等が原因となりまして、どうしても移民の出足と云ふものは非常に鈍つてしまひましたので、政府が使はうとしても使ひ切れな

い状態であつたのでございします、是等の點は今大藏男爵の御意見にございました通り非常に多額の不用額を出して、移植民の奨勵の趣旨に副はないやうな結果になつたのは非常に遺憾でございしますけれども、今申上げましたやうな事情に依りまして、此邊の所は何卒御了解を願ひたいと思つて居ります、それから話は少し餘談になるやうでございしますが、昭和七年に於きましては先程も申上げましたが、既に拓務省の廢止も之を止めとなりましたし、それから各般の事情も、悪材料も無くなつたと云ふ風な關係で非常に好轉して参りましたのと、それから更に六十三議會に於きましては、此海外移植民の奨勵に關しまして、色々の豫算の御協賛を願ひ、特に今迄豫算に含まれて居なかつた移民の支度金と云ふ風なものも時局匡救の關係で御承認を願ひましたので、非常に海外進出の氣勢が濃厚になつて参りました、既に本年の二月末迄に一萬七千人を突破いたしました、恐らく本年度中には一萬八千數百名の移民が出ると云ふ風な見込でございまして、將來とも只今の御意見にございしましたやうな點は十分我々も考へまして、益々積極的に移植民の奨勵に努めたいと思つて居りますので、何卒我々の微意を御汲取り下さいまして、此の邊の所は御了解を願ひたいと思ひます

主査(男爵大藏公望君) 御話に依りまして能く分りまして、拓務省の御努力殊に感謝に堪へませぬが、唯御願ひするのは、今後は此備考を書く時分にもう少し何と申しますか深切と申しまするか、實際と申しまするか、單に節約を爲したと云ふのでは分りませぬから、分りますやうに御書きを願ひます

非難が減じた

主査(男爵大藏公望君) 外に何か御質問はありませぬか、更に遡りまして、拓務省關係特別會計の全般に互つて、何か御質問ございませぬか……御質問がなければ、續いて、昭和六年度歳入歳出の決算検査報告の審査に入りたいと存じます、拓務本省の別段に検査院の方からの報告はありませぬが、最近の昭和五年度に比べますと、大分成績が御宜しいやうで、何か餘程の御盡力でもあつたのかと思ひますが此點に付て何かどう云ふ風にしてやつたと云ふ御話がありませうか

政府委員(杉田芳郎君) 只今大藏男爵の御尋ねは各外地に付きまして、各拓務省所管の決算に付きまして非難事項が減つたやうだがそれに對して何等かの手段を講じたかと云ふやうな御話に承りました次第であります、御承知の通り拓務省の所管は非常に廣汎に互つて居りますし、それから事務の分量も相當多いのでございしますけれども、從來會計検査院から非難を受ました事項は、決して少くはなかつたので此點は首腦者に於きまして、又事務の末に携はる者と致しまして遺憾に存じて居つた次第でございしますが、結局此會計事務の嚴正公正を期すると云ふことは、結局に於きまして行政全

般の問題にも互ることでもございまするし、ま
あ行政監督の適否、或は事務に當ります者の注
意の如何と云ふ風なことに依りまするが、又
之に對して適當の手段を講じて、成るべく出來
得る限り是等の非難事項を無くすると云ふこと
は最も必要であると考へます、で省設置以來拓
務省に於きまして、或は各外地に於きまして
も、色々會合等のあります際には、綱紀の肅正
とか、或は事務の刷新、或は經理事務に付て特
に注意せよと云ふ風な訓示を致しますとか、或
は具體的な通牒等を出しまして、文書に依つて
各自の注意を促して、會計事務の刷新を圖ると
云ふ風なことも致して居りまするし、確か朝鮮
總督府だつたと思ひますが、從來會計検査院か
ら非難を受けましたやうな事項に付きまして、
之を印刷いたしまして冊子として各當事者に配
り、其注意を喚起すると云ふ風な方法とか、或
は其他の外地に於きまして、それ／＼色々な適
當と思はれるやうな方法を講じまして、其非難
事項の絶滅を期し、不正事件の絶滅を期すると
云ふことに努力いたして居ると云ふやうな次第
であります、幸ひ只今御話のございました通
り、六年度は五年度に比べまして、從來に比し
まして相當非難件数が減つて參りましたやうな
次第でございますが、是は將來とも十分益々注
意いたしまして、斯かる非難事項の絶滅を期す
ると云ふことに向ひまして進んで行きたいと思
つて居りますが、特に拓務省は外の役所と異り
まして外地に於ける異民族の統治と云ふ風な問
題もございまして、尙ほ私共事務の末に携

はる人間と致しまして、僭越のやうなことでご
さいませけれども、異民族の統治と云ふやうな
ことは結局、日本の政治とか、行政とか云ふこ
とに信頼をさせると云ふことでなければならぬ
と思ひますが、それが爲にはどうしても行政事
務と云ふやうなものが厳正公平に行はれるので
なければならぬと思ひます、是等の點に付きま
しては十分注意を致しまして、只今大藏男爵の
御質問のございました趣旨を、益々徹底いたし
たいと考へて居る次第でございます

主査(男爵大藏公望君) 御説明で以て能
く分りました、拓務省、其他關係官廳の御努力
を感謝しますが、どうか只今の御説明通り、此
言質を取つたやうで甚だ恐縮ですが、今後昭
和六年度に負けないやうな成績を年々御擧げに
ならむことを御願ひ致します、拓務省所管、朝
鮮總督府關係、非難事項としましては、歳入に
於て二件、歳出に於て三件、合計五件でありま
すが、其中第二の森林収入の分は小委員會の方
で擔當しますので、此方では第一、第三、第四
第五の四件に付て審査したいと存じます、又其
中第一は既に昭和五年度の決算の時分に相當詳
細に質問應答が重ねられました、又それに伴つ
て決議も済んで居りますので、此分に付きまし
ては、御説明並に質問を省略したいと考へます
が、如何でございませうか御異議ありませんか
〔異議なしと呼ぶ者あり〕

審議決定

妥當に非らずと
認められた點

窪井義道君の討論

(三月十六日衆議院決算委員會)

山崎委員長 便宜上昭和五年度、六年度の
決算を一括して討論に移ります

窪井委員 昭和五年度、昭和六年度の歳入
歳出の決算に當りまして、會計検査院の検査報
告は大體に於て吾々は妥當と認める者でありま
す、而して之に對する政府の辯明は一二の例外
を除いて不穩當であり、妥當に非ざるものとし
て吾々は認めたいと思ふのであります、會計檢
査院の報告書を基礎にして簡単に其理由を述べ
て見たい、昭和五年度決算中、不法及不當なる
もの

拓務省所管朝鮮總督府

報告の二、京城府の徴收不足のもの

報告の五、釜山府に於て收入未済のもの

右は孰れも歳入の徴收に關し宜しきを得ず不
當なりとす

報告の七、全羅北道の支出に係るもの

本件は土地の買収に關し宜しきを得ず不當
なりとす

報告の八、朝鮮總督府の支出に係るもの

本件は補助金の支給に關し宜しきを得ず不當
なりとす

報告の九、朝鮮總督府遞信局の支出に係るもの
本件は豫算の使用宜しきを得ず不當なりとす

同所管臺灣總督府

報告の二、臺灣總督府の收入に係るもの

本件は徴收上監督宜しきを得ず不當なりとす

報告の三、同總督府の中央研究所の支出

本件は虚構の事實に對し支拂を爲したるものにして不當なりとす

報告の四、同總督府税關の支出

本件は關稅の拂戻を爲したるものにして不當なりとす

報告の六、高雄州の支出

本件は虚構の事實に對し支拂を爲したるものにして不當なりとす

同所管關東廳

報告の一、二、三、大連民政署の徴收に係るもの

右は孰れも徴收不足又は徴收上宜しきを得ず不當なりとす

同所管樺太廳

報告の一、二、三、樺太廳泊居支廳其の他の徴收に係るもの

右は孰れも徴收不足又は林木、土地等の拂下宜しきを得ざるものにして不當なりとす

報告の十二、朝鮮總督府專賣局の支出に係るもの

報告の十三、臺灣總督府中央研究所の支出に係るもの

右は孰れも虚構の事實に對し支拂を爲したるものにして不當なりとす

警告を付するもの

拓務省所管朝鮮總督府

報告の四、朝鮮總督府の徴收に係るもの

本件は賠償金額の算定宜しきを得ず警告す

注意を促すもの

一般會計

拓務省所管朝鮮總督府

報告の三、朝鮮總督府の徴收に係るもの

本件は木材の賣拂に當り措置宜しきを得ず注意を促す

報告の六、朝鮮總督府遞信局の支出に係るもの

本件は物品購入に當り宜しきを得ず注意を促す

同所管臺灣總督府

報告の一、臺中州の徴收に係るもの

本件は土地の貸付料及賣拂價格低廉に失す依て注意を促す

報告の五、臺灣總督府交通局の支出に係るもの

本件は工事の設計變更に當り措置宜しきを得ず注意を促す

昭和六年度決算中不當なるもの

拓務省所管朝鮮總督府

報告の三、新義州税關の支出のもの

本件は虚構の事實に對し支拂を爲したるものにして不當なりとす

報告の四、朝鮮總督府專賣局の支出のもの

本件は前渡資金の返納に至らざるものにして不當なりとす

同所管臺灣總督府

報告の二、花蓮港廳の支出

本件は支出の費途宜しきを得ず不當なりとす

報告の三、臺灣總督府營林署の支出のもの

報告の五、同府の交通局の支出のもの

右は孰れも虚構の事實に對し支拂を爲したるものにして不當なりとす

報告の四、臺北州の支出のもの

本件は補助金の支給宜しきを得ず不當なりとす

同所管樺太廳

報告の一、樺太廳の徴收に係るもの

本件は誤伐木の代金徴收上宜しきを得ず不當なりとす

報告の二、同廳惠須取林務署の收入未済のもの

本件は徴收上監督宜しきを得ず不當なりとす

既往年度

報告の十、樺太廳泊居支廳の徴收に係るもの

報告の十一、同廳大泊支廳の徴收に係るもの

右は孰れも徴收不足にして不當なりとす

警告を附するもの

特別會計

拓務省所管朝鮮總督府

報告の二、咸鏡北道の徴收に係るもの

本件は立木の賣拂價格低廉に失す依て警告す

同所管臺灣總督府

報告の一、臺灣總督府營林署の支出のもの

本件は物品の賣拂に當り措置宜しきを得ず警告す

官有物

報告の一、朝鮮總督府に係るもの

本件は官有地の貸付宜しきを得ず警告す

報告の二、臺灣總督府に係るもの

本件は國有林の豫約賣渡し宜しきを得ず警告
す

注意を促すもの

特別會計

拓務省所管朝鮮總督府

報告の五、新義州營林署の支出のもの

本件は土地の買収に當り宜しきを得ず將來に
對し注意を促す

既往年度

報告の九、花蓮港の徴収に係るもの

本件は名を未墾地に藉り低廉なる價格にて處
分したるものにして將來に對して注意を促す
以上であります

山崎委員長

討論は終結致しました、直ち
に採決に移ります、討論の際には五年度、六
年度を一括して討論に移しましたけれども、採決
は五年度、六年度を區別して採決致します、初
めに五年度の決算及之に關する一切の議案を採
決致します、五年度の分に對して窪井君の御提
議に賛成の諸君の起立を望みます

(賛成者起立)

山崎委員長

満場一致、窪井君の御提議の
通りに決定致しました

山崎委員長

次で六年度の決算を採決致し
ます、六年度の決算に付て、窪井君の御提議に
賛成の諸君の起立を望みます

(賛成者起立)

山崎委員長

起立者多數、窪井君の御提議

通りに決定致しました

議會の控室から

人相から生れ故郷判斷

◆……杉田芳郎君「以上を以て拓務省一般會
計經費決算の概要を申上りました、何卒御審議
の上御承認あらんことを希望いたします」と
杉田さんらしいケリだ

◆……能辯の林繁藏さんは「この減少額は、
全く不用となりました金額でゴザイマス」と
スポツと打ち切つて居る

◆……臺灣の岡田さんは「大要以上の通りで
あります」とやつてのけ

◆……關東州の西山左内さんは「説明書を御
手許に差上げて置きました、ソレニ依つて何
卒御審議を願ひます次第でゴザイマス、大體
右申上ゲマシテ説明ヲ終リマス」と極めてス
ローな調子でやる

◆……樺太の今村さん「所見を申上げまして
御參考に供シテ居ル次第デアリマス、以上ヲ
以テ大體ノ御説明ト致シマス」と大に仙臺訛
を發揮して居る處に面白味がある

◆……南洋の松田さん「尚ほ本年度におきま
しては、會計検査院から何等の非難事項もゴ
ザイマセヌ」と結んだ「ドーだいな一寸俺の方
は清らかだらう」と見得を切つた處である

◆……林、岡田、西山此の三人の人相から生
れ故郷を判斷する、林さんは九州か、セイゼ
イ東へよつても山口がとまり

◆……岡田さんは關東から東、ヒョツトする
と日本海寄りかも知れぬ

◆……西山さんは東北タイプだ、併し關西人
の血が流れて居る

◆……原始人の血としては、林さんはインド、
ネジヤンで、後に「隼人」と呼ばれた系統であ
る、岡田さんは日本海岸のコンシのアイヌ、即
ち後に越人の血、西山さんは、ツングースと
アイヌと更に支那人の血が交つた中國畿内の
人種らしい

◆……今村さんは蝦夷又は奥夷と呼ばれた貞
任、宗任の孫、松田さんは元來は隼人系であ
つたが後畿内の血を受けて完全なるメキシチ
アとなつたタイプである

◆……但し間違つたらゴメン

棒十代町々長

豐原町長 高橋彌太郎

落合町長 澁谷勉次

大泊町長 松尾鑛治

本斗町長 近藤民藏

眞岡町長 岡井捷美

惠須取町長 稻垣敏夫

知取町長 三宅貞太郎

野田町長 小野豐實

敷香町長 鈴木朝次郎

留多加町長 會澤武夫

樺太四大工商會議所

大泊會議所

會頭 大野 順 未
副會頭 小瀧四郎五郎
理事 須藤 光 俊

豊原會議所

會頭 小林 隆 平
副會頭 肥田 恒三郎
理事 新井 藤 一

眞岡會議所

會頭 大橋 德太郎
副會頭 江端 駒 吉
理事 志 鷹 興

知取會議所

會頭 秋山 五 郎
副會頭 五十嵐 哲四郎
理事 加藤 喜三郎

二、樺太廳關係

公債法に依る事業費の補助

樺太事業公債法中改正法律案

樺太事業公債法中改正法律案

樺太事業公債法中左の通改正す
第一條中『三千三百五十萬圓』を『四千六百六十萬圓』に改正

附則

本法は昭和八年四月一日より之を施行す

提 案 理 由

政府委員（堀切善兵衛君） 樺太事業公債法中改正法律案に付て、提出の理由を説明致します。昭和八年度以降に於て、樺太に於ける電信電話の擴張及改良道路開鑿、及改良國有林事業經營其他の繼續事業に付、合計八百七十五萬圓の經費を要するのでありますが、其財源は樺太廳特別會計の現狀に徴し、之を公債に俟つ外ありませぬ、而して現行樺太事業公債法中に於ける起債法定額三千三百五十萬圓は、昭和七年度末に於て尙ほ六十九萬餘圓の起債餘力を存しますから、之を差引いた八百十萬圓を現行法定額に追加する爲め、茲に本案を提出した次第であります。何卒御審議の上御協賛を願ひます（拍手）

第五右案の審査を付託すべき委員の選舉
上田孝吉君 本案は政府提出造幣工場及其の附屬設備の新營費に關する法律案他二件の委員會に併せ付託せられんことを希望致します

議長（秋田清君） 上田君の動議に御異議ありませぬか（「異議なし」と呼ぶ者あり）
議長（秋田清君） 御異議なしと認めます、仍て動議の如く決しました

緊要差措き難い 事業が多々

（二月十四日衆議院委員會）

金光庸夫委員長 今村樺太長官から一應樺太事業公債法中改正法律案に付て御説明が願ひたいと存じます

今村政府委員 樺太事業公債法中改正法律案に付て御説明致します。樺太事業公債法中の第一條にありますが『三千三百五十萬圓』を『四千六百六十萬圓』に改めたいと云ふのであります。此理由と致しましては樺太に於きまする各種の拓務事業に付きまして、緊要差措き難い事業が多々あるのであります。是等の事業費を支辨する上に於きまして、現在の樺太の經常歳入では支辨が出来ませぬので、從來あります法定起債額の三千三百五十萬圓を増額致しまして是等の事業費に充當致したいと存じまして、此改正法律案を提出したのであります。其事業に於きまして、昭和八年度以降に於きまして電信電話の改良擴張費、道路の開鑿及改良費、國有林事業經營費、船澳の修築等の各種の計畫事業がありますので、是等に對して八百七十萬圓程の經費を要するのであります。此財源は只今申上げる通り、經常歳入では支辨が出来ませぬので、此事業公債法を改正して、是等の經費に

充當致したいと存じて居る次第であります、どうぞ此意味に於きまして、何卒御審議の上御協賛を願ひたいと存する次第であります。

林木政策に今村

長官の方針如何

沖島委員の質問

(二月十五日衆議院委員會)

沖島鎌三委員 拓務大臣に質問致したいのであります、是は此次に拓務大臣の出席されるまで留保することに致しまして、樺太の問題に付て政府委員に御尋ねして見たいと思ひます、樺太の森林は樺太の拓殖の爲め、又日本の製紙の原料として非常に重要な價值を有して居る、樺太の森林を利用致しまして、彼處に『パルプ』工場を造り、進んで洋紙が製造されるやうになりまして、外國から輸入する『パルプ』並に洋紙の大部分は之を防遏するやうになつた現在『パルプ』が約一千六百萬圓、新聞の用紙其他の洋紙、更に最近是人絹『パルプ』まで進みまして、是は約三千五百萬圓位年に產出して居る、然るに現在の林政の儘で参りますと云ふと、遠からずして此貴重なる資材富源が涸渇するやうな狀況になつて居ります、若しさう云ふとになりますと云ふと、日本の重要産業である所の製紙業と云ふものは一大打撃を受け、又延いて樺太の開発に打撃を與へると云ふとは説明するまでもないのであります、之に對して漫然今の政策を繼續することは許さない、そこで

昨年岸本長官を交送した所の理由の中に、特に此林業政策に付て重大なる使命を有たされて居ると云ふ政府の説明があつたのであります

斯様な使命を帯びて今村長官が赴任されて居るのであります、森林政策の將來に付て、如何なる政策を御執りになるのでありますか、大體に於て現在の森林の伐採を制限して保護するそれから伐採跡に植林をするを云ふことにして行かなければならぬと思ひますが、それは政府が直接にするか、或は伐採した跡に製紙會社をしてせしむると云ふのであるか、之に付て今村長官の御方針を承りたいと思ひます

今村政府委員 御話の通り樺太の森林は、我國の製紙工業に對して重要な使命を有つものであります。然るに樺太に於きます森林の材積がどの位あるかと云ふことに付きましても實は只今まで確實な數が分つて居らぬのであります、領有當時に於きましては、約二十億位の材積があるだらうと云ふことになつて居つたのであります、其後兩三回調査を致しましたけれども、此調査は經費の都合其他の理由で、完全なものが出来上らずに居つたのであります

昭和五六の兩年度に於きまして、飛行機を利用して森林の狀況を撮影致したのであります、昭和七年以後に於きましても、勿論之を繼續する積りでありますけれども、滿洲事變其他の爲に飛行機の都合が付きませぬので、昭和七年度は中止を致したのであります、此飛行機の撮影は今後も都合が付きますれば繼續致したいと考へて居るのであります、此經費も昭和八年

度豫算に多少計上して居ります、此飛行機の撮影と其他の仕事とを合しまして、昭和七年度までに施業案を編成することに致して居りますが此施業案が出来ませぬと、樺太の山林の狀況が判明致さぬのであります、大體の推測としては、昭和六年度末に於て、製紙の原料となる松、蝦夷松の二種類、是が約四億三千萬石程あることになつて居ります、其他製紙の材料となりませぬ潤葉樹、落葉樹と云ふやうなものが約一億程ありますので、全體で五億三四千萬石になつて居ります、然るに一面樺太に於ける『パルプ』工場の數は八箇所あり、尙ほ建設の豫定を致して居るのが一箇所ありますので、都合九箇所になります、此九箇所の工場が全運轉致すようになりますと、約一千萬石内外の資材を要するのであります、是は立木でありまして丸太ではありませぬ、一千萬石の木を年々伐つて行くと云ふことになると、此榎松、蝦夷松の生長は約七八十年を要しますから、結局從來の儘で行くと、將來は或は林木の中絶を來すのではなからうかと云ふことを非常に懸念致して居るのであります、勿論此伐採に付ては、在來の當局に於ても非常に苦心を致して居つたのであります、御承知の通り千古斧鉞を加へざる森林でありまして、取締其他の方面に於ても非常に困難を來したが爲に、往々にして拂下數量と實際の伐採數量との間に、相當開きがあつたやうな噂があります、昨年來其林政をどうにかしなければならぬと云ふやうな聲が盛に宣傳致されまして、昨年七月前長官の後を私が承けまして、之

に對する取締に當つたのであります

此樺太の山林をどうするかと云ふことになり
ますと、御承知の通り出来るだけ伐採數量を制
限致すと同時に、此伐採を成るべく合理的に致
しまして、只今申上げた通り拂下豫定數量と伐
採數量との間に、さう云ふ開きがあると云ふこ
とは絶対に禁ずると同時に、又伐採跡地に對し
ては出来るだけの造林を致すと云ふ外に途が
ないのであります、それで先づ第一に取締の方
面に付て申上げますが、從來豫定數量に比して
伐採數量が非常に多かつたと云ふ一つの原因は
此拂下の價格に多少不合理の點がなかつたでは
なからうかと云ふ感を持つのであります、と申
しますのは昭和六年度迄の拂下單價と申します
ものは、昭和三年度に決定致しました單價であ
つたのであります、昭和三年度頃に於きまして
は、百石の木材價格が東京相場で約四百圓内外
して居つたのであります、昭和七年の三四
月頃に於きましてはそれが二百四五十圓に下落
して居るのであります、而も其拂下價格が昭
和三年度で決定致しましたのを其儘踏襲致して
居つたのであります

伐採取締り方法

茲に一つの無理があるやうに感じたのであり
ます、もう一つは樺太に於ける森林が年々伐採
せられ、或は蟲害に罹りなど致しまして、現在
あります場所は海岸より相當の距離があるの
であります、随ひまして是が搬出にも相當の經
費が掛るのであります、さう云ふ點から考へて

見ますと、此價格を釘付にして置くと云ふこと
は、取締の上に於ても相當支障があるものと認
めましたので、先づ第一に此の單價改訂を致し
たのであります、單價の改訂を致しました方法
は、昨年即ち昭和七年の七月頃は約三百圓臺で
ありましたが、十月頃になりまして約四百圓臺
に上りましたので、丁度豫算編成期でありまし
た爲に、其時の値段を取りまして、百石三百七
十圓と云ふ市場相場を標準に置いたのでありま
す、此三百七十圓から伐採の諸經費、或はそれ
を海岸まで出します諸經費、及び海岸から東京
まで出します船運賃と云ふやうなものを計算致
しますと同時に、木の良否に依りまして、其歩
留が非常に違ひます關係上、其歩留を見まし
て、更に金利等を見まして、それ等のものを差
引いた値段を以て、其山に於ける拂下價格と云
ふことに致したのであります

從來の樺太外に出します木材の價格は、八十
四錢五厘と云ふ單價でありましたが、只今申す
やうな方法で計算致して見ますと約五十一二
錢程度になつたのであります、斯う云ふ風に値
段を決定致して見ましたが、更に之を實際に當
嵌める必要がありましたので、此値段を豫定單
價と致しまして、公入札に數箇所附して見たの
であります、其結果約半數は豫定價格に達して
落札致しましたが、半數は、多少價格が高目で
ありました爲に落札になりませぬでした、依て
最高の入札者に對して折衝致しました結果、豫
定價格を以て拂下げ得たのであります、此點か
ら見まして大體斯う云ふ價格が適當だらうと

云ふ確信を得ましたので、それに依つて今回の
改正案に對しましても、其値段を適用して來た
次第であります

次に考へられますことは、此拂下ぐべき山の
調査であります、是も先刻申上げました通り、非
常なる密林でありまして、中々多額の經費を掛
けさせぬと此調査が正確に行きませぬ關係上、
六十三議會に於きまして、追加豫算で相當の經
費を要求致しまして、出来るだけの調査を致さ
せたのであります、其調査は各拂下ぐべき一本
々々の木を總て調査をさせたのであります、其
木に對して刻印を押して、伐採後に於ても調査
の出来るやうに致しまして、而も其木より大體
何石位の材が取り得るか云ふ見當を調査した
のであります、此調査には相當の經費と人員を
要したのであります、幸に大體拂下ぐべき本
數の調査を了したのであります、之を毎木調査
と稱して居りますが、其毎木調査をやりました
結果出来ました石數が、從來一本から平均六分
乃至七分位留まるものと云ふ認定を致して居り
ましたが、今回の調査に依りますと四分七厘し
か留らなかつたのであります、四分七厘しか留
らぬと申しますことは、一面に於きまして從來
は棄て、顧みなかつたやうな不良木でも、やは
り其計算の中に入つて居るが爲に、歩留が低下
致したのであります、隨て場所に依りましては
七割八割と云ふものも勿論あつたのであります
けれども、平均致しますと四分七厘程に相成つ
たのであります、此調査が済みましたので、更
に違つた班を以て之が實地臨檢を致したのであ

ります

此實地臨檢が済みましたので、初めて買受人に對して通知をし、代金を納入させて、さうして引渡すと云ふことになつたのであります、其引渡しを只今やりつゝあるやうな次第であります、此引渡しに付きまして、勿論立會をさせまして、其伐採木に對する十分なる監視を致して居るのであります、其伐りました後は、更に跡地の検査を致します、跡地の検査を致します時には、前に押して置きました刻印と、調査員の持つて居ります手帳とを照合して、その確實を期することに致して居るのであります、是が伐採に對する取締方法であります、第二に執りましたことは、年期の拂下の廢止でございます

此年期拂下に付きましては、色々弊害があると云ふやうな話も聞いて居りますけれども、弊害と云ふ點よりも、現在既に年期拂下の契約を致して居ります石敷が、約二千六七百萬石程に達して居るのであります、でありますから此年期拂下の二千六七百萬石と云ふものは、全部丸太として内地に搬出するのであります、先刻も申上げました通り、樺太の林木の將來は、多少不安を感じる際でありますので、更に丸太として内地に出すやうな年期拂下をする必要を認めませぬので、此年期拂下と云ふものを、將來は廢止するやうに致したのであります、斯くして現在の山に對する取締其他の方法を確立致したのであります、更に進んで跡地に對する造林の問題であります、大體に於て樺太の山と申

しますのは、約三百萬町歩程あるのであります、其中百四五十萬町歩は、現在でも樹の立つて居る場所でありまして

残りの場所の中約七十萬町歩位は、將來農耕地として開放すべき場所でありまして、残の七八十萬町歩と云ふものは、やはり山林として置かなければならぬ場所であるのであります、此七八十萬町歩の中約四十萬町歩程は、火の入つた山であります、所謂山火の入りました山であります、隨て此山火の入りました跡には、自然に木は生えないのであります、後の残りはまだ火の入らぬ場所、天然稚樹が生えて居ります隨て此立木地に對する處置も、火の入つた場所と入らぬ場所に區分してやる必要があるのであります、今回豫算に計上致しましたのは、此立木地の中で、或は水源の涵養であるとか、或は土壤の將に崩壊せんとするやうな場所の最も急を要する場所に、約一萬町歩程を植林することに致したのであります

他の火の入らぬ場所には、火防線を造りまして、さうして山火を防止すると云ふことに致したのであります、何しろ立木地に造林を致すと云ふことになり、苗圃から造らなければならぬのであります、隨ひまして一町歩に對する植林費も相當に掛ります、でありますから成べく此稚樹の多い處に力を盡して、天然更新を致したいと思つて居りますけれども、只今申しました通り、火の入つた處は矢張人工植林を致す外に途がないと考へて居る次第であります大體斯うして昭和八年度に於ける丸太の島外搬

出は約六百萬石を超すだらうと考へて居りますけれども、將來は漸次丸太の搬出を制限しまして、出来るだけ『バルブ』材として保持して行きたいと云ふ考を持つて居る次第であります

沖島委員 大變詳細に御方針を承りました、此伐採跡地の植林と云ふことに付きましては、單り政府の施設ばかりでなしに、此森林に甚大なる利害關係を有つて居ります製紙會社に責任を持たせて、成長した樹木に付て或る特典を與へると云ふ方法もありませうが、兎に角製紙會社が樺太の森林を伐採して後に、何等利害關係を持たないと云ふことが一つの缺陷であらうと思ひます、承認區域を持つて居る製紙會社に責任を持たせると云ふ方法を執るのが適當であると思ひますが、之に付何等か御方針がありますれば承りたいと思ひます

今村政府委員 御尤もの御説であります、實は御承知の通り、樺太の山は大體に於て國有林と云ふことになつて居りまして、民間に拂下げの途は實はまだ出来て居らぬのであります、であります、が植林の經費は先刻申上げました通り、随分多額を要するのであります、無立木地に對しては一町歩約六十圓程度を要するのであります

天然更新でも約二十圓を要するのでありますから、政府の力のみでは到底是は完全な造林は出来ないと思つて居ります、隨て民間に造林をさすと云ふことになりましたれば、自然植林其他の方面の規定に於ても改正を要することゝ存じますけれども、樺太廳だけの意見で申上げます

れば、關係を持つて居ります製紙會社に對しては勿論のこと、又地方民に對しても、薪炭林其他の必要上、どうしても或る程度の保護は與へるやうにしなければならぬと云ふ考を持つて居ります、併し是は只今申上げました通り、之を實行しますには法規の改正を要することでありますので、目下研究中であります

樺太の産業の目的

沖島委員 樺太の産業は、只今の所林業と漁業でありますが、是だけでは既に限度が分つて居ります、林業でも漁業でも今日以上に將來開拓する、大發展をしようと云ふことはまあ大體に於て不可能であります、さうしますと云ふと、次に政府の方針として開拓すべき資源、産業は何であるかと云ふ一つの目標がなくてはならぬ、そこで地下到る處に豊富な石炭を埋藏して居る、是等將來開發されなければならぬものであります、やはり普通の産業と致しましては、農業をやる土地が約六七十萬町歩あると云ふことを聞いて居りますが、米は出來ないけれども、麥類、豆類は寒時農業として餘程有望である

殊に「シユガービート」は其糖分の含有量は現在の北海道或は朝鮮、滿洲邊りで出來するものよりは遙に多い、是はもう數年の試験で明らかである、さうすると云ふと、既に樺太廳も調査して居ると思ひますが、樺太の農業の目標は「シユガービート」及び輪作の關係上他の穀物も出來ますから、之を目標とすべきであらうと

思ふ、どうしてもそこ迄行かなければ、今の森林と漁業だけでは二千三百方里の、九州に等しい面積を有する本島に、此森林と漁業の自然のものを採取すると云ふだけでは甚だ遺憾を感じますが、之に對して政府の御所見は如何であるか、農業政策に來て御伺致します

今村政府委員 御答致します、樺太の農業

地は御話の通り約七十萬町歩と云ふことになつて居ります、であります、現在樺太に移住して居ります農家数は約一萬戸内外であります、之に配附を致しました土地が約八萬町歩になつて居ります、であります、八萬町歩の中既に開墾されて居りますものは僅に二萬町歩内外である、從ひまして今日の農家の經濟は、實は甚だ宜くないのであります

今日まで作つて居ります只今御話の麥類であるとか、或は根菜類と云ふやうなものは、大體に於ては自家用に供するやうな有様でありまして、農家の餘力も甚だ乏しいのであります、でありますから、どうしても此農家に餘力を與へると云ふことが最も必要ぢやなからうか、餘力を與へまするには、這入つて來ます移民は殆ど資本と云ふものは持つて居りませぬ關係上、或は土壤の改良なり、其他排水溝の施設なり、其他の方面に於て力を入れると云ふことが出來ませぬ爲に、非常に姑息な農法を爲して、隨つて其生産なども甚だ僅少であると云ふやうな情況でありますので、差當り昭和八年度に於きましては、是等の土壤の改良に對して、從來よりも尙ほ良好なる補助を與へる積りで豫算を計

上して居るやうな次第であります

斯くして農家に多少でも餘力を作らせまして農産物を商品化すると云ふ方面に仕向けて行きたいと考へて居ります、只今御話の甜菜の事でありますが、御話の通り樺太に於ける甜菜は北海道其他に對しても優良であると云ふことに聞いて居ります、又耕作すべき面積も非常に多いのであります、であります、御承知の通り此砂糖と申しますものは北海道、臺灣、南洋、瓜哇或は朝鮮にも多少ありますが、各地で生産されて居りますので、是等の統制を致しませぬと、僅がばかりの生産を樺太でやりまして、却々立行く程度には行かぬだらうと考へて居ります、で原料の「ビート」其物は非常に適作でありますけれども、之に依つて生産する砂糖の供給販賣と云ふことが非常な問題と考へて居るのであります、隨て只今の所は此「ビート」を樺太の適作物として獎勵すると云ふ程度には參つて居りませぬけれども、重要な農産物として、今後も繼續研究致したいと考へて居ります

仕事は何をする？

沖島委員 先日此事業公債法の提案の理由を長官から御説明になつたのを承りましたが、道路、港灣、植林、電信、電話の改良等をされて居りますやうですが、最近樺太廳の歳入は非常に激減して居るのであります、然るに僅に八百萬圓ばかりの公債、それも一年でなく、數年に亘つて居ります、其僅かなる財源で、左様な

各般の仕事をしよう、是は一體どんな仕事をなさうとするのでありますか、極く概略で宜しいから承つて置きたいと思ひます

今村政府委員 御答致します、實は此問題は私から御答辯致すのは如何かと存じますけれども、茲に現はれました豫算だけに付て御説明申上げます、勿論樺太の現状から申しますと道路にせよ、鐵道にせよ、或は港灣にせよ、其他拓殖上必要な仕事は非常に多いのでありますでありますが一而歳入の方を申上げますと歳入の大部分を占めて居りますのは森林收入であります、而も其森林に對しては、先刻申上げました通り、日本に於ける『パルプ』の材料を得ると云ふ見地から致しまして、國策上之を出來得るだけ制限すると云ふことが適當ではないかと考へるのであります、斯くしますと、樺太に於ける重要な財源に對して制限を加ふると云ふことに相成るのであります、此森林收入を除きました以外の歳入と致しましては、鐵道電信等に依る收入であります、租稅收入に至りましては僅に百二十二萬圓しか收入がないのであります、將來に於て此租稅收入が増加する見込があるかと云ふ御質問がありますれば、私と致しましては甚だ乏しいと云ふことを申上げる外に途がないのであります、と申しますのは樺太に於て事業を爲されて居る方々は、多くは内地に根據を御持ちになつて居る方々であります、殊に會社の如きに於きましては、王子製紙會社、富士製紙會社を初めとし、漁業會社に於きましては、總て樺太には本店を持つて

居らぬのであります、隨つて樺太に於て課税を受けます者と申しますと、勞働階級とは申しませぬけれども、要するに收入の至つて低い者だけが樺太の負擔を致して居るやうな状態でありますので、此租稅收入を將來多く見積ると云ふとは甚だ困難な事情にあるのであります、斯う云ふやうな譯合でありますので、只今如何に拓殖上必要な仕事がありましたも、之を十分に致すと云ふことは出來なかつたやうな状態であるのであります、でありますから港灣であるとか、或は鐵道であるとか云ふやうな多額の經費を要しますものは、之を後日の問題と致しまして、どうしても差當りやらなければならぬと云ふものを選びまして、而も其中で最も緊急を要する箇所を選つて、茲に二箇年の繼續事業として計上致したやうな次第であります、電信、電話の方は、從來繼續事業になつて居ります、是は昭和十四年度までの繼續事業であります、其外船渠の修築、道路の改良開鑿、鐵道の改良、土地の改良及國有林經營事業と云ふものの中で、最も必要なものを一部分今回繼續事業として計上致し、其他に付ては更に後日研究致したいと云ふ考を持つて居る次第であります

樺鐵延長と敷香築港

沖島委員

鐵道の問題で承つて置きたい、第一東海岸の鐵道であります、是は私設鐵道の樺太鐵道會社の線であります、落合から起つて、少くとも敷香まで繼續して建設すると云ふことを條件として政府の認可を得て居るのであ

ります、然るに途中まで行つて今之を中止致して居る、一面敷香に於きましては年五萬噸を産する一大人絹會社が今出來ようとして居る、之に伴うて最近敷香の市街と云ふものは非常に勃興して居る多數の人が居住し、物資の集散も多いのでありますから、急速に此鐵道を建設開通せしめる必要があるだらうと思ふ、之に付ては政府と樺太鐵道會社との間にどう云ふ御交渉が行はれて居りますか、承つて置きたい、それから序に御伺ひするのは、其大工場が出來ますと、其處の物資の集散等に關しましては、到底鐵道に依つては充分に出來ないから、敷香の港から之を搬出しなければならぬと云ふことは當然であります、敷香の港に付ての政府の施設はどうであるか、之を承つて置きたい

今村政府委員

御答致します、御話の通り東海岸の鐵道は落合より南新間まで約二百二十浬程開通して居ります、更に豫定線と致しましては南新間から敷香までの間、四十五浬が残つて居ります、此四十五浬に對しましては、確かではありませぬが、昭和十年十月三十一日まで猶豫期間がありますので、其間に建設を致すと云ふことに相成つて居ります、目下樺太鐵道の營業状態を見ますと、八朱の配當補給を受けて居りますけれども、實際に於きましては、缺損其他の關係上、昭和六年、七年に於ては僅に五朱の配當を致したに過ぎぬのであります、而も落合知取間は、本年の儘か四月と思ひますが、四月を以て補助年限が切れますので、之に對しては別途に法律改正案を提出致して居るや

うな次第であります、斯くの如き營業狀態でありますので、資金の調達其他の關係上多少困難を感じて居るやうではありますけれども、樺太廳と致しましては、常に鐵道會社に對して、是が急速に實現致すやうに督促を致して居るやうな次第であります

又敷香の築港の御質問であります、御承知の通り、彼處には幌内川が入ります關係上、河口が非常に淺いのであります、而も何等防波堤となるべき自然の地形がありませんので、之を完全に作り上げますのには、相當の年數と多額の經費を要するのであります、でありますが一、面敷香に入絹工場が出来ますので、相當重量の器具機械も、陸揚をしなければならぬ狀態でありますから、其時期に相成りますれば、姑息ながら是等を浚渫してそれに間に合せまして、將來、先刻申上げました西海岸の鐵道の延長であるとか、或は其他の港灣と云ふものと、同時に研究を致して解決をしたいと云ふ希望を有つて居ります

王子大泊工場再轉問題

沖島委員 もう一つ承つて置きたい、大泊の王子製紙の工場は、是は實は樺太の製紙「バルブ」工場の發祥の工場であります、然るに財界不況の爲に二年程前に閉鎖になつた、所が其閉鎖の爲に大泊町は非常な影響を蒙つて居るのであります、會社の當事者は、是は永久に閉鎖をするのでない、財界が幾らか好轉すれば復活する目的で、工場機械其他は十分に保存の處置

を執ると云ふ約束の下に閉鎖を致した、そこで大泊町は今日、是が爲に非常な打撃を受けて居るのであります、纏て回復されると云ふことを期待して居るのであります、然るに最近製紙界の事業は非常に挽回して参りまして、此會社の言質から見ますと、會社は當然此工場の再建をしなければならぬ事情に相成つて居る、又樺太長官と致しまして、彼の大泊の現狀を目前に見ました以上は——是は新しく工場を拵へれば數百萬圓掛る工場が建設されて居るのであります、之を利用して彼處の事業の挽回を圖り、彼の地方に於ける所の森林の利用の途を講ぜられると云ふことは、當然爲さなければならぬ、會社が採算上多少躊躇する點がありまして、寧ろ樺太廳の威力——と云ふと語弊がありますが、其他會社の採算のどうか斯うか間に合ふやうな適當な保護を加へることも必要であります、何れにしても、萬難を排して、工場の再建をしなければならぬ事情にあるのであります、之に對して長官の御考は如何でありますか

今村政府委員 御話の通り大泊工場は昨年

十一月に休轉致しまして、現在に及んで居るのであります、御承知の通り彼處の工場が最も早かつた關係がありますが、あの附近の木は殆ど一部を残した以外は、伐採し盡して居るやうな有様であるのであります、でありますから之を再轉すると云ふことは、大泊の現狀から見しても勿論非常に適當な事とは存じますが、一面社會の方の採算の關係もありますし、又僅に残つて居ります森林を擧げて、之を會社に委

ねると云ふことも考へ物でありますし、旁々先般來會社の當局者と再三再四折衝は致して居りますが、未だ會社の方より回答を得ませぬので唯目下接衝中であると云ふことを御答へ申し上げます

出来るだけ産業獎勵

(二月廿日衆議院委員會)

沖島委員 樺太の拓殖のことに付きまして一言御聴きたいのであります、樺太は廣袤二千三百方里、九州七縣程の大きさであります、其富源、産業と致しましては森林、漁業、他の植民地ない特色を持つて居るのであります、其他開拓すべき富源は鑛業に、農業に、全土に大なるものが横つて居るのであります、然るに領有以來漸く三十年に垂々として居ります、開拓が頗る遅々として進まない、此多くの原因は、要する中央政府が樺太の拓殖を甚だ無視し、閉却致して居る、殆ど繼子扱であると云ふことが、主たる原因であると私は思ふのであります、殊に政府の拓殖の方針と云ふものが分らない、毎年翌年度の豫算を編成する場合に、政府の方針として三年後、五年後はどうなるかと云ふことが分りませぬ、是が爲に從來政府の施設も、民間の施設も色々變更する必要を生じ、行違を生じて、大變な無駄をして居る、それ故に樺太關係者に於きましては、樺太に一定の拓殖計畫を樹立して貰ひたいと云ふことが、多年の要望でございます、從來屢々政府に之を要求致しましたが、未だ實現しない、然るに昨年現在の今村

長官が拓殖計畫を立てまして、拓務省に交渉したと云ふことを私承つて居りますが、それが兎角の議論があつて實現しない、固より仔細に検討致しますれば、是は色々の議論がありまして、完全無缺のものを拵へる爲には、長日月周到の調査を要するのでありますが、如何に完全だと言ひましても、時勢の推移に依つて多少の變更を加ふことは已むを得ない、多少不完全であつて、後からその模様替を致すとしても、是が政府の樺太に對する方針であると云ふ事を示して貰ひたい、是は是非私は永井拓務大臣に急速に實現して戴きたいと思ひます、昨年現在の今村長官が新任された其理由の一つとして、より一層優秀なる拓殖行政に精通した長官を、任命する必要があると云ふことが、長官更迭の理由のやうに承つて居る、成程今村長官は非常に此責任を感じて、私等が見る所では、樺太に赴任以來廢食を忘れて努力して居られるやうに思はれますが、折角長官が熱心に其任に當りましても、拓務省が不熱心であつたり、無力でありまして、其實際の長官の實力熱心が、役に立つものと爲し得ないと云ふことでありますれば、大變な遺憾であります、少くとも來年度の議會には、樺太に對する政府の方針と云ふものを示されんことを希望致しますが、之に付ては今どう云ふ御方針でありますか、伺つて置きたいと思ひます

永井國務大臣 樺太の開發の遅々たることに付きましては、私も沖島君と憂を同じくしてゐるのであります、御話の通り領有以來約三十

年に垂々んとして居るのに、人口もまだ僅かに三十萬位を出ない、是は如何にも遺憾なことでありまして、一方には出来るだけ樺太の産業を奨励し、他方に於ては其産業の勃興に伴うて、内地からの移住者も増加させ、隨て財政の獨立の出来るやうな時期を促進したいと云ふ考で、出来るだけ努力致して居る次第であります、樺太に居ります樺太廳の者も、拓務省の者も、其方針は一つであつて、全力を盡して居る次第であります、殊に御承知の通り樺太の産業の重要なものは、沖島君が今御話になりました通り、林業並に漁業でございますが、此林業も今日は年々『バルブ』の主材、及其他の用途の爲に伐採されるものが、今日の所ではまだ調査の途中でありますから、正確な事は申し上げ兼ねますけれども大體に於て利用し得る木材の『バルブ』主材の數量の如きものも、餘程減少して参りました、そこで此森林を出来るだけ保護致しまして、林政の改革をすると思ふことが、一方に於ては樺太の從來の産業を維持する上から、又他方に於て樺太の重要な財源となつて居る、其財源を出来るだけ培養して行くと思ふ上から、是が差當つての急務の一つと考へまして、是は今村長官が樺太に参りましてから、色々改革に對しては心配をして呉れまして、それに關して又御協賛を願つて居るものも、少くないのでございまして、漁業は沖島君の御心配の通り、是も大切な産業であります、隨分從來重大な負債の爲めに苦しめられて居りましたが、今回簡易保險局から三百五十萬圓の低利資金の融通を仰ぎ

まして、之を基礎にして、彼等の更生を圖りたいと考へて居る次第であります、併し更に其上に樺太全島に亘る産業の大計畫を樹てなければならぬと思ふことは、是は沖島君と私等は全然同感です、森林の如きも兎に角保護しましても殘餘は僅しかありませんから、出来るだけ是は一方に於て伐採の如きものも少くしなければならぬ、少くすればそれだけ財政の收入も減つて來ますから、他に産業を起して、矢張財政上の財源も養つて行かなければなりません、樺太に多數の内地人が入つて行つて生活する爲にも、産業が起らなければなりませんので、産業の奨励に對する大計畫を樹てると云ふことは、是は根本的に必要な事であると思つて居ります、其點に付きまして政府は色々な計畫を樹て居りまして、樺太長官からも頗る有益な計畫が、色々参考材料として提出されて居ります、内地人は樺太は随分寒いと思ふ印象を有つて居つて、容易に資源の開發などは出来ぬやうに、誤解して居る者も少なくありませんけれども、樺太は資源の埋藏されて居る點から考へましても、又氣候などの點から考へましても、歐羅巴の北部に在る國國と比べて、決して遜色はないと思ひます、之に科學的の産業計畫を確立して、樺太の富を増進することは、私共は決して不可能でないのみならず、前途は有望であると考へて居るのであります、水産業の如きものも、是から水産製造業をも併せ行ひまして、出来るだけ科學的に經營すれば、まだまだ收穫を増すことが出来ると思ひます、又農産物に對し

まして、之に加工して、又之を奨励して將來、重要な工業を起す餘地があるやうに思はれます、又鑛業、鑛物に對しましても、現在も石炭の液化計畫とか、色々調査をやつて居りますが、將來最も大きな未來を有つて居ると思ひます、そこでは等の全般に亘つて科學的に調査する、さうして樺太の富源の大開發をやると云ふことが、私は財政上から考へましても、或は人口政策から考へましても、又國民經濟の見地から致しましても、大なる意義があると思ひまして、それに付きまして今樺太長官の協力を得まして種々調査を進めて居るのであります、此度の豫算の中に、樺太の産業開發の目的で、調査費を計上して御協賛を仰いで居りますのも、其計畫を樹てる基礎として、是非とも實現したいと考へて居る次第でありまして、大體に於て樺太の産業的將來に、全力を盡さなければならぬと云ふ沖島君の御意見は、私共全然同感でありまして、微力ながら拓務省と樺太廳と協力して、其の方向に向つて努力を致して居る次第でございます

沖島委員 樺太拓殖計畫の必要は、吾々同様に拓務大臣も御認になつて居られます、是の具體案を來年の議會に提案するやうに、御準備をなさる御決心がありますか、それから序に承つて置きたいのでありますが、樺太の選舉法のことです、樺太に衆議院議員選舉法を施行して貰ひたいと云ふことは、既に衆議院に四回法律案として提案されました、一回は審議未了となりましたが、三回通過を致して居ります、

併し貴族院で審議未了になりました、それから昨年現内閣の下に立案せられたものが、法制審議會に於ても認めて居られます、斯様な状態でありまして、政府でも現に選舉法の改正法律案を提案しようとして居られたやうであります、今度こそは私は樺太の選舉法と云ふものは、實現するであらうと云ふことを期待して居りました、然るに一向左様な模様が見えませぬ、樺太は内地同様である、唯々富源が澤山あつて、開拓すべき土地が澤山あると云ふだけの違ひであります、そこで内務省の管轄になれば是は問題はない、拓務省管轄であるからと云ふのであります、が、他の植民地に較べまして、兵役の義務とか、納税の關係、或は陪審法の如き、全然違ふのであります、永井拓務大臣は、是は申すまでもなく政黨政治家、我等の民衆政治家の先輩と致しまして、他のことは暫くあなたに期待しないとしまして、此選舉法施行のことは、眞先きにあなたにやつて戴きたいと思ひます、兎角民衆の權限の擴張と云ふことに付ては、官僚と云ふものは出資みをするものであります、成べく多く與へまいとするものであります、斯う云ふやうな官僚思想に依つて、臣民の權利を阻止されて居りますから、之に對しては眞向から、永井拓務大臣の御力に依つて之を排除して、一日も早く實現するやうに御盡力願ひたいと思ひます、之を私は永井拓務大臣に期待を致して居ります、之に付てはどう云ふ御考でありますか

永井國務大臣 樺太の拓殖計畫は、私自身も出来るだけ明年度には提出したいと云ふ考で

今準備調査をさせて居る次第であります、樺太に内地と同様の地方自治、又帝國議會に代表者を送る權利を擴大することに付きましては、既に衆議院に於ても、沖島君の御話の通り議決せられて居ります、私共も出来るだけ早く實現したいと思ひますが、只今御話の通り財政上、又他の外地との關係上研究すべきものがありますので、今議會に於てそれを提出して、御同意を求めると云ふ所までは進み兼ねて居りますが其方針で今調査を進めて居る次第であります

滿場一致を以て可決

金光委員長

樺太事業公債法中改正法律案

此討論を願ひます

鷲野委員

私は本案に賛成を致します

矢野委員

本案に賛成を致します

金光委員長

採決致します、本案に賛成の諸君の舉手を願ひます

(賛成者舉手)

金光委員長

舉手總員、滿場一致可決されました

第一讀會の續(委員長報告)

二月二十一日

報告書

一 樺太事業公債法中改正法律案(政府提出)

日程第十一、樺太事業公債法中改正法律案の特別委員會に於ける審議の顚末を、御報告申上げます、本案は昭和八年度以降に於て樺太に於

ける電信電話の擴張と改良、道路の開鑿及改良、國有林事業經營其他の繼續事業に付て、合計八百七十五萬餘圓の經費を要しますので、是が財源として公債を發行することゝしまして、現行の樺太事業公債法に於ける起債法定額三千三百五十萬圓の内、昭和七年度末起債餘力六十九萬餘圓を差引きました不足額の、八百十萬圓の追加増額をしたいと云ふ案であります、樺太に於ける財政の現状に鑑みまして、是亦已むを得ざるものと認めまして、全會一致可決した次第であります、此段御報告申し上げます

第一は船澗の修築

第二は道路の開鑿

(三月九日貴族院委員會)

橋本圭三郎君 それでは樺太の政府委員に御尋ね致しますが、此樺太の事業公債法改正に依りまして増發する所の公債額は、限度が八百十萬圓と思ひますが、此資金は如何なる事業費に充當するものでありますか、而して此公債に依つて得たる所の財源を投じます所の事業に依りまして、樺太の開拓上如何なる效果若くは利益を齎すのでありますか、此點の御説明を願ひたいと思ひます

政府委員(今村武志君) 御答へ致します第一に此財源を以てやります支出の種類を申し上げます、船澗の修築費が昭和八年度、九年度の

兩年度に於きまして、百一萬九千圓を使ひます、次は鐵道の改良費であります、最も兩年度に於きまして六十二萬九千圓であります、次は道路の開鑿費であります、最も二ケ年度で百五十九萬七千七百九十六圓、次は電信電話の擴張及び改良費であります、是は現在でも繼續事業になつて居りまして、昭和十四年度で終了することになつて居ります、之を公債に振替へましたので、此金額が二百六十九萬四千三百八十六圓、次は道路の改良費であります、是は六十五萬八千圓、最も兩年度であります、次は土地改良費、最も兩年度で九十五萬八千九百九十六圓、次は國有林の施業經營費であります、最も兩年度に於て百二十萬八千六百十八圓、斯う云ふことに相成つて居ります、此總額が八百七十五萬六千九百八十六圓、其中發行未済額がございしますので、今回發行いたしますのが八百十萬圓と相成る次第でございます、此仕事の内容に付て申し上げますが、第一に船澗の修築費であり、御承知の通り樺太には天然の港灣と云ふものが殆ど無いのであります、従つて從來より各必要の漁港に漁船の船溜りを造りつつあつたのであります、尙ほ最近漁業の進展に伴ひますると、一つは沖合漁業が漸次盛んになつて参りました關係上、それも相當考慮して是等の最も必要な個所を選びまして、此兩年度に三ヶ所の船澗を修築することになつて居るのであります、一ヶ所は西海岸の中部にあります久春内と申す所であり、もう一ヶ所は西海岸の南端にあります内幌と申す所であり、もう一

つは亞庭灣の中にあります彌滿と申す所の三ヶ所を二ケ年度で修築することになつたのであります、尙ほ一ヶ所は本年度で終了する見込であります、新規のものは此三ヶ所であり、次は鐵道の改良費でございます、樺太廳の鐵道は全線で三百四十二「キロ」程であります、が何れも之を建設いたしましたのが大正十二年頃に相成つて居りますので、橋梁其他に於て改良を要するものが少くないのであります、其中最も危險防止其他の關係上どうしても避け難きものを二ケ年で六十二萬圓だけを支出して工事を致さうと思ふのであります、次は道路の開鑿費でございます、樺太は地質の關係もございませうが、非常に道路が悪いのであります、砂利もございませぬ、もう一つは結氷期に於て四五尺も凍るやうな状態であり、融雪期になりますと、殆ど車馬も通じないと云ふ状態であるのであります、従ひまして人口の比較的稠密であります南部地方、即ち大泊を中心とした亞庭灣の東西兩岸及び大泊、豊原、西海岸に出ます線、此三線を此二ケ年度で取敢ず開鑿を致したいと考へて居るのであります、次は電信電話の擴張改良費でございます、是は既に御協賛を得まして繼續費になつて居るのでございます、此中で昭和八年度、九年度の二ヶ手に亘りまして遞信省と協力しまして北海道の稚内、樺太の女麗に行きます海底電話を敷設することになつて居ります、此經費を最終年度の昭和十三年度、十四年度から繰上げて居ります、それだけが變つて居ります、次は道路の改良費

であります、是も先刻開鑿の時に申上げたと同様の意味でございます、次は土地の改良費でございます、土地改良費と申します中には農耕地の排水路であるとか、或は農耕道路と云ふものに對する施設及此八年度より新しく設けました酸性土壌の改良費、即ち樺太の土壌は非常に酸性が強いので、此酸性を中和いたしませぬと畑作に適しませぬ關係上、之に石灰を與へることになつて居ります、此酸性土壌改良費が入つて居ります、尙ほ從來移民に對しては大體一町歩の限度で拔根してやつたのであります、どうも一町歩の拔根の補助だけでは足りないやうな感じが致しますので、昭和八年度以降に於ては、之を二町歩に増加いたしたいと考へて居ります、是等の經費が土地改良費に入つて居ります、最後に國有林の事業經營費でございますが、此中に二つのものが入つて居ります、一つは樺太の森林が實は未だ完全なる施業案が出来て居りませぬ、之を今後昭和十二年度までの間に完了致したと考へて居ります、此經費の一部と致しまして、昭和八年九年度に約二十萬圓程見積つて居ります、其他の經費、是は無立木地に對する人工造林が約一萬町歩分入つて居ります、其他は火災防止の爲に火災防線を……火防地帯を設けることになつて居りますが、此經費が大部分であります、其經費が七十萬圓程之に組んで居ります、是等の仕事を致しました結果果してどの程度の利益があるかと云ふことになりますると、是は確定的には申上げ兼ねるのでありますけれども、相當の效果があるものと信

じて居る次第でございます、が、是等の仕事は全體より見て、是も極く一部分の仕事に過ぎませぬから、更に今後調査を進めて施行して行く考であります

収入の見込は？

橋本辰二郎君 此公債増發計畫に依りまして支辨する事業よりして、將來樺太財源に相當の収入の見込まれるものがありますか

政府委員（今村武志君） 只今申上げました通り、此船溜りの修築の如きでありまして、別に之に依つて漁船利用者から使用料を徴收すると云ふこともありません、又道路の開鑿改良又は鐵道の改良費が主でありますので、是等の事業に付ては別に收益が出て來ませぬが、唯電信電話の改良擴張費だけは、多少収入が増加すると考へて居ります、要するに是等は總て産業の基本的施設になるものでありまして、直ちに是から収入を得ると云ふことは、先づ困難ではないかと考へて居りますけれども、之に依つて將來の開發の基礎が立つと云ふ見地から、是等の豫算を出したのであります

橋本辰二郎君 過去に於ては公債財源に依つて經營せられました樺太に於ける事業と云ふものは、其豫定通りに順調に進行いたして居りますか

政府委員（今村武志君） 從來……只今の法定額は三千三百五十萬圓になつて居りますが此金は全體に於て大泊港の修築費、眞岡港の修築費、鐵道の建設費及び官行斫伐の經費に充當

いたして居ります、此大泊の修築に致しまして、又眞岡の修築に致しまして、實は從來金では不足を告げましたので、まだ完成とは申上げ兼ねる次第でありますけれども、相當利用はされて居りますが、港灣としては今後相當の施設をなさなければならぬと存じて居ります

造林計畫はあるか

橋本辰二郎君 色々御尋ねしたのであります、時間がありませんので……樺太の森林の調査は全部付いて居るのであります、之に依りまして現在の材積がどの位あつて、樺太領有以來伐採したる材積が幾らあるか、又森林の荒廢に對して相當保護の途が講ぜられて居りますか、若くは造林計畫等もあるのであります、簡単に御説明を願ひたいと思ひます

政府委員（今村武志君） 御答いたします、唯今申上げました通りに、樺太の林相は實はまだ確的に調査が完了いたして居りませぬ、領有當時に於きましては、或は十七億と云ひ、或は二十億と稱して居つたのであります、是はほんの概測でありまして、遠觀でありまして、確的の數とは認められないのであります、其後に於きまして、其時の必要に應じまして、隨時調査は致して居るやうでありますけれども、随分過去に於て樺太の森林には火災がございました、或は蟲害がございました、始終林相が變化して居つたのであります、旁々是等の確實なる調査をすることの必要を感じまして、昭和五年以降、陸軍の方に頼みまして、飛行機の調査を

始めました、五年度六年度は飛行機に依りまして西海岸地方惠須取と申す管内であります、百六七十萬町歩の飛行機撮影を完成いたしましたのであります、昭和七年度は滿洲事件の關係上飛行機の都合が付かぬと云ふので、撮影は致しませぬ、依て昭和七年度は五六年度に撮影した百六七十萬町歩に對する林地の調査をやつて居るのであります、尙ほ昭和八年度以降に於きましても之を繼續いたしまして、結局昭和十二年度になりますと林相も判明いたし、木の種類も判明いたすのみならず、之に伴ふ施業案も出来ることと信じて居りますが、それ迄の間は極く概數に依て仕事をして居るのであります、現在あります材積は昭和六年度末に於きまして、根松、蝦夷松が合計四億三千萬石と推定いたして居ります、其外に落葉松、潤葉樹がありまして是が約一億合計五億三千萬石位の實材積あると推定いたして居ります、尙ほ從來領有以來賣却しました材積は、確的には申上げ兼ねますけれども、約一億石以上に達して居ると考へて居ります、尙ほ此外樺太の森林の保護と云ふことに付きましては、代々の當局に於きましても、相當の力を致したのでありますけれども、何しろ火災蟲害等の爲に、大面積に損害を被つた關係上、實は現在十分なる確實なる資料は出來て居りませぬけれども、此御協賛を願ひました豫算の中にも、先刻申上げました通り約一萬町歩の人工造林をやることになつて居る、且又火災防止等に約拾萬町歩位の保護を致す外稚樹の生育して居る土地に對しては天然更新に依て造林し

て行きたいと思つて居ります、尙ほ無立木地で將來造林をしなければならぬ場所が約三十萬町歩以上に達すると思ひます、天然更新に依りましてやります面積も相當の面積に達して居ります此施業案の確立と同時に、將來の樺太の營林の方針が確立すると考へるのであります

貴族院委員會可決(三月十日)

委員長(男爵四條隆英君) 樺太事業公債法中改正法律案を議題に供します、本案も御異議がないやうでありますから採決に入ります

〔異議なしと呼ぶ者あり〕

委員長(男爵四條隆英君) 本案を可決いたしましたして御異議ございませぬですか

〔異議なしと呼ぶ者あり〕

委員長(男爵四條隆英君) 御異議ないと認めます仍つて本案は可決せられました

委員長報告原案可決

(三月十四日貴族院本議會に於て)

樺太事業公債法中改正法律案

右可決すべきものなりと議決せり依て及報告候也

昭和八年三月十日

委員長 男爵 四條 隆英

貴族院議長公爵徳川家達殿

(男爵四條隆英君演壇に登る)

男爵四條隆英君 只今上程いたされました日程第二乃至第七に關します、特別委員會の經過並に結果を御報告申し上げます、樺太事業公

債法中改正法律案に付て御報告申上ます、本案は昭和八年度以降に於て樺太に於ける電信、電話の擴張及改良、道路の開鑿改良、國有林事業經營等の繼續事業に付て、合計八百七十五萬圓の經費を要する計畫となつて居りますけれども、其財源は公債に依る外なき狀況であります、而して樺太事業公債法の起債限度は三千三百五十萬圓でありまして、昭和七年度の末に尙ほ六十九萬餘圓の起債餘力がありまするが故に、之を差引きたる八百十萬圓を増額し、發行限度を四千百六十萬圓に改めたいと云ふ案であります、是亦樺太廳特別會計の歲計の現状より見まして已むを得ないものと認め、全會一致本案を可決いたしました次第でございます、以上委員會の審議の顛末の概要を御報告申し上げます

議長(公爵徳川家達君) 御諮りを致したことは、只今特別委員長の報告せられました諸案を一括して議題とし、採決を致して御異議ございませぬか

〔異議なしと呼ぶ者あり〕

議長(公爵徳川家達君) 御異議ないと認めます

議長(公爵徳川家達君) 日程第二より第七までの諸案を第二讀會に移すことに御異議ございませぬか

〔異議なしと呼ぶ者あり〕

議長(公爵徳川家達君) 御異議ないと認めます

子爵西大路吉光君 直に各案の第二讀會を

開かれむことを希望いたします

子爵清岡長言君 賛成

議長（公爵徳川家達君） 西大路子爵の動議に御異存ございませぬか

（異議なしと呼ぶ者あり）

議長（公爵徳川家達君） 御異議ないと認めます

議長（公爵徳川家達君） 各案全部を問題に供します、原案に御異存ございませぬか

（異議なしと呼ぶ者あり）

議長（公爵徳川家達君） 御異議ないと認めます

子爵西大路吉光君 直に各案の第三讀會を

開かれむことを希望いたします

子爵清岡長言君 賛成

議長（公爵徳川家達君） 西大路子爵の動議に御異存ございませぬか

（異議なしと呼ぶ者あり）

議長（公爵徳川家達君） 御異議ないと認めます

議長（公爵徳川家達君） 各案とも第二讀會の決議通りで御異存ございませぬか

（異議なしと呼ぶ者あり）

議長（公爵徳川家達君） 御異議ないと認めます

樺太地方鐵道の

健全なる發達を期す

樺太地方鐵道補助法中改正法律案

樺太地方鐵道補助法中改正法律案

樺太地方鐵道補助法中左の通改正す
第一條及第二條中『十年』を『十五年』に改む

本法は公布の日より之を施行す
（政府委員堤康次郎君登壇）

政府委員（堤康次郎君） 理由

の提出の理由を説明致します、現在樺太に於て補助中の地方鐵道は、何れも營業開始後日尙ほ淺く、殊に近年經濟界の不況に伴ひまして、其營業成績未だ良好でない有様でありまして、將來人口の増加及産業の發展などを考慮に入れても、尙ほ當分獨立自營の域に達し得ないものと認められますので、現行を補助期間の經過後も尙ほ補助を繼續するの必要があります、仍て此際右補助期間の限度十年を十五年に改正し、以て樺太に於ける地方鐵道の健全なる發展を期したいと存じまして本法法律案を提出した次第であります、御審議の上御協賛あらんことを希望致します

補助期間の

延長は妥當

（二月十七日衆議院本會議）

議長（秋田清君） 質疑を許します——蔭山貞吉君

（蔭山貞吉君登壇）

蔭山貞吉君 私は今提出せられました樺太地方鐵道補助法中改正法律案に關しまして、二三の質疑を試みたいと存じます

第一に此樺太地方鐵道、即ち樺太鐵道株式會社及南樺太鐵道株式會社、此兩會社と、尙ほ同地に在る事業會社の關係に付て御伺したいのであります、此樺太鐵道株式會社は富士製紙及王子製紙が主なる資本主であります、又南樺太鐵道株式會社は、王子製紙が主なる資本主のやうであります、兩會社共に重役は關聯致して居りまして、會社の名目は違ふけれども、兩會社は殆ど同一と看做して宜いさうであります、而して樺太に於ける事業會社の主なるものゝ中、王子製紙及富士製紙、樺太工業、是等の會社の重役は、殆ど半数以上は此兩鐵道會社と兼ねて居るやうに思ふのであります

偕て是等の事業會社が、最初此鐵道を建設されたのは、所謂自己の營業の爲に此兩鐵道を建設された如く考へられるのであります、即ち此鐵道會社の創設以來の利益を見ると云ふと、大體に於て最初は年八朱、次で不良と雖も年五朱

の配當を致して居られます、而して此會社が事業不振の爲に自己獨立自營の域に達せないと云ふ點であります、此點に付て政府は左様御認めになつて居る様でありますが、併ながら是は從來決算委員會に於ても非常な問題になりました如く、此森林の伐採と相俟ちまして、甚だ面白くない點が多々あるやうに考へるのであります、此獨立自營の域に達せないと云ふ點、之を如何に御考へになつて居るか、殊に此兩會社と三製紙會社の關係が、果して同一のものであるならば、從來の製紙會社の事業の利益と云ふものは鐵道の方には損失はあるけれども、製紙會社の利益が莫大にあつたと云ふことを考へられるのであります

第二に、昨年來調査致しました様子に依りますと、買收をして貰ひたいと云ふ所の會社の希望であつたやうであります、當時色々樺太廳の鐵道局事務所の方に問合せました所が、矢張買收の希望がある、其買收の要領を見ますと、買收した方が補助を繼續するよりは宜しい、例へば現在の補助額は年百十萬乃至二十萬圓毎年補助して居る、それをやるよりは、寧ろ買收したならば百萬圓以下に減する、斯う云ふことであります、鐵道の買收と云ふものが非常にむづかしくなつたと云ふ見地から、或は買收を變更して、所謂補助と云ふものに變更されたのではなからうか、此點を御伺ひたいのであります、尙ほ次に樺太鐵道會社は、最初は敷香と云ふ方面まで延長するべく出願してある筈であります、然るに現在はまだ其手前に達して居ら

ない、それで此補助を與へたならば、更に敷香まで延長するのかどうか、此點であります、進んでは或は露西亞の國境まで延長する意思があるか、兩會社の爲に、又製紙會社の爲には、或は一定の製紙事業の利益を得れば宜しいのでありませうが、眞に地方の交通開發の爲には、どうしても最初の出願通りに延長させる必要があるのであります

又最近敷香に人絹會社を設けると云ふやうなことで、或は其點が如何になつて居りませうか、尙ほ彼の地方の者が非常にやかましく申して居りますのは、又あちらに在官された各位が色々申して居られるのは、製紙會社或は鐵道會社それ等の會社は、自己の利益のみを計つて、地方民の利益を計らない、例へば大泊の市街の如きは非常な疲弊をして居る、現在戸數が五千の所を、千戸も今閉鎖して居る、其開發をする時には、政府に莫大なる補助を要求して置きながら、今日既に南樺太鐵道、あの方面の森林を伐採して事業が不振になつたと云ふと、直ちに政府に相談をせずしてそれを閉鎖する、さうして樺太の住民を非常に苦しめて居ると云ふことを樺太の各方面で聞いたのであります

又軍事及交通上から考へましても、東海岸の方に果して此鐵道を延ばす方が宜いか、西海岸の方に延ばす方が宜いか、此點に付ても御伺ひたいのであります

緒で好景氣時代に樺太にどん／＼移民を送りまして、又會社の事業の發展を援けると云ふことは、是は無理からぬことであります、今

日の如く財政上に大困難を來し、農村或は中小商工業者の疲弊困憊して居る今日、而も此匡救の方法も充分でない今日に於きまして、果して斯様な大會社、餘り缺損でない所の大會社を補助すると云ふこと、殊に十年の日子と云ふことは、最初から十年は補助を受けるが、十年以後は受けないと云ふ、ちゃんとそれだけの規定が出来て居る、それを更に五年を延長すると云ふことになる、國庫の損失は六百萬圓以上になるのであります

此點に付きまして拓務當局の御考を承りたいのであります、農村の疲弊と云ふこと、斯様な事業家を援助すると云ふこと、此處を能く考へて戴きたいのであります、尙ほ細かい色々の調査もありますが、是は委員會に譲りまして此程度に止めて置きたいと存じます

(政府委員堤康次郎君登壇)

政府委員(堤康次郎君) 只今の蔭山君の御質疑に對しまして御答を致します、第一の點は、樺太の此鐵道の大株主は、何れも製紙會社である、是は事業の目的の爲に敷設したのであるから、補助の必要がないぢやないかと云ふやうな論點であると記憶したのであります、事業の目的のみに敷設したものであります、ならば、是は補助をしなくても宜いと考へられます、併ながら此樺太の鐵道と申しますと、樺太鐵道と南樺太鐵道の二つであります、是は孰れも樺太の幹線に當つて居りまして、事業上の木材の運搬も致しますけれども、併ながら樺太全體の産業開發及交通の利便の爲にも、十分貢

獻を致して居るのでありますし、寧ろ樺太全體の産業の開發、交通の利便と云ふことが主たる使命のやうな状態になつて居るのでありますから、是は相當補助をすることが當然であると考へて居るのであります

樺太には他に内幌鐵道と云ふのがありまして、是は十里二だけの延長を有して居るのであります、是は専ら炭坑の石炭を運搬する爲に敷設せられて居るのでありますから、是には補助は致して居らないのであります、それから第二の樺太鐵道を補助すれば、南新間から敷香までを延長して建設するかどうかと云ふ御尋でありましたが、是は今測量を致して居りまして、認可期間が、昭和十年十月迄となつて居りますから、無論建設するものであらうと考へて居るのであります、それから第三に製紙會社は自己の利益のみを考へて、一般の土地の住民の利益と云ふことを、餘り考慮しないのではないかと云ふ御尋であります、其點に付きましては、拓務當局と致しましても、十分の注意を與へまして、現在蔭山君の御述べになりました通り、大泊は工場を閉鎖致して居りますので、非常に疲弊を致して居ります、そこで木材拂下の承認區域等の整理をして、工場が立ち行くやうにして、何とか此工場を開始させるやうに、當事者を呼びまして、交渉を樺太長官をして致させて居るのであります、成べく一般の住民の利益を圖るやうに致したいと考へて居るのであります、それから第四に、企業者は大體十年で收支計算が償ふ積りで建設をしたのであらう、償は

ないからと言つて、之を補助してやるのはどうかと云ふ御趣旨と記憶致しましたが、是は非常に御尤な議論であります

併ながら獨り樺太のみならず、内地、臺灣、北海道などの——北海道は内地であります、鐵道の補助には大抵の振合と云ふものがありまして、内地の鐵道は營業開始の日から、十箇年と云ふことになつて居ります、臺灣は營業開始の日から、是も矢張十箇年と云ふことになつて居ります

樺太は設立登記の日から十年と云ふことになつて居りまして、現に樺太鐵道などは、營業を開始致しましたのが昭和三年の十一月でありまして、僅に六箇年より經つて居ないのであります

朝鮮も設立登記の日から十五年と云ふことになつて居りますが、是は最初十年であつたものを、五年延長したのであります、北海道は營業開始の日から、最初から十五年と云ふことになつて居るのでありますから、是等の振合から見ましても、樺太は僅に六年で期限が切れたから更に五年の期間を延長すると云ふことは、無理もない所であらうと考へたのであります、それから御質問の内に、八分の補助と云ふことが多過ぎはせぬかと云ふやうな意味も含んで居つたのであります、是は樺太地方鐵道の補助法の第五條に、補助金の年總額は最高百二十萬圓とすと、斯う云ふ制限が附けてありますので、現在は百二十萬圓の補助の範圍に於きましては、樺太鐵道は昭和六年、七年、此二年度は五

分の配當よりも出来なかつたのであります

それから南樺太鐵道は、昭和六年が平均七分五厘、昭和七年が平均五分八厘より配當は出来て居りませぬ、尤も此資本を出して居りますのは、主として製紙會社であります、樺太全體の産業開發及交通の便利に「サービス」して居るのでありますから、此位補助の期間を延長することは妥當なことであると、政府は考へて居るのであります、尙ほ詳細は委員會に於て御説明致したいと存じます(拍手)

朝鮮には何うする

(加藤 鯛一君の質問)

議長(秋田清君) 加藤 鯛一君

(加藤 鯛一君登壇)

加藤 鯛一君 政府は樺太に於る地方鐵道は未だ獨立自營の域に達せざると云ふ理由を以て補助期間の延長をすると云ふ改正法律案を御出しになりましたが、然らば他の植民地に對する御考は、どう云ふ御考を有つて御出でになるのであります、例へば朝鮮鐵道の如き、近々に此補助機關が切れることになつて居ります、之に對しまして、總理大臣の齋藤さんは、以前朝鮮總督時代に於て、是は延長するものであると云ふことの意思を表示されて、會社の重役に此意思を通じて居られると聞いて居りますが、果して左様なことがあつたかどうか、又之に對しまして補助期間を延長する意思を政府は有つて御出でになりますか否や、若し之を延長する意思が政府にありまするならば、此議會に御提案

になりませぬと間に合はないのであります

政府は次の議會に於ても間に合ふと云ふ御考かも知れませぬが、若し次の議會に於て、解散等の場合がありました時には、間に合はぬことになるのであります。此議會に完全を期する爲に提案せんとする意思がありや否や、又朝鮮鐵道は御承知の通りに、十年一日の如く、過去に於きましては少しも進歩改善の見るべきものがないのであります。此便々だらりと致しまして、發達改善の見るべきものがないにも拘らず政府は年々莫大なる補助を與へて居ります。尙ほ今後、少しも進歩改善の見るべきものがない此鐵道に對しまして、從來同様な方法で補助を與へんとされるのであります。此鐵道の發達改善の爲には、何等かの指導方針を有つて御出でになりますか、若し政府に其指導方針がありますならば、併せて此機會に承りたい、此事を御尋する次第であります(拍手)

(政府委員堤康次郎君登壇)

政府委員(堤康次郎君) 加藤君の御質疑に對して御答致します。樺太は五年延長する、朝鮮に對してはどう云ふ考を有つて居るか、斯う云ふ御尋であります。恐らく朝鮮も樺太も、同じく植民地である以上は、同様に法律案を出すべきものだ云ふ御趣旨の論點と拜聴致すのであります。實は當局と致しましては、加藤君の其趣旨に依つて本案を提出致したのであります。朝鮮も最初十年と云ふことになつて居りましたけれども、途中で五年延長致しまして、十五年となつて居るのであります。樺太も十年

でありますのを近く期間が満了致しますので、同様に十五年と致したいと考へて、御協賛を仰いだやうな次第であります。尙朝鮮の鐵道に將來も更に補助するか、せぬか、又補助をするとなれば、如何なる指導方針を以て、經營爲さしむべきかと云ふ御質問であります。是は本會議に提案致しませぬでも、次の議會でもまだ間に合ふのでありますから……(加藤一君)解散があれば間に合はないではないかと呼ぶ。只今慎重に考慮を致して居るのであります。指導方針と云ふのは、言ふまでもなく眞面目に冗費を節約致しまして、産業の開發、交通の便利と云ふ趣旨に副はしむるやうにと云ふのが、是が當局としての指導方針であります。尙ほ詳細は委員會に於て申上げたいと思ひます(拍手)

第四 右議案の審査を付託すべき

委員の選舉

上田孝吉君 本案は政府提出、鐵道敷設法中改正法律案外四件の委員に、併せ付託せられんことを望みます

議長(秋田清君) 上田君の動議に御異議ありませんか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(秋田清君) 御異議なしと認めます、仍て動議の如く決しました

補助せねば

交通に障碍

内地と事情が異なる

(三月四日衆議院本會議)

原委員長 それでは是より開會致します

林(路)委員 私は大體に於て質問の前提となる事項に付きまして、一々御尋を致しまして、さうして最後に更に必要なる材料の御提出を願つて、然る後に質問を繼續したいと存じますから、其順序に依つて御質問を申上げることが、豫め御諒承を願たいと思つて居ります。政府は植民地に於ける地方鐵道の保護政策に付て、大體同一の方針を以て御臨みになるか、植民地に依つては差別的待遇を爲さる御考であるかどうか、先づ之を御伺したいと思ひます

堤政府委員 成べく同一に致したいと考へて居りますけれども、其地方の産業開發の状況其他交通の程度等からも考究致しまして、全然同一にすると云ふことは、はつきり申上げ兼ねるのであります。併し成べく同様に致したい、斯う云ふ考は有つて居ります

林(路)委員 現在政府が執つて居られます植民地々方鐵道の補助が、樺太、朝鮮は殆ど同一の待遇をして居られるのであります。臺灣に付ては大分異つた點があるのであります。

臺灣は大體鐵道省に於ける地方鐵道の補助政策と、其内容に於て大體似寄つて居るのでありまして、樺太、朝鮮に比較致しまして異つて居ります主要なる點は、臺灣は補助開始の時が營業開始の時からであるが、樺太、朝鮮は設立登記の日から補助せられることになつて居ります、又臺灣は建設費に對して一定の金額の範圍に於て補助するのであるが、樺太、朝鮮は拂込資本若くは建設費に要したる社債に對して補助せられることになつて居ります、又益金の計算に於きましても、樺太、朝鮮に於ては、役員賞與金は其益金計算より控除することになつて居るが臺灣は控除せられない、先づ大體是等の點が趣を異にして居るのでありまして、之を見ますると云ふと、臺灣よりも樺太、朝鮮の地方鐵道に對しては、保護が厚いと云ふ結論に達するものと考へます、何故に臺灣のみが樺太、朝鮮に比しまして、保護の程度が薄くなつて居るのであるか、此點を御伺します、又臺灣は現行法に依りますると云ふと、營業開始の時から補助期限が十箇年に定められてあるが、朝鮮は既に十五年となり、樺太も本法の改正に依りまして、十五年に改められるのであります、臺灣に於ては此十箇年の現行法の期限が滿了致しまして、延長せざる御方針であるかどうか、以上の點を御伺します

堤政府委員 只今林代議士の御質問の如く朝鮮は設立登記の日から十五年、樺太は設立登記の日から十年、斯様に設立登記の日からと云ふことが基準になつて居ります、臺灣は營業開

始の日から十年、斯う云ふことになつて居ります、そこで此二つに付てどう云ふ違ひが起るかと思ひますと、營業開始の日から十年と言ひますと、營業開始までに投じた建設費に對しては、補助は受け得られないと云ふことになるのであります、其點は如何にも不利益なことになるのであります、又拂込資本と云ふことになつて居りましても、是はやはり其建設費と云ふことと大差はないのであります

拂込の資本金が例へば茲に一千萬圓ある、それで建設費に九百萬圓投じて居れば、其建設費に對して、それを基準として計算するのでありますから、實質に於ては違ひはないのであります、先程の起算點の違ふと云ふ點に於て、營業開始の日からと云ふことになると、補助の開始が後れるからそれは不利益なことは申す迄もないのであります、それから此役員賞與だとか其他の方法は、どう云ふ計算になつて居りますか能く調べまして、次の機會に御答を申し上げますと思ひます、尚ほ臺灣はまだ期間が滿了致して居りませぬから、今どうするかと云ふことを考へて居りませぬが、期間が滿了する頃になりまして、各植民地との比較を考へまして、然るべく善處したいと考へて居ります

林(路)委員 過般本會議に上程されました際に、堤政府委員の御答辯に依りますと、樺太の地方鐵道に對しては設立登記の日から補助することになつて居るが、臺灣であるとか北海道若くは一般の内地々方鐵道に對しては、營業開始の日から十箇年と云ふことになつて居る、尤

も北海道は違ひますが、大體十箇年になつて居る、そこで樺太は設立登記の日から十箇年と云ふことになつて居るから、既に樺太鐵道などは營業開始をしたのが昭和三年十一月で、今日まで僅に六箇年より經つて居らない、斯う云ふ意味の御答がありました、僅か六箇年より經つて居ないが、併ながら是は設立登記の日から補助をして居るのであるから、補助は既に十箇年に達して居ると云ふ意味を御答になつたのであります、要するに此御答の趣旨が、設立登記の日から補助すると云ふことは、非常な不利益なのである、寧ろ營業開始の時から補助すると云ふ方が、補助を受ける方として有利であると云ふ意味で御答になつたのであります、之れを明にして置きたい、そこで臺灣は只今の御答に依りますと、十箇年の期限が滿了するに先づて考慮すると云ふ意味の御話であります、然らば樺太に於ける補助鐵道が現行の十箇年として、期間が滿了するのは何時であるか、又臺灣に於ける地方鐵道の現行法律に依る十箇年の期限は何時滿了するか、一々詳細でなくても宜しい、一番早く期間の滿了する會社に付て御答を得れば宜しうございます、要は此法律改正が臺灣よりも樺太が急ぐのであると云ふことに付て判斷が出来れば宜しいのであります

堤政府委員 此營業開始する前は、建設費に對して建設利息として五分を認めて居るのであります、それから營業開始を致しますと、八分を基準として居るのであります、それから臺灣の鐵道は、臺北鐵道、臺中輕鐵の此二つが

ありますが、臺北鐵道は營業開始を致しましたのが大正十年の一月、補助を開始致しましたのが大正十一年の四月、補助期間の満了しましたのが昭和六年の三月、それから臺中輕鐵の方は、營業を開始しましたのが大正十三年の八月で、補助の開始が大正十三年の八月、補助期間の満了するのが昭和九年の七月であります、さう云ふことになつて居ります、樺太鐵道は昭和八年の四月二十二日に落合と知取間の區間が満了することになつて居ります

林(路)委員 臺灣に於ける臺北鐵道は、昭和六年三月に既に十箇年の補助期間が満了して居りますが、之に對しては、最早法律上の期間が経過したのであるから、全く補助はして居られぬのでありませうが、是は補助期間を延長する必要がなかつたのでありますか

堤政府委員 此植民地の鐵道は、何の鐵道でも必ず補助をするに限つては居ないのであります、其土地の産業の開發、交通の利便と云ふことを考慮して考へたのであります、臺灣の臺北鐵道は極く一地方のことであると云ふので、其儘になつて居るものと記憶致して居ります、今回御審議を願つて居ります鐵道は御存じの通り樺太の大幹線になつて居りまして、是は財政の餘裕が許すならば、國有になすべきものであると考へて居るやうな譯であります、其間同じ鐵道でありまして、相當の區別があると云ふことを御諒承願ひたいのであります

製紙原料木材運賃

林(路)委員 政府に材料の提出を求めたいのであります、只今『樺太に於ける補助鐵道の沿革及現況』と云ふ印刷物を頂戴したのであります、未だ内容を拜見して居りませぬからして、若し私の要求致しまする材料が此印刷物の中に現はれて居るならば、其點は除かれまして、此印刷物に表示してない事項に付て材料の御提出を願ひたい、隨て重複して申上げますから、其御積りで御聴取を願ひたい

樺太に於ける補助會社の拂込資本額、建設費總額、社債額、當初より毎年度の損益金額、役員賞與金額及毎年度の補助額であります、それから樺太に於ける補助鐵道の最近の營業狀態、次に製紙原料に供する木材の運賃率の比較であります、是は材料を求めまする目的が、樺太に於ける補助鐵道は多く製紙會社と同一資本系統にあるものと承知を致して居ります、そこで同一資本系統に屬する製紙會社の木材の運賃が果して普通の地方鐵道並みに定められて居るのであるかどうか、之を比較して見たいのであります、故に樺太に於ける兩鐵道の此木材の運賃率と、地方鐵道補助法並に北海道に於ける地方鐵道、及軌道に對する補助法律による補助會社中の、高率運賃の定めを爲して居ります四五の會社との、比較をして見たいのであります

堤政府委員 林代議士の御質問の根本の御精神は能く諒承致しました、樺太の鐵道は製紙會社が自分の原料を運ぶ爲にやつて居るのだ、そこで原料の運賃を安く致して居りますと云ふと、鐵道の成績が悪くなつて來る、そこに補助

を貰ふと云ふことになると、是は不當なことになるのである、其點は第一に當局と致しましても氣が付きまして、十分調べました所が、現在樺太廳で經營して居る國有鐵道、其國有鐵道よりも料金は遙に高いのである、それから貨物の大量輸送に付ては、割戻を致しますが、其割戻を致しまする率も、樺太廳鐵と較べまして少いのであります

そこで事業の方を『プラス』にして、さうして鐵道の方を『マイナス』にして居ると云ふ狡猾な遣方をやつて居りはせぬかと、斯う云ふ點を能く調査致しましたけれども其懸念はないのであります、尙ほ御手許に差上げました『樺太に於ける補助鐵道の沿革及現況』と云ふ書類中に其點の詳細な數字を書入れて置きましたから御調査を願ひたい、御質問の根本の御精神は能く諒解致しましたが、其懸念はございませぬ

林(路)委員 木材運賃率の關係に付ては、只今の御答を得まして大體諒解致しました、要するに樺太廳で經營して居りますものよりも高いと云ふ御答でありますから、大體それで他の比較は想像が出来るのでありますから、此點に付ての材料は之を省きます、隨て他の材料に付て、此印刷物に現はれて居らぬ事項に付てのみ御提出を願ひたいと存じます

今村政府委員 御答致します、只今の御要求の材料は、御話の中の役員賞與の分だけがございませぬが、其他は全部其中に詳細に書いてあります、尙ほ御覽を願ひまして足らぬ所は差上げることに致します

林(路)委員 本法に直接の關係を有つ質問に付ては、只今申述べました材料に付て十分更に研究致しまして、後の機會に質問を申し上げます、又本法の審議に關聯致しまして必要がありまするから、次の委員會には北海道長官の御出席を要求致します

今村政府委員 只今御答するのに間違ひましたが、役員賞與も此印刷物の中に出て居ります、全部出て居ります

臺灣と異る點

林(路)委員 夫では私は時間の經濟上質問續行したいと存じます、まだ印刷物に付ての内容を能く存じませぬが、大體に於て私の諒解の出來ました點に付ての御質問を更に申上げたいと存じます、政府の御方針が植民地に於ける地方鐵道補助に付ては、必しも劃一的ではないけれども、大體に於て同じ取扱をしたいと云ふ御方針でございますが、臺灣に對しては私は此補助の條件から考へて見ましても、どうしても樺太、朝鮮に較べて補助の條件が悪い

是は何故に差別的の待遇をされて居らるゝのであるか、第一に設立登記の日から補助することゝ、營業開始の時から補助すると云ふことは會社其ものに取りますとは、洵に其間に大なる利益、不利益の違があるのであります、會社の設立を致しまして、建設を終了する迄の期間が長引けば長引く程、營業開始の時から補助せらるゝものにあつては不利益であります、拂込資本に對して何等の補助がないと云ふことは非常

に不利益なのであります

即ち臺灣は此不利益な地位に置かれてあつたのであります、又多くの會社が拂込資本のみに依つて建設を完了しない、其間に於て社債も必要なのであります、此社債に對しても樺太、朝鮮は補助せられて居る、併ながら此點は要するに建設費に對して補助すると云ふことであるならば、大體に於て双方の差はないのでありますけれども、併し此建設費の社債の區分と云ふものは、中々容易でないであらうと思ふのであります、此點に付ては臺灣は要するに建設費に對して完全に補助せられぬのであります

何故に臺灣にも此建設費の社債に對する補助を認めなかつたのであるか、又此益金から役員賞與の控除額に付ては、是は別に規定を設けて制限をして居られるやうであります、役員賞與金をも益金計算から控除して補助するのではないとは、大なる茲に會社の利害と致しましては相違があるのであります、是等のことは甚だ小さい事であると言へば言へないともない、併ながら今日何れの地方鐵道を舉げて居る所はない、補助金に依つて漸く其生命を繋いで居るやうな會社が多いのであります、隨て此益金の計算から單に準備金を一定率控除せらるゝと、役員賞與金までも控除せらるゝのとは、そこに非常な開きを來すのであります、此點に付ても何故に斯様な差別待遇をやるのであるか、政府の大體の方針が必しも劃一的ではないけれども大體に於て同一の待遇をするのであると言はる

以上、若し臺灣に於ける地方鐵道も、樺太、朝鮮並みにしなければならぬと云ふことであるならば、此場合之を改めらるべきではないか、大體私は拂込資本に對して補助すると云ふことは、是はどうかと思ふ、鐵道省の補助法に依りましても、建設費に對して補助をして居る、先刻堤政府委員の御答辯に依りますと、拂込資本も建設費も大差がないと云ふ仰せであります、是は一々調べなければ分りませぬが、必しも御答辯の通りではあるまいと思ふ、拂込資本に對して補助を受けることが有利であつて、拂込資本の中の建設費に對して、補助を受けることが不利益であると云ふことは申迄もないことであります

樺太、朝鮮に限られて拂込資本に對して補助を受けると云ふやうな取扱になつて居ります、是等の點は寧ろ建設費のみに對して補助をすると云ふ工合に、改めて行くことが、適當ではないかと思ふのであります、以上臺灣地方鐵道に對しての補助の内容と、樺太、朝鮮の鐵道の補助の條件との差別的關係に付て、何故に左様な差別を附して居らるゝかと云ふことを、更に明確に承つて置きたいのであります

堤政府委員 拂込資本金で建設したのか、借入金で建設したのか、それは林代議士の御説の如く區別は付きませぬ、併ながら是は結局建設費を補助を與へる基準に致して居るのであります、拂込資本金に對して補助をすると云ふとなつて居りますけれども、それは補助を與へまする時に嚴重に調査をさせて居る、例へば千

萬圓玆に拂込をする、そして建設に内八百萬圓を投じて、後の二百萬圓を附屬事業に投じたと云ふやうなことは、是はよくあり得ることであり、そこで此場合には是は建設費と認むべきか、是は附屬事業と認むべきか、其點を十分考察致しまして、建設費と認めるもののみを基準として補助を與へて居ります、そこで臺灣は建設費に對して年八分に達せざる時は云々、斯う書いてある、それから朝鮮、樺太は拂込資本金に對して年八分に達せざる時は云々と斯う書いてある、要するに字句は違ひますけれども、其内容は殆ど同じなのであります

然らば内容が同じであるならば、字句も同じにして置けば宜いぢやないか、斯う云ふことになる、それは至極尤なことでありまして、實際の内容は此處まで御説明をしなければそれが分らない、誰が見ても一目瞭然分るやうにすると云ふことが、法律の體裁と致しましても妥當なことゝ斯う考へるのでありまして、適當な機會に各植民地でさう云ふ誤解の起らないやうに字句の改正をして統一すると云ふことの必要を感じて居ります、そこで臺灣は薄くて朝鮮、樺太は厚いぢやないかと仰しやる、此拓務省と云ふものが設置せられて居りますのは、各植民地を統轄して個々に厚薄のないやうと云ふのが、拓務省の設立せられたる使命の中の一つでもあるのでありますから、土地に依つての差別待遇と云ふことをする考は有つて居りませぬ、唯其土地の其鐵道が産業の開發、交通の利便と云ふ點にどの位貢獻するものであるかと云ふ、それを

基準と致して居るのでありますから、其點は能く御諒承を願ひたいと思ひます

林(路)委員 役員の賞與金を控除した點に付ては、まだ御調が出来て居らぬやうでありますから、是は後の機會に御答辯下さるものと思ひます、政府は樺太地方鐵道に於ける補助法の改正に際しては、補助率の低減と云ふことに付て御考慮のないやうであります、鐵道省に於ける内地地方鐵道の補助率は、既に是は本院に於て決議せられましたやうに、一分を減ずることになつて居る、而して之に對しては衆議院は、希望を附して決議を致して居ることは御承知の通りであります

鐵道の資金の状況に依つては、努めて速に元の率に復活をするやうにと云ふ希望を附せられて居る、元來ならば植民地に於ても、内地地方鐵道と同様に、補助率を低減せらるべきものであると考へるのであります、特に本法に付て御提案なかつたのはどう云ふ譯であるか、又衆議院の院議で以上申上げたやうなことを希望條件として決議致して居るのであるからして、丁度本法に於て補助率の低減をしなかつたと云ふことが、衆議院の希望に副ふものである、隨て將來に於ても補助率は一切下げないと云ふ方針であるか、此點の御答を得たいと思ひます

堤政府委員 林代議士の御質問の要旨は至極御尤であります、是等もやはり條文が紛らはしいのであります、年八分まで補助することが出来る、此處だけ讀みますと云ふと八分補助してやる、内地と較べては、高いぢやないかと

云ふ疑問がもう直ぐに起るのであります、併ながら其補助法の第五條でありましたか、補助の總金額を百二十萬圓と云ふことに限定をして居ります、そこで與へられたる百二十萬圓の中で之を配分致しまする結果、逆も八分には廻らないのであります

現在補助を致して居ります會社は、樺太鐵道と南樺太鐵道の二つであります、樺太鐵道に付て申しますと云ふと、樺太鐵道の借入金が九百七十五萬圓、中八百萬圓は年七分三厘、百七十五萬圓は五分八厘四毛である、之に要する一年の利息の支拂額が六十八萬八千四百八十一圓になる、そこで其利息を差引ますと云ふと、拂込資本金の七百五十萬圓に對しましては、利廻が僅に五分八厘より配當が出来ないのであります、そこで將來、借入金の利息が餘程安くなればいざ知らず、此位の狀態でありますと云ふと、僅に五分八厘より拂込資本金に對しては配當が出来ない、斯う云ふことになつて居るのであります、利息も内地と植民地を較べますと、どうしても植民地の方が幾らか高いのであります

當分利息が急に下ると云ふこともない、八分と云ふと逆も高率の補助を受けるやうであるけれども、實際は五分八厘の利廻りによりならぬ、そこで内容を調べて見ると云ふと、特に事業上に便利を圖ります爲に、自分の事業に關するものは連賃を安くして居ると云ふやうなことは、應鐵よりも高くしても、それだけの利廻りによりならぬ、然るに其鐵道は樺太の大幹

線であつて、樺太全島開發の爲にはなければならぬものである、補助がなかつたならば、是は日々の運轉する實費の原價だけでも償へない、斯う云ふことになつてしまふのでありますから、是は矢張樺太全體の産業開發、交通の利便と云ふ點を考へまして、此補助の延長をしないと云ふことが適當なことであらうと、斯う考へて居るのであります

他鐵道との比較如何

林(路)委員 鐵道省の地方鐵道の補助率は從來七分以下となつて居りましたものが、今回は六分以下になつたのであります、そこで一分下つたことになるのであります、然らば從來七分以下となつて居る場合に於て、其最高限度七分までの實際補助をして居つたかと云へば、さうではないのであります、例へば益金が二分ある、此場合に於て補助金を五分出せば七分に達する譯であります、必しも悉く其最高の七分を補助して居つた譯ではない、是は矢張豫算に制せられて、最高の補助を出して居らぬのであります、樺太鐵道に於ても、補助率の定めは八分であつても、最高百二十萬圓かに定められてあるからして、此最高金額を越える譯には行かぬと云ふことになりますから、結局只今の御説明の如く最高の補助をして居らぬと云ふことは、是は能く諒解出来るのであります、そこで現在樺太廳は法律の最高金額の範圍内に於て補助して居られます、其爲に會社の收支關係がどうなつて居る、會社の損益計算がどうなつて居

る、それが又他の植民地に於ける、或は内地に於ける地方鐵道の補助の狀態と、之を比較致しましてどうなつて居るか、此點に付ては御配付になりました印刷物等をも能く拜見して、更に御質問上げたいと存じます、次に私が先刻要求致しました材料の中、臺灣に於ける現在の地方鐵道若くは補助期間の満了した臺北鐵道の如き、是等の營業狀態を知りたいのであります、之を頂戴することが出来ませうか

堤政府委員 臺灣の鐵道の内容は一つ調べて見ませう、それから只今の御質問の内地の鐵道は五分益金のあつた場合には二分まで配當を見込める、結局七分と云ふことになつて居る、内地の鐵道は其運轉實費の原價を食込むと云ふやうなのは極く少いのであります、開業勿々の時は是は食込む所が或はあるかも知れませぬけれども、民間の者が資本を投じてやつて見ようと云ふやうな所は、幾らかの利潤はあるのであります、そこで政府から五分貰つて、自分の收支で益金がある場合には、二分まで配當出ると云ふことになる、六分なり七分なりの配當は出来るのであります

樺太は先程申しましたやうな事情に依りまして、樺太鐵道の方は昭和六年、昭和七年、此二箇年とも資本金に對しての利益配當は五分より出来て居りませぬ、それから南樺鐵道の方は昭和六年の上半期と下半期と平均して七分五厘、昭和七年の上半期と下半期と平均して五分八厘によりなつて居りませぬ、そこで樺太は僻地の地であつて資本の投資に對しては内地よりも餘

程危險を含んで居る、それから又人口の増殖と云ふ點に於ても、内地と同じ率で進まれるとも想像出来ませぬ、成べく發展させたいと當局は努力はして居りますけれども、天然の總ての狀況に依りまして、内地と同じやうに人口も増殖するし、産業も發達すると云ふ譯には行かぬのであります、然るに其成績が五分とか或は五分八厘、六分未満であると云ふやうなことであるとすれば、矢張是は此補助を繼續しなければ、樺太全體の交通の爲には非常な障礙を來すであらう、斯う考へて居ります

林(路)委員 此點に付て御答辯を得て居らぬのであります、補助率は今後とも之を増減しない、是は只今の御答辯に依つて、要するに樺太の特殊事情を御述べになつて居りますから現在は何論將來に於ても此八分と云ふ、最高限度の維持が必要であると云ふことに解釋して宜しうございますか、又もう一つ御尋ね漏れであつたから伺つて置きますが、今後新に敷設を要する樺太に於ける地方鐵道の現在會社の延長線でありませうとか、或は新設會社に依る建設がありませう、隨て若し今後現在の會社が補助を要する鐵道の延長を致しまするなり、或は新會社が出来て、さうして敷設する見込の所がありまするならば、隨て此補助金の最高限度は増額をしなければならぬと云ふことに到達するであらう、只今其補助の増額を要する、新に補助を要する新線に付て、御見込が立つて居るのでありませうか

堤政府委員、是は中々むづかしい問題であ

りまして、餘りに補助が多過ぎますと云ふ思想上の影響なども考へて見て面白くないことなのであります、併ながら現在の五分なり五分八厘位の利廻りによりならぬと云ふことは、新線の延長と云ふことは、是は餘程困難である、併ながら以前から約束がある、或は其他の事業上の必要があると云ふのは、是は別であります、何等の行掛りに捉はれないものとする、五分八厘の利廻りならぬが、全く自由な投資事業として鐵道を敷設せよと云ふことは、是は少し無理なことであると斯う思はれる、併ながら今補助率の増額の御協賛を仰ぐと云ふことも、是は餘程困難なことであり、故に先づ補助は此程度にして置いて、行政官である樺太長官などの努力に依つて、之を早く延長させるやうにしたい、斯う努めて居るのであります、當局に於ては此點に非常に苦心を致して居る次第であります

ります

林(路)委員

樺太に於ける鐵道政策は、樺太廳或は拓務省に於て大體の御計畫が出来て居るものと考へます、隨て樺太廳の經營として新線を敷設するか、然らざれば民間の既設の會社或は新會社に依つて新線を建設せしむる、此御方針に併せて既に大體御計畫が出来て居るであらうと思ふ、其御計畫があるとするならば、今後建設をする計畫になつて居る所の鐵道はどの區間であるか、又どの會社がそれを經營するのであるか、此豫定御計畫を大體承知することが出来まするならば、樺太に於ける地方鐵道の補助は將來金額をどの程度までに殖やさなければ

ならぬ必要が起つて來ると云ふことを、大體豫見が出来ようと思ふ、隨て其鐵道計畫の内容を此の際承知して置く必要があると思ふのであります

堤政府委員

林代議士の御質問御尤のことでありまして、樺太には御承知の通り東の海岸を行く線路と、それから西の海岸を行く線路と大體に於て此二つの大幹線と見ることが出来るのであります、所々之を繋ぎ合せると云ふのは、是は無論必要もありますけれども、主として東海岸と西海岸の二つに分れて居ります、そこで此東海岸は、今新開まで行つて居ります、それを敷香まで延ばさしたい、それは樺太鐵道に延ばさしたい、斯う考へて居ります、それから西海岸は、北部の都市であります所の惠須取までは、是は至急に延長する必要があると考へて居ります

樺太の開発上最も是は急を要するものと思ふのであります、併し此西海岸線の延長は、何分巨額の經費を要することであり、それから、財政及公債などの關係を考慮して、成べく是は樺太廳鐵、即ち國營として西海岸の方は延ばして行きたい、斯う考へて居ります、併し東海岸の方も、是は樺太の大幹線であり、適當年時機に國家が買収することは必要だと考へて居ります、寧ろ其方が補助金を與へるよりも、却て國家の財政と云ふ見地から見て有利でないか、斯う考へて居ります、併ながらまだ本年などは財政、公債の關係から、之を買収することに御協賛を仰ぐまでには至らないのであり

ます

延長線又は新線計畫

林(路)委員

さう致しますと、地方鐵道として延長線の計畫、或は新線の計畫と云ふものはないのであります

堤政府委員

差當つて許可を致して居りますのは、今の新開から敷香までであり、敷香から國境方面へ延びて行きます東樺鐵道とか云ふのがあります、それは工事半ばにして中止致して居ります、何とかして之を開通させることが出来ないものかと考へて居るのであります、大體交通上、産業上の見地から考へます鐵道は左様なものであります、唯内幌に炭坑を経營致して居ります内幌鐵道と云ふのがありますが、それは事業上の關係で延ばさうとして居るのであります、併し是は補助も與へて居りませぬし、三菱系統の炭坑事業の爲にやつて居るのでありますから、是は議論の外だらうと思つて居ります、大體産業政策、交通政策から見た線は以上の二つであります

林(路)委員

其延長せられる會社の鐵道若しくは私設會社の鐵道、或は今日專用鐵道の形になつて居るものが、若し一般鐵道業務を開始した場合に於ては、無論地方鐵道として補助する必要があるものであります、さうすると大體此法律に定まつて居る補助金の最高限度では、不足を告げることは明瞭であります、是は今日より大體既に建設中のもの、或は認可、認可したものにあつては、此金額を増額して補助し得

る途を開いてやると云ふ必要は御認めにならぬのでありますか

堤政府委員 至極御尤の御質問であります内幌鐵道のやうな、事業を主として建設をしたもの、其處へ日に一回とか二回、人の乗るだけの箱を付ければ、是も地方鐵道に準じて補助をやるかと云ふと、それはさう限つては居りませぬ、要するに其岐れ途は一般産業の開發、交通の便利と云ふことを主眼としてやるか、事業を主眼としてやるか、此處に其區別の標準を置くべきものであらうと思ひます

三菱の經營して居ります内幌鐵道と云ふのが旅客を運搬する箱を付けたからと云つて、直ちに是は補助すべきものと斷定することは出来ない、併ながら事業を主としてやつたものであるから、旅客を運搬しても、それは補助をやらぬとも斷定は出来ない、それは全く其時の状況に依りまして、旅客をどの程度まで輸送するのであるか、又最初は事業を主としてやつたが、附近の人口が殖えて、交通の必要が起つて來ると云ふやうな場合には、之を補助すると云ふことも適當に考へられることでありまして、嚴格に茲で斷定は出來ませぬ、大體主として内幌鐵道と云ふものが、炭坑開發の爲にやつたもので旅客の箱を付けたからと言つて、補助すべきものではないと思つて居ります、それから今申し行く東樺鐵道など云ふものは、是は現に百二十萬と云ふ限定された範圍に於ては補助が出來ませぬ、補助が出來なければ、是はやれと云ふ

のは無理である、大體樺太の鐵道は大幹線になつて居りますから、何時かは財政或は公債政策を考慮しまして、國有に爲すべきものであると思ふ、そこで一部が國有になりますと、最高限度は百二十萬と決つて居りますけれども、補助を受けるものが少くなりますから、そこに餘裕が出來て來る、併し其餘裕が出來ないと云ふ場合には、矢張幹線は或る程度まで延ばさなければならぬのでありますから、さう云ふやうな時には補助の總額を増して貰ひたいと云ふことの、御協賛を仰ぐことがあるかも知れませぬ、併し今の所は適當な機會に買収をすれば、そこで餘裕が出來て來ると斯う考へて居るのであります

林(路)委員 私の質問は一應是で打ち切りまして、材料が總て整ひました上で、更に質問すべきことあるを保留して、是で質問を打ち切ります

木材海運の理由

喜多孝治委員 私は質問通告は致して居りませぬ、唯、林君の質問されましたことから疑問を生じたので、極く簡單ですから、此際御許しを願ひたいと思ひます、先程林君から木材輸送の運賃率に付て、材料を要求されました際に、當局の御答辯に依りますと、私設鐵道の運賃率は、國有鐵道の運賃率より高いと云ふ御答辯でござりました、従つて林君は其調書の必要なしと云ふことに相成つたのであります、茲に少々私は疑問を生じたのであります、簡單に御答辯願へば宜いと思ひます、國有鐵道より私設

鐵道の方が、殊に木材輸送を自分の利害關係のある、他の詰り聯絡のある會社の木材運輸を致す賃率が、寧ろ國有鐵道より高い、一應補助額を十年より十五年に延ばすと云ふ問題から見ますれば、疑問は消滅すると思ひますが、唯疑を持ちましたのは、從來及現在に於きましても『バルブ』原料たる木材を、此會社に依つて輸送致して居るのであります、工場に運ぶ總ての原木を、此會社に依つて輸送致して居るのであるか、或は其内の大部分、若くは半分も海運に依つて輸送致して、此鐵道を利用致して居らぬと云ふやうな事實がありはしないかと云ふことを、多少疑義を持つたのであります

此點明確に御答辯願ひたい、もう一つは自分の會社に於て製紙會社を作つて居る、それと同系の鐵道經營に於きまして、殆ど自分の利害關係と同一と言つて宜いやうな木材輸送に、非常に高い賃率を取つて居る、さうすると勢ひ民間に於ての物資輸送の上に於ける賃率と云ふものも、矢張それに應じて高いのではなからうか、それで樺太の開發の上に於きましては、現在の廳鐵さへも運賃率が非常に高いので、開發上吾々は遺憾と思つて居るのであります、私鐵に於きましては、矢張木材の運賃率が、廳鐵より高い如く、他の物資も同じく高いのである、而其理由は、木材の運賃率でも高いのであるから、之に同じやうな程度に於て、外の物も高くなつて居る、而して其木材の運輸と云ふものは會社に依つて鐵道を利用して居らぬ、海運に依つてやつて居ると云ふやうなことになります

と、甚だ樺太開發の爲に遺憾と存じて居ります、是は單なる私の疑問に過ぎないと思ひますが、其邊明白に致して置いた方が結構だと思ひます

堤政府委員

木材を輸送する必要がある製紙會社が、自分の經營して居る鐵道だからと云ふので海運でやつた方が安く行けるのを、特に其鐵道を無理に使ふと云ふやうなこともあるまいと思ひます、矢張自分の鐵道ではあるけれども、其運搬をするのは相當の『コスト』が掛るのでありますから、それよりも海運に依つた方が有利だと云ふ計算の場合には、海運に依つて居ることゝ考へるのであります、それから木材の運賃が高いから外の運賃も高いだらう、それは大體に於ては喜多代議士の御説の通りだらうと思ひます、内地でも省線よりも私設線の方が運賃は幾分高いのであります

成べく是は安くさせなければなりませんけれども、其運賃が省線より高くても、是だけ成績が悪いのでありますから、其上安くすると云ふことになれますと、矢張補助金をもつと増してやらなければならぬことになるのであります、其處に産業の開發上、運賃を安くさうと云ふことゝ、補助金を一般の財政上の關係からして少なくしようと云ふことゝは、どうも一致しないのでありますから、それはどうにも仕方がないものであります、要するに双方の適當なる調和點を發見すると云ふことが、必要なことであると考へます

喜多委員 今の御答辯は、私の質問致しました一部に付ての御答辯と致しまして、満足致

すのであります、既に堤政務次官に於ても御認めになつて居る如く、鐵道輸送に依らないで海運に依つて輸送が行はれて居るものがあるだらう、是は如何にも其事情、或は其地位、地境の如何に依りましてさう云ふことが自然的に起るのには是は當然でございますけれども、鐵道でやつても宜い物でも、運賃が高い爲に海運でやる、而も其輸送の分量が鐵道の分量よりは、海運の分量が多いと云ふことであります、私の最後の質問の趣旨にありました如く、如何にも高い運賃を、自分の會社の木材輸送に掛けて居る、應鐵よりは寧ろ高いと云ふことになつて居る、林君はそれに依つて諒承されて居るのであります、私はそれが名目的なことに相成つて居つて、事實は木材運輸に付ては鐵道を利用して居らない、海運に依つて逃げて居ると云ふやうな事情が、其處にあるのではなからうかと云ふことを、是は私單に疑つて居るのであります、私は必しも外の物資も應鐵と同じ賃率迄下げると云ふことは申上げませぬ、成べく低い方が結構であると云ふ趣旨を申上げたのであります、唯鐵道の賃率が木材は高いから、外の賃率がそれと同様に高い、而して其木材運輸が鐵道に依らないで、寧ろ多く海運に依つてやつて居ると云ふやうなことになると、どうも其處に趣旨が一貫しないやうに思はれるのであります

是は樺太開發の上に於て將來注意しなければならぬことゝ、今始めて氣付いた次第であります、此歩合が果して如何に相成つて居ります

か、政務次官としては御承知ないかも知れませぬが、樺太長官は御承知になつて居ると思ひますから、さう云ふ歩合に付て、此處に調書がございませぬば御調べを願つて知らして戴きたい、尙ほ御即答が出来れば此處で明に疑を解いて戴きたいと思ひます

堤政府委員

喜多代議士の御質問は、どうせ補助を貰へるのだから、鐵道を利用せぬで海運に依つてやつて行く、是はもう至極御尤なことで、中々抜目のない事業會社の經營者でありますから、考へ得るゝことであります、併ながら樺太は、補助を受けて居りますのが、樺太鐵道と南樺鐵道、其大部分の株主は等しく一つの事業會社の系統に屬する者であります、さうして受けます補助の總額が、百二十萬圓と云ふことに限定されて居るのでありますから、其懸念は先づあるまいと思ひます

鐵道を利用するか、海運を利用するかと云ふことは、要するに鐵道の『コスト』が幾ら掛かる、海運の『コスト』が幾ら掛かると云ふ、其原價計算に依つて鐵道の方が安いと思へば鐵道でやる、海運の方が安いと思へば海運でやるだらうと推察することは、是は常識的の判斷だと考へます、百二十萬圓と云ふ所で抑へられて居りますから、殊更さう云ふことをすることは、先づあるまいかと考へられます

喜多委員 今の御答辯の御趣旨は私は諒と致しますが、事實に於てどう云ふ風になつて居るか云ふことを、承つて置きたいと思ひます
今村政府委員 御答へ致します、此樺鐵に

依つて運搬します木材は、御承知の通り主として落合の富士製紙の工場に入るのであります。知取の方は大體其附近から出ます、夫から豊原の方の王子製紙の工場は、大體に於て留多加地方から出ます、此鐵道を利用するのは、主として落合の工場であり、勿論落合の富士製紙會社の方でも、内淵川の流域から出ますのは、此汽車を利用致しませぬ、即ち多くは此汽車の沿道にあります山から伐る木材が、此鐵道に依つて運搬されて居るやうな状況であります、隨つて知取の富士製紙の方の製紙「バルブ」などは海運で行きます、汽車は餘り利用しませぬ、でありますから、若し此樺鐵の運賃が非常に高いと云ふことになり、やはり會社の方の自己の利益計算から、海運に依るかも知れぬけれども、一割乃至五割の割引をして居りますから、此割引を以て致しますれば、大體に落合に入る木材は此鐵道に依ることと思ひます、尙ほ樺太廳としまして、始終製紙會社に對しては、成べく鐵道を利用することを慫慂して居ります、又樺太鐵道會社の方に對しても、隨時其注意は致して居ります、左様御承知願ひます

喜多委員

只今は調書に基かずに、御意見が多分に入つた御答辯があつたやうであります、私が大體斯う云ふ質問を申上げるのは、林君の御質問から此疑問を得たのであります、平素に於て、大體此鐵道の運賃率が、公有鐵道より私設鐵道が非常に高い、隨て海運業の方に多く行つて居ると云ふやうな實情であると思ふ、それで無論收支計算の上に於て絶対に望めぬと

ではございますまいから、應鐵及私設鐵道に於ての運賃率をもつと下げなければならぬ、さうして此鐵道が十分に利用されるやうにすると云ふ方針が、樺太開發の上に於て必要なりと云ふ觀念を持つて居る者なのであります、隨て從來に於きましては、或は其附近沿道より落合に出るとか、木材を移出するとか、或は大泊——是は今工場を閉鎖致して居るやうでありますけれども、株主及樺太長官の御盡力に依りまして、是が再開されるやうな機運にも遭遇致して居ると云ふことを聽いて、非常に喜んで居る次第であります、斯う云ふ工場を起します際に於ても、一部の資材はやはり遠隔の地より取らなければならぬ、斯う云ふ場合に於きまして、相當彼等が鐵道を利用し得るやうに、御導きになると云ふことが必要ではないかと云ふ考を持つて居るのであります、私は今の拓務次官及樺太長官の御答辯は、調書に基かずに御意見が多分に入つた御答辯と存じますが、此點御調べを願ひまして、統計に依りまして、私の疑義を解いて戴くことが出来れば、非常に結構であると思ひますから、御依頼致します

今村政府委員

只今調書に基かぬと云ふ御話でありましたが、大體落合の工場は、御承知の通り年に九十五萬石位の消費量になつて居りますが、此鐵道から出ますのが約三十五萬石程度だらうと思ひます、是が一寸單位が違つて居りますので甚だなんです、樺太廳で調べました所に依りますと、此鐵道に依つて落合工場に参ります木材は、毎年大體七萬噸乃至八萬噸位

運ばれて居ります、正確なる噸數は能く調べないと分りませぬけれども、多い時で十萬噸位、大體に於て七八萬噸は、此汽車に依つて運ばれて居るやうな状況であります、左様御承知願ひます

獨立自營の域

沖島委員 私は樺太事業公債の方の委員會で質問をしたのであります、それは樺太鐵道の未成線であります所の南新間、敷香間、是は本來落合から敷香迄は連續して建設さるべきものである、然るに是が何年も中絶致して居つて、何時建設に着手するか一向分らぬ状態に放任されて居るのであります

之に對する政府の方針に付きまして御尋しました所、今村長官は昭和十年まで期間があると云ふ御答でありましたが、昭和十年まで期間があるから、それまで黙つて見て居つて何等手を著けないと云ふとであります、最近敷香地方の非常なる發展の現状に鑑みまして、甚だ無方針に等しい、一種無責任であるとも言へる、恐らく左様な無方針、無責任の状態の儘に放任して置かれる譯はないと思ふ、そこで新聞敷香間は百二十萬圓の總額を、増額せぬでも建設せしむる御方針でありますか、或は百二十萬圓の總額を更に増額しても建設を促進せしむる御方針でありますか、又更に先程堤政務次官の御話に依りますと、是は樺太の拓殖上の大幹線であつて、總ては國で買収しなければならぬ、買収するとすれば百二十萬圓を増額せぬでも足

りと云ふ御説明でありますが、さう致しますと、近き將來に此樺太鐵道の一部若くは全部を買収する法律案を御出しになる御方針でありますか、何れにしましても、政府としては之に對する御方針が決して居なければならぬ、此點を承つて置きたいと思ひます

堤政府委員 只今沖島代議士の御質問は極めて實際的の御議論でありまして、新開敷香の間が四十五軒ありますが、此建設費が今迄の平均に致しますと、三百五十六萬圓掛かるのであります、樺太の産業開發と云ふ點から見ますと、一日も早く是は建設をさせなければならぬものであります、何分先程申しました通り、百二十萬圓の補助を受けても、建設費に對する利息の配當と云ふものは五分乃至五分八厘と云ふ低率のものでありますから、却々之を敷設することは困難であります、大體知取敷香の間は最初工事施行認可を致しましたのが、昭和二年八月の二十五日でありましたが、今日までまだ著手をして居らぬのであります、其時の條件は認可の日から一年内に工事に著手し、著手の日から三年内に竣工すべし、斯う云ふことになつて居ります、所がやらないものでありますから、昭和三年九月の二十日に更に一年延期した、昭和五年の十一月の三日になつて一部分知取南新聞間を開業致しましたけれども、南新聞間から敷香の間はまだやらない、そこで昭和七年の二月の二日に又三箇年延長しまして、さうして其期間が昭和十年十月末までに竣工する、斯う云ふことになつて居るのであります、そこで是は敷設

をするに云ふ出願がありまして、それに許可を與へたのでありまして、其許可を與へたから必ず之を建設せよと云ふ政府からの強制力はないのでありますから、引合ふことにならぬと是は實際問題としてやらすことに却々困難ではなからうか、そこで今沖島代議士の適切な御質問になつて来る譯であります、百二十萬圓の此範圍では補助と云ふものは少しも與へる餘地がありませんから、却々是は困難である、そこで今後はが竣工するまでには財政上或は公債政策と云ふ點を考へまして、一部分買収すると其百二十萬圓と云ふものに餘裕が出来る、そこで其補助を其方に廻すやうにして建設させたい、それがどうしても見込がないと云ふことであれば補助の増額の御協賛を仰ぎましても、私は是は樺太の交通政策上敷設させなければならぬ大幹線と、斯う當局は考へて居るのであります

薩山委員 先程林君から御質問のありました點に關聯して御問したいと思ひます、尙ほ私が本會議に於て御質疑を致しましたことに對しまして、樺太は設立登記の日より十箇年と云ふことになつて居る、そこで現在では僅に六箇年しか補助して居らない、斯う云ふことであります、林君に對してもさう云ふ御答辯でありましたが、事實は是は矢張十箇年補助を與へて居るやうに思ふのであります、此表を見るとさう見えますが、如何ですか

堤政府委員 それは設立の登記の日から十年間、それから開業を致しましてからまだ五箇年箇月、六箇年には一寸達して居ないと考へ

て居るのであります、此開業までは建設資本に對して——此點は尙ほもう一應調査をしまして、是は數字のことでありましてから間違のないやうに、次の機會に御答辯を申上げたいと思ひます

薩山委員 今の政務次官の御話ではさう云ふことでありますから、其點はそれと致しますか、政務次官は大變簡單に御答辯になつて居るから分らぬのであります、之を以て見ると、ずつと十箇年矢張補助して居るやうになつて居る、此點は書面が現はして居るのであります、是は林君とも研究しまして、今の言はれたこと、或は本會議で御述べになつたことが、若し工合が悪かつたならば御取消を願ひたい、是は此點私共はつきり分らぬ、尙ほ政務次官で分らないければ、長官から御答辯になつても結構であります

堤政府委員 設立登記の日から十年と云ふことになつて居るのでありますから、設立して直ぐに拂込資本金に對して、八分の補助を受けて居ると云ふやうなことは、是はもう斷じてないと云ふことを申上げます……「あります」と呼ぶ者あり——補助は建設資本に對して補助すると云ふのが、大體の建前になつて居ります「それは答辯が違ふ」と呼ぶ者あり其點も能く調査を致して間違のない答辯を此次の機會に申上げたいと思ひます

字句に拘泥の話ぢやない

薩山委員 是は私も何も登記の日がどうの

斯うのと云ふ問題ではありませすして、實業界府から何年間補助を與へて居るか、借入金であらうが資本金であらうが、兎に角政府から與へて居る金が、何年に幾らづゝ出して居る、もう既に十年経つて居ると云ふやうな意味のことを私は言ふのであつて、設立登記の日から六箇年であると云ふやうな、其字句に拘泥しての話ぢやない、兎に角政府から既に最初は例へば二十萬圓で、次には五十萬圓、次には百萬圓と、逐次斯うなつて居る、斯う云ふことであります、其次には堤次官は、最近二年間は、五分の配當しかして居らぬと云ふことを頻に言はれますけれども、それまでは全部八分の配當をして居る是は會社は中々旨い事をやつて居る、此點は林君にもさう云ふ御答辯でありました、本會議でもさう云ふ御答辯でありましたが、矢張是は八年間と云ふものは、八分の配當をして居る、それからもう一つは之に關聯致しまして、内地の鐵道と云ふものは五分の配當で、又何かで二分の利益を得たら七分になると仰つて居りますが事實は内地の私設鐵道の非常に拙い所は『マイナス』の出で居る所が澤山ある、私の選舉區にある有馬鐵道と云ふのは破産に瀕して居る、實際氣の毒である、それで是は拓務省の管轄ではありませぬけれども、私は林君の質問と關聯しまして、内地の私設鐵道——林君の臺灣、朝鮮とをそれに加へて、内地の私設の大體現在營業して居る、或は切れ掛つて居る、切れて居ると云ふやうな、最近に於ける其營業狀態、その配當率、是は堤次官は樺太だけが非常の不景氣

のやうに思はれて居りますが、私は内地一般に亘つて研究を致して見たい、それで是は委員長にも御願をして置きますが、鐵道の監督課長に此次には御出席を願つて、内地の鐵道に付ても多少研究して見たい、斯う存じて居ります、尙ほ喜多君の御質問に次ぎまして、今の鐵道の收入に付きまして、此私設會社の職員其他に付て『パス』を發行して居るとか云ふやうなことが營業狀態に非常に關係すると思ふ、此點は事實の問題を捉へて、此點で簡単に書面で宜しうございますから、御答辯を願ひたい、要するに私設會社の鐵道を只で乗らして居るのがどれ位あるか、斯う云ふ意味で、是が總て營業狀態に非常に關係があるだらうと思ひます、尙ほ今日は餘り時間もありませんから、もう少し簡単に申し上げますが、此鐵道會社は前議會に於ても私は質問書を出しまして、拓務大臣の御答辯を得ました、是は根本は何から起つたかと云ふと、決算委員會等に於て、樺太の諸事業が非常な問題になつた、私はそれに携つて居つて、洵に遺憾に思つて居りましたから、今回調査を行つた譯でありまして、其結果が今度鐵道だけの問題になつたのであります、で其實問書に對する御答辯書は頂戴して居りますが、其後會社の狀態も多少變つて居ると思ひます、それで此質問の根本の基準になるのは、どう云ふことであるかと云ふと、樺太に於ける地方鐵道は未だ獨立自營の域に達せざると云ふ、此獨立自營の域に達せざると云ふ爲に、補助期間を延長する必要があると云ふことであります、果

して獨立自營の域に達しないかどうか、又内地との關係はどうか、内地の諸鐵道はどうかと云ふやうな意味になると思ひます、其意味に於て御答辯を願ひたいのであります、それで御答辯は、先づ此兩會社の是の概要で宜しうございしますが、資本關係、特に其主なる資本主、その重役、尙ほ此兩會社は製紙の三會社に非常に關係があります、製紙の三事業會社に非常に關係があるやうであります、又現在其中には多少役員も變更されて居ると思ひますが、此事業會社と其職員、重役が同一である、例へば樺太鐵道の重役が十五人、南樺太鐵道の重役が十人であるが、其南樺太鐵道の重役の半分配、即ち五人は樺太鐵道の重役である、又三製紙會社の方に於きましては、王子製紙では其中の六人が鐵道會社の重役であり、富士製紙の方では八人が重役である、是は樺太鐵道と南樺太鐵道を、全然同一の會社と見做して宜しいかどうかと云ふことを、本會議でも質問しましたが、之に付ては堤次官は御答辯がなかつたので、私は本會議で拗こく言ふといけぬから、委員會に譲ると申上げたのであります、是が詰り兩會社の根本問題であります、尙ほ此三製紙會社に付ては、まだ詳しい答辯書は受取りませぬが、此三會社の設立當初からの營業狀態、資本關係、之を伺ふと兩會社と三會社の關係が能く分ります、それで此點に於ての損益の計算を、概要で宜しい、短い日時にやるのでありますから、併し從來能く分つて居る譯でありますから、此點を一つ伺ひたいと思

ひます、尙ほ之に關聯しまして、此製紙會社は特別に今迄樺太廳から非常な利益を得て居る、例へば森林の拂下にしても、外の個人とか會社は、金を先に納めないと拂下をして貰へないのに、此大會社は、例へば一億八千萬石の三社で合併の石數を受けて居る、それに付て他の者が一石例へば八十錢の金を出さなければならぬ所を、會社は六十錢で受けて居るとか、さう云ふやうなもので非常には利益を受けて居る、斯う云ふやうな點に付て、特に森林拂下に付ての概要現在樺太廳に於てやられて居ることも御示して載きたいのです、尙ほ各委員に對しまして能く分るやうに、重役の關係、五會社の關係、之を謄寫版でも結構です、さう云ふものを私は見せたいと思ひます、相談の材料にしたいと思ひますので、それを御提供に願ひたいのであります

尙ほ此場合の内幌鐵道とあとの樺太鐵道、或は南樺太鐵道、其外尙ほ私設鐵道があるやうに仰せになりましたが、それと事業會社との關係を伺ひたいのであります、それから先般大泊のことを質問致しました、拓務次官は熱誠なる御答辯をされました、併し事實に於て將來どうなるかと云ふことが、其後大分御調査があつたらうと思ひますが、其點も御伺ひたいのであります、それから鐵道の幹線、詰り落合から敷香に通ずる幹線の各部落の人口狀態及産業狀態、尙ほ南樺太の留多加と申しますか、此方面も……尙ほ私が樺太に参りました時に、樺太の鐵道事務所の方より鐵道の買收計畫要領と云ふものを

見せて貰ひました、之に付ても尙ほ色々御話を伺ひたいのであります、此買收と云ふこと、補助を與へると云ふことが、どう云ふ風な關係になり、將來どつちが有利であるかと云ふことも伺ひたいのであります、それから先日本會議の私の質問に對しまして、昭和十年十月迄の認可期間になつて居るから、何とかやるだらうと云ふやうな御答辯がありました、是ももう少し實際どうするのかと云ふ突込んだ御答辯を伺ひたいと思ひます

堤政府委員 只今蔭山代議士から御要求の材料は出来るだけ調べます、私の本會議の答辯は樺太鐵道が開業をしてから未だ五年と何箇月即ち六年にならぬのであるから、極めて補助を受けた期間が短いから補助の必要があると云ふ答辯に對して、只今詳細に質問がありました、正確な數字は後程調査して申し上げますけれども、此條文から解釋致しますと云ふと、年八分に達せざるとき不足額を八分まで補給する、斯う云ふことになつて居るのでありますから、開業をする迄でも幾らか補助を受けて居つたらうと想像致します、併ながら是は拂込資本に對しては八分やる、斯う云ふのではない、八分に達せざる所の不足を補給すると云ふのが、此補助法の精神でありますから、例へば千萬圓の拂込をする、開業する迄は最初は千萬圓と云ふものゝ殆ど大部分が銀行預金として現存するのでありますから、それに對しては五分なり六分の利息が付くのであります、そこで八分に達せざる差額を國から受けると致しましても、それは

極く少額のものと考え、で建設が進むに隨ひまして、八分に達せざる額と云ふのだから、其受ける限度は多くなると思ふのであります、そこで建設が終り開業すると云ふ瀬戸際が一番餘計國から補助を受けなければならぬことになるのであります、本會議の時の答辯では開業する迄はちつとも受けて居ないと云ふやうに、あの答辯では思はれるので、蔭山代議士から今詳細なる御質問を受けたのであります、是は至極御尤であります、此開業するまで受けました補助の額は極く少いと想像致します、尙ほ詳細なる數字は能く調査を致しまして申し上げます、尙ほ存じます、尙ほそれから「パス」なんかも無闇に出して居りますと、是は紙の會社の従業員は只で乗つて居る、其方で「ブラス」になるが成績の方では「マイナス」になる、是は如何にも御尤であります、それも補助を受ける限度が百二十萬と決つて居りますから、さう大したことでも常識上考へてやるまいと思ひますが、其點に付ては尙ほ能く調査を致します、先程の材料も出来るだけ眞面目に調べまして申し上げますと存じます

原委員長 それでは本日は是で散會致します、次會は六日の午後一時に開會致します、尙附加へて申して置きますが、材料を非常に委員から要求されて居りますから、此材料を出来るだけ迅速に御遣りにならぬと、明日は日曜になつて居りますから、明後日の開會當日あたり御出しになられても間に合はぬと思ひますから、其點を御注意申けて置きます午後三時四十分散會

新、敷間完成に

最善の努力す

以て樺太の開發に貢獻

(三月七日衆議院委員會)

原委員長 三井君

三井徳實委員 私の御尋ね申上げたいと思ひますことは、樺太の私設鐵道に對して免許の當時に於て、或は會社の重役、若くは會社に深い關係を有つて居られる名士に、何等かの名義を以て林木を無償で拂下を致して、會社を免許して居ると云ふやうなことを聞いて居りますが左様な事が果してありませうかどうか、吾々は其當時承る所に依りますと、或は重役に都合の好い名義に於て、相當の林木を無償で拂下げを致したと云ふことを聞いて居ります、此點を詳しく御答を願ひたい

今村政府委員 御答致します、樺太の拓殖上必要なる事業に對しまして、支障となります木材を無償で交付することになつて居ります、隨て道路の開鑿であるとか、或は軌道の開設であるとか、鐵道の開設等をやる場合に於きましては、其路線に當る所の支障木は、之を無償で交付することに相成つて居ります、尤も支障木と申しまして、それは或は橋梁材となり、或は枕木と云ふやうな方面に使はれることになつて居りますが、大體に於てさう云ふ支障木は無

償で交付することになつて居ります

三井委員 或は道路の開鑿若くは鐵道敷設上障礙となる材木を無償で拂下をすることは、是は當然であつて、それを伺ふのではない、さう云ふ名義の下に非常に多量の木材を無償で拂下をして居る、斯う云ふことであります、是は確に其當時相當大きな價額のことを、左様な名義を以て無償で拂下をして居る、それが會社の建設費に相當足しになり、力になつて居ると云ふことを聞いて居ります、其處は只今のやうな通り一遍の御答でなく、さう云ふ特殊な便宜を樺太の開拓の上に於て、鐵道を速成する上に於て、左様な事をして居る例はないと云ふことでありますれば、私は其例を十分に擧げて見たいと思ふのであります、さう云ふ極り切つた御答辯でなくして、もう少し御親切な御答を願ひたいと思ひます

今村政府委員 御答致します、只今御質問になりましたやうな事實が、從來確にありましたと云ふことは申上げられませぬけれども、さう云ふ事實があつたやうな話は聞いて居ります併し實際に於て、どう云ふ事實があつたかと云ふことは、私は承知致して居りませぬ、併ながらさう云ふやうな兎角の批評がありましたので昨年限政を改革致しまして、將來さう云ふやうな誤解を受けないやうに、十分林木に付ての取締を致すことに致したのであります

三井委員 只今の御答で、林政の今後の方針を御決定になつて、今後さう云ふやうなことがないやうに取締られると云ふやうなことで、

私は納得致しました、私は之に對して會社は相當な便宜を得て居る現實に於ても相當な利益を得て居ると云ふことを承知して居ります、樺太の鐵道を速成する上に、其當時それに特別な便宜を與へられたと云ふことは、樺太開拓の爲に執られた態度である、斯様に私は善意に解釋致しまして質問を打ち切ります

薩山貞吉委員 先般の質疑に繼續致しまして質問を進めたいと思ひます、先般堤次官が本會議に於て、設立登記の日から六年と云ふことを申されましたが、事實は設立登記から七年になつて居りました、營業開始から十一年と云ふことになつて居りますが、是はあなたの御答辯が誤りであつたと云ふことを御認めになりますか

堤政府委員 是はもうはつきりした數字のことです、或は私が間違つて居たかも知れませぬが、營業を開始してから五年にはまだ一寸ならぬやうに考へて居りました、それから設立登記してから、丁度十年位になるのではない、當局の出しました調査に依て、さう云ふやうに計算をして居つたのであります、併し數字の、年月のことです、尙ほ一つよく能く調べて見たいと思ひます

薩山委員 堤次官の御答辯は昭和三年以來となつて居りますが、それから補助を受けて居ることになつて居りますが、實際は御配付になつた書面に依りまして、昭和二年に既に五十萬圓の金を補助して居る、三年に於て九十餘萬圓の補助をして居ると云ふことになつて居る、

又大正十二年に於て、其時から補助を與へて居ると云ふことになるから、十一年と云ふことに私は申上げたのであります、是は間違ないと思ひます、それで其點は更に御質問せぬまでも、大體さう云ふやうな御答辯で、それで先づよいと致しますが、是が觀念の上に於て非常に違ふ斯う云ふ譯なのであります、堤次官は斯う云ふ風にたつた六年で、さう餘り金をやつて居らぬではないかと云ふやうな意味であります、事實は十一年から補助を貰ふと云ふことになつて居るから、觀念の上に於て非常に違ふ、だから其點を能く御考を願ひたい

是は喜多君の御質問に關聯しまして、樺太には非常に厚いけれども、臺灣には薄いと云ふやうな關係になつて来る、續いて樺太には内幌鐵道と云ふものがありますが、是と南樺太鐵道と云ふものは、殆ど同じやうな價值である、然るに一方に對しては補助を與へ、一方に對しては補助を與へて居らない、而も樺太鐵道と云ふものは、最初五年間補助を與へ、更に又五年補助を延長した、今度又法律を改正されると十五年になる、一方には斯く厚くして、他の一方には非常に薄いと云ふことになつて居ります、次には是も重要な點であります、落合知取間の鐵道、是は色々の經費支出の状況から見ますと資本金は一千萬圓である、知取敷香間は七百五十萬圓、斯うなつて居る、而して落合知取間は距離に於て百七十軒、知取敷香間は三十二軒と云ふことになつて居る、一方は百七十軒に一千萬圓を費し、知取敷香には僅か三十二軒の間に

七百五十萬圓を費して居る、而もそれは半分の工事しかして居らないから、結局十五軒二十軒位と云ふことになつて居る、所が南新聞から敷香の間は鐵道は敷設をして居らない、故に十五軒か二十軒の間に、七百五十萬圓を使つたことになつて居る、而も此方は昭和十四年の七月二十五日まで、補助がまだ貰へるやうになつて居る、所が南の方は本年で切れるから大騒ぎになつて居る、それで買収して貰ひたいとか、買収するのがいやなら、補助を貰ひたいと云つて騒いで居るのである、兎に角さう云ふことを考へて見ると、是は非常に慌てた改正案である、而も一面臺灣の話は二年も三年も放つて置いて、此方の方に今火が付いたからと云つて、大騒ぎをして居る、斯う云ふことになつて居るが、一體政府は七百五十萬圓で僅か十五軒か十八軒程の工事をさせて、あとの工事はやらずに補助だけ與へる、十四年までは北の方では補助は貰へることになつて居るが、此後をどうするのか、此間からの御答辯では、一向敷香新聞間の鐵道を敷設させると云ふ斷言は爲さつて居らない、是が非常に重大問題である、若し之をせぬと云ふことになるならば、是は重大な問題である調査はまだ十年までしてあるのだから、そんなことは知らない、金だけはやる、斯う云ふことであつては、金を貰ふ方は非常に旨いが、政府としては洵にぼんやりして居る話だと思ふ、斯う云ふやうな點は、餘程御注意を爲さなければいかぬ、又樺太鐵道の方は大體に於て二往復、或は三往復の汽車の運行であります、内幌鐵

道は一體何往復の客車を運轉して居ることになつて居るか、さうして又之に付ての補助はどうなるか、先ず大體是位のことにして置きまして之に對する答辯を載いて後、更にもう一つ重要な點に付て御伺したいと思ひます

今村政府委員 御答致します、内幌と云ふ所に政府の保留炭坑があります、此保留炭坑の一部を昭和元年かと記憶して居りますが、入札の結果三菱の方で採掘することに相成つたのであります、隨て其石炭を本斗と云ふ海岸まで出す爲に、十六軒程の鐵道を敷設致したのであります、其際に内幌鐵道の敷設の爲に多少の補助金を得たいと云ふやうな、會社の申出があつたさうでありますけれども、豫算の關係上補助はいけない、所が會社の方では補助を貰はなくとも造ると云ふやうなことで、結局補助を貰はぬと云ふ諒解の下に、此鐵道が敷設されたやうに承知致して居ります、其後勿論會社の方と致しまして、多少でも旅客を取ると云ふことが會社の利益でありますから、其列車に客車を附けまして客を運んで居る、それが爲に地方でも利益を受けて居るやうな状況であります、でありまして一般の今日の財政上、進んで此會社に補助する迄にはなつて居らぬのであります、左様御承知を願ひます

それから只今落合知取間の建設費の御質問がありました、一寸それは違つて居ります、差上げました印刷物の三頁を御覽願ひます、七百五十萬圓と云ふ拂込額、是は全額でありまして其中で百七十五萬圓は知取敷香間の建設費にな

つて居ります、借入は九百七十五萬圓、其中二百四十八萬圓が知取敷香間の建設費になつて居ります、それから知取南新間の距離は三十二軒でありまして、其距離も多少違つて居るやうな感じが致します、でありますから多額の金を知取新間間に掛けて居る譯ではないのであります

蔭山委員 南樺太鐵道ですが、是は五年間最初補助して、更に五年間延長すると云ふ風になつて居りますが、將來も安張是は補助される御豫定なのですか

今村政府委員 御承知の通り今度の此法案が改正になりますと、是は樺太の總ての補助を受けて居る私設鐵道に編入されることになるだらうと思ひます

蔭山委員 今の質疑の一番の要點の敷香新間間の今度の新設と云ふことに付て、工事を施行させると云ふことに付ては如何なる御考でありますか

今村政府委員 御答致しますが、此點に付きましては樺太廳でも非常に必要を感じて居りますので、殊に敷香の方に將來人絹工場も出來ますから、此期間内には是非建設させたいと云ふ考を有つて居ります、此點に關し目下會社と折衝中であります

蔭山委員 是非させたいと云ふ御希望があると云ふだけでは、私共は満足出來ないのであります、架けなければ補助を與へないと云ふ肚を以てやつて居られるかどうか、之を伺ひます

今村政府委員 勿論樺太廳としては非常に必要を感じて居りますが、益金を百二十萬圓と

中六十數萬圓が借入金金の金利に充當致して居りまして、残り五十萬圓近くは即ち其拂込金額に對して五分七厘位の割合になるのであります、でありますから會社の方に利益もなし、又借入金金の金利も相當に下らぬと云ふことになりまして、此敷香新間間の建設費は三十四五萬圓掛りますから、會社としては餘程困難ではないかと考へて居ります、併し私と致しましては、蔭山さんの御話の通り、是非建設したいと云ふ考で折角折衝中であります

蔭山委員 續いて先般大泊の件を御願して置きましたが、其明確なる御回答がありませんが、南樺太鐵道は大泊に非常に關係がある、所が大泊の發展と云ふことに付て會社が考慮して居らない、唯自分の會社の都合ばかり考へて居る、是は王子製紙がやつて居つたのでございませうが、土地の者は非常に王子製紙を怨んで居る一面又樺太廳も怨んで居る、私が行つた時にそれを云つて來て居る、私はそれに付ては非常に同情をして居るのですが、其點もまだはつきり御答辯を得て居りませぬが、それはどう爲さいますか

今村政府委員 御答致します、御話の通りであります、此點に付きまして、過日來色々折衝致しまして、近く再運轉することになるだらうと考へて居ります

政府の重大責任

蔭山委員 續いて二つの今の補助を受けて

居ります鐵道の會社と三製紙會社の關係であります、此中樺太工業株式會社と云ふのは、是はどつちかと云ふと、最初は鐵道には關係がないのであります、今回合併になればあると云ふのでありますから、詰り二製紙會社の鐵道會社であります、此鐵道は此間御配付を受けました参考書類に依ると云ふと、殆ど重役が同一であります、兩方の鐵道會社と製紙會社の兩方を受持つて居る重役は十五人あるのであります、だから製紙會社と鐵道會社とは同一と見做して宜しい、斯う云ふことがまあ結論出來る譯であります、それを今政府委員は此鐵道の方に付ては、非常に利益が少いと云ふ方面の御話を爲さつて居ります、併し此利益の色々の御調査を拜見しますると云ふと、八分が大體從來の利益であつて、さうして不景氣になつてからは、一年六分とか五分五厘位の程度になつて居る、是は少しく配當率が少くなつて居りますが、併し製紙會社の方面を見ますと云ふと、先程から色々木材の關係、又先般から喜多君なり或は三井君等の御質問もありましたが、木材の拂下げさう云ふ方面、或は又受けて居る拂下げの數量其他に關しまして、從來だけの問題と致しまして、此御參考書に依りますと云ふと製紙會社は二割から、一番不況の時でも一割何分と云ふ利益を受けて居る、大體に於て鐵道では損はない、どうなり斯うなり普通の鐵道のやうに配當して居るが、製紙會社の方はうんと儲けて居る是は世間周知のことでありませう、さうしますと云ふと、製紙會社と鐵道會社と云ふものは同一

であつて、鐵道ではどうなり斯うなりやつて居つて、製紙の方では儲けて居ると云ふことになりすから、此點に於ては獨立自營が出来ること云ふことになる、併ながら尙ほ茲に延長すべき線路があると云ふやうなことになる、又此森林拂下げの關係から見しても、此御調査は從來受けて居るだけの數字しか出て居らぬのでありますが、是だけでは實際分らない、今受けて居るものがどの位で、どう云ふ風に利益を得て居ると云ふことも、是は餘程私共も調査はして居りますが、何分今日はもう時間がないのと、政府が今日どうしても出して貰ひたいと云ふ御要望でありますから、もつと突込んで之をもう二三日——二三回やると云ふと、是はこちらの意見も政府の意見も分る、又是は今の政府當局だけの問題でありませぬ、永年に亘る所の秕政もそこに改正されて行つて、多少明になるのでありますけれども、私は此點に付て遺憾ながら十分に研究調査する、又御尋する暇を有たないと云ふことで、此木材の拂下げ等に付ては深くもう申上げませぬ、唯製紙會社の方は或時は非常に儲けた、又此五箇年の收入だけのことを書いてありますけれども、實際は是も更に五箇年を廻ると云ふ風にしますと、實際に製紙會社の利益も分るのであります、茲で政府が大に注意を煩さなければならぬことは、此製紙會社と兩方の關係を考へて、將來實際に於て樺太の開發の爲に更に敷香まで延長させるかどうか、是は政府の重大なる責任であると思ふ、其點に付て政府が從來鐵道に付ては餘り儲けて居らぬけれ

ども製紙業に付ては獨占事業として非常に利益を得て居る、是はどうです

堤政府委員 蔭山代議士の御趣旨はもう能く諒解を致しました、製紙會社が鐵道を經營して居る、鐵道ぢや餘り儲けて居ないが、紙の方で儲けて居る、それであるから南新間、敷香間などやらせにやいかぬ、それは其通りでありまして、政府は十分其趣旨に副うて、さう云ふやうにやらせたいと思ひます

營業支出が償へぬ

唯鐵道の方は最近不景氣の結果と致しまして樺太鐵道が主たるものであります、昭和六年には營業收入が七十四萬七千圓の所へ、營業支出が九十七萬二千圓出て居る、結局營業の收入から營業の支出を引いて、幾分残らなければならぬのに、支出の方が二十二萬四千圓から多いと云ふことになつて居るし、又昭和七年は營業收入が九十三萬三千圓で、營業支出の方が九十八萬二千圓で、是亦四萬八千圓だけ支出の方が多い、斯う云ふことになるのでありますから、そこで此鐵道は一般の交通産業の爲に必要なんだが、直接の營業支出だけが償へない、斯う云ふことになつて來るのでありますので、茲に其補助を繼續しなければ一般が困るからと云ふので、御審議を仰いだやうな次第であります、併し樺太での木材と云ふものが基礎になつて紙で儲けるではないか、鐵道の方では損をしてゐても、是は義務としてやれ、是はもうさう云ふことにさせなければならぬもので、御互なら勿論

進んで是は氣持好くさうやるんだが、併しさう云ふ氣持を有つて居る者は不幸にして金を有つて居ない、金を以て事業などをやると云ふ者は中々其點は因業なものでありまして、それを適宜に強制し、又適宜に懷柔して、大した國費の犠牲を拂はさないでやらすと云ふことは、偏に行政上の手腕に俟たなければならぬのであります、もう御趣旨の精神は能く諒解を致しましたそれに副ひますやうに、十分當局と致しましたも督勵をし、南新間敷香間を早く完成させるやう最善の努力を費す積りで居ります

蔭山委員 政府も大分諒解をされたやうですが、其點に付ては諒と致しました、私が先程から申上げて居るやうに、まだ此鐵道の内部に付きまして、貨物收入、或は客車收入、其他一般の貨物收入と木材貨物收入等、色々な點に付て取調べますと、堤次官の云はれるやうな、強ち鐵道にさう損は行つて居ない、自分のものを自分がやつてさうして金を取つて居るのだから、是は當り前だ、斯う云ふやうにもなるのです、併し斯う云ふ點は、政府委員が吾々に對する御答辯としてはそれで宜しいが、會社に對してさう云ふやうな氣持で對抗して居つたら、中々何時まで経つても鐵道は出來ないので、此點を一つ私は特に申上げて置きたい、鐵道と製紙會社は今度は一つになるから、其鐵道と製紙會社は同一だと云ふ觀念を持つて向ふにしつかり言はなければならぬ、又法律を改正したからと云うて、それを何も手一杯やる必要はない、それは所謂生殺與奪の權は政府にあり、法律の

運用は政府にあり、又買収したらどうかと云ふやうな問題もあります、又政府の御調査に付て多少まだ聴きたい點もあり、計算に付ても私の調査して居る點と少しく違ふ點もありますけれども、本日は折角の政府の要望でありますから此程度に止めて置きます、どうか私の申しました趣旨に於て——私は賛成をして居るのであります、どうか其點に付て十分に會社の方の御取締を嚴重にされて、さうして將來樺太開發に於て、政府が地方民から怨まれないと云ふやうな點に御考慮を煩はしたい之を御願ひしまして、本日は是で打ち切ります

丹下委員 此程度に於て質問打切の動議を提出致します、續いて討論に入られんことを希望致します

原委員長 丹下君の動議に御異議ありませんか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

原委員長 御異議ないと認めます、其通り致します、それでは質疑は是で終結致しました直ちに討論に入ります

喜多委員 色々數回に亘つて論議されました、政府當局の意のある所も諒と致しました、殊に新聞敷香間の未設線の延長を會社に誠意を以て當ると云ふことに付て、吾々満足致して居ります、此點に付て十分の御努力を御願ひ出来ることと確信致します、隨て今日提出されて居ります政府の原案に賛成致したいと思います

齋藤委員 政府の原案に賛成致します

佐藤委員

政府案に賛成を致します

沖島委員

私は等しく賛成であります

二三の希望を申述べて置きたいのであります、それは此樺太に於ける補助鐵道は、樺太鐵道と南樺鐵道の二鐵道會社であります、此二つの鐵道會社に對して樺太居民の有します希望は、設備が不完全で運賃が高い、此兩鐵道は過日來堤政務次官の言はるゝ通り、樺太の拓殖の幹線に當る路線で、當然政府が經營せられて然るべきものであるが、私設會社に託せられて居ります結果、運賃が高くて設備が不完全である樺太の開發の上に於きまして多大の不便不利を生じて居る、それでありまして樺太在住民としましては、一日も早く是は他の幹線と同様に政府に於て經營せられんことを希望致して居ります、隨て之を買収されることの一日も早くせられんことを希望して置く次第であります、併ながら財政の都合上買収が容易に實現されないと云ふことでありますれば、會社の収益が現在よりも一層良好になりますやうに、鐵道沿線地方の開發、産業の發展に付きまして、今後政府當局は一段の努力精勵をされんことを希望するのであります、それから又藤山君、喜多君も申されましたが、樺太鐵道の未成線たる所の新聞、敷香間の建設促進の問題であります、是は前回の委員會に於きまして、堤次官から百二十萬圓と云ふ金額の制限がある、此範圍に於て此未成線を建設すると云ふことは、只今も御話がありましたやうに、資本家の利害關係からして之を強ひることは困難である、そこで一部を買

收して、次の未成線を建設すると云ふことをする積りだ、それが出来なければ、百二十萬圓の總額を殖やさう、斯う云ふ風な御答辯が前回にありました、私共は其中何れの方法でも宜しい、唯漫然此區間の出来るのを待つて居る、若くは臺灣のやうに二年も三年も放任して置くと云ふやうなことの無いやうに、少くとも次の議會には、之に對する政府の方針がはつきりするやうに御努力を願ひたい、是だけの希望を申し上げて置きます

原委員長 それでは討論は終結致しました直ちに本案の採決を致します、原案に賛成の方は舉手を願ひます

(賛成者舉手)

原委員長 満場一致、本案は可決されました、散會致します

午後零時三十三分散會

三月九日第一讀會續(委員長報告)

報告書

一樺太地方鐵道補助法中改正法律案(政府提出)右は本院に於て可決すべきものと議決致候此段及報告候也

昭和八年三月七日

委員長 原 惣兵衛

衆議院議長秋田清殿

(原惣兵衛君登壇)

原惣兵衛君 樺太地方鐵道補助に關する改正法律案の委員會の經過並に結果を御報告致します、本案は十年間の補助期間を十五年間に延

ばすと云ふ案でありまして、内容に付て反對の方は誰もなかつたのであります、唯補助を致しますに付て、地方鐵道の會社が補助の内容及會社の營業狀態に付て、少なくとも補助は南新間數香間の鐵道を建設すると云ふことが、補助の内容の趣旨になつて居るのでありますから、其點は何處までも建設すると云ふことにして貰はなくてはならないが、政府は此點に付てどうであるかと云ふ質問がありました、之に對して政府は極力會社を督勵して、樺太發達の爲に建設を、どうしてもやらしめようと云ふことを考へて居りますと云ふ御答辯がありました、斯くして滿場一致を以て原案を可決致しました、此段御報告申し上げます(拍手)

議長(秋田清君) 本案の第二讀會を開くに御異議ありませんか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(秋田清君) 御異議なしと認めます、本案の第二讀會を開くに決しました

上田孝吉君 直ちに本案の第二讀會を開き第三讀會を省略して、委員長報告の通り可決あらんことを望みます

議長(秋田清君) 上田君の動議に御異議ありませんか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(秋田清君) 御異議なしと認めます、仍て直ちに第二讀會を開き、議案全部を議題と致します

樺太地方鐵道補助法中改正法律案

第二讀會(確定議)

議長(秋田清君) 別に御發議もありませんか

朝令暮改に亘らぬ様

來年の法案を拵へよ

(三月十八日貴族院委員會)

委員長(公爵一條實孝君) 樺太地方鐵道補助法中改正法律案に付て政府委員から御説明を煩はします

政府委員(堤康次郎君) 只今議題となり

ました樺太地方鐵道補助法中改正法律案提出の理由を御説明いたしたいと存じます、現在樺太に於きまして補助いたして居ります地方鐵道はいづれも營業開始後まだ日が淺くして、殊に近年經濟界の不況に伴ひまして其營業成績も今良好でない有様でありまして、將來人口の増加及産業の發展などを考慮に入れますとも、尙ほ當分獨立自營の域に達し得ないものと認められますので、現行の補助期間の經過後も尙ほ補助を繼續するの必要があるのであります、依て此際右補助期間の限度十年を十五年に改正いたしましたして、樺太に於きまする地方鐵道の健全なる發達を期したいと思ひまして、此法律案を提出したやうな次第であります、何卒御審議の上御協賛あらむことを御願ひ致します

第三讀會を省略して、委員長報告通り可決致しました(拍手)

男爵大藏公望君 樺太の方の問題は極めて

簡單でありますので、大して御伺ひすることもないのであります、唯先般頂戴しました樺太に於ける補助鐵道の沿革及現況と云ふ書冊を拜見しますと云ふと、最近には改つたやうであります、經營が如何にも放漫なんぢやないかと云ふ氣がするのであります、それは今中上げました書冊の十四頁から十五頁に互ります表を拜見しますと云ふと、營業收入がドン／＼減つて居るのに拘らず、營業支出がドン／＼増して居ると云ふことが明瞭に看取されるのであります昭和七年の下半期に於きましてはそれが非常に一時に改良されました、大變良くなつて居りますが、それ迄は随分不思議な程に營業支出が増して居る、年々増して居る、さうして收入の方は可なりひどい減少を示して居る、ちと經營が放漫であつたのぢやないかと思ふのであります、どうも放漫な經營をして居る鐵道に補助すると云ふのはおかしいので、勿論昭和七

年の下半期に成績が大變良くなりましたやうに今日に於ては御注意になつて居ることかと存じますが、尙一層政府に於ても餘程御引締めにならぬと云ふと、又再び前のやうなまづい結果になりはしないかと云ふことが考へられます、此點に付てはどう御考へになりますか、御意見を伺ひたいと思ひます

政府委員(堤康次郎君) 大藏男爵の御質問は頗る御尤もなことでありまして、政府は補助を致して居りまして、經營が放漫で、經費を濫費して居りましたのでは目的を達せられないことになるのでありますから、監督を致して居ります責任上、支出の内容に付きましては嚴重に取調を致して居るのであります、其御取調べの内容は今私の手許には參つて居りませぬけれども、常に當局に於きましては其點を十分考慮に入れて居るのであります、得て補助を貰つて居りますと云ふと、つい其點が他人のものゝやうな氣になつて放漫に流れ易いと云ふのは、是は人情の常であります、現在の場合に於きましては、補助を貰ふ最高限度が百二十萬圓と云ふことにもう決つて居りまして、支出は節約すればするだけ、それだけ會社の利益になると斯う云ふ現在の狀態になつて居りますから、世間に有り勝ちの是以上節約しても國の關係であつて會社の關係でない、是以上努力しても國の補助金が減るだけで自分等の『プラス』になるんぢやないと云ふやうな場合だと其懸念も更に痛切になる譯でありますけれども、現在の場合に於きましては、矢張り彼等も補助の限

度が決つて居る、配當は五分乃至六分より出來て居ないと云ふ斯う云ふ譯でありますから、可なり自分の營業同様、單純な營業同様に努力を致して居るだらうと思ふのであります、併し御趣旨も體しまして、將來とも十分此支出の點に嚴重な監督を致しまして、御期待に副ふやうに致したいと存じて居ります

男爵大藏公望君 只今の政府委員の御説明で將來御注意下さると云ふことは誠に結構であります、只今御話になりましたことは、必しもさうなつて居りませぬので、どうも樺太の鐵道だけは随分澤山の補助をして居られる、營業收入が八十八萬圓に對して百二十萬圓の補助をして居られる、謂はば總收入に對する一倍半の補助を與へて居られると云ふ風な狀態で、外の鐵道に見るべからざるやうな非常な保護を與へて居られると思ふのであります、隨て其經營の方々が今御話の通りに、儉約しなくつてもどうせ貰へるからと云ふ考へなしに大いに儉約する氣分を持つて居るだらうと云ふやうな御話はちよつと斯う云う特殊の場合には當嵌らぬかと思ふのであります

詳しく申上げますれば長くなりますが、此表を御覽下さつても昭和七年の下半期以外は年々收入より支出の方が多く、さうして今御話の通りの百二十萬圓と云ふ總收入の十五割に達するやうな補助をして居ると云ふ風な有様でありますから、まあ自然と經營が放漫に流れることだらうと思ひます、黙つて居つても經營者が必ず旨くやるだらうと云ふ風な御話は違ひますの

で餘程嚴重に監督されぬと云ふと將來も亦再び此弊に陥るぢやないかと云ふことを心配いたして居ります、只今の御説で十分監督すると云ふ話でありましたから安心いたしました、尙ほ此上とも、是程大きな補助を與へられたる場合でありますからして、十分な上にも十分に御監督を願ひたいと存するのであります、それから其次に伺ひたいのは、是は御説明を伺ひたので………是で宜く分りませぬ、が借入金に餘り違はない年々まあ餘り違はないのは利子の補助と云ふ額が大變變動があるが是はどう云ふものでありませうか、例へば昭和六年の下半期に於きましては借入金金が九百五十萬圓でありましたがそれに對して利子の補助が僅に十一萬であります所が、其次の昭和七年の上半期に於きましては借入金金が僅に廿五萬圓しか違はない、九百七十五萬ありますに拘らず、利子の補助は三倍の三十三萬なんぼと云ふ數を補助して居ります、どうして斯う云ふ風な非常に大きな變動がありますか、御説明を願ひたい

政府委員(今村武志君) 御答へ致します

此利子の計算に變動ありますのは昭和五年の下半期に於きましては借入金金の利子の支拂期に到達するのが七萬九千六百圓程ありますが、是が入つて居りませぬ、隨て之を翌期の六年度の上期に於て計算いたしました、昭和六年度の下期に於きまして借入金金の、利子補給率が二割四分程に減少いたしましたのが、補助金の豫算が減少いたしました爲に五分の配當を許す關係上、其利子の二十三萬四千三百三十四圓と云ふものを

借入金の方で決算致しました爲に此利子が入つて参らぬのであります

男爵大藏公望君 能く分りませぬが、甚だ恐縮ですが、もう一遍説明を願ひませぬと云ふと、ちと簡單過ぎて分りませぬが……

政府委員(今村武志君) 借入金は先刻御話の通り九百七十萬圓であります、是の利子の計算であります、此五年の下期の方に於きましては其借入金の利子の支拂期が到達いたしましたから、それを翌期に於て拂ひましたのが七萬九千五百圓になつたのであります、隨て之を六年の上期に於て計算いたしましたのであります、それから六年の下期に於きまして借入金の利子の補給が減つて居ります、約二十三萬四千圓程の金が減りましたのであります、此減りましたのは其六年に於きまして非常に缺損があり、また爲に到底五分の配當が出来ませぬ關係上、此二十三萬四千圓の金を建設費の方に振替へまして其方で借入金に直した譯であります、隨て此利子補給は致さぬのであります

男爵大藏公望君 さうしますと、此昭和六年の下半年に於きましては六分の配當をするが爲に其利子の一部分と云ふものを建設の方に繰入れる、斯うでありますか

政府委員(今村武志君) 御言葉の通りであります

男爵大藏公望君 どうも少し亂暴な經營のやうにも考へられますし尙ほ今後に於て斯かることが再發することがあり得ませうか、又御許

しになりませうか、其點を伺つて置きたいと思ひます

政府委員(今村武志君) 之に付きましては樺太廳としましては、今後は絶対に斯う云ふ計算はさせない積りでございます

特定賃金制定如何

男爵大藏公望君 もう一つ伺ひたいのは只今申上げました冊子の前の方に色々書いてある中で拜見しますと云ふと、樺太では木材「バルブ」に對して運賃を割引の必要がある、そこで非常に割引いて居るものだからして收入が誠に少ないと云ふことの御説明が段々書いてあります、併し私も考へますと云ふと樺太に於て運賃を割引く必要は一つも無い、若し「バルブ」や木材が樺太の貨物の大宗でありますならば割引と言はずに初めから運賃を安く公定なさつたら如何かと云ふ感じがするのであります、割引となりますと云ふとどうしても相手に依つて違つて来る、恐らく今日でも大きな會社、大きな資本家に對しては割引になられると云ふやうな結果になつて居るのだらうと思はれます、それよりは露領材なり、其他の方面の「バルブ」木材に競争すると云ふ常に起つて居る状態がありましますならば、運賃をはつきり下げられる、級を下げますか、若くは運賃額を下げますか……若くは特定賃銀にするか、割引賃銀にするよりは特定賃銀にした方が宜いではないかと云ふ感じがしたのであります、此點如何でありますか

政府委員(今村武志君) 御尤もであります、御承知の通りに樺太の鐵道は樺太廳の鐵道に致しまして、内地の鐵道運賃に比較して非常に高いのであります、と申しますのは矢張り鐵道の經營上或程度の便宜を與へる關係で非常に高くなつて居ります、此木材の運送に對しましても、或一定の責任を限度と致しまして其責任數量に達します迄は割引は致しませぬのであります、其責任數量以上の運送に付きましては、此表に示してあります通り割引を致して居ります、と申しますのは、大體に此の樺太鐵道で運びます木材は主に知取から落合の工場に参りますのが大部分を占めて居るのであります、此木材は鐵道沿線に搬出を致しまして鐵道、又は流送で流して参ります、さうして持つて参るのであります、此運賃が高いと云ふことになりますと矢張り天候等を見計らひまして海で落合の方に運ぶやうになるのであります、是と對抗する關係もありまします、相當の割引を致すのであります、是は御承知の通りに内地の方、北海道に致しましては九州等に致しまして、其地方の特殊の運送には相當割引を致しますので、矢張り其例に倣ひまして割引を致して居るやうな次第であります

男爵大藏公望君 私の伺ひました點と今の御答辯とは少しく食違つて居るやうであります、私は割引が悪いと云ふのではない、又運賃を引下げることも必要がありませう、競争上必要がありませうし、樺太産業開發上必要があると思ひますが、大體にどうも樺太と云ふものは今ま

で評判が悪い、それから今御話の通りに鐵道の經營も随分私共が見まして面白からぬやうに思ふのであります、然るに現在の拓務當局に現在の樺太長官が赴任せられてから非常に刷新されたと云ふことを聞いて居りますので、誠に結構に存じますが、斯う云ふ風な運賃割引と云ふやうなものは兎角妙な關係が生じ易い、出来ませんならば此運賃と云ふものは必要上若し割引がなければならぬものであるならば、低くして公定すると云ふことの方が明るい政治を爲さる爲には必要ぢやないか、それを相手に依り、數量に依り割引く、是は無論鐵道經營と致しましては私共も多年の經驗を持つて居りますので、其必要はあらうと存じますが、併し樺太みたいに木材『バルフ』と云ふものが主要貨物であると云ふ所に、それを高い運賃を決めて置いて、相手に依つて割引くと云ふことは矢張り何か妙な噂を起し易いことを心配いたしますので、今日茲で以て是非必ずさうしますと云ふ御言明は要りませぬが、之を或る程度までは公定せられる、低い運賃に公定せられることに付て御研究になつたら如何かと考へるのであります、此點に付て強ひて御答辯を求める次第ではありませぬが若し御差支なければ研究して見ようと云ふ御考でもありますかどうかと云ふことを伺つて見たい、此程度であります

政府委員(今村武志君) 此營業費に付きましては先刻政務次官の方から御答がありましたが、私は私に差控へて居つたのであります、此文書にも掲げてあります通りに、樺太鐵道の營

業を開始いたしましたのが昭和二年の十一月であります、さうして昭和二年に於きましては營業費が年額九萬六千圓となつて居りますが、それからして此知取の先の南新聞に至る迄の線が開通いたしましたのが昭和四年と心得て居ります、從ひまして漸次營業線の延びました關係もある、營業費が多少増額は致したのであります、所が昭和六年度には只今も申上げました通り非常な缺損もありましたので、どうしても他の収入を擧げると云ふ途がございませぬので消極的乍ら非常な節約を致したのであります、從ひまして一日一軒當りの支出を見ますと、樺太廳の鐵道は廿六圓八十錢九厘と云ふとに相成つて居るのであります、樺太鐵道の方は十二圓九十三錢七厘と云ふ風に節約を致して居るのであります、尙ほ今後に於きまして此點は十分監督いたしたいと考へて居ります、又木材の運賃の割引に付ての御話でございましたが、御承知の通り樺太鐵道は資本家が王子の富士でござい、大部分が王子の富士であります、之に依つて運びます木材は大體に於て富士製紙會社の方の木材が先づ主たるものであります、併し此割引に付きましては王子であらうと富士であらうと個人であらうと、同様に割引を致すのであります、決して其荷主の如何に依つて二三に致して居らぬのであります、であります勿論此樺太の鐵道運賃は樺太廳鐵道にせよ私鐵にせよ非常に高いのでありますから、將來何等かの方法で之を引下げて行きたいと云ふ考は十分に持つて居るのでありますけれども、只今の

所では御承知のやうな収入状態でありますので實現いたし兼ねて居るやうな次第であります

男爵大藏公望君 又細かい問題で時間を取つて甚だ恐縮ですが……先程の政務次官の御答辯ならば誠に満足して居りましたが、只今の樺太長官の御答辯では大分議論の餘地が出て來ると思ひます、即ち昭和七年度下半期に於ては非常に節約されましたからして、只今の噸哩の經費が或鐵道に於ては十二圓なんぼ、或鐵道に於ては二十六圓なんぼで、特に節約してやられると云ふ風な御話は御尤もと存じますが、是までの經營がひどく、御話の通りに非常に嚴重な監督が大變旨く行つたとは思へない數字が現はれて居るのであります、是は從來は悪かつたが、其後大いにやつて居ると云ふ先程の政務次官の御答辯で満足したのであります、今の御答辯に依つてはさうした疑問論を生じたのであります、之を議論しても仕方があるませぬが、運賃に關しましては相手に依つては違はぬと云ふことは、此責任噸數を以てやつて居る場合には其責任噸數に達しきへすれば相手に依つて違はぬのは當り前でありますけれども、其責任噸數に達すると云ふことは大きな資本家ならば達するでせうが、小さいものは達し得ないと云ふとに於て、何と云つてもそこに差別がつくのであります、其責任噸數の決め方に依つては非常に或者は餘分の運賃を割引を與へようと云ふことが成し得るのであります、是は私共長年經驗して居りまして、決して今御話の通りのものではないと思つて居ります、例へば百萬噸以上のも

のに對しては五割割引をする、十萬噸以上のものに對しては一割の割引をする、斯う云ふやうな時分に、或人が七十萬噸を出すと云ふ場合には、其人に援助しようと思つたならば、七十萬噸のものも百萬噸の扱ひにすると云ふことも矢張りやり得るのであります、やつてやれないことはありませぬ、唯さう云ふことが決めてあるから誰にも同じやうな率を得ると云ふことは言へないのであります、何と申しましても責任噸數と云ふやうな條件が附いて居りますれば、相手に依つて手加減を與へようと思へば與へ得るのであります、私共の申上げますことはさう云ふ風な制度よりは何か特定運賃を決めて、さうしてまあ一般に外のものも非常に高いのであります、大宗貨物だけは特定運賃に依ると云ふ方法を御決めにしましたら如何でありますかと云ふことを申上げたので、別段に議論する譯ちやありませんが、今の御答では何時でも公平と云ふ譯に行かずに、やらうと思へばやれる程度ぢやないかと考へるのであります、併し此點に付きましても別段に特定運賃を作る考なしと云ふ御考であれば、是は已むを得ませぬ、強ひて御作りなさいと云ふことを私は申上げませぬが、それだけを申上げて置きます、私の質問は是で打ちります

男爵辻太郎君 補助の年限を五年御殖やしになる、五年位殖やしたらそれから以後は補助も御やりにならぬでも獨立して此私設鐵道は行けると云ふやうな御見込があるのですか、或は又五年經つて又五年延期をしなければならぬと云ふやうなことが起るのぢやないですか

政府委員(堤康次郎君) 至極御尤もの御尋であります、大體植民地に對しましての鐵道の補助の年限を定めましたのは、それだけの年限の間補助いたしましたならば一般に産業も開發せられ、人口も増殖して、もう補助も必要がないやうになるだらうと云ふ一つの漠然たる豫想の下に年限を決めたのであります、各植民地の均衡を考へまして、兎も角樺太も今回年限を五年延長を御認めを願へば、臺灣、朝鮮などと權衡が取れると、斯う考へたのであります、朝鮮は會社設立當時の日から十五年となつて居ります、それから樺太は御存知の通り十年になつて居るのを朝鮮同様に五年延長の御協賛を今御願をして居るやうな譯であります、臺灣は開業の日から十年と云ふことになつて居りますので設立登記の日からと云ふことと、開業の日からと云ふことは大分違ひますが、先づ今回五年の延長を御認めを願へば一巡各植民地の權衡が取れる、併し五年經てばもうそれで獨立自營の域に達するかどうか、是は頗る議論があるのであります、朝鮮も十五年、明年度で終るのであります、是はもうこれ限りだと云ふ譯にも行くまいと思ひます、そこで來年は各植民地を通じて拓務省に於きましては、統一したる大體の方針を確立したいと斯う考へて居るのであります、兎も角各地の權衡上、今日此五年の御協賛を願つたやうな次第であります

男爵辻太郎君 只今の御説明に依りますと今年此法案を認めましても亦來年朝鮮、臺灣と

一緒に、又五年十年、總體各植民地皆延期しなぐちやならぬと云ふやうなことが起つて來ると心得て宜しうございますか

政府委員(堤康次郎君) 私の言葉が少し足りなかつたかも知れませぬ、明年更に又審議を願はなければならぬと云ふ趣旨ではないのであります、朝鮮の鐵道も十五年と云ふのが明年切れるのがありますから、明年は各植民地を通じて大體の方針を決めたいと斯う考へて居るのであります、其大體の方針を決めました結果、更に期間満了の時に御協賛を願ふやうなことがあるかも知れないと、斯う申上げたのであります、其點を御了承願ひたいと思ひます

男爵辻太郎君 さうしますと、まあ樺太の方は是で五年の間は命がある譯ですから、其儘になつて行きますやうが、來年か再來年は朝鮮はどうしても延期しなければならぬと云ふことが起つて來る、さうすると又樺太も之に均霑しなければならぬ、臺灣も亦それと同等に扱はなければならぬと云ふやうなことで、今後又五年目五年目には各植民地の鐵道は延期々々をして、詰り無限に此補助と云ふものは續く譯になるだらうと斯う思ひますが、左様心得て、それに近いものに心得て宜しいのですな

政府委員(堤康次郎君) 大體來年各植民地を通じて根本の方針を決めたいと斯う思つて居るのであります、補助の年限は一應限定されて居りますけれども、大體此鐵道と云ふ公共事業に顧みまして、其土地の産業の開發交通の便利と云ふ立前から、どうしても收支償はぬ、

營業を止めなければならぬと云ふやうなことになるまいかと云ふと、其及ぼす影響は餘程是が大きいと考へますので、何とか國家から之を考へなければならぬものだらうと斯う思つて居りますが、併し成るべく國の補助と云ふことはしないで済むやうにしなければならぬのでありまして、さう云ふ必要の無いやうに一般産業が開發が出来ますやう、當局としては鋭意努力を致して居るのでありますが、期間満了の上では或は又そんなやうな事態になるかも知れませぬが、成るべくさう云ふことにならぬやう十分に努力をする積りで居ります

男爵辻太郎君 大概分りましたですが、勢ひ來年は總體の延期を爲さるか、或は朝鮮だけ延期なさるか、何かは延期を爲さなければならぬと云ふことは起つて来るものとも見受けられます、決して私は此補助をして悪いとか、補助を打切れと云ふやうな考はないのですけれども、如何にも三年とか五年とかに期間を切つては又延ばし、又延ばし、朝令暮改のやうな虞れがあるので、それを少しく統一して戴いて、いつそやるべき補助であれば思ひ切つて二十年でも三十年でも期限を長くして御やりになつたら宜からうと斯う思ふのです、ですからして、只今御説明になりました來年は總體のものを引きくるめて御方針を御立てになつてさうして此補助を御やりになるならば、此朝令暮改に耳らないやうな旨い法案を來年は拵へて戴きたいものだと思ひます

政府委員(堤康次郎君) 御趣旨の趣きを

能く了承いたして置きます

委員長(公爵一條實孝君) 他に御質疑ございませぬか

藤田四郎君 此報告書を見ますと、年々建設が殖えて居りますが、まだ許可線が南新間から敷香まで残つて居ります、矢張り是も建設いたして居るのですか、今やつて居るのですかもう止めて居るのですか

政府委員(今村武志君) 御答致します、南新間から敷香までは約四十五「キロ」程残つて居ります、丁度昭和十年十月末迄の建設期間になつて居ります、それ迄の間には是非やらせたいと思ひまして目下會社と折衝中でありまして
藤田四郎君 さうすると今は建設して居らぬのですか、やつて居るのですか、又それは會社の希望ですか、樺太廳の希望ですか、どつちですか

政府委員(今村武志君) 此樺太鐵道の線は二區になつて居りまして、一つは落合から知取迄であります、二區は知取から敷香迄で約八十二「キロ」程の線になつて居ります、其中の敷香、南新間まで矢張り設計其他をやつて居るやうな譯でありまして、唯工事は今休んで居ります、此線を延ばしますと云ふ事は會社に於ても、樺太廳に於ても共に希望いたして居るのであります、と申しますのは敷香は相當の町であります、此處まで延ばすと云ふことは會社としても利益でありますし、樺太廳に對しましても交通上是非此處までやりたいと考へて居

ります

藤田四郎君 内地の方の鐵道の方は、私設鐵道の方の補助は此度補助の程度が少し下りましたやうに思ひますが、樺太廳の先刻の御話では、植民地は一帶に下り、先づ十五年に直されるやうな御都合の御考らしいやうですが、斯う云ふ工合に此先き其年限が過ぎたならば、十年の許可を超えたならば、或は一部減らすとか幾分減らすと云ふことに金利の關係等も見えてあることはないでありますか、其詮議はありましたか

根本政策統一

政府委員(堤康次郎君) 内地の鐵道は補助の率が五分になつて居りまして、利益があれば其上に二分配當し得られる、即ち七分まで配當されることの基準になつて居るやうに承知いたして居ります、今回御協賛を願つて居りますのは八分と云ふことになつて居りますから、内地が減れば矢張り樺太もそれと同じに一つの政府の方針として減らすと云ふことが是は當然考へられることでありますけれども、樺太の鐵道補助法は第五條に於て百二十萬圓と限定されて居りますので、そこで八分の配當までには至らないのでありまして、樺太鐵道は昭和六年の株主配當率は五分になつて居ります、それから昭和七年には矢張り株主配當率は五分になつて居ります、それから南樺太鐵道も配當が平均昭和六年の七分五厘、昭和七年は五分八厘になつて居ります、そこで唯條文をあちこちすることは

紛らはしいものでありますから、此儘十年と云ふのを五年延長すると云ふことに御協賛を仰いで居るのであります、八分と云ふことになつて居りますけれども、實は株主の配當を受ける率は先程申したやうにもつと少ないのであります、併しちよつと此條文を見ますと紛らはしいのであります、其他臺灣とか樺太とか朝鮮なども條文の上に於ては紛らはしいことになつて居りますから明年大體を、條文の文句の上にも亦誤解のないやうに極く簡單に分るやうに總ての方面を考へまして根本の政策を立てて統一したい、斯う考へて居ります

藤田四郎君 只今のやうになりますと、是から南新間それから敷香まで殖えますことになる、さうすれば建設費が増す譯でありますね、さうすると南樺太鐵道ですが、それを矢張り均霑して損を受ける譯になるのですか、建設をさせない小さい會社の方は片方の大きなのが殖えるのと云つて、さうすると其爲にこちらの南樺太の方の補助を減らされるやうに思ひますが、それぢや殘酷ぢやないのですか、私の考へ違ひですか

政府委員(堤康次郎君) 至極御尤もな御質問であります、今の南新間・敷香の間は政府としまして之を敷設させたいと考へて居ります、併し此建設費は三百四五十萬掛ります、現在の鐵道だけでも第五條に依つて百二十萬圓と押へられて居りますから、投じた資本に對して八分の配當までに至らないと云ふ譯なのであります、そこへ又三百五十萬圓と云ふものが喰込んで参りますと、其三百五十萬圓にも均霑

させて補助を與へますと外の分へ減り込んで来る、只今の御質問の通りであります、そこで減る外のものも困るが、そんな少ない補助より貰へない所へ、建設すると云ふことも却々採算上出来にくいことだと思つて居ります、そこで一般産業の開發交通の便利と云ふ點から新線を敷設させようと思へば、新に敷設をした資本に對しては相當利廻りになるやうにしてやらなければは無理だと思ひます、さうなると第五條を改正して補助の増額を御協賛願はなければならぬ譯でありますけれども、今の時節柄補助金の増額と云ふことは一般社會風潮から鑑みしても是は餘程困難であります、併し樺太産業開發の爲には敷設させたい、茲に非常な矛盾があり苦心があるのであります、財政上の都合の許す時には、寧ろ樺太の大幹線となるべき鐵道を徐々を買収する、買収しますとそこに補助の金額の増額を願はなくても、補助を受けるものが少なくなないのでありますからそれで相當融通が付く、斯う云ふ事になるのであります、適當の機會に此大幹線となるべきものは財政狀態の許す範圍に於て買収して行きたい、さうして餘裕を作るやうに實際問題として行きたい、斯う考慮いたして居るのであります

藤田四郎君 まあさう云ふ御方針で爲されば仕方がありますまいけれども、是はまあ素人から見ましても幹線のやうに見えますが、買収するに於て利益の擧げぬものを買収すると云ふことも餘程考へなければならぬ、今産業開發と云ふ御精神で補助して居られる、それを前

提にして御獎勵になつて居るものだらうと思ひますが、兎に角三百五十萬圓ばかり新線を建設すれば掛る、其掛つた所の金を片方の會社へ持つて行つて利益配當……補助を減らすと云ふことはどうも殘酷のやうに見えますが、又此法律ある爲にどう云ふ御指令になつて居るか知れませぬが、南樺太鐵道ですか、此鐵道の方で御蔭を蒙つてさうして斯う云ふ災難を受けると云ふことはどうも無理ではありませぬか、それから此今度五箇年延期になりますのですから、さう云ふ關係もあるのでございますから、或は此十年終つたらば、幾分内地の方は既に減らされて居るのですが、其通りに、或はそれよりもひどい様に此會社はなつて居るかも知れませぬが新たな線に向つて廢止なり補助をやると云ふのなら宜しいですけれども、古い方まで同じやうに延ばして増して行くと云ふのは、少し良過ぎるやうに筋合はなる、計算は違ふかも知れませぬが、それは如何でありますか

政府委員(堤康次郎君) 鐵道の補助と云ふものが大體に於て産業の開發とか、交通の利便とかの爲ではあるけれども、併し鐵道を企業したものゝ氣持はそんな公共的の所ばかり考へて企業したものではあるまいと思ひます、公共的のことは無論考への中に含んで居りませうけれども、其期間経てば必ず相當の利益があるものだと豫定して居つたと思ふのであります、所が其通り利益が無いからと云ふので無限に之を政府が面倒を見んならぬと云ふことは是は餘程考へなければならぬ問題であります、今の御質

間の趣旨は新線を敷設する爲には、例へば八分の補助をしてやる、併し前の分にはそれに均霑させると云ふのはどうか、其事柄は我々もそこに疑問を持つて居ります、併し此樺太鐵道の如く現に此昭和六年には直接の營業收入が七十四萬四千圓に對して、營業の支出が九十八萬二千圓、是だけで一年二十二萬四千圓『マイナス』になつて居る、昭和七年に於ては營業收入は九十三萬三千圓に對して營業支出が九十八萬二千圓矢張り四萬八千圓『マイナス』になつて居る、さうすると是は利益とか配當どころではない、列車を動かす爲に五萬圓なり二十萬圓なりと云ふものを年々持ち出さなければならぬと云ふならば而して何等補助がないと云ふことになるならば、是は運轉を中止すると云ふことを考へ得らるることになるのです、さう云ふことになることは矢張り一般の政治と云ふ點から見ても餘程考へなければならぬことであります、其御質問の趣旨の精神は能く了解いたしました、政府と致しまして、此點は非常に苦心を致して居ります、明年迄には植民地の方は統一を付けて十分理論的に、又實際的に善處いたしたい、それから又内地の鐵道の補助の工合も考へまして適當に考慮を致したいと思つて居ります、内地も補助率を段々少くすると云ふ方針のやうであります、植民地は幾分内地よりは利息が高いのでありますから、其點は多少の斟酌を加へなければならぬと思ひますが、内地と大した矛盾のないやうに總て善處したいと考へて居ります

藤田四郎君 今一點……只今御説明のありました如く、どん／＼事業が發達すれば損をすると思ふのは、詰り一會社の即ち木を伐り出すと云ふ方の側が主になつて居つて、鐵道は從になつて居ると思はれる、想像いたしますに……それで自然に鐵道が忙しければ忙しい程損をすると思ふのは、即ち不當の特賣の方法か何かが出來て居るからさう云ふことが起るんだらうと思つて居ります、それ等のことは先刻御質問がありました、どうぞ此後一つ十分の御研究を願つて此取調を願ひたいと思ひます

政府委員(堤康次郎君) 其點至極御尤もであります、鐵道の方は損をして、事業の方で儲けて居れば結局非常に狭いやり方になるのでありますから、木材にのみ特別の割引をして居るかどうかと云ふことも能く調査を致しました、樺太廳の鐵道で運搬をして割引するのと此會社は主として王子會社が大株主でありますので、王子會社が其木材を現在自分の樺太鐵道若くは南樺太鐵道で運搬をして取つて居る運賃と斯う比較して見ますと云ふと寧ろ廳鐵……政府の鐵道で運搬した方が運賃は餘計高い、政府の鐵道で運搬をしたものと假定してそれよりも餘計の割引を致して居りませぬ、其點は十分調査して第一に研究をした事實であります、其點は御安心を願ひたいと思ひます

委員長(公爵一條實孝君) 外に御質疑はございませぬか、それでは之を以て樺太地方鐵道補助法中改正法律案に付ての質疑は終了したものと看做します

原案通り可決

(三月廿二日貴族院委員會)

委員長(公爵一條實孝君) 樺太地方鐵道補助法中改正法律案に付て討議を願ひます、別段に御發言ございませぬか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

委員長(公爵一條實孝君) 然らば樺太地方鐵道補助法改正法律案は原案の通り可決することに御異存ございませぬか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

委員長(公爵一條實孝君) 御異議ないと認めます、之を以て本委員會を終了いたしました、散會いたします

午後二時三十三分散會

委員長報告第一讀會の續

(三月廿二日貴族院本會議)

樺太地方鐵道補助法中改正法律案
右可決すべきものなりと議決せり依て及報告候也

昭和八年三月二十二日

委員長 公爵一條實孝

貴族院議長公爵徳川家達殿

(公爵一條實孝君演壇に登る)

公爵一條實孝君 只今日程に上りました樺太地方鐵道補助法中改正法律案に付て御説明を申し上げます、是は樺太の地方鐵道の補助法中に十年の期限を附けて補助期間としてありますのを、之を五箇年延ばして十五箇年にする、

斯様な案であります、之に對する質疑應答は極めて簡單であります、或一委員よりは、隨分此樺太の地方鐵道の經營が放漫と云ふやうな點がありはしないかと云ふやうなことを御質疑になりましたに對して、政府當局は十分に監督を是からもするのだと云ふやうな御話がありましたのであります、以上で各案に付きましての極めて概要の御話は申し上げたのであります

副議長(公爵近衛文麿君) 樺太地方鐵道補助法中改正法律案の第二讀會を開くことに御異存ございませぬか

〔異議なし〕と呼ぶ者あり

副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ないと認めます

子爵西大路吉光君 直ちに案の第二讀會を開かれむことを希望いたします

子爵清岡長言君 賛成

副議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵の動議に御異存ございませぬか

〔異議なし〕と呼ぶ者あり

副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ないと認めます

副議長(公爵近衛文麿君) 原案に御異存ございませぬか

〔異議なし〕と呼ぶ者あり

副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ないと認めます

子爵西大路吉光君 直に第三讀會を開か

れむことを希望いたします

子爵清岡長言君 賛成

副議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵の動議に御異存ございませぬか

〔異議なし〕と呼ぶ者あり

副議長(公爵近衛文麿君) 御異ないと認めます

(3) 昭和五年
度樺太廳

特別會計決算審議

樺太廳長官今村武志君説明

(二月八日貴族院決算委員第五分科會)

主査(男爵大藏公望君) 樺太廳特別會計に付きまして御説明を願ひます

政府委員(今村武志君) 昭和五年度の樺太廳特別會計歳入出決算に付て御説明申します

昭和五年度の收入濟額は二千六百五十四萬四千五百三十二圓十七錢三厘であります、さうして支出濟額は二千四百六十二萬九千二百九十二圓六十一錢三厘でありまして、歳入歳出を差引きいたしますと百九十一萬五千二百卅九圓五十六錢の剰餘を生ずる計算となるのであります、此金額は昭和六年度の樺太廳特別會計の歳入に繰入れまして本決算を結了いたしました次第であります、今歳入の部の收入濟額と豫算額とを比較いたしますと收入濟額は經常部二千二百二萬八千九百十八圓六十九錢五厘、臨時部五百五十一萬五

千六百十三圓四十七錢八厘でありまして、合計が二千六百五十四萬四千五百卅二圓十七錢三厘であります、豫算額は經常部二千四百七十五萬八千百廿六圓、臨時部一千二萬九百五十五圓計三千四百七十七萬九千八十一圓でございまして、之を差引いたしますと八百二十三萬四千五百四十八圓八十二錢七厘を減少いたして居る次第であります、更に之を實行豫算額に比較いたしますれば、實行豫算額は經常部二千六百二十九萬三千五百六十九圓、臨時部四百三十八萬一千九百八十四圓、計三千六百七十七萬五千五百五十五圓でありまして、差引四百十三萬一千二十四圓八十二錢七厘を減少いたして居ります、今此増減の主なるものを申し上げますれば、經常部に於きまして、第一款租税に於きまして第四項

副議長(公爵近衛文麿君) 第二讀會の決議通りで御異存ございませぬか

〔異議なし〕と呼ぶ者あり

副議長(公爵近衛文麿君) 御異議ないと認めます

酒造税、第五項出港税、第八項漁業税が豫定額に比して十四萬二千六百十九圓二十七錢を減少いたして居りますが、第一項地稅、第二項所得稅、第三項營業收益稅、第七項鑛業稅等に於きまして豫定額に比して二十萬九千七百三十一圓七十七錢を増加いたして居ります爲に、差引六萬七千二百四十五圓五十錢を増加した次第であります、第二款官業及官有財産收入に於きましては第三項醫院收入は豫定額に比して一萬六千七百二十一圓五十錢を増加いたして居りますが、第一項郵便電信電話收入、第二項鐵道收入、第五項中央試驗所收入、第六項森林收入、第七項官有物貸下料等に於きましては豫定額に比して五百四十七萬七千六百三十五圓九十錢を減少いたした次第であります、是が爲に差引五百四十六萬九百十四圓四十錢を減少いたしました、第三款の印紙收入に於きましては豫定額に比しますと、一萬一千七百五十一圓一錢五厘を増加いたして居ります、第五款の雜收入に於きましては豫定額に比しますと十一萬七千四百圓五十八錢を増加いたして居ります、次に臨時部に付て申し上げますと第一款官有物拂下代、第三款雜收入に於きまして豫定額に比しますと八萬七千六百十二圓八十九錢を減少いたして居りますが、第六款前年度剩餘金繰入に於きまして百二十二萬六千九百九十二圓三十六錢八厘を増加いたして居りますので、差引臨時部に於きまして百十三萬三千六百二十九圓四十七錢八厘を増加いたした次第であります、次に歳出に付き申し上げます、豫算額は經常部二千五百萬五

千百八十三圓、臨時部千三百七十九萬五千五百十九圓、計三千四百八十五萬七百二圓であります、豫算總額は經常部二千七百七萬二千八百二圓、臨時部千四百九十四萬六千九百七十圓十八錢、計三千六百一萬九千七百七十二圓十八錢でございますので、豫算現額が豫算額に比較致しまして百十六萬九千七百八十圓十八錢を増加致して居ります、此増加額は前年度から事業と共に繰越致しました金額でございます、歳出の支出済額は經常部千五百六十二萬六千七百七十五圓九十五錢三厘、臨時部九百九十二萬五千五百十六圓六十六錢、計二千四百六十二萬九千二百九十二圓六十一錢三厘でございます、豫算現額三千六百一十一萬九千七百七十二圓十八錢に比較致しますと、千二百二十九萬四百七十九圓五十六錢七厘を減少いたして居ります、此減少額の中で七十九萬二千五百六十七圓六錢は天候不良の爲に工事が豫定の如く進捗いたしませんでした爲め會計法第二十七條及二十八條に據つて事業と共に翌年度に繰越し致しました金額でございます、で其殘額の一千五百九十九萬七千九百五十二圓五十錢七厘は豫算不成立の爲に前年度豫算を施行いたしました結果、實行豫算に於て五百三十四萬四千四圓を減少しましたのと外は諸般の經費を節約いたし且つ實際に於て見込迄の金額を要しなかつた爲に全く不用となりました金額でございます、尙ほ本年度の決算に付きまして會計検査院の検査報告に依りますと租稅の徵收不足に屬するもの一件、木材の拂下に當り措置其の宜しきを得ざるもの一件、土地拂下に當り價格の決定其宜

しきを得ざるもの一件、以上三件、及び官有物に付て樺太廳官有財産管理規則に違背したるものが一件ありますが、之に關しましては別に辯明書に依りまして所見を申上げまして御參考に供して居る次第であります、以上で以て大體の御説明と致します

樺太の特殊事情

(二月九日貴族院決算委員小委員會)

委員長(男爵東久世秀雄君) それでは次の項に移ります、検査報告の三十三頁拓務省の所管、臺灣總督府の歳入經常部第二款、官業及官有財産收入、第十一項官有物貸下料、一、臺中州の徵收に係るもの、政府委員の御説明を求めますと……今政府委員を迎へに行つて居りますから、今の件は次に延まして、一つ飛ばしまして、検査報告の三十七頁の下の段にございます樺太廳の歳入經常部第二款官業及官有財産收入第六項森林收入樺太廳泊居支廳の徵收に係る、此件の説明を求めます

罹災民救助の爲め拂下

政府委員(今村武志君) 本件は昭和五年の七月に北名好郡惠須取と云ふ所で國有森林原野産物の處分令に依りまして、約五萬九千立方メートルの木材を拂下げたのであります、之に對して検査院は三點の批難を致されて居るのであります、一つは此拂下の容積が約三千町歩に互つて

居りますので、斯く大面積を一括して拂下けると云ふのが宜しくないと云ふのが一點でございます、第二點は契約締結前に一部の伐採をいたしたと云ふことが宜しくないと云ふことでございます、第三點は五萬九千立方メートルになつて居ります、實際の伐採數量は遙に多いと云ふことに付きまして、御批難を受けたのであります、元來此木材を拂下げることに致しましたのは、昭和四年の五月に此地方に非常な山火があつたのであります、是が延焼を致しまして、遂に惠須取の殆ど全町を焼拂ふたのであります、それが爲に負傷者も約二百名近くも出たやうな大なる被害があつたのであります、丁度此被害後が直ぐ冬に掛りますので、是等の罹災者に對して生業を興へる爲に此拂下を致したのであります、従ひまして拂下を受けました者は、此復興組合長の佐藤某と申す者であります、之に對して一括拂下をすると云ふことが、要するに是等の罹災民の救助になると云ふ見地から一括拂下を致したのであります、又契約締結前に一部の伐採搬出を許しましたのも矢張り同様の趣旨に出て居るのであります、代金が約五萬何千圓でありましたので、全部の納入と云ふことが困難でありました、關係上一部を委託いたしました、さうして契約締結前に搬出したやうな次第であるのであります、又伐採數量が拂下數量に比して多いと云ふ御批難を受けたのであります、結果から見ましても洵に遺憾には存じて居りますけれども、併ながら只今申上げました通り三十町歩の大面積に互つての焼損木及び

立木でありましたので、是等を毎回調査を致しますことは困難でありますのみならず、此立木と申しましても黒焦げになつて居ると云ふやうなものが非常に多いのであります、矢張り一通り調査を致したのであります、其結果が斯く實際の伐採數量と拂下數量との不一致を來したやうな次第でありまして、其當時の事情と致しましては誠に已むを得なかつたのであります、左様御承知を願ひます

橋本辰二郎君 材積の見積りの相違に付きましては既に遺憾の意を表しされて居りまして別に之に付て彼れ申上げる必要はないのであります、又只今の御報告に依りまして事の急を要する必要上より致しまして、臨機の處置と致しまして御執りになつたことも、是も敢て咎むべきことではないと思ふのです、總て行政上の處置と云ふものは事情に應じて必ず法規に拘泥せずして、適當なる處置を執ると云ふことは是は行政機關の最も望ましいことでありまして之を咎めると云ふことも私は賛成が出来ないと思ひます、此點に付きましては既に悪い所は遺憾の意を表されて居ります、又臨機の處置に付きましては、別には其當時に於ける最も妥當なる處置と私は信じますのであります

田所美治君 是は分割契約が出来ると云ふ法規が許さぬと云ふことがありますが、何か其特別な方法で、斯う云ふ場合に批難を受けない方法がないものでありませうか、分割と云ふ契約自身が出来なくても、或は賣買契約なり豫約をして置いて、其伐採した木を大體計算して

本契約の締結前に處分するとか何とか云ふ、批難を受けないやり方が將來にありませうか、こんな場合には他に名案はない譯ですか

政府委員(今村武志君) 實は樺太の山林拂下等に付きましては色々兎角の噂もあつたのであります、此拂下と申しましても、年期拂下もありますし、一時の拂下もあるものであります、昨年來、年期の拂下は全然將來致さぬことに今度改正も致したのであります、從來一時の拂下と云ふことになりまして、其拂下が一件でありますので、若し之を分割して拂下を致しませぬと二件の拂下になる譯であります、従て一口一件として拂下を致したのでありますから、其代金を完納して然る後に初めて引渡と云ふことが起る譯なのであります、茲に法規上云々と申しましたのは二件として拂下を致したのであります、さうして代金完納と云ふこともない前に渡すと云ふことになつて居る、年期の方になると是は其年々の豫定數量を引渡しするのであります、其年々の引渡しは丁度今の一時拂下の一と云ふことになるのであります、其分の分割であるのであります

田所美治君 さうであらうと思ひます、それは分つて居りますが、詰り契約締結前に木を伐つて處分して居る、それは不都合ぢやないかそれは不都合だと思はれるのであります、其間に何か年期拂がいかぬと云ふことならば、別に方法がなければ仕方がございませぬが、併しさう云ふことを情實で許して置く、と云ふことは幸に不正事件がなかつたから宜かつたですけれ

ども、伐つてしまつて契約締結前に不當のことを問ふ是は譲り得ることであらうと思ふのでありますが、幸に是がなかつたから宜かつたのでありますが、其邊に付て斯う云ふ場合に外に方法はございませぬのでせうか、所有權をやらなくとも事業だけはやらすと云ふやうな方法が：

政府委員(今村武志君) 尙ほ其細かしい點は能くまだ研究して居りませぬが、大體燒損木のやうなものに付きましては、是ばかりではありませぬので、随分樺太と致しましては材積を一括して拂下ぐるものがあるものであります、解釋に付きましては、是は不當と認めることもありますけれども、御話の通り、拂下を致しますると、代金完納前に伐つて逃げると云ふやうな事實も随分あつたのであります、從て斯う云ふものは代金完納後に必ず個人の場合さうさせると云ふ取扱に致して居つたのでありますそれが偶々斯う云ふやうな處置を致したのであります、甚だ遺憾であります、尙ほ細かい點に付てはまだ調査不十分でございますから、十分調査を致したいと思ひます

田所美治君 能く御研究を願ひます

代金納入前の伐採許可は

氣候の關係

橋本辰二郎君 是等の問題に付きまして私の解釋する所に依れば、樺太の氣候の關係上伐採時期の必要よりして本契約を締結するの違がなくして代金だけを納入せしめて伐採を許したと云ふことに解して私は先程の意見を述べたの

であります、左様でありますか

政府委員(今村武志君) 樺太の氣候の關係から申しまして、大概山に入りますのは十月から入ります、出しますのは雪を利用いたして出すのであります、從て此便宜處置を執りましたのは御話のやうに氣候の關係から出て居るのであります、又冬は仕事もありませぬので、當分の生業を興へやうと云ふ趣旨から出たのであります、預託いたした金額は約三萬七千圓程の金を便宜預託いたして居たのであります、全部の完納も出来ましたのが昭和五年の九月二日に全額納入いたしましたのであります

内田重成君 伺ひますが代金の總額は幾らになつて居りますか

政府委員(今村武志君) 五萬三千三百六十圓七十二錢となつて居ります

委員長(男爵東久世秀雄君) 御質問がございませぬければ次の樺太廳の關係でもう二件ございしますが、検査報告の三十八頁の上の所に、歳入臨時部、第一款官有物拂下代、第一項官有拂下代、三、樺太廳の徴収に關する件

政府委員(今村武志君) 本件は製麻工場用地と致しまして豊原町の附近に六萬五千七十坪の拂下を致したのであります、此拂下代金が非常に低廉であると云ふので批難を受けたのであります、元來樺太に於きまする亞麻の事業は相當樺太廳の調査に於きましては有望に考へて居るのであります、從て此事業に對しまして相當助成を致して居るのであります、昭和五年

五月に從來製麻工場としてありました土地を公園敷地に致しました爲に其換地とした爲に其換地として豊原附近の、只今御批難を受けます土地を貸付いたしたのであります、製麻會社に於きましては從來の敷地に對して約一萬以上の投資を致して居つたのであります、であります、公園になると云ふ理由の下に之を無償で返還を致したのであります、さう云ふ關係もありましたのと、此豊原の只今御批難を受けて居ります土地は相當な面積でありますけれども此大半は濕地であるのであります、相當費用を掛けませぬと、是が立派な工場敷地には相成らぬやうな状態であつたのであります、斯う云ふやうな色々の事情を斟酌いたしまして、之を貸付けます時の坪當りの貸付金を五厘と云ふことに査定を致したのであります、其後此製麻會社の方で此土地を買収すると云ふことに相成つたのであります、樺太に於ける從來の拂下價格は貸付料の十倍と云ふことに大體基準を置いてやつて居るのであります、從ひまして此場合に於きまして五厘の貸付料の十倍と云ふので五錢と云ふことに致したのであります、會社の方では之を會社計算の上に於きまして坪當り六十五錢と云ふやうな風に高く評價して居るやうでありますけれども、拂下は只今申上げたやうな事情で決定いたしました譯なんであります、左様御承知を願ひます

検査院の非難は當然

田所美治君 私は此事はちつとも分りませ

ぬけれども、終ひに書いてあります製麻會社は直ぐに此土地を抵當に入れて五萬圓の抵當權を設定したと斯う云ふことがあるのですが、是は餘り籠棒に思はれるのです、五錢の計算になさつたものが直ぐに五萬圓で何して居る、詰り三千圓と云ふやつが五萬圓の抵當に入れると云ふ議なんです、斯う云ふと検査院の批難又當然であるやうに思ふのですが、其邊の御説明を：

政府委員(今村武志君)

御答いたします

實は斯う云ふやうな、單り此土地ばかりぢやありません、民間の方にも斯う云ふ事實が非常に多いのであります、それと申しますのは、樺太の現状が人に依つて見方が非常に違ふやうな感が致すのであります、個人貸借關係等に於きましても、随分高く評價する者もありますれば、又非常に安く評價すると云ふやうな状況もあります、又樺太の現状から見ましても、非常に景氣の好いやうな時もありますれば、又直ぐどん底の不況に陥ると云ふやうな状況もあります、何となく其點は總てが落著かぬやうな感じが致す時もあります、でありますから、先づ斯う云ふ事實が樺太には往々有り勝であると云ふことだけは御承知を願ひたい

田所美治君

普通借地料の二倍と云ふ、

政府の計算になつて居るやうに承知いたしますが、樺太は十倍と云ふことに、新開地でそんなことを繼續して御出でになりますか

政府委員(今村武志君)

左様であります

十倍、すつと十倍と云ふ計算を致して居ります

田所美治君

もう今日はそれは改正して普

通の内地のやり方と同様になさることは出来ませぬか、二十倍、せめて是は少し高く十錢高くせぬか、實は大體告示を以て決めて居ります、さう云ふ點なんかはどうしても改正しなければならぬとは考へて居りますけれども、今日樺太に人を招來する、移民を招來すると云ふ見地から見ましても、常に土地に對する利廻りも先づさう云ふ工合なことになつて居ります、旁々急に上げると云ふやうな意思はありませぬ

橋本辰二郎君

只今田所委員の御尋ねに、

なつたやうに、三千二百圓で買つたものを直に其翌日之を五萬圓の抵當權を設定すると云ふことは、如何にも其差額の大きいなるに驚くのであります、是は抵當權の設定する以上は、之に對して矢張り金を貸したと云ふことに見なければなりません、價值のないものに斯の如き抵當權を設定すると云ふことも、どうもちよつと常識に於ては受取りかねるやうであります、或は土地に加工したものは其土地に定着するものである、法律上の關係よりして、此土地に地上げるとか、若くは種々の設備を加へるとか云ふやうなこともあつたのですか、それ等のことを御調べになつて居られるならば承はりたい

政府委員(今村武志君)

御尤もであります

す、先刻も申上げました通り、實は三千何百圓と云ふ價格は低廉であります、其低廉であります理由に付きましては、從來の工場敷地にだけ一萬圓以上掛けてある、それを無償で取上げましたのと、又今度の土地其ものが非常に濕地

でありますので、相當地形を致しませぬと、工場敷地には適しませぬ、さう云ふ關係で大體此單價と云ふものを算出したされたものでありますから、いつもの賣買價格よりは低廉であると云ふことは事實であります、又土地を拂下げますに付きましては、此土地に對する工場倉庫其他の建築等に付ても條件が附いて居ります丁度それ等の條件も昭和五年の一月に検査を致したのであります、こちらの指定通りの工場設備を致したのであります、工場機關室、倉庫其他約七千五百九十坪の工作物も出来上つて居るやうな次第であります

内田重成君

是は豊原町が公園用地として

製麻株式會社の經營して居つた地域三萬二千五百坪を收用した際に換地として二年九月に本件未開地を貸付したと云ふことになつて居りますが、其換地として未開地貸付の砌に此會社の蒙りし損害を補償してやると云ふやうな御趣意が其當時から既にあつた譯ではありませぬか

政府委員(今村武志君) 先刻も申上げました通りに、此價格を査定いたしました時には御話の通り從來の工場敷地に投資いたしました點、竝に此製麻事業の獎勵、又今日の新工場用地に於ける土地の状況等を斟酌いたしましたして、普通の價格より低廉に査定したと云ふことと信ずるのであります

委員長(男爵東久世秀雄君)

他に御質問

ございませぬければ樺太廳の官有物に付てはもう一件ございますが、是は検査報告の四十頁の下段にございます、四、樺太廳に於て大泊町に

對し云々と云ふ、之に付て政府の御説明を願ひます

無償貸付地は『ツンドラ』

政府委員(今村武志君) 本件は大泊町に對しまして同町所在官有地三千六百七十八坪五合を大正十一年十月に無償で貸付いたしたのであります、其土地を昭和六年の一月に無償で譲與いたしたのでありますが、本件に對しまして會計検査院は、此土地の譲與に當りまして大泊町で成就したと申します建物の中に、公共の用に供するものは極く僅かでありまして、其他は素地の儘一般に轉貸いたして貸付料を徴收して居りますのを見ますと、是は營利を目的とするものと見なければなりません、從て本件譲與は樺太官有財産管理規則に違反して居るものであると云ふ御非難であるのであります、此場所は大泊町の低地の方でありまして、所謂『ツンドラ』地帯であります、從て相當の工費を投じませぬと利用の出來得ないやうな場所であつたのであります、所が此貸付當時に於きましては、大泊町が急激の發展を致しまして非常に住宅が拂底を致したのであります、で將來は公共的の建物を建設すると致しまして、差當り社會政策の見地から致しまして、住宅難を緩和いたす爲に町營又は町監督の下に店舗住宅の建築を條件と致したにあるのであります、其結果公衆市場、簡易食堂、簡易宿泊所、浴場と云ふやうな公益上必要なる店舗及住宅を建築いたしましたので、本件土地の譲與を致したのであります

す、而して大泊町と致しましては、是が管理上相當の使用料を徴收して居るのであります、此點から見ますと、此土地の譲與と云ふことに關しましては會計検査院の御非難を仰ぎました點に見ますと、多少遺憾の點がない譯ではないのであります、であります、此土地を斯く利用し得る程度に達成せしむる爲には大泊町と致しまして、約五萬圓餘の金を投じて居るのであります、又大泊町其ものの情況から見ましても、非常な不況のどん底に陥つて居るやうな状態でありますので、彼此考へ合せまして本件は已むを得ないものと思つて居る次第であります、併ながら先刻も申上げました通り此譲與と云ふことに付きましては多少遺憾の點がない譯でありませぬので、是等の點に付きましては將來一層注意を致す覺悟で居ります、左様御了承願ひます

委員長(男爵東久世秀雄君) 別に御發議がございませぬければ、今日は是で散會いたしたいと思ひます

午後零時三分散會

名好誤伐事件

(三月十日貴族院決算委員小委員會)
委員長(男爵東久世秀雄君) 樺太廳所管の分、検査報告の三十五頁の下段、森林收入此點に付て政府の説明を求めます

政府委員(今村武志君) 本件は大正十三年六月樺太の名好郡名好村と云ふ地方にありま

す國有林を百萬石で豊原町の遠藤某と云ふのに年期賣拂を致したのであります、此遠藤某は大正十五年に其木材を北越製紙株式會社に供給することに契約いたしたのであります、北越製紙株式會社は更に此伐採は北日本林業株式會社と契約いたしまして、北日本林業株式會社で伐採搬出を致すことに致したのであります、此際に遠藤某は此兩會社の契約に對して保證人になつたのであります、所が北日本林業株式會社に於きまして昭和二年の十一月から昭和三年の三月頃に至るまでの間に於きまして、樺太廳の引渡の前に十萬三千三百六十三石程を誤伐いたしましたのであります、其代金を實際伐採に従事いたしました金川某に對して賠償を命じたのであります、之に對して検査院は樺太廳令の樺太國有森林原野產物賣拂規則の第十九條には、伐採又は搬出に従事する者の行爲は買受人に於て之が責に任ずると云ふ規定があるからして、是は當然遠藤某に賠償を命ずべきで、金川某に命ずべきものでない、從て樺太廳が金川某に賠償命令を發したのは不當であると云ふ御非難を受けたのであります、本件に付きましては、樺太廳と致しまして、各種の方面から慎重に調査を致したのであります、其結果此金川某が伐採いたしましたのは、樺太廳の了解は勿論ありませぬのと、遠藤某其者とも何等意見の聯絡もなく而も引渡前に伐採致したのでありますから、此樺太廳令の第十九條に該當するものではない、要するに金川某其者の行爲であると云ふことに認定いたしましたのであります、又北日本林業株式

會社は財界不況に依りまして、昭和四年頃から殆ど廢業の状態になつたのでありますので、金川某に對して賠償命令を發したのでございます併ながら一面遠藤某も實質上關係がない譯ではありませぬから、命令は金川某に出して置きますけれども、樺太廳と致しましては遠藤某に對しても隨時至急善後策を講ずるやうに折衝いたして居るやうな次第でございます、左様御了承を願ひます

犯罪行爲と認めるか

中川小十郎君 御尋ね致しますが、樺太廳では金川某がやつたことは唯單純な泥棒が泥棒をやつたと云ふやうな犯罪行爲と認めるのでありますか

政府委員(今村武志君) 御答へ致します此金川某が伐採いたしましたのも色々調査を致して見ますと、普通の盜伐と云ふのではありませぬので、事實其引渡しを受けた積りで伐採したらしいのであります、從て其代金もまだ納入して居らぬのであります、御承知の通り伐採に著手いたしますのは、代金納入後に於て切めて伐採に著手いたしますのでありますけれども、此場合は全然金川某が誤解して伐採したやうであります

内田重成君 私もう一つ伺ひたいのですが金川某が誤伐したと云ふのは、金川某が買受けなかつた場所を伐採したのでありますか、又は唯其場所の引渡しを受けない時代に定まつたと云ふ譯でございますか、どちらでございます

政府委員(今村武志君)

御答へ致します此名好と申します場所は役所から約三十五里ほど離れて居ります國境地方であります、そこで從來樺太廳で拂下げを致します時には、大體見當を付けてまして林班と云ふものを作つて居りますが、其地方で何處其處の林班内で百萬石、それを十箇年間に伐採すると云ふやうな意味合で年期契約を致すのであります、併ながら其伐採に著手いたしますのは、其引渡しをすべき場所を年々決定いたしました、尙ほ其處にある材積も調べまして、又願人から出して居ります契約書等も見まして、伐採の數量、場所を決するのであります、それを更に買受人に通知いたしまして、代金を納入致させます、納入して初めて伐採に著手する譯であります、所が此場合はまだ引渡しの通知も致して居らぬのであります、年期契約の場所でありまして、まださう云ふ風に一切の手續をして居らなかつたのであります

中川小十郎君

此初の所に遠藤某が權利金二十萬圓を取得して賣つた、轉賣したとありますが、是は初め遠藤某が樺太廳から拂下げる爲には、どう云ふ事由の下にどう云ふ所に使ふとか何か事由が附いて居るでせう、それと何ぼで拂下げ二十萬圓の權利金を取つて轉賣して居るのだと云ふ、此點に關して……

政府委員(今村武志君)

樺太廳と遠藤某との賣買契約書を見ますと、是は主として製材用に供すると云ふ意味で拂下げを受けたのであります、それを北越製紙會社の方に、二十萬

圓と書いてありますが實は十萬圓であります、其地を年々引渡しを受けまして、それを製紙會社に製紙原料として供給すると云ふ内約を致したのであります、從て此契約は更に樺太廳の認可を受けませぬと效力を發生せぬのでありますそれを昭和六年に認可を受けて居ります

橋本辰二郎君

此金川某なるものが伐採した所の區域其材積なるものは、是は遠藤某へ拂下ぐべき地區内の立木であつたのでありまするか若くは其以外のものであつたのでありますか

政府委員(今村武志君) 御答へ致します是は矢張り遠藤某に約束して居りました百萬石の區域内でございます

誤伐代金を何故徴收せぬ

橋本辰二郎君 然らば何故に其誤伐せる材積の代金も遠藤何某と本契約を締結する時に他の代金と同時に徴收しなかつたのでありますか

政府委員(今村武志君)

此代金は毎年伐採します前に年々其價格を決めて拂下げることになつて居ります、從て其場合は勿論納入を致して居りませぬし、こちらの方も引渡しを致して居りませぬ

橋本辰二郎君

私の申上げるのは此誤伐の區域及其立木なるものは遠藤某の契約の中に包含するものとしたならば、當然遠藤何某に此代金も他の立木と一度に支拂はしめて然るべきものでないか知らんと思ふのです

政府委員(今村武志君)

詰り樺太廳で年期契約は致しますけれども、此代金は年々調定

を致しまして納入することになるのであります
又金川某が伐採いたしまして、其木が北越製紙
會社に行きまして其代金は北日本樺太林業株式
會社の方で自己の營業費に使用したと云ふ事實
になつて居ります

橋本辰二郎君 どうもびつたり來ないやう
ですが、是なら之をですね、之を全部遠藤某へ
賣ると、此一部分を金川某が誤伐したと云ふこ
とであれば、此全體のものを矢張り遠藤某に代
金の支拂を命じて宜さうなものだと思ふので
すが、金川某が誤伐したものはかり除外して之
を金川何某に要求すると云ふよりも、一括して
之を遠藤某に負擔せしめて、其支拂を要求する
方が確實ではないか知らんと思ふのであります

全部一度に徴収はせぬ

政府委員(今村武志君) 百萬石の年期契
約を致します、是は遠藤に致して居ります、で
ありますが、之を十箇年間に分割しまして其一
部づゝやらせるのであります、從て此全體の金
を一時に遠藤から徴収するものではありません、
毎年々々伐採する石數及價格と云ふものを決め
て参ります、だものですから、全部一度に徴収
すると云ふことはないのであります

橋本辰二郎君 それはどちらにした所で差
支へないと思ふのです、例へば一つの地域
を數十區に分けて一區分づつ毎年代金を納入せ
しむるにもせよ、誤伐したものを此年に於ける
所の引渡すべき區域内に之を加へて、さうして
代金を徴収したならば大變樂ではないかしらん

と思ひます

政府委員(今村武志君) 實は此百萬石と
云ふことに致しまして、果して百萬石あるか
ないかと云ふことも、實はつきり致さないの
で、其材積に對しては政府に於て責任を持たな
いと云ふことに契約はなつて居ります、旁々毎
年其年度々々の部分を決定して拂下げて居るの
であります、又此誤伐いたしましたのも或は
其時に直ぐ發見いたせば又相當の方法もあつた
かと考へられますけれども、此事件の經過から
能く調べて見ますのに、此誤伐を致しました後
十分調査が済みましたのが昭和四年になつて居
りまして、相當年數も經つて居ります、從て其
當時の伐採したものを新に拂下ぐるものに附加
へて一緒に納入を命ずると云ふことは出來なかつ
たらうかと考へます

橋本辰二郎君 御説明に依つて略ぼ分つた
やうであります、何しろ非常に廣大なる地域
に跨つての山林であります、多少誤伐をして
も其發見がなか／＼容易でなくて、數箇年の後
に調査をして、初めて、此誤伐事件が發見せら
れたと云ふ譯であります

發見の遅延は交通機關なき爲め

政府委員(今村武志君) 數箇年後に發見
して居る譯でもありません、決定を致しまし
たのが、昭和四年に材積其他が全部決定いたし
たのであります、發見後相當、伐採後相當日
が經つたと考へて居ります、と申しますのは、
其當時はまだ林務署の設置がありませんで、普

通官廳の一部に林務係と云ふものがありました
極く少數の者でありまして、而も其僅ばかりの
官吏で何十萬町歩に亘つての事務を執つて居る
のであります、現に此場所の如きも西海岸の國
境に近い所でありまして、三十里も三十五六里
約四十里あまり、何等の交通機關も無い密林地
帯でありまして、從て其發見も遅れましたと云
ふことは、其當時の實情としては誠に已むを得
ないと考へます

橋本辰二郎君 さう致しますと、是までと
も斯の如き事例があつたにも拘らず、其事柄を
發見せられまして、不當利得を得た者も相當あ
つたと見て差支ないのですか

政府委員(今村武志君) さう云ふ噂に聞
いて居ります、併し事實は果してどうか存じま
せぬ、從て昨年度は六十三議會で多額の經費を
戴いて、今日に於ては一本々々毎木調査をして
さう云ふ事實の無いやうに致して居るやうな次
第であります

男爵杉溪由言君 一體此伐採許可に付き
まして斯う云ふ廣い面積の所の一々立木を御改
めになるのですか

政府委員(今村武志君) 從來やりました
方法は、大體理窟としては毎木調査をする、と云
ふことになつて居りますけれども、是が非常に
經費と人とを要するので、省略した場合があつ
たやうでございます、從て多少只今橋本さんの
御話のやうな事實も耳にする譯であります、昨
年からは木も非常に減りましたし、旁々是の取

締を非常に嚴重に致しまして、昨年の冬に拂下げましたのが千二百萬本一本々々皆調査いたしました、烙印を捺し、それを帳簿にも付け、伐探の際に立會をし又、其跡地の検査も立會に依つてやることに致して居りますので今後は斯う云ふことも少からうと考へます

中川小十郎君 ちよつともう一遍伺ひますが、金川某ですね、此金川と云ふ奴は拂下林木の伐採及造林事業の請負うた北日本林業株式の社員であつた、さうすれば本人は總ての行動に付て、其會社の重役から命を受けてやつたに相違ないので、さうするところによつと思ふと、北日本林業株式會社に不都合があるので、其辨償は其會社に御命じになるべき筈であるのを、特に其社員である金川に御命じになつたのはどう云ふ御見解なんですか

政府委員(今村武志君) 御答へ致します御尤な次第であります、實は此北日本林業株式會社と申しますのは、殆ど昭和四年頃には破産の状態にありまして、住所すらも判明いたして居らぬやうな状態でありましたので、金川某にも責任がある、又御話の通り會社にも責任があるのでありますけれども、會社はさう云ふやうな状態になつて居りますので、從て金川某に賠償命令を發しましたので、又金川某からも之を賠償すると云ふ請書も出て居ります、從て金川某に賠償を命じました譯であります

誤伐認定の根據は奈邊か

内田重成君 私も一言伺ひます、此遠藤某

と云ふのは是はどう云ふ人であるか、それからもう一つ遠藤からは……遠藤が權利金を二十萬圓か十萬圓かを受取つて、さうしてその全部を北越製紙株式會社に譲つて、さうして北越製紙株式會社は更に日本林業株式會社に請負はした、斯う云ふことになつて居りますと云ふと假りに樺太廳のやうな見解を以てするも、是は北越製紙株式會社が此件に付ては直接の責任者にあるやうにも考へらるゝ、それからもう一つ此遠藤なる者は、自分で本件木材代金の納入の義務を承認したと云ふに拘らず、此遠藤に對しては廳として何等是等の手續を御執りにならぬと云ふやうになつて居るのはどうであらうかと云ふこと、それからもう一つ北日本林業株式會社の社員金川某が之を誤伐したと云ふことは、其誤伐なるものは先程の御説明に依ると、既に遠藤なる者が引渡を受けたものと考へ損ひをして、さうして之を伐採したのであると云ふやうな御説明であつたのでありますが、其認定を爲さるに付ては、どう云ふ御取調の結果さう云ふことに相成つたか、其誤伐したと云ふ認定を爲されるに至つた根據はどう云ふ點であつたのかと云ふことを伺ひたい、それからもう一つ遠藤某なる者が十萬圓か二十萬圓かの權利金と稱するものは、此百萬石の年期賣拂契約を爲したる其百萬石のものに付ての權利を、其大なる權利金を以て他に移した、斯う考へて宜しいか、それを一つ伺ひたい

政府委員(今村武志君) 遠藤某と申しますのは、樺太に隨分古く居住して居ります者で

現に土木の請負業をやつて居ります、それから第二の御質問の北越製紙會社が直接の責任者のやうであると云ふ御質問のやうでございました北越製紙會社に對しては、遠藤が其林木の供給契約を致したのであります、直接樺太廳の關係はないのでございます、是も先刻申し上げました通り、北越製紙會社と遠藤との唯内部で約定したのであります、樺太廳の承認を受けなければ其効果は發生せぬと云ふことになつて居ります、第三の質問のどう云ふ材料に依つて金川某の誤伐を認定したかと云ふ御質問のやうであります、本件に付きましては、伐採地に對してそれ〴〵人を派遣いたしました詳細調査を致しまするし、又遠藤某及金川某に付きましても實地に付て取糺しまして、其上で何等聯絡はなかつたと云ふので認定を致しましたのです、又遠藤の方からして樺太廳に對して、本件木材代金納入の義務を承認したに拘らず、之を採用しなかつたのはどう云ふ譯かと云ふ御質問のやうでありましたが、本件に付きましては樺太廳令の樺太國有森林原野產物賣拂規則第十九條の解釋に依ることだらうと考へます、此規定の解釋は樺太廳と致しましては、引渡後に於ける行爲と解釋いたしましたのであります、從て引渡の前でありましたものですから、遠藤等には直接責任はないと云ふことに決定いたしましたのであります、併し只今御話の通り遠藤某の方でも非常に恐縮いたして居りますので、遠藤某に對しても樺太廳に於きましては至急納入するやうに督促を致して居るのであります

男爵杉溪由言君 斯う云ふ官廳から遠隔の地に在る森林の、平常の管理はどうなつて居りますか、

政府委員(今村武志君) 御答へ致します今日に於きましては林務署を適當な場所に置きまして、更に森林監視を置きまして、尙ほ警察官の方にも委託を致しまして、今日では殆ど手が廻つて居る筈でございます

委員長(男爵東久世秀雄君) 他に御質疑がございませぬければ、政府の説明を求めます件は、是で全部終りましてでございます

政府に注意を促す

(三月十一日貴族院決算)

委員小委員會

委員長(男爵東久世秀雄君) 樺太廳の徴収に係る件、之を問題に供します

橋本辰二郎君 本件は惠須取町に火災がありました際に、其罹災民救済の爲めの立木の拂下と云ふことでありますが、其際に於て法規の命する契約を締結すると云ふことに致しますれば時機を失する處れがあります、且つ代金の納入に付ても一時全額を納入することが出来ないと云ふやうな實際の事情に鑑みまして、臨機の處置と致しまして約拂下總額の半額に相當する金額を納入いたしまして、契約は後日に譲りまして半額の納入と同時に一部の伐採を許したと云ふことでありますが、此點に付きましては行政官の臨機の處置として當然たることを認めま

す、併ながら其材積の算定に於きまして非常なる差額を生じたと云ふ事實が茲に現はれて参りました、此點に於きまして拂下當時に於ける材積見積りに付きまして相當祖漏の點があつたと認めまするので、是亦政府に對し將來の注意を促すと云ふことに致したいと思ひます

委員長(男爵東久世秀雄君) 橋本君の御説に御異議ございませぬか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

委員長(男爵東久世秀雄君) 御異議ないと認めます……次は検査報告の三十八頁上段、是も同じく樺太廳の徴収に係る件、之を問題に供します

橋本辰二郎君 本件は拂下價格が不當だと云ふことでありますが、政府に於ては相當の御辯明もあつたやうではあります、兎に角拂下を受けた翌日に於て其拂下價格の十倍にも相當する評價を以て抵當權を設定したと云ふ實際の状況がありますので、是等に徴しまして此拂下價格は決して當を得たるものではないと認めなければならませぬので、是亦政府に對し將來の注意を促すと云ふことに決定したいと思ひます

委員長(男爵東久世秀雄君) 橋本君の御發議の通りで御異存ございませぬか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

委員長(男爵東久世秀雄君) 左様決します

委員長(男爵東久世秀雄君) 次は四十頁の下段、官有物の四、樺太廳に於て大泊町に

對し同町所在云々此件に付て御意見を伺ひます

橋本辰二郎君 本件は大泊町に土地を無償で譲渡したことが不當だと云ふことであります、之に對する辯明を承つて見、又大泊町の當時の市の状況及近年の大泊町の一般の經濟上の状況等を承りますと、政府の辯明も無理からぬ點もあると思はれますが、何れに致しましても、本件は妥當なる處置と認むることは出来ない點もあるかのやうにありまするので是亦政府に對し將來の注意を促すと云ふことに決定したいと思ひます

委員長(男爵東久世秀雄君) 只今橋本君の御發議の通りで御異議ございませぬか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

委員長(男爵東久世秀雄君) 御異議ないと認めます

委員長(男爵東久世秀雄君) 樺太廳の關係の分でございまして、検査報告の三十五頁、官業及官有財産收入、本項決算額の外樺太廳に於て徴収に至らざるもの、此の件の御意見を承りたいと思ひます

橋本辰二郎君 本件は賣渡契約を爲したるものの中其代金の納入前即ち引渡しを爲さざる前に於て伐採請負人が誤伐をしたと云ふ其材積に對する代金の徴収未納と云ふ點にあります、本件の如きものは誤伐と云ふよりも寧ろ盜伐と云ふことが相當かのやうに思はれます、斯の如きものに對しましては將來十分なる取締をするの必要を認むるのでございます、のみなら

す、當初の拂下名義人たる遠藤某なるものが代金納入の義務を承認せるにも拘りませず、其當初の拂下名義人を差置きまして、誤伐を爲したりと稱する無資産の者に對して支拂命令を發行し其取立が未済に終つて居ると云ふことであります。此點は幾多の疑問が伏在いたして居るかのやうに思ひます、併ながら單に書面の上にて於て又は一席の辯解に於て之を判斷することは甚だ困難でありますので、斯の如きものに對しましては、再び會計檢本院の批難を受けざるやうに、特に政府に御注意を促すと云ふ意味の下に於きまして、本件も將來の注意を促すと云ふ意味の下に於きまして、本件も將來の注意を促すと云ふことに決定致したいと思ひます

委員長(男爵東久世喬雄君) 只今の橋本君の御意見、政府に對し將來の注意を促す、左様に決定いたしました。御異存ございませぬか

(異議なしと呼ぶ者あり)

委員長(男爵東久世秀雄君) それでは全部で検査報告に對しての……批難に對する御意見は承りました、其昭和六年度の國有財産増減計算書の他の部分に付ては、別に御意見ございませぬか……其他は異議なしと云ふことに致します、本日は是で散會いたします

午後三時四十三分散會

免税が至當

|| 樺太惠須取工場所得免税問題 ||

(二月十日貴族院決算委員第五分科會)

主査(男爵大藏公望君) 樺太廳は、歳入に於て是亦三件審議すべき事項があります。其中、第二項及第三項は既に小委員に於て審査済みでありまして、此第五分科に於きましては第一項のみに付て審査することに致します

政府委員(今村武志君) 本件は樺太工業株式會社の昭和三年十月から昭和四年三月に至る事業年度の所得税を決定するに當りまして、同社の惠須取工場の所得を免除したのであります。其理由としましては、此惠須取工場が出来ましたのは大正十四年十一月でありましたので、樺太の所得税令第二十二條に依りまして開業の年及其翌年より三年間は之を免除すると云ふ規定に依りまして免除いたしましたのであります。之に對しまして検査院は、此所得税令に謂ふ「開業」と云ふのは、惠須取工場の如きは單に樺太工業株式會社の事業擴張であつて此規定には當嵌まらぬのである、從て之を免税したの是不當であると、御批難であるのであります。是が昭和二年年度の検査報告及昭和四年年度の検査報告にも同様の御批難があつたのであります。結局此問題は此税令第廿二條の解釋に歸する問題と考へるのであります。で元來此樺太所得税令を設定いたしましたのは、要するに樺太に於ける重要製造事業の助成と云ふ見地から生れて居るのであります。從て新に工場を設定いたしますれば、之を以て開業と看做すの

が至當と解釋致したのであります。で此惠須取工場の實際を見ますと、樺太工業株式會社の本社とは全然收支を別に致して居りまして、全く別個の計算を致して居るのであります。斯様な次第でありますので、樺太廳と致しましては、今日に於きまして此種のもものは免税するのが至當と考へて居るやうな次第でございます

主査(男爵大藏公望君) 本件に付て御質問ございませうか……御質問ございませぬければ是で第五分科の審査すべき事項に關する政府の御説明を終つたものと見て宜しうございませうか……それでは質問及政府の説明は總て是で完了すること致します、速記を止めて……

午前十一時二十一分休憩

午前十一時三十七分開會

主査(男爵大藏公望君) 昭和五年度の歳入歳出決算の審査も、大體に政府の説明も終り此分科會の審査も済みましたので、今日で審査を終了いたしました。其報告は先づ主査會議に於て致します。更に決算委員會に於て審議をすることに致します。どうも有難うございました、是にて散會いたします

尤もの點多々あり

政府の注意を促す

(二月十七日貴族院決算委員第五分科會)

主査(男爵大藏公望君) 樺太廳關係であります、是亦歳入に於て三件の問題があります

此中是亦三件は小委員會の方に御願ひすることにして、一件だけを當分科會に於て決議いたしたいと存じます、其件は第一の樺太工業株式會社の所得額を決定するに當りまして、專須取工場に於ける『バルブ』の製造場の所得が免稅したと云ふのが不都合だと云ふことの會計検査院の意見であります、樺太廳に於きましては是は免稅するのが當り前だと云ふことは是亦謂はば法令の解釋の相違であります、段々政府委員の御説明を承はりまして御尤もの點も多々ありますので、是も前の朝鮮の一件並に臺灣の一件同様にどうか十分に御研究願ひたいと云ふ意味に於きまして、政府の注意を促すと云ふ事に致したいと存じます、如何でございますか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

主査(男爵大藏公望君) 然らば左様に決定致します、是で當分科會の決議を終りたいと存じます、……何か御申出もございませうか……なければ是で散會いたしたいと存じます

午後零時二分散會

昭和五年度樺太廳 特別會計決算説明

樺太廳長官今村武志君

(二月廿三日衆議院決算委員第三
分科第四分科聯合會議に於て)

今村政府委員 昭和五年度の樺太廳特別會

計決算に付て御説明申上げます、昭和五年度の收入濟額は、二千六百五十四萬四千五百三十二圓十七錢三厘でありまして、支出濟額は、二千四百六十二萬九千二百九十二圓六十一錢三厘であり、此歳入歳出の差引を致しますと、百九十一萬五千二百三十九圓五十六錢の剩餘を生ずる計算になります、此金額は昭和六年度の樺太廳特別會計歳入に繰入れまして、此決算を決しました次第であります

今歳入の部の收入濟額と豫算額とを比較致しますと、收入濟額は經常部二千二百二萬八千九百十八圓六十九錢五厘、臨時部五百五十一萬五千六百三十三圓四十七錢八厘、計二千六百五十四萬四千五百三十二圓十七錢三厘でありまして、豫算現額は經常部二千四百七十五萬八千二百二十六圓、臨時部一千二萬九百五十五圓、計三千四百七十七萬九千八百一十一圓でございますので、差引致しますと、八百二十三萬四千五百四十八圓八十二錢七厘を減少致して居ります、更に之を實行豫算額に比較致しますと、實行豫算額は經常部二千六百二十九萬三千五百六十九圓、臨時部四百三十八萬一千九百八十四圓、計三千六百七十七萬五千五百五十三圓でございます、差引四百三十三萬二千二百八十二錢七厘を減少致して居ります

今此増減の主なるものに付て御説明申上げます、經常部に於きまして、第一款租稅に於きまして、第四項酒造稅、第五項出港稅、第八項漁業稅等が豫定額に比較致しますと、十四萬二千六百十九圓二十七錢を減少致して居りますが

第一項地稅、第二項所得稅、第三項營業收益稅第七項礦業稅等に於きまして、豫算額に比し二十萬九千七百三十一圓七十七錢を増加致して居ります結果、差引六萬七千七百十二圓五十錢を増加致して居ります、第二款官業及宜有財產收入に於きまして、第三項醫院收入は豫定額に比較致しますと、一萬六千七百二十一圓五十錢を増加致して居りますが、第一項郵便電信及電話收入、第二項鐵道收入、第五項中央試驗所收入、第六項森林收入、第七項官有物貸下料等に於きまして、豫定額に比して五百四十七萬七千六百三十五圓九十錢を減少致して居ります爲に差引五百四十六萬九千四百四十錢を減少致したことに相成るのであります、第三款の印紙收入に於きましては、豫定額に較べますと一萬千七百五十一圓一錢五厘を増加致して居ります、第五款の雜收入に於きまして、豫定額に比較致しますと十一萬七千四百圓五十八錢を増加致して居ります

次に臨時部に付て申上げます、第一款官有物拂下代、第三款雜收入等に於きまして、豫定額に比較致しますと八萬七千六百二十二圓八十九錢を減少致して居りますが、第六款前年度剩餘金繰入に於きましては、百二十二萬六千九百九十二圓三十六錢八厘を増加致して居るので、差引臨時部に於きまして、百十三萬三千六百二十九圓四十七錢八厘を増加致した次第であります

次に歳出に付て申上げます、豫算額は經常部二千五百五十五萬五千八百十三圓、臨時部十三百七十九萬五千五百十九圓、合計三千四百八十五萬七

百二圓でありまして、豫算現額は經常部二千二百七萬二千八百二圓、臨時部千四百九十四萬六千九百七十圓十八錢、合計三千六百一萬九千七百七十二圓十八錢でございます、豫算現額が豫算額に比較致しまして、百十六萬九千七百八十圓十八錢を増加致して居ります、此増加額は前年度から事業と共に繰越致しました金額でございます、歳出の支出済額は經常部千五百六十二萬六千七百七十五圓九十五錢三厘、臨時部九百萬二千五百十六圓六十錢、合計二千四百六十二萬九千二百九十二圓六十一錢三厘でございます、豫算現額三千六百一萬九千七百七十二圓十八錢に比較致しますと、千百三十九萬四千七百七十九圓五十六錢七厘を減少致して居ります、此減少額の内七十九萬二千五百六十七圓六錢は、天候不良の爲に工事豫定の如くに進捗致しませぬ結果會計法第二十七條及第二十八條に據りまして、事業と共に翌年度に繰越致しました金額でございます、其残額の千五十九萬七千九百十二圓五十錢七厘は、豫算不成立のために前年度豫算を施行致しました結果、實行豫算に於て五百三十餘萬圓を減少致しましたのと、他は諸般の經費の節約且つ實際に於きまして見込額の金額を要しなかつた爲に生じました全くの不用額であります、尚ほ本年度の決算に付きましては、會計検査院の検査報告に依りますと、租税の徴收不足に屬するもの一件、材木の拂下に當り措置宜しきを得ざるもの一件、土地拂下に當り價格の決定其宜しきを得ざるもの一件、以上三件、及官有物に於て樺太官有財産管理規則に違背したる

もの一件の批難がありますが、之に對しましては、別に辯明書に依りまして所見を申上げて御参考に供して居る次第でございます、何卒御承認を御願致します

山崎主査代理 松田政府委員

松田政府委員 昭和五年度の南洋廳の特別會計歳入歳出決定計算書に付て御説明申上げます、昭和五年度の南洋廳特別會計歳入歳出決定計算書として提出致しました所の、歳入の收入済額合計は七百三十六萬七千四百十二圓九十四錢でありまして、歳出の支出済額合計は四百六十五萬八千八百四十五圓四十三錢九厘でございますから、歳入收入済額の歳出支出済額に超過致しますること、二百七十七萬八千五百六十七圓五十一錢一厘でございます、此金額は翌年度に繰越し本年度の決算を結了致したのでございます

歳入に付きまして申上げます、昭和五年度南洋廳特別會計歳入の收入済額は、經常部三百四十萬二千三百二十一圓二十錢二厘、臨時部三百九十六萬五千九百一十一圓七十三錢八厘、合計七百三十六萬七千四百十二圓九十四錢でありまして之を豫算額經常部二百九十三萬一千五百九十七圓、臨時部二百三十六萬四千九百一圓、合計五百二十九萬六千四百九十八圓に比較致しますと二百七萬九千四百九十四錢を増加致しました、之を實行豫算に比較致しますと、二百五十一萬七千六百五十五圓九十四錢の増加でございます、是は本年度に於きましては、豫算不成立の爲め前年度豫算を施行したるも、別に編成實施致し

ましたる實行豫算の金額は、右施行豫算額に比し經常部に於て三十六萬八千五百二十七圓を増加致しました、臨時部に於ては八十一萬四千六百七十八圓を減少致すましの、差引四十四萬六千五百五十一圓を減少致しましたことに依るのでございます

今其内容を大體申上げます、歳入經常部本年度收入済額は三百四十萬二千三百二十一圓二十錢二厘でありまして、之を本年度實行豫算額三百三十萬百二十四圓に比較致しますと、十萬二千九百九十七圓二十錢を増加致します、其増加を生じました主なる事由は、租税に於きまして九萬九千三百二十三圓八十一錢、印紙收入に於て一萬一千七圓九十三錢、合計十一萬三百四十一圓七十四錢を増加致しましたが、官業及官有財産收入にて六千四百八十圓四十二錢八厘、雜收入一千六百六十四圓十一錢、合計八千四百四圓五十三錢八厘を減少致しましたに依りますので差引が十萬二千九百九十七圓二十錢二厘を増加いたしました、歳入臨時部本年度收入済額は三百九十六萬五千九百一十一圓七十三錢八厘でありまして、之を本年度實行豫算額百五十五萬二百二十三圓に比較致しますと、二百四十一萬四千八百六十八圓七十三錢八厘を増加致します、此増加を生じました事由は、官有物拂下代にて六千七十八圓五十九錢、前年度剩餘金繰入にて二百四十萬八千七百九十圓十四錢八厘、合計二百四十一萬四千八百六十八圓七十三錢八厘を増加致しましたのに依るのでございます

次に歳出に付て申上げます、昭和五年度南洋

應特別會計歲出の豫算額は、經常部二百八十萬五千七百圓、臨時部二百四十七萬九千七百九十圓、合計五百二十八萬五千四百九十圓でありまして、豫算現額は經常部二百八十萬九百二十九圓、臨時部二百六十二萬五千九百三十圓十八錢、合計五百四十二萬六千八百八十九圓十五錢でございますから、豫算現額の豫算額に比しての増額は十四萬一千三百六十九圓十八錢であります、是が前年度豫算より繰越したる金額でございます、而して同年度歳出の支出済額は、經常部二百三十六萬四千三百八十一圓四十六錢九厘、臨時部二百二十九萬四千四百六十三圓九十七錢、合計四百六十五萬八千八百四十五圓四十三錢九厘でありまして、之を豫算現額經常部二百八十萬九百二十九圓、臨時部二百六十二萬五千九百三十三圓十八錢に比較致しますと、七十六萬八千十三圓七十四錢一厘を減少致します、此減少額の内二萬九千六百五十四圓四十二錢は、天候風波等の障害に依りまして、サイパン港修築工事が豫定の通り進捗を致しませぬ爲に、會計法の第二十七條に據り、翌年度へ繰越しました金額でございます、七十三萬八千三百五十九圓三十二錢一厘は、全く不用となりました金額でございます、今其不用額を生じました事由を申し上げますれば、諸般の經費を節約致しましたのと、豫定の見込までを要しませぬものがありましたこと、尙ほ又前年度豫算施行の結果等に依りまして、經常部に於きまして、四十三萬六千五百四十七圓五十三錢一厘、臨時部に於きまして

三十萬一千八百一十一圓七十九錢、歳出總計七十三萬八千三百五十九圓三十二錢一厘の不用額を生じました次第であります、尙ほ第一豫備金より補充し、第二豫備金を以て支辨致しました事由を申し上げます、歳出經常部第一款、第六項、裁判及登記諸費に於きまして、訴訟事件の増加に伴ひ、證人、通事、鑑定人等に要する經費の支出が多くございました爲に九十六圓、第一款、第七項、刑務費に於きまして、刑務所收容者の増加に伴ひまして、之に要する食糧被服等經費の支出を要するものが多くございました爲に三千八十七圓、合計三千八百八十三圓を第一豫備金より補充増加を致しました、尙ほ歳出臨時部第五款、第一項、教育費補足に於きまして、學齡兒童の増加に伴ひまして、小學校の學級増加並公學校の増設の爲め、之が經費を要しましたので、勅裁を経まして第二豫備金より四千七百七十一圓を支出増加致しました次第でございます、尙ほ本年度に於きましては、會計檢査院より何等の批難も受けて居りませぬ、之を一寸附加へて置きます、以上を以て説明を終ります

昭和六年度樺太廳 特別會計決算説明

樺太廳長官今村武志君

(三月二日貴族院決算
委員第五分科會)

主査(男爵大藏公望君) 樺太廳特別會計

の御説明を願ひます

政府委員(今村武志君) 昭和六年度樺太

廳特別會計決算に付て御説明を申し上げます、昭和六年度の收入済額は二千三百三十六萬八千九百四十一圓四十三錢五厘でありまして、支出済額は二千百十七萬九千七百四十九圓八錢七厘であります、歳入歳出の差引きを至しますと二百十八萬九千九百九十二圓三十四錢八厘の剰餘を生じた計算となるのでございまして、此金額は昭和七年度樺太廳特別會計歳入に繰入れまして本年度の決算を終了いたしました次第でございます、今歳入の部に於きまする收入済額と豫算とを比較いたしますと、收入済額は經常部に於きまして千八百二十三萬七千七百五十三圓五錢八厘、臨時部に於きまして五百十三萬八千八百二十八圓八十九錢七厘、計二千三百三十六萬八千九百四十一圓四十三錢五厘でありまして、豫算額は經常部二千二百六十三萬三百三十七圓、臨時部三百四十九萬三千七百九十九圓、計二千六百三十二萬三千九百卅六圓でございますので、差引き致しますと、二百七十五萬四千九百九十四圓五十六錢五厘を減少いたしました居ります、今之が増減の主なるものを申し上げますと、經常部第一款租税に於きまして、第五項出港税、第九項營業稅が豫定額に比しまして、四百六十八圓十七錢を増加いたしました居りますが、第一項地稅、第二項所得稅、第三項營業收益稅、第四項酒造稅、第六項消費稅、第七項礦業稅、第八項漁業稅は何れも減少いたしました、豫定額に比して六十二萬五千二百九十四圓二十八錢を減少いたしました居り

ますので、從て租税の部に於きまして差引き六十二萬四千八百二十六圓十一錢を減少いたしました次第でございます。又第二款官業及官有財産收入に於きまして、豫定額に比し三百六十三萬五千三百九十五圓二十六錢を減少いたし、第三款の印紙收入に於て、豫定額に比し四萬一千三百六十六圓十錢五厘を減少いたしました次第であります。第五款の雜收入に於きましては、第四項石炭採掘料、第六項恩給法納金は豫定額に比し二萬六千六百八十六圓八十六錢を増加いたしました。居りまするが、第一項懲罰及沒收金、第二項辨償及違約金、第三項授業料、第五項水面使用料、第八項雜入等に於きまして豫定額に比し十一萬二千四百三十三圓八十四錢七厘を減少いたしました。爲に差引九萬一千四百三十六圓九十八錢七厘を減少いたしました次第であります。次に臨時部に付て申上げます、第一款官有物拂下代、第二款雜收入、第四款公債金等に於きまして、豫定額に較べますると十九萬七千九百二十八圓六十六錢三厘を減少いたして居りまするが、第五款前年度剩餘金繰入に於きまして、百八十三萬五千九百五十八圓五十六錢を増加いたして居りまするで、差引臨時部に於きましては百六十三萬八千二百九圓八十九錢七厘を増加いたしました次第であります。次に歳出に付て申上げます、豫算額は經常部千八百五十八萬八千五百三十二圓、臨時部七百五十三萬五千四百四圓、計二千六百十二萬三千九百三十六圓でございます。豫算現額は經常部千八百五十九萬二千九百二十四圓、臨時部八百三十二萬三千五百七十九圓六錢、計二

千六百九十一萬六千五百三圓六錢でございますので、豫算現額が豫算額に比較いたしましたので増加いたしましたことが、七十九萬二千五百六十七圓六錢でございます。此増加額は前年度から事業と共に繰越いたしました金額でございます。歳出の支出済額は經常部千四百五十八萬六千四百八十八圓八十九錢七厘、臨時部六百五十九萬九千四百圓十九錢、計二千一百十七萬九千七百四十九圓八錢七厘でございます。豫算現額二千六百九十一萬六千五百三圓六錢に比較いたしますと、五百七十三萬六千七百五十三圓九十七錢三厘を減少いたして居ります。此減少額の中三十一萬六千八百五十三圓七十錢は、天候不良の爲に工事豫定の如く進捗いたしませんでしたので、會計法第二十七條及第二十八條に依り事業と共に翌年度へ繰越いたしました金額で御さいます。其殘額五百四十一萬九千九百圓二十七錢三厘は、諸般の經費を節約いたしましたのと、且つ見込までを要しなかつたとに依りまして、全く不用となりました金額で御さいます。尙ほ本年度の決算に付きまして會計検査院検査報告に依りますると、誤伐木の代金徴收上其措置宜しきを得ざるもの一件、租税外の徴收に關し、監督官宜しきを得ざるもの一件、既往年度に於て徴收不足に屬するもの二件、以上四件の批難が御さいまするが之に關しましては、別に辯明書に依りまして、所見を申上げて參考に供して居る次第で御さいます。

主査(男爵大藏公望君) 樺太廳の特別會計の昭和六年度決算に付き何か御質問は御さいませぬか

橋本辰二郎君 歳入の第三款官業及官有財産收入豫算は、千八百萬圓の所に缺陷が三百六十三萬五千餘圓でありまして、約二割以上にのぼつて居りまするが、今年に限て斯の如き違ひを生じました原因はどう云ふ譯でありますか

政府委員(今村武志君) 御答へ申上げます。是は内地の鐵道と樺太との鐵道の間にかきまして、現在收入が豫定通り上りませぬでした

議會の控室から

上足取りの名人喜多さん

上げ足取りの名人喜多代議士「臺灣の大北鐵道に補助を出さずに樺太鐵道に補助を出すのはけしからぬ」と大見得を切つて熱辯を揮つた

却々の雄辯でヒヤリとさせた「然るに堤拓務大臣の答辯は……イヤ／＼今は拓務大臣ではないが、未來の拓務大臣……」でスツカリ淡い気分になつて一同大笑ひ

ので、歳入の方に於ても、三百數萬圓の不足を出して居りますが、歳出に於きましては略々同様の金が不用になつたのであります

橋本辰二郎君 さう至しますると、入るものも減少した代りに、支出の方面も減少して、差引決算に於ては大なる違ひはなかつたと云ふことでありますか

政府委員(今村武志君) 左様で御さいます

造材業吉岡傳作

樺太落合町

造材業高崎加津

樺太落合町

造材業沼端庄之丞

樺太落合町

造材業金山久助

樺太落合町

吉岡傳作
高崎加津
沼端庄之丞
金山久助

造材業井上進

樺太泊岸字新門

造材業三浦常松

樺太落合町

造材業吉岡實道

樺太落合町

造材業石井幸太郎

樺太落合町

造材業山崎安太郎

樺太知取町

造材業深瀬秀穂

樺太知取町

富士製紙金沢支店専屬請負員

造材業白井藤喜

樺太知取町

造材業馬場宇之吉

樺太知取町

造材業中里廣

樺太知取町

造材業植田組

植田誠一
樺太知取町

富士製紙會社專屬請負

造材業金子熊治

樺太知取町

造材業泉與作

樺太知取町

富士製紙會社山林部專屬

(4) 樺太の開發に關する

拓務行政の根本方針

喜多孝治君拓相に質問

(一月廿八日衆議院豫算委員會に於て)

先づ官吏身分保障問題を劈頭に掲げ外地と拓務省の關係、樺太町村基本財産となるべき林木拂下げ問題、三大製紙合同問題にも及ぶ

官吏の身分を保障せよ

喜多委員 拓務大臣にお尋ね致します、拓務關係に於きまして植民地の人事の上に於て、私は憂ふべき空氣がありと觀察致して居る、曩に岸本樺太前長官を誡首されました、あの洵に残酷なる取扱をされました關係から出發して居るのか存じませぬが、今や植民地に於ける官吏はいつ何時異動轉免があるかも知れぬと云ふ恐れを爲して、隨て非常に不安に驅られて仕事に手が着かないと云ふやうな現狀なりと私は觀察致して居るのであります、豫て拓務大臣は特別なる理由あるに非ざれば、人事には手を染めないと云ふことを嘗て聲明されたことと存じます今日の植民地に於ける人事に付きまして、苟も斯の如き官吏に不安があつて、仕事の上に非常なる惡影響を來すと云ふ場合に於きまして、更に此際特別なる理由あるに非ざれば、濫りに人事異動は行はないと云ふことの御聲明をして戴

くことが出来れば、國家の爲に非常に利益なりと信ずるのであります、此點の御所見を伺ひたいと思ひます

永井國務大臣 外地の人事に對する方針は以前に臨時議會の當時に聲明致しましたこと、今日と少しも變つては居らないのでございます殊に其後御承知の通り分限令委員會も設立されました、此内閣の方針として一層官吏の身分が保障されたのでありますから、外地の官吏の間に於ける不安は益々少くなつたと思ひます

喜多委員 今の拓務大臣の御話に依りますと前に聲明したから其必要がないと云ふ御言葉でありましたが、其後に於きまして、永井拓務大臣の人事に關することに付きまして不安を感じて居ると云ふ現狀でありまして、前の事情と非常に異つて居る、此點に於て前と同様である前に聲明致した後に於て何等人事のことは考へて居なかつたと云ふ確信を御有になつて、さう

云ふ御言葉を御出しになるのか、私は其後に於ての永井拓務大臣の人事に關する御考と云ふものは色々ある、是が植民地に影響を及ぼして官吏の脅威を來して居ると云ふことを確に信じて居る一人であります、さう云ふことに付ては何等御考慮に相成らなかつたのであるか、もう一應伺つて見たい、私は成べく具體的に言ふことを避けたい、隨てあなたが更に前に聲明された言葉を、其儘茲に再び御聲明に相成ることが必要なりと私は信ずる

永井國務大臣 只今の私の答辯に對して誤解があるやうであります、前に聲明したから聲明の必要がないと言つたのではありませぬ、前に聲明致しましたことと同じ心持で居りますと云ふことを申上げて、前の聲明を確めたのであります、其通りの考であります

喜多委員 其御答辯で私は満足出来ない、前に御聲明に相成つたに拘らず、其後人事に付きましては理由なき更迭を行はんとせられた御行動があなたにあると確信する、隨て前の聲明通りであるならば、今後に於ても理由なき更迭をしないと云ふことになるのでありますから、是に於て前の聲明と異つたる嚴肅なる意味に於て、將來不當なる理由なき更迭をしないと云ふことを御言明になる必要があると私は思ふ

永井國務大臣 私は屢々申しましたやうに此内閣は各政黨政派協力して國難に當るべき内閣であると信じて居るのであります、隨て外地の官吏に致しまして、或は外地の經營に従事して居ります者でも、其政黨政派と云ふが如き

ものゝ關係は、今日は決して考慮すべきでない
と私は考へて居ります、それで前にも申しまし
たやうに、從來行はれませんでした政治上の意味
に於ける更迭は行はない方針であります、唯行
政治上から優等なる技術者を以て、劣等なる技術
者に代へるとか、或は官紀の肅正の爲に人事に
異動があると云ふやうな、行政上の必要から起
ることは有り得るかも知れませんが、併し決し
て政治上の意味に於ける更迭はしてはならない
と私は確信して居ります、さう云ふ方針で居る
のでございます

喜多委員 私は永井國務大臣に官吏の更迭
を爲さる時に、どう云ふ方針を以て爲されるか
と云ふことを質問して居るのではない、前に特
別なる理由がなければ濫に官吏の更迭は行はな
いと云ふことを聲明されたに拘らず、其後官吏
の更迭を何か機會があつたらば致さうと云ふや
うなことを計畫され、隨てそれが人心に脅威を
感ぜしめた、斯う云ふ事實が確にある、私の質
問に對する答辯と異つたる、唯官吏の異動を行
ふにはどう云ふ方針を以てやるかと云ふ答辯を
以て、之を瞞著せんとするのは甚だ不都合であ
る、あなたはさう云ふ事を考へられたことがな
いのか、さう云ふ事實があるのかないのかだけ
を此處で御答辯願ひたい

永井國務大臣 外地の人事に對しましては
私は只今申上た方針で臨んで居るのでありまし
て、且つ外地の官吏の不安を出来るだけ取除き
まして、皆其所を得て安んじて國家の爲に能率
を發揮し得るやうにしたいと斯様に考へて居り

ます、其點に於て私は少しも變つた心持は有つ
て居りません

喜多委員 兎に角官吏に不安を與へた原因
を最近に於て御作りになつたことがあるかない
かを伺ひたい、私は具體的の事は申上げること
を避けたい、あなたが私が申上げないからと云
うて、さう云ふ御答辯をなさることは洵に其誠
意を疑ふ、非常なる今脅威を感じしめて居る、
さう云ふ事實はあつたかないか、其御答辯を願
ひたい、然らざれば私は此事實を申上げること
に致します

永井國務大臣 私は自分で外地の官吏に不
安を與へたと云ふやうなことは記憶して居りま
せん

喜多委員 それでは更に伺ひます、臺灣に
於ける或る勅任官を更迭せしめんと欲して中止
なさつた事實はありになりませぬか

永井國務大臣 私は人事に付きましては色
々なことを御答申上げ兼ねますが、決して不安
を與へるやうな行動を執つたことはございま
せん

喜多委員 私の質問して居ることゝ答辯と
はまるで違つて居る、臺灣の官吏を異動せんと
して、而もそれが不合理であつた爲に中止をな
され、既に一旦其人間に申渡したものを中止な
さつたことがあるかないかと云ふことを伺つて
居ります

永井國務大臣 人事のことに付きましては
御答を致し兼ねます、併し外地の官吏に對して

出来るだけ安定せしめたいと云ふ方針で仕事を
致して居ります

喜多委員 是れ以上は追窮致しませぬ、唯
今大臣が言はれた如く成べく官吏に安心をせし
めて其職務に勉強を致すやうに此人事異動と云
ふことに付ては、將來に於ても嚴肅にやつて載
きたいと云ふことを希望して此問題を止めまし
て次に移ります

外地と拓務省の關係

どうも拓務省と云ふものが置かれた後に於て
の一般的の成績を私共は見て居ります上に於
て、特に拓務省を置かれた爲に斯の如くに各植
民地が發展を致し、茲に計畫を立てられたと云
ふやうなものが更にないやうであります、是は
無理ないことかと私は存じます、今日持つ
て居られる所の拓務省の人員では、到底其處ま
で積極的の仕事の計畫と云ふものは立たないの
ぢやないか、此豫算の編成の上に於きましても
先づ植民地の豫算は拓務大臣が之を査定され、
さうして大藏大臣の方に御交渉に相成るのであ
ります、此時の状況を見ましても、拓務省限
りに於て大藏省との交渉が出来ない、矢張朝鮮、
臺灣、樺太廳の方から人が出て來まして、さう
して交渉を致し、事務的に交渉を致す上に於き
ましても、是でも尙ほ今日持つて居られる人員
では私は出来ないのと思ふ、自然各植民
地よりも出て行つて、さうして豫算の説明に當
ると云ふやうな状態でござりまする爲に、事務
をやる上に於ても植民地よりは尙ほ拓務省の方

が本當の力を有つて居ないと云ふのが今日の實情だと私は思ふ、況や政策を樹てる、政策を指導して行くと云ふやうなことは出来ないのぢやなからうか、隨て今日の現状に於きまして私は拓務大臣に伺つて見たいと思ふのは、事務のことは植民地の方に多く委し、政策の方に没頭すると云ふことに依つて、拓務省を置かれた趣旨が貫徹するのだからうかと私は考へるのであります、滿洲に對する此拓務省の計畫の如きは何等現れて居らない、昨日の御説明に依りますと、説明は如何にも立派に出来て居るが、具體的に何が出来て居るか云ふと何も出来て居ない、唯自衛移民と云ふやうなもの、豫算を御取りになつて居りますが、此自衛移民の計畫も私は實に杜撰なるものと考へて居る、是は分科會に於て御意見を伺つて見たいので、分科會に譲りますが、何一つ計畫されて居ない、樺太に對しても拓務省が出来る前には國庫補給金の如きものも三百六十萬圓の補給金を貰つて、さうしてあの開發に努力して居つたのでありますが拓務省が出来てからは百六十萬圓に減じて居る、朝鮮或は臺灣に於きましては既に相當長い間の施設がありまして、其成績が擧つて居るのであります、樺太の如きは是から開發に掛らなければならぬ、特に力を注がなければならぬと云ふ其樺太でさへも、國庫補給金三百六十萬圓が拓務省が出来てそれが百六十萬圓に減じたと云ふことは洵に奇怪至極、拓務大臣は如何なる働きを爲されて居るか、此點に付きましては拓務省に於きましてどう云ふ御考を有つて御出

でになるのか、何を一體拓務省に於てお遣りになつて居るか、政策と云ふものは何等現れて參つて居らない、唯抱負經綸のものと云ふことの御議論は盛に社會にあなたは宣傳されて居りますけれども、事實に於て何もして居らない、私は拓務省と云ふものは屋上屋を築いたやうなことになるつて居つて、唯彼等を統轄するさうして餘計な干渉をする位の程度の働しかして居らないと思ふ、樺太長官が——最近今村長官に依りまして、樺太開發十五箇年計畫と云ふものを持つて參られて、非常に意氣込んで居られたに拘らず、是も御取上になつて居らない、一體どうして此拓務省が置かれたのか、拓務省の置かれた精神を私は實現して居らないと思ふ、此經費節約を要する今日、拓務省と云ふものは徒に彼處に存在して居つて、寧ろ各植民地が計畫し來るものを、其處に阻止するやうな形に相成つて居るのではなからうか、もう少し事務と云ふものを各植民地に委して、政策本位にやつて、殊に此時節柄滿洲に於ての總ての計畫と云ふものに付て努力なさらなければならぬ今日、滿洲に何一つ實現して居るものはない、此點に付きましての御意見を伺つて見たい

る必要があると思つて居ります、それから又外地以外の方面、即ち南米に對し、南洋に對し、又關東廳の所管に屬せざる滿洲の如き土地に對し、其他世界の各方面に對しまして、外地の官廳では仕事の出来ない場所に、日本國民の生存權を確立して行ます仕事は、矢張拓務省で統轄しなければならぬと云ふ様に考へて居ります、例へば鹽の如きものでも、是は成べく日本帝國の領域内に於て、自給自足をさせたいと云ふ方針で、其鹽の生産に適する地域に對して、共通した施設を設けさせるやうに致して居ります、或は又棉花の如きものは、出来るだけ日本の領域内に於て生産し得るものは生産するやうにしたいと云ふ考から、各外地に對して拓務省から出来るだけの方針を與へて、それに相應した施設をさせるやうに致して居ります、又外國に對しましても、出来るだけ其土地の者と協力して其土地の富源を開發して、さうして其土地の住民だけでなく、それに依つて又日本の國民の生活安定の上にも利益を得るやうにと云ふ方針で色々計畫を樹てゝ居ります、例へば最近滿洲に於きまして硫安生産の計畫を樹てましたと云ふのも其一つであります、又外地を通じて、今日産金獎勵の政策を樹てまして、それを各外地に於てだけでなく、滿洲に於ても出来るだけ實現したいと云ふやうな努力をして居るのも其一つであります、色々外地に於て爲すべきことは外地に委ねて之を爲さしめ、又外地相互間の事、外地以外の地方に於ける日本國民の經濟的活動に對しましては、出来るだけ拓務省から統

轉するやうに致しまして、喜多君の御話の通り専ら其拓殖政策に對する政策の中心機關としての責任を果したいと思つて居ります、それに對して今の人員では十分でないと思ふ御意見もありまして、其現在の拓務省の機關が、其内容に於て尙ほ不十分な所があるのではないかと云ふ御意見に對しては、私も同感と存する點がないでは御さいませぬが、是は又財政上の點も考慮しなければ實現されない點でありまして、喜多君の御話の點は私も同感と存する所がありますけれども、是れは又財政上の點を考慮して、漸を追うて實現の域に進みたいと思はれに考へて居ります

樺太の町村基本財産

喜多委員 時間も段々迫つて來ますから、極く簡単に申し上げますが、兎も角抱負經綸は拓務大臣は大いにあるが、實行は伴つて居らぬと云ふことを私は考へます、隨て爲すべき事も爲して居らぬと云ふ實例の一つを擧げて見たいと思ふ、樺太廳に於て町村基本財産として、森林、林木を基本財産とすると云ふことに付ての方針が一定されて、曩に田中總理大臣の頃、主管大臣としての總理大臣より樺太長官に對して承認が與へられてゐる、樺太の町村制を實行致しました際、町村基本財産をどうしても與へなければならぬ事情で御座いましたが爲に、此森林を樺太町村基本財産として處分すると云ふことに付て、其時の主管大臣たる總理大臣より承認を與へて居るのである、其後縣君に依りまし

て之に疑義ありと云ふので、此承認を與へられて其處分を命ぜられて居るに拘らず、其承認書に對しまして意見を具して、拓務省へ更に伺を出して居る、是が昭和五年二月に拓務省へ申請された、隨て前の所管大臣が處分をしると思つて居る此承認書に意見を附けて、拓務省へ昭和五年二月に出したきり、此處分を致さぬのみならず、此處分を致しますと、民間に林木を拂下げをする餘裕がないと云ふやうな條件もそこに御座いまして、町村に基本財産として處分しないで、其間に民間の方へ町村基本財産に屬すべき地域内に於ての拂下を行つて居られる、之に付ては色々非難も御座いませうが、私は只今それを言ふのではない、昭和五年二月に拓務省へ樺太長官が此承認に付て意見があると云うて意見を具申致して居るものに對して、尙ほそれを握り放しにして、今日まで其儘に相成つて居ると云ふことは、非常なる怠慢であると思ふ、而も是が樺太町村に取りましては、自分の基本財産を貰へるんだ、時の所管大臣既に承認して決つて居る、貰へると云ふ確信を持つて居る、此森林に付ての處分が、今日まで二年以上三年も處分されて居らぬのみならず、其地域に屬するものは、他の民間の方に處分されて行つてしまつて居る現狀である、洵に是は怠慢至極の事で御座いますが、之に對して拓務大臣は如何なる御考を御持ちになるのか伺つて置きたい

永井國務大臣 町村基本財産の問題は、私も樺太に取りましては大切な問題だと思つて居ります、喜多君が最も能く御承知の通りに、樺

太の町村に本基財産として森林を與へると云ふ意見は、可なり早くから主張せられて、只今御話の通り田中總理大臣が拓務大臣を御兼任になつて居つた時分に、一度御許しになつた事もあつたと存じて居ります、其後唯漠然と町村に森林を基本財産として與へるだけでは、町村が其森林を伐採して賣つて財源を作ると云ふやうなことになつて、却て森林の伐採を促して餘計になると云ふやうな危險もあるかも知れないと云ふやうなことで、改めて町村に愛林且つ造林の目的で森林を與へたらどうかと云ふやうな意見が又出まして、さうして改めて拓務大臣の認可を求める様になつたと承知して居ります、然るにそれが又政府部内に於て、法規上色々な疑義があると云ふので實行せられないで、今日に及んで居ると云ふ事實があることは、私も承知して居ります、私が就任致しまして後に其事を承りまして、町村の爲に基本財産を作つて、町村の財政を安固にしようと思ふ當初の御意見は、非常に尊重すべきものだと思ひます、併し同時に其法規上の疑義があれば、其法規上の疑義のないやうな方法に依らなければならぬ又森林を町村に與へる事よりも、別の方法で町村の財政を安固にする方法がないものであるか、さう云ふ點も考慮致しまして、私が就任致しました後、此問題を特に大切な問題と考へまして今研究をさせて、出來るだけ町村の財政の基礎を確立すると云ふことには、努力致したいと思つて居るのであります

喜多委員 成べく簡単にやります、只今の

御説明でありましたけれども、既に所管大臣が町村に基本財産として處分しろと云ふ指令を與へて居るものが、尙ほ其後に色々のそこに主義方針を附加へるべく之を曖昧にして、昭和五年二月に既に樺太長官から拓務大臣に對して意見を述べて居るに拘らず、何等之に回答を與へない、其裏面には之を町村の基本財産にすれば、民間に拂下げる所の木材がない、隨て茲に色々の理由をくつ附けまして、町村基本財産の處分をする實行を遅らし、其間色々の理由に依つて加間に處分されて居ると云ふのが今日の實情である、是が官廳の威信に關し、此樺太の島民と致しまして誠に忍ぶべからざる今日の狀態に陥つて居るのであります、隨て此怠慢の責任は無論御負ひにならなければならぬ筈であり、一日も早く是は拂下げて處分して宜しいのか、いけないのか、若もさう云ふことであれば一旦取消したかどうか、取消して更に御やりになるのなら宜しいが取消すべき理由もないから御取消にならないかと私は思ふ、曖昧の間に三年間も放つて置く、さうして買手がそこに付いたからと云つて民間に處分する、もう今日では初めに豫期した町村森林は、町村基本財産として見込んで居つた森林はなくなつてしまつて居る、隨て事實行へないことになつた、そこで拓務大臣は非常に御困りになつて居るのが實際なりと私は想像致す、是は成べく早く御處分に相成らんことを願ひまして、次の一問だけで私は止めたいと思ひます

製紙會社の合同

次の一問は最近王子、富士、樺工三社合併と云ふことに會社の方は進んで参つたやうであります、是は産業統制の趣旨に於て、中島商工大臣が之を懲慫されたと云ふことが新聞に見えて居る、私の見る所は之に異りまして、斯の如き大きな三會社が合併致すのは、是は産業統制でなく、寧ろ之を『モノポリ』に致す弊害が茲に生ずるのであつて、此精神に基きまして樺太長官と致しましては、相當なる此弊害を除去致す『トラスト』の弊害を除去致すと云ふ政策が茲に必要でないかと考へる、此三社合併して莫大なる一億八千萬石の特別契約、森林の特別契約を樺太廳と致して居る、さうして今日の内地の製紙會社は、此製紙原料たる『パルプ』を樺太の三社に仰ぐか、若くは外國から輸入を致して居る、それ以外には此『パルプ』は得られない、此三社が茲に合併致す、それは寧ろ『トラスト』の弊害を其處に生ずるものとして、私共は非常に憂へて居るのであります、之に付きまして拓務大臣は如何に御考へに相成りまするか、現在の三會社合併致しますと、一億八千萬石の森林が一手に歸する、是は六千萬石宛の契約に相成つて居りまして、此三社合併致しますれば、當然一億八千萬石の森林をお遣りになるのかどうか、私共三社が獨立致しまして、茲に各工場を競うて起し、隨て樺太開發の上に大に利益するものなりと考へまして、此六千萬石宛の森林拂下豫約を致して居つたと私は思ひます

三社合併になりました、工場と云ふものを、或る工場は引揚げる、之を合併する、其處に合理的の管理法が出来ます爲に、會社としては非常に利益を致す、一億八千萬石の大量の豫約あるのみならず、一石に付て民間に拂下げるものは、八十錢のものが六十錢にして、是は會社を保護致して居る、又代金に付きまして、總ての民間のものは前納でありますけれども、會社に對しては後納制度を認めて居る、殊に保證金を取らないで後納を致す、非常に有利なる條件に於て此三會社と云ふものが居つたのであります、此大いなる三會社が合併致しましてさうして一億八千萬石の豫約全部を踏襲致すと云ふことは、内地の製紙業者に非常なる脅威を與へるものと考へます、又合理的の管理の上に於きまして、工場を廢して、さうして三社合併した後に於て、色々其處に便宜を圖ります爲に樺太の開發の上に於て、是は害が有つて利が無いと私は信じて居る、現に王子製紙會社は大泊の工場を閉鎖致した、之を聞いて見ると、いや休んで居るのであると云ふやうな辯明を致して居りますが、是は閉鎖致して居ります、大泊は五千戸の戸數がございます、是が爲に一千戸と云ふものが空家になつて居る、今日火の消えた如き狀態に相成つた、是は三社が各々競争致して各處に工場を造り、之に依つて樺太の開發が出来、樺太の爲に立派なる其處に開發上利益ありとして、樺太廳としては莫大なる森林の豫約を致し、さうして價格に於ても之を低減致し、後納金制度まで設けて之を優遇致して居

るのでありますが、今後に於きまして是が「トラスト」の弊害が生じ、樺太の利益にならないと云ふやうな傾向が大に存じますが、之に付ては相當御警戒に相成つて居ることゝ存じますが、御意見を伺つて置きます

永井國務大臣 喜多君の御心配は一應御尤に存じます、併し政府と致しましては「バルブ」工業の如きものも、出来るだけ合理的の——合理的且つ科學的の經營に進めて行きます、さうしてそれに依つて出来るだけ生産費を節減し出来るだけ優良なる製品を出させて、さうして其利益を一部の資本家に壟斷させるやうなことをしないで、其製造方法の改良に依つて生ずる利益は生産者だけでなく、消費者に十分均霑させるやうにしなければならぬ、さう云ふやうな方法で産業の改良を致しますれば、矢張それは國家の爲に願はしい事だと思ひます、三社個々に生産致しますよりは、統一されて合理的科學的に經營致しますれば、どうしても生産費も廉くなり、又隨て其利益も多くなるのであります、それは決して一部の資本家に壟斷されるやうなことをしないで、其統一的合理的の經營から出て来る利益は、消費者へ——消費大衆に出来るだけ均霑させるやうに監督致したいと思つて居ります、隨て又三社の從來所有して居りました森林を、合同後其儘合同した一會社に引繼がしむるのかどうかと云ふやうなことも、是も喜多君能く御承知の通り、從來合併の行はれました場合には、樺太長官の許可を得なければ、同意がなければ引繼ぐことが出来ない

のでありますが、目下其點に付て長官と合併した會社の代表者との間に協議を進めて居ります、是が樺太に於ける矢張り労働者に労働の機會をあたへることが出来、樺太の産業の發達に貢獻出来ればこそ、樺太廳は莫大なる森林を與へて居るのでありますから、其目的に副ふやうに樺太長官が今會社の代表者と協議を進めて居る次第でございます

喜多委員 是れ以上は分科會で更に又御尋致します、此外に私はまだ總理大臣に御質問申上げたいことなり、或は又場合に依りましては海軍大臣に是は他の擔當者より若しも質問がございますれば御遠慮するのであります、さう云ふ點に付ては留保致して置きますから、御許を願ひます、私の質問は是で打ち切ります

森林は樺太 唯一の財源

(三月二日貴族院豫算

委員第六分科會)

主査(伯爵兒玉秀雄君)

樺太廳の特別會計部門に移ります、私もう一つ質問を許して戴きたい、此樺太の生命である此森林の問題であります、此森林の問題に付ては從來其經營の方針並に此處理方に付て遺憾な點が少くないことは多言を要しないのであります、此處理方法に付ての改善も必要であります、濫伐の結果此大事な財源であり、且又戰時に於て國內

に於ての唯一の「バルブ」の供給地と見らるべき所の樺太の森林は、將來に於ては大いに注意をして之を愛護して行かなければならぬ、保護して行かなければならぬ立場にあるのではないかと思はれるのであります、從て伐採の計畫に付ても新しい計畫を樹てられる必要があると思ひます、且又伐採後に於きます所の植樹の方法に付ても御考慮を願はなければならぬ點が多あるのではないかと思ふのであります、是は一面に於ては此只今のやうな森林それ自身の問題にも關係し、且又樺太の特別會計の財源にも關係して居る重要な問題と私は思つて居るのであります、從ひまして此森林の將來の經營の方法に付て大臣の御抱負を一つ承つて置きたいと思ひます

國務大臣(永井柳太郎君)

樺太の森林が樺太の産業上に於ても重大なる地位を有つて居ります、又それが財政上主要な財源になつて居るのであります、是は最も大切に保護して行かなければならぬのであります、只今兒玉伯から御話になりました通り、從來屢々濫伐、盜伐、誤伐の如きものが行はれて、今日は非常に森林は残り少なくなつて參りました、色々運搬の關係、距離の關係などを考慮いたしますと、將來利用し得べき木材は三億五六千萬石位しか残つては居ないかも知れぬと思ひます、是は如何にも樺太の産業の爲にも、亦樺太の財政の爲にも非常に憂慮すべき事であり、之を保護すると云ふことに付て政府は非常に苦心を致して居るのであります、それで先づ第一

に樺太の森林に對しましては從來のやうに、多量に伐採して内地に移入すると云ふことが、樺太の森林を虐待するだけでなく、又内地の林業を壓迫いたしまして、只さへ生活難に苦んで居りまする農山村にも打撃を與へますので、是は昨年の臨時議會で申上げましたやうに、昨年度は非常に木材の伐採を出来るだけ少く致しまして、内地に對する移入量を約八千萬石に止めることが出来たのであります、更に次年度に於きましては追々少く致しまして六千萬石位に止めたいと思ひます、依て其爲に森林の伐採に對しましては十分に嚴重なる監督を施し、それから伐採されたる跡地の整理に付きまして十分に努力を致し、それから此殖林の事に付きまして樺太の森林に永久の生命あらしむるが爲に殖林の事にも特別な努力を致しまして、森林保護のことに付ては今日全力を盡して居る次第で御座います

併し一方に於て樺太の重要な財源である森林の伐採を出来るだけ制限するやうになりました結果、財政の上には相當の減收を見ることになつて來ましたので、是等の點に對しまして他日森林收入以外に財政上に於て、大なる恒久財源を造らなければならぬから、又別に樺太の産業を奨励すると云ふ計畫を立てまして、今其基礎調査に對し努力も致し、又必要なる計費の計上を御審議を願ふことに致して居るので御座います

又此度事業公債法に改正を施しまして、樺太の森林から得る收入の缺陷を補ふべき公債の増

發に付ても御協賛を願ひたいと思つて居ります、さう云ふ風に政府は出来るだけ森林の保護に對しましては全力を盡して居る次第で御座います、尙ほ現政府になりまして林政改革の概要を樺太長官からも詳細御説明申上げた方が宜ければ御説明する考であります

樺太關係請願

樺太に於ける毛皮産

業獎勵に關する請願

提出者

樺太豊原町東五條南九丁目二十番地

長谷川 楨之介

紹介議員

沖 島 錄 三 君

本請願の要旨は樺太沿岸の毛皮動物の飼料たる各種魚族に富み且氣候風土上毛皮産業の最適地にして養狐其の他各種毛皮産業の普及發達を促すに於ては世界的優良毛皮の生産地として年額數萬圓の毛皮生産を期し得べく國家的見地よりして國際貸借上寄與するところ尠からずと信ず依て同島毛皮産業に對し國家的助成施設を爲し其の普及獎勵を圖られたしと謂ふに在り

樺太北部横斷鐵道

敷設の請願

提出者

樺太名好郡惠須取町大字惠須取字南

濱町一丁目二十五番地

稻垣敏夫外三百十一名

紹介議員

沖 島 錄 吉

本請願の要旨は樺太北部西海岸の樞要港たる名好郡惠須取町と東海岸に於ける重要都邑たる敷香郡敷香町を結ぶ所謂樺太北部横斷鐵道の敷設は樺太北部産業開發上最重要なるものなり依て前記樺太北部横斷鐵道を敷設せられたしと謂ふに在り

樺太惠須取港修築

に關する請願

提出者

樺太名好郡惠須取町字南濱一丁目二十五番地

十五番地

稻垣敏夫外三百十一名

紹介議員

沖 島 錄 三 君

本請願の要旨は樺太名好郡惠須取町は開町以來急激なる發展を遂げ今や樺太西海岸に於ける商工業の中心となひ船舶の出入貨物の輻湊亦繁劇を加ふるに至れり而して將來開墾伐林採炭等の事業興り又樺太東西兩海岸の連絡路完成せば北方開拓の中樞日露貿易の要衝となるべきは疑を容れず依て速に前記惠須取港の修築を實現せられたしと謂ふに在り

議會の控へ室から

今村さんの多忙振り

▼沖島代議士が質問する——永井拓相とさうして、今村長官に向つて——

▼十六日、事業公債の委員會でその順番が廻つて來た、質問は殆んど樺太全體に亘る問題をひつさげて、堂々とブツかつた

▼曰く『大泊の王子工場の休轉に對して當局は再轉せしむるの意、若くは會社との諒解等は如何

▼林政改革に對する當局の方針、農業政策は如何なる方針か、鐵道未完の分、既に延長線を敷設の意圖あるや

▼更に人絹會社設立と共に必要缺く可からざる幌内川口の築港を何んとする

▼今村政府委員……『御質問に對してお答へ申上げます

▼大泊工場の休轉に關しては、當局としても町の現状よりして再轉を希望することは勿論であります

▼唯問題は同工場の周圍は一部を残して大部分の森林を伐り盡したる今日、用材等には供給の圓滿を缺くの傾向もあり、折角とこれ等に關して圓滿なる解決の下に再轉することを希望し

▼目下會社側と折衝に努力して居ります會社も此點に付き考慮中に屬する次第であります

▼森林政策に就きまして、從來至難とせられたる公賣制度を斷行し、年期賣拂を絶體に禁

じまして、森林の將來を考慮して亂伐を防止することに努力致して居ります。テナ具合：

× × ×

蠻寅クンの所謂『蠻寅』振り

▼蠻君、中野寅吉代議士、こんな名物男が飛び出すと議會氣分が出る

▼面白かつたよ、久し振りで、笑つた、一體此蠻寅さんなるものには、持つて生れた自然のユーモラスがあるのだ

▼大聲揚げて憤慨しても、毒と邪氣がないから愉快だ、『實に怪しからん、一體拓務省と滿鐵の奴等がエー加減な相談をして、トンデモないことをする

▼それは朝鮮羅新港だ、あれは朝鮮總督の管下に屬す可きものを、吉會鐵道の終點にあるので、滿鐵で工事をするにしたいのだ

▼それもヨイカが五月の月にチャントと計畫が成つて居るのに八月になつてから發表した

▼それがケンカラン、其内情を知つた奴が羅新の土地を買ひしめて、坪十三錢位で買つたそれが今は二十五六圓もする、拓務省はなんでこんなことをするのか、堤次官の明瞭な答辯を求むる』と

▼名實共に口角泡を飛ばして面白おかしくやつて退ける

▼『滿鐵と拓務省が好い加減な相談をしてと申されますが、其れを計畫され其れを滿鐵と交渉されて此の立派なる計畫を確立したのは前拓務大臣の秦さんである、秦さんの人格が

立派なることは申すに及ばず

▼好い加減な相談をする方ではない、今は秦さんに其時のことを聞く譯には參らぬのです』と、堤次官が丸い顔でサラリとあしらふ

▼蠻寅大人、なんで聞く可きだ『十萬億土の人に責任を轉化するとは以ての外

▼第一に羅新港は三尺も凍り六尺も掘ると下は泥だ、其の泥は七十尺もある、コンナ處へ築港するベラ棒があるか、こんなものは直ぐヤメツちまへ、やめる氣があるか』

▼『堤拓務次官！』と主席の喜多代議士が呼ぶ、堤次官は鼻の穴をビク／＼させながら

▼『エー、築港の事ですからドロもありませう水もありませう、魚も居らう、貝もあらうドロがあつたからと申して今更止める氣はありません』

▼『エツ、ドーモ怪しからん、』と後を向いて『新聞記者の諸君、このドロを見て下さい』と寫眞を二枚出す、議場はドーツと哄笑

▼『一體十萬億土の人などを引き合ひに出して、ドロ試合などはやめて、此處で堤次官と我が輩でカケをやらう

▼もう五六年もすると、浦鹽は日本のものになつて終ふから羅新港など不必要になるとキマツて居る

▼若しさうならなかつたら中野寅吉は政界を隱退する、『若しさうなつたら堤次官が政治をやめる、ドウだ、カケるか』

▼議場はヤンヤ、ヤンヤと大騒ぎ……今日は此程度に致して閉會……

造材業河野善治

樺太泊居郡字名奇村

造材業加賀谷彦三

樺太泊居町千歲町

樺太工業株式會社專屬請負

造材業古村啓太郎

樺太泊居町相生町

造材業玉水篤次郎

樺太泊居町久春内

造材業畑中義朝

樺太本斗遠節澤

造材業藤田元吉

樺太眞岡郡廣地村

樺太丁要本林式會社理事員

造材業中島才太郎

樺太眞岡郡廣泊村

造材業井口太三郎

樺太眞岡郡廣町太平

樺太五業專屬請負

造材業 吉田重治

樺太惠須取町

造材業 三上喜一郎

樺太惠須取町

木材業 横田秀松

樺太敷香町
電話 四八八番
振替 小樽一四九八五番

米穀雜貨 卸小賣 横田商店

樺太敷香町宮通り
電話 二一八番

敷香木材業組合
幌内川流送組合

樺太敷香町

主任 佐佐部 蔚

樺太泊二六

三北日本汽船株式會社

株式會社 樺太銀行

株式會社 森田商會

① 樺太合同運輸株式會社

二西谷海運株式會社

三樺太運輸株式會社

樺太製藥株式會社

豐原町

本斗陸運株式會社

本斗町

三樺太運輸株式會社

大泊町